

保健医療に関する意識調査 (県民アンケート調査)

— 報告書 —

令和5年4月

目次

I 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	4
5 集計方法	4
6 調査対象の特性	6
7 調査結果の見方	7
II 調査結果の分析	11
1 健康状態	13
(1) 自分の健康状態	13
2 健康に対する不安	16
(1) 健康に対する不安の有無	16
(2) 具体的な不安内容	19
3 健康づくり	27
(1) 健康保持のために気をつけていること	27
(2) 健康保持のために「何もしていない」理由	35
4 地域医療について	38
(1) 地域の医療全般に対する満足度	38
(2) 地域の医療に対する意識	41
(3) 不足している医療機関	47
(4) 不足している医療分野	50
(5) 充実してほしい医療機関	60
5 医療機関の選択	72
(1) 医療機関の選択	72
(2) 医療機関の選択理由	78
(3) 医療機関の所在地	92
6 救急医療への対応	94
(1) 「コンビニ受診」行動について	94
(2) 家族が夜間や休日に病気になった際の対応	97
(3) AEDの認知度	100
(4) 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応	103
7 かかりつけ医師	107
(1) かかりつけ医師の有無	107
(2) かかりつけ医師を決めている理由	110
(3) かかりつけ医師を決めていない理由	118
(4) 子どものかかりつけ医師の有無	124
(5) 子どものかかりつけ医師を決めている理由	127
(6) 子どものかかりつけ医師を決めていない理由	135

8	かかりつけ歯科医	141
	(1) かかりつけ歯科医の有無	141
	(2) かかりつけ歯科医を決めている理由	144
9	歯科保健医療	152
	(1) 歯科の保健医療についての要望	152
10	薬局について	160
	(1) 院外薬局での調剤の有無	160
	(2) かかりつけ薬剤師・薬局の有無	163
	(3) かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由	166
	(4) かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由	174
11	転院について	180
	(1) 転院に対する不安感	180
	(2) 具体的な不安内容	183
12	退院について	189
	(1) 退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと	189
13	在宅医療について	192
	(1) 自宅での療養希望の有無	192
	(2) 自宅療養の実現可能性	198
	(3) 自宅療養が実現困難な理由	201
	(4) 自宅療養を望まない理由	209
	(5) 自宅で過ごす場合に必要なこと	217
	(6) 死期が近くなった際に受けたい医療	225
	(7) 死期が近くなった場合についての話し合い	228
	(8) 治る見込みのない病気にかかったときに最期を迎えたい場所	234
	(9) 地域包括ケアの認知度	237
14	精神保健について	240
15	医療機関への要望	259
16	保健医療情報について	281
	(1) 知りたい保健医療情報	281
	(2) 保健医療情報の入手方法	301
17	自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて	311
	(1) 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて	311
III	調査票	315

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、保健、医療及び健康に関する県民の意識・要望を把握し、保健医療施策の基本資料を得ることを目的とする。

2 調査項目

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| (1) 健康状態 | (7) かかりつけ医師 | (13) 在宅医療について |
| (2) 健康に対する不安 | (8) かかりつけ歯科医 | (14) 精神保健について |
| (3) 健康づくり | (9) 歯科の保健医療 | (15) 医療機関への要望 |
| (4) 地域医療について | (10) 薬局について | (16) 保健医療情報について |
| (5) 医療機関の選択 | (11) 転院について | (17) 情報共有 |
| (6) 救急医療への対応 | (12) 退院について | |

3 調査設計

- (1) 調査地域 群馬県全域 (10保健医療圏)
- (2) 満18歳以上男女個人
- (3) 標本数 3,662
- (4) 層化二段無作為抽出法
- (5) 郵送法 (督促ハガキ1回、紙・ウェブいずれかで回答)
- (6) 調査時期 令和5年2月
- (7) 調査担当 企画・実施・分析 群馬県健康福祉部医務課
実施・集計・分析 株式会社 ジェイアール東日本企画

4 回収結果

(1) 回収数 (率) 1,632 (44.6%)
(紙回答1,297、ウェブ回答335)

地域別	標本数	回収数	回収率 (%)
前橋保健医療圏	300	136	45.3%
渋川保健医療圏	394	163	41.4%
伊勢崎保健医療圏	345	172	49.9%
高崎・安中保健医療圏	339	163	48.1%
藤岡保健医療圏	313	129	41.2%
富岡保健医療圏	300	142	47.3%
吾妻保健医療圏	300	146	48.7%
沼田保健医療圏	300	141	47.0%
桐生保健医療圏	393	159	40.5%
太田・館林保健医療圏	678	281	41.4%
(前橋市)	300	136	45.3%
(高崎市)	300	147	49.0%
(桐生市)	300	127	42.3%
(伊勢崎市)	300	146	48.7%
(太田市)	300	122	40.7%
(館林市)	300	122	40.7%
(渋川市)	300	124	41.3%
(藤岡市)	300	120	40.0%
計	3,662	1,632	44.6%

5 集計方法

この調査は、保健医療圏別の母集団構成比と無関係に標本数を割り当てているため（標本抽出法参照）集計にあたっては各保健医療圏・市郡規模別の抽出率（有効回収率／18歳以上人口）が均等となるよう係数を算出し、加重集計した。各保健医療圏・市郡規模別の加重係数及び加重後の規正標本数は次のとおりである。

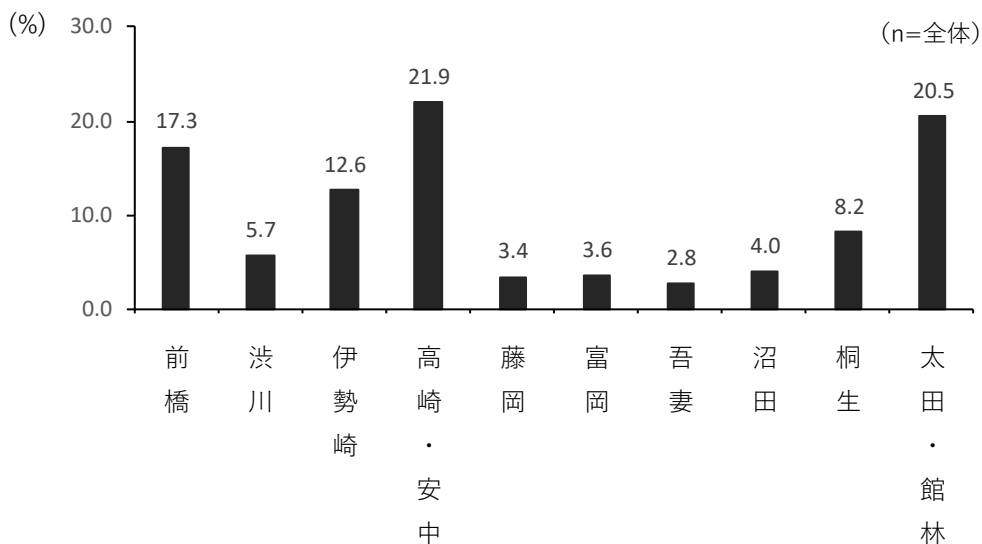
加重後の規正標本数の合計は、16,606人となり、結果の比率はこれを母数として算出したものである。なお、規正標本数は、乗算結果の小数第1位を四捨五入しているため、全県の標本数を分類した各区分の標本数の合計とは一致しないことがある。

保健医療圏	市町村	母集団	抽出標本数	回収数	加重係数	規正標本数
前橋	◎前橋市	286,495	300	136	21.07	2,865
	計	286,495	300	136	*	2,865
渋川	○渋川市	65,053	300	124	5.25	651
	郡部計	29,616	94	39	7.59	296
	計	94,669	394	163	*	947
伊勢崎	◎伊勢崎市	178,032	300	146	12.19	1,780
	玉村町	31,342	45	26	12.05	313
	計	209,374	345	172	*	2,094
高崎・安中	◎高崎市	316,427	300	147	21.53	3,164
	5万人未満の市	47,971	39	16	29.98	480
	計	364,398	339	163	*	3,644
藤岡	○藤岡市	54,596	300	120	4.55	546
	郡部計	2,567	13	9	2.85	26
	計	57,163	313	129	*	572
富岡	5万人未満の市	40,990	206	91	4.50	410
	郡部計	18,561	94	51	3.64	186
	計	59,551	300	142	*	595
吾妻	郡部計	45,811	300	146	3.14	458
	計	45,811	300	146	*	458
沼田	5万人未満の市	39,262	176	79	4.97	393
	郡部計	27,777	124	62	4.48	278
	計	67,039	300	141	*	670
桐生	○桐生市	93,790	300	127	7.38	938
	5万人未満の市	42,145	93	32	13.17	421
	計	135,935	393	159	*	1,359
太田・館林	◎太田市	186,732	300	122	15.31	1,867
	○館林市	64,665	300	122	5.30	647
	郡部計	88,808	78	37	24.00	888
	計	340,205	678	281	*	3,402
計		1,660,640	3,662	1,632	*	16,606

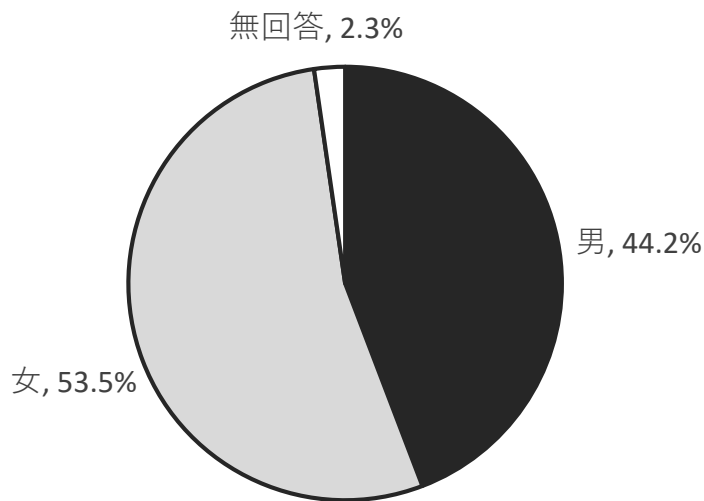
◎10万人以上の市

○5万人以上の市

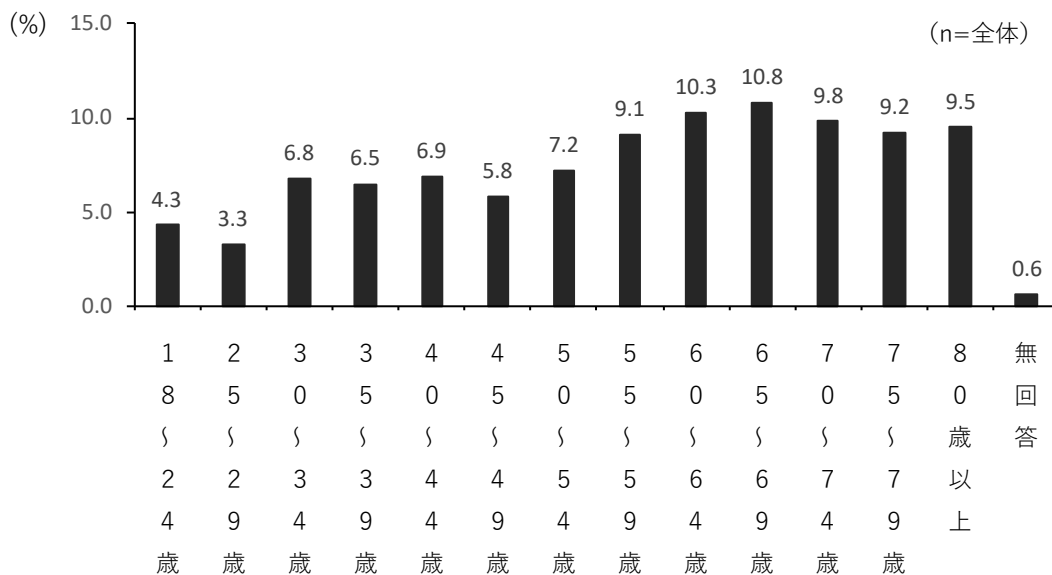
(1) 保健医療圏別



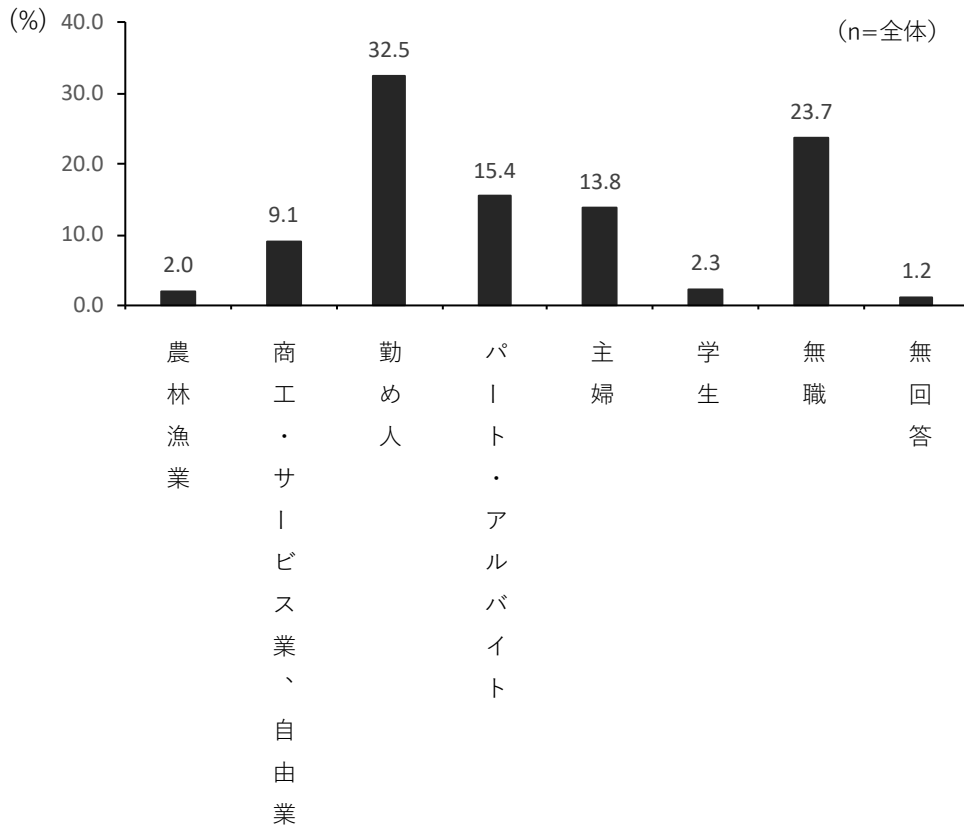
(2) 性別



(3) 年齢別



(4) 職業別



7 調査結果の見方

(1) 比率は、各質問の無回答を含む規制標本総数（一部の人に特定した質問では、該当する規制標本数）に対する百分比（%）を表している。

100%の基数をグラフでは「n」と表示している。

(2) 百分比（%）は、小数第2位を四捨五入して小数第1位表示とした。よって、百分比の計が100%にならない場合もある。

(3) 質問によって回答が複数になる場合があり、そのときの百分比の合計は100%を超える。

■標本抽出方法

母集団／群馬県内の市町村に居住する満18歳以上の男女

標本数／標準標本3,000

追加標本662 計3,662 (248地点)

抽出法／層化二段無作為抽出法

<標本層の決定>

標本数の決定については、信頼度95%、抽出誤差範囲±8%を目標に行うものであり、1保健医療圏あたりの標本数は150（最低）となるが、調査方法が郵送のため回答率を55%と計算して端数切り上げを行い、1保健医療圏あたり300人とした。

<層化>

- (1) 10保健医療圏を層とする。（地域別）
- (2) 各保健医療圏については、人口5万人以上の市、人口5万人未満の市及び郡部に分類して、それぞれを層とする。（市郡規模別）

<標本の分配>

- (1) 各保健医療圏に300人の標本を割り当てる（10保健医療圏3,000人）。
- (2) 各保健医療圏については、市郡規模別の層における母集団数（令和2年10月1日現在における満18歳以上の人口）の大きさに比例して、300人の標本を配分する。
- (3) 人口5万人以上の8市（前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、館林市、渋川市、藤岡市）については、それぞれ独自の集計分析を行う必要から、下記の標本数を加えて各300人とする。

前橋市	0	高崎市	38	桐生市	96	伊勢崎市	43
太田市	133	館林市	244	渋川市	99	藤岡市	12

<標本の抽出>

- (1) 第一次抽出単位の調査地点は、令和2年国勢調査時に設定された調査区を使用する。
- (2) 調査地点の抽出数は、1調査地点あたりの調査対象者が16人程度になるよう各層に配分された標本数から算出する。
- (3) 調査地点の抽出は、層別に等間隔に行う。（1段）
- (4) (3)により抽出された調査地点における対象者の抽出は、調査地点の中から住民基本台帳を用い、等間隔で行う。（2段）

以上の作業の結果、得られた地域別、市郡規模別の標本数・地点数は次のとおりである。

市郡別 保健医療圏	人口10万人 以上の市	人口5万人 以上の市	人口5万人 未満の市	郡部	計
前橋	286,495 300 (20)				286,495 300 (20)
渋川		65,053 300 (20)		29,616 94 (7)	94,669 394 (27)
伊勢崎	178,032 300 (20)			31,342 45 (3)	209,374 345 (23)
高崎・安中	316,427 300 (20)		47,971 39 (3)		364,398 339 (23)
藤岡		54,596 300 (20)		2,567 13 (2)	57,163 313 (22)
富岡			40,990 206 (14)	18,561 94 (7)	59,551 300 (21)
吾妻				45,811 300 (19)	45,811 300 (19)
沼田			39,262 176 (12)	27,777 124 (9)	67,039 300 (21)
桐生		93,790 300 (20)	42,145 93 (6)		135,935 393 (26)
太田・館林	186,732 300 (20)	64,665 300 (20)		88,808 78 (6)	340,205 678 (46)
計	967,686 1,200 (80)	278,104 1,200 (80)	170,368 514 (35)	244,482 748 (53)	1,660,640 3,662 (248)

上段：母集団数（令和2年10月1日現在／令和2年国勢調査）

下段：標本数（カッコ内は調査地点数）

II 調査結果の分析

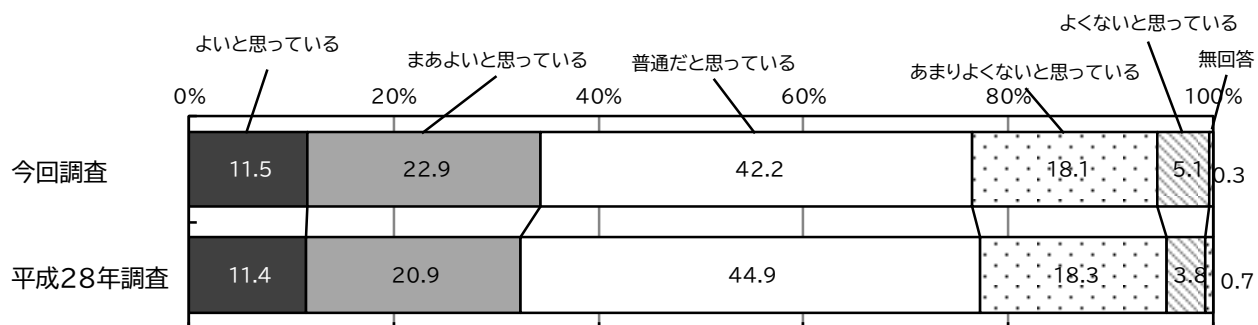
(1) 自分の健康状態

～<よい>34.4%、「普通」42.2%、<よくない>23.1%～

問1 あなたは、ご自分の健康状態について、どうお考えですか。(○は1つだけ)

図1-1

(n=全体)



自分の健康状態については、「よいと思っている」は11.5%で、これに「まあよいと思っている」(22.9%)を合わせた<よいと思う>は34.4%となっている。これに対して「よくないと思っている」は5.1%で、これに「あまりよくないと思っている」(18.1%)を合わせた<よくないと思う>は23.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっているが、<よいと思う>がやや増加している。

◆地域別

<よいと思う>は桐生保健医療圏を除くと、いずれの地域も30.0%を超えており、その中でも沼田保健医療圏が42.6%と最も多くなっている

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

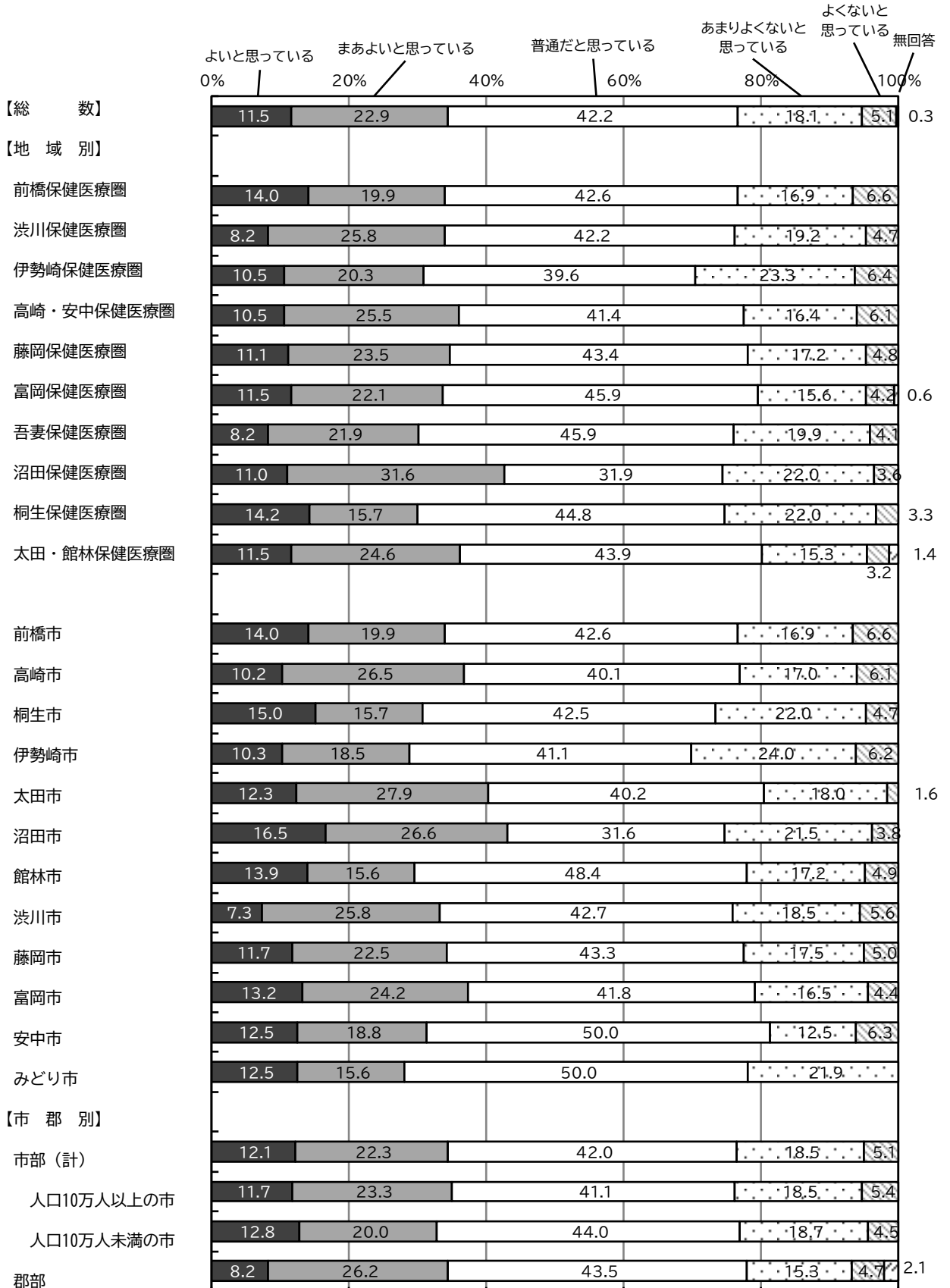
◆性・年代別

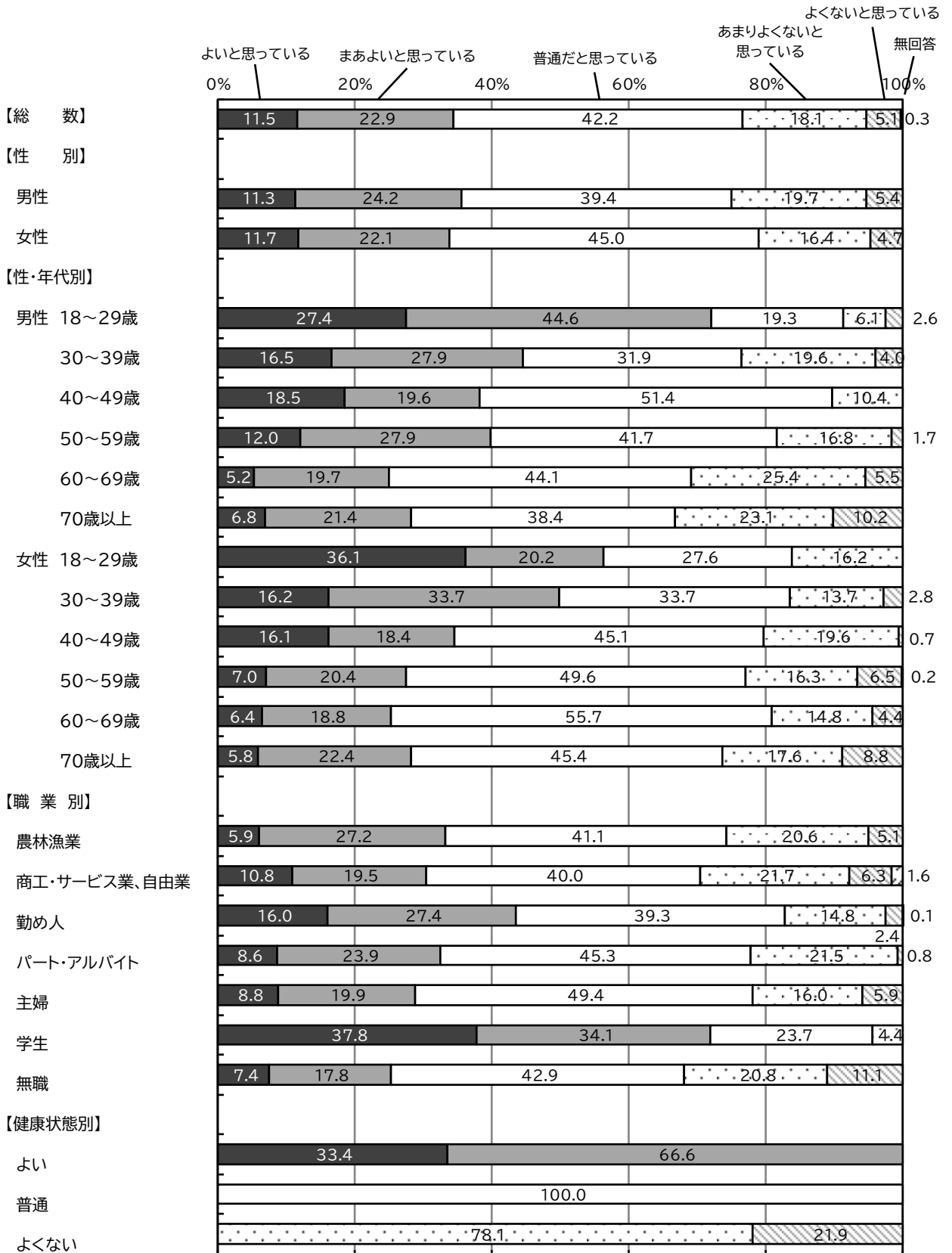
<よいと思う>は男性では20代以下が71.9%、女性では20代以下が56.2%と最も多くなっている。

◆職業別

<よいと思う>は学生が71.9%と最も多く、次いで勤め人が43.4%となっている。一方、<よくないと思う>は無職者が31.9%と最も多く、次いで商工・サービス業、自由業が28.1%となっている。

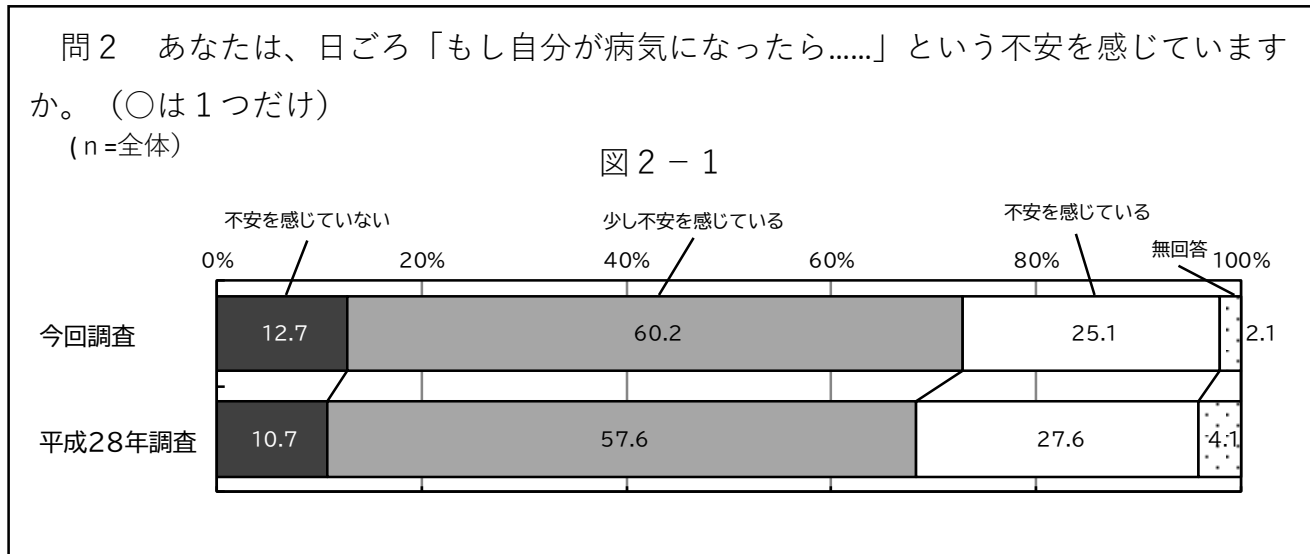
図1-2 自分の健康状態





(1) 健康に対する不安の有無

～＜不安を感じている＞人は85.3%～



日ごろ、「もし自分が病気になったら」という「不安を感じていない」は12.7%となっている。一方、「不安を感じている」は25.1%で、これに「少し不安を感じている」(60.2%)を合わせた＜不安を感じている＞は85.3%となっている。

平成28年調査結果との比較では、＜不安を感じている＞はほぼ変わらない。

◆地域別

＜不安を感じている＞はいずれの地域も80.0%を超えており、その中でも渋川保健医療圏が89.3%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部については、＜不安を感じている＞は市部(84.8%)に比べ、郡部(88.1%)の方が多くなっている

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「不安を感じている」は男性(22.9%)に比べ、女性(26.7%)の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

「不安を感じていない」は男性では20代以下が32.4%、女性では20代以下が34.6%と20代以下が最も多くなっている。一方、＜不安を感じている＞は男性では40代が92.4%、女性では60代が最も多くなっている。

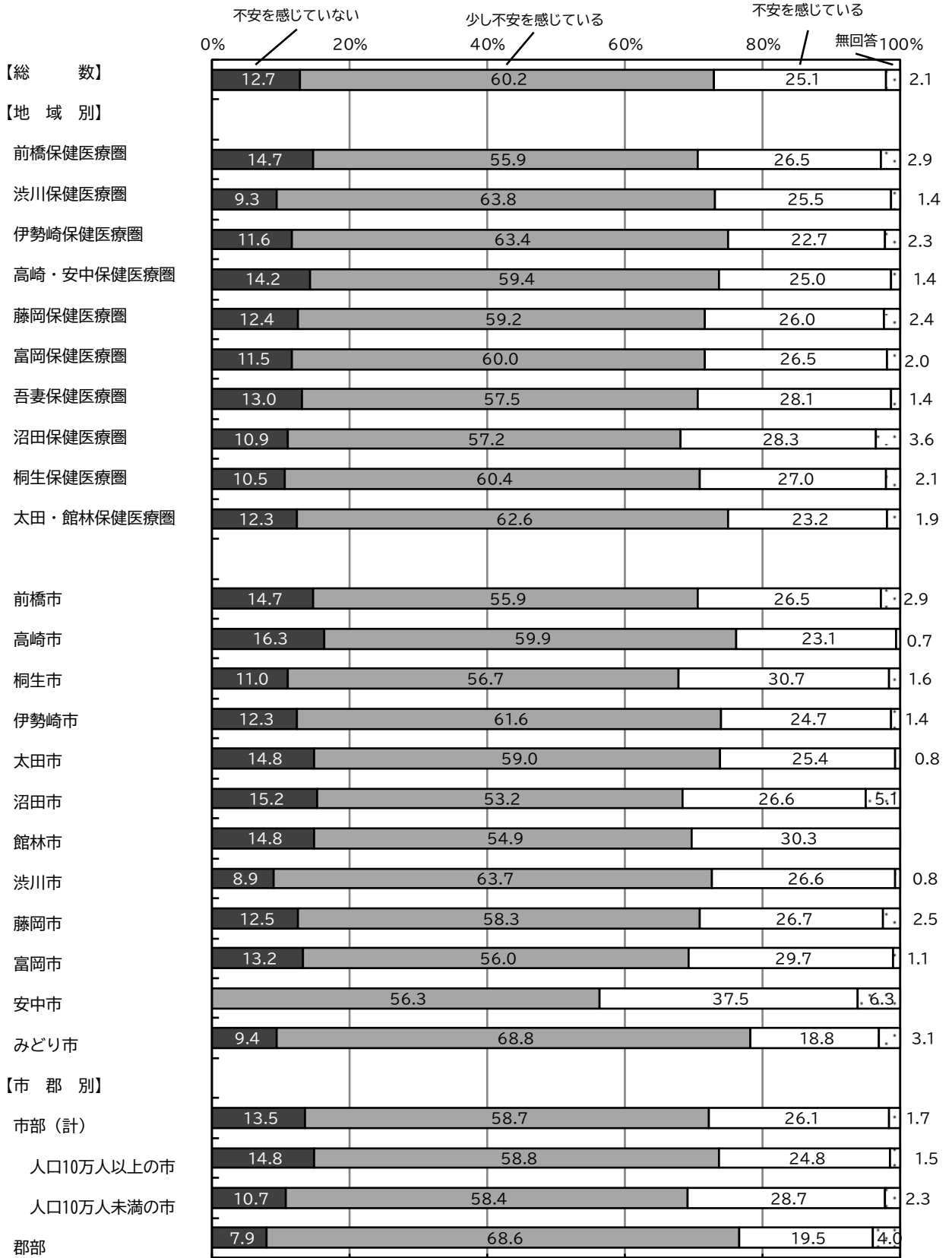
◆職業別

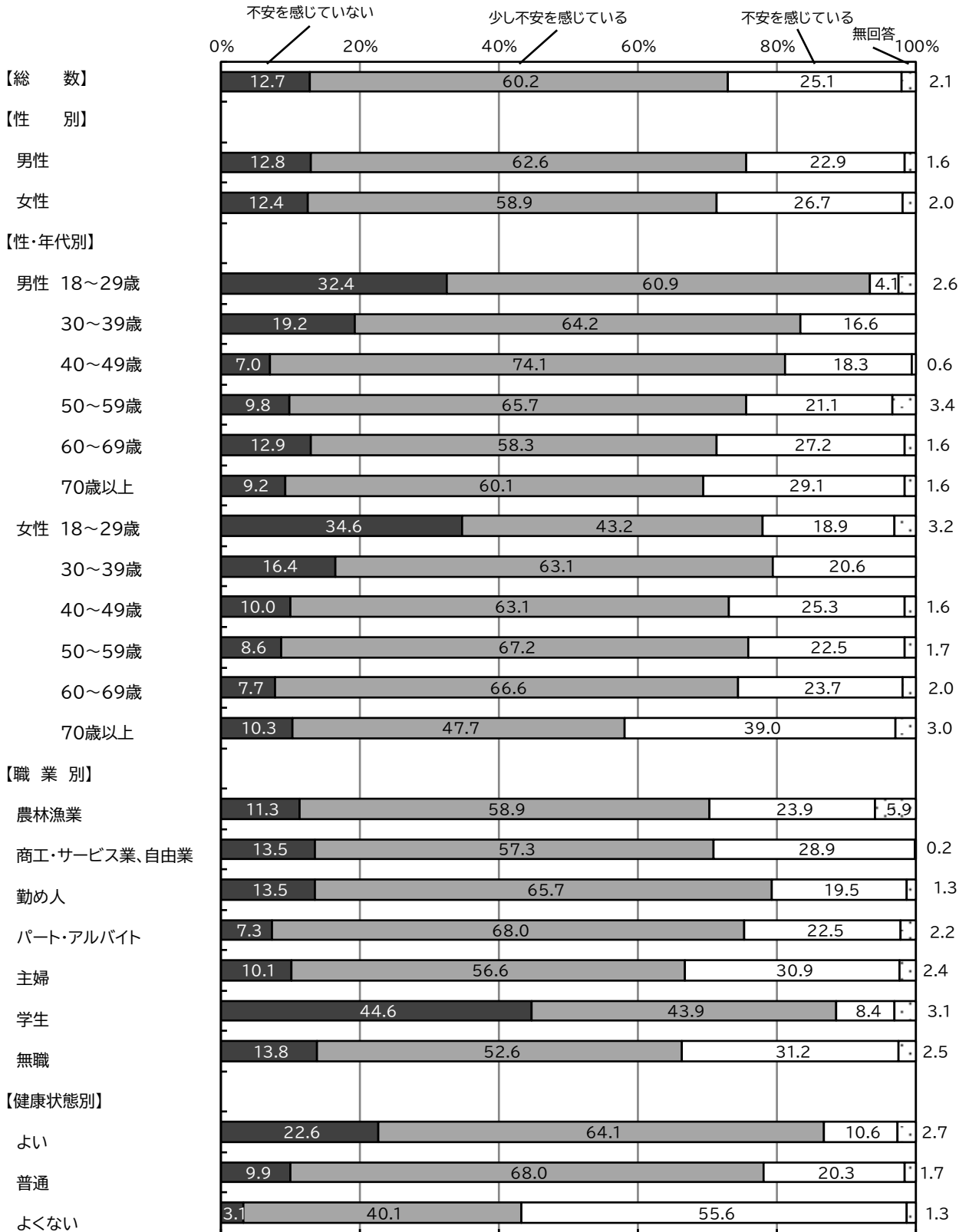
「不安を感じていない」は学生が44.6%と最も多くなっており、他の職業に比べ大きな差異がみられる。

◆健康状態別

「不安を感じてない」は健康状態がよいが22.6%、健康状態がよくないが3.1%となっており、健康状態により差異がみられる。

図2-2 健康に対する不安の声





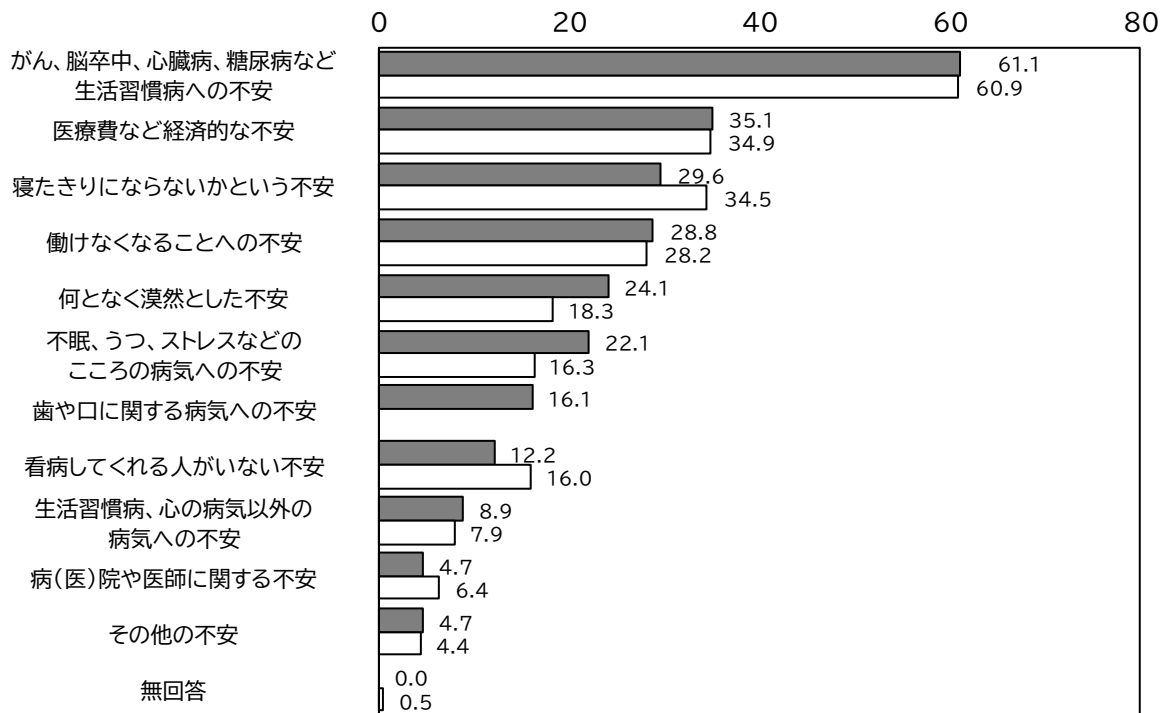
(2) 具体的な不安内容

～「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」61.1%が最も多い～

問2-1 具体的にはそれはどんな不安ですか。(○は3つまで)

図2-3

(n=不安を感じている人)



■今回調査

□平成28年調査

*平成28年調査では「歯や口に関する病気への不安」は聴取なし

「もし自分が病気になったら」という不安を持っている人に、具体的に不安なことを聞いたところ、「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が61.1%と最も多く、次いで「医療費など経済的な不安」が35.1%、「寝たきりにならないかという不安」が29.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「寝たきりにならないかという不安」がやや少なくなり、「何となく漠然とした不安」「不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安」が多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。その他、「医療費など経済的な不安」はいずれの地域でも共通して多い。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「歯や口に関する病気への不安」は郡部に比べ、市部の方が多く、「医療費など経済的な不安」は市部に比べ、群部の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。

◆性・年代別

「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」は男性では60代が84.2%、女性では60代が66.8%と、60代が最も多くなっている。その他、「不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安」は20代以下の女性が60.1%と多くなっている。

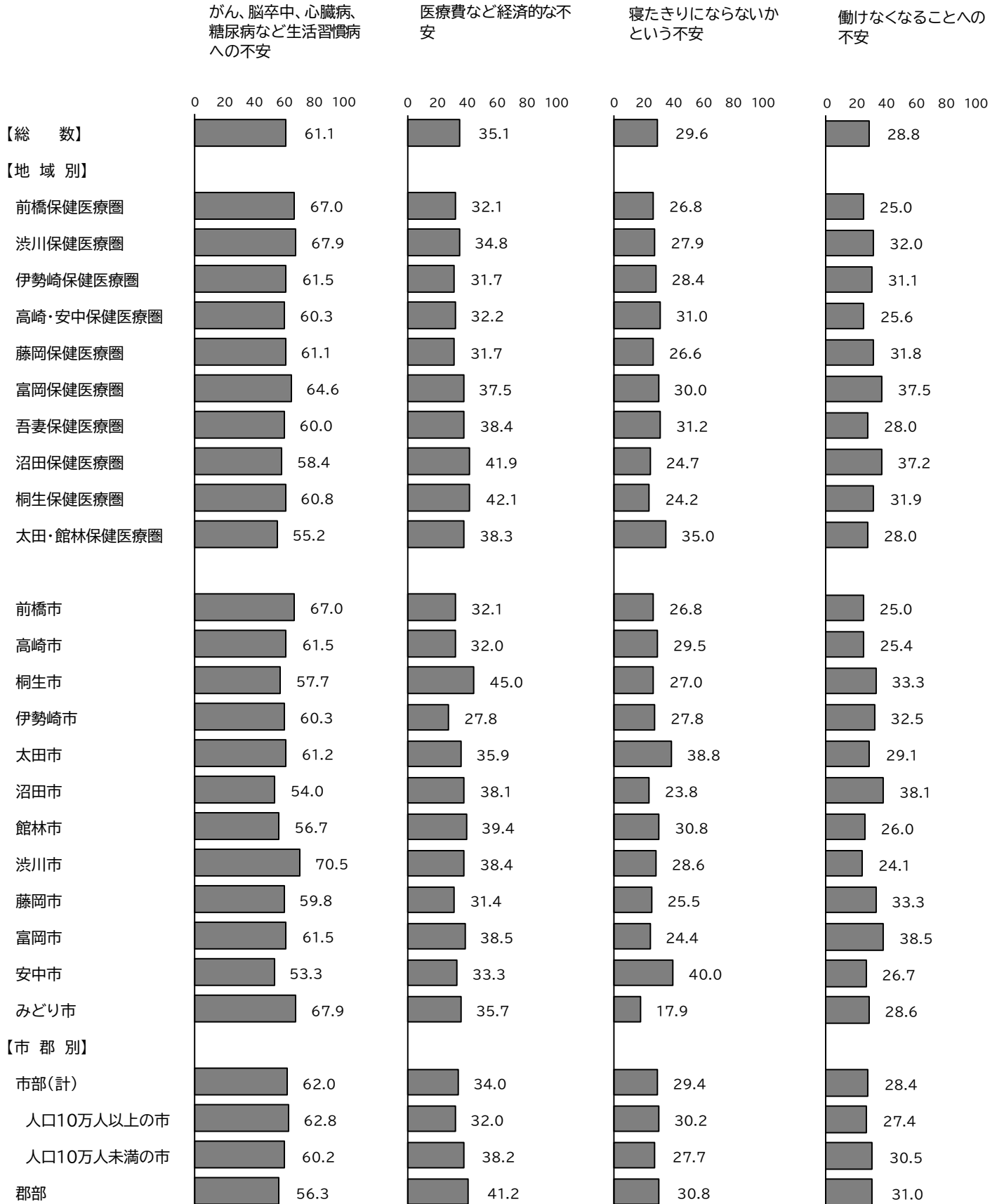
◆職業別

学生を除いたすべての職業で「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっており、学生では「不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安」が61.2%と最も多くなっている。その他、「医療費など経済的な不安」はパート・アルバイトが45.3%と多く、「寝たきりにならないかという不安」は無職者が49.7%と多くなっている。

◆健康状態別

「不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安」、「歯や口に関する病気への不安」、「寝たきりにならないかという不安」、「医療費など経済的な不安」「病(医)院や医師に関する不安」「生活習慣病、心の病気以外の病気への不安」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっている。一方、「何となく漠然とした不安」は健康状態がよくないに比べ、健康状態がよいの方が多くなっている。

図 2 - 4 具体的な不安内容



何となく漠然とした不安

不眠、うつ、ストレスなどの
こころの病気への不安

歯や口に関する病気への不安

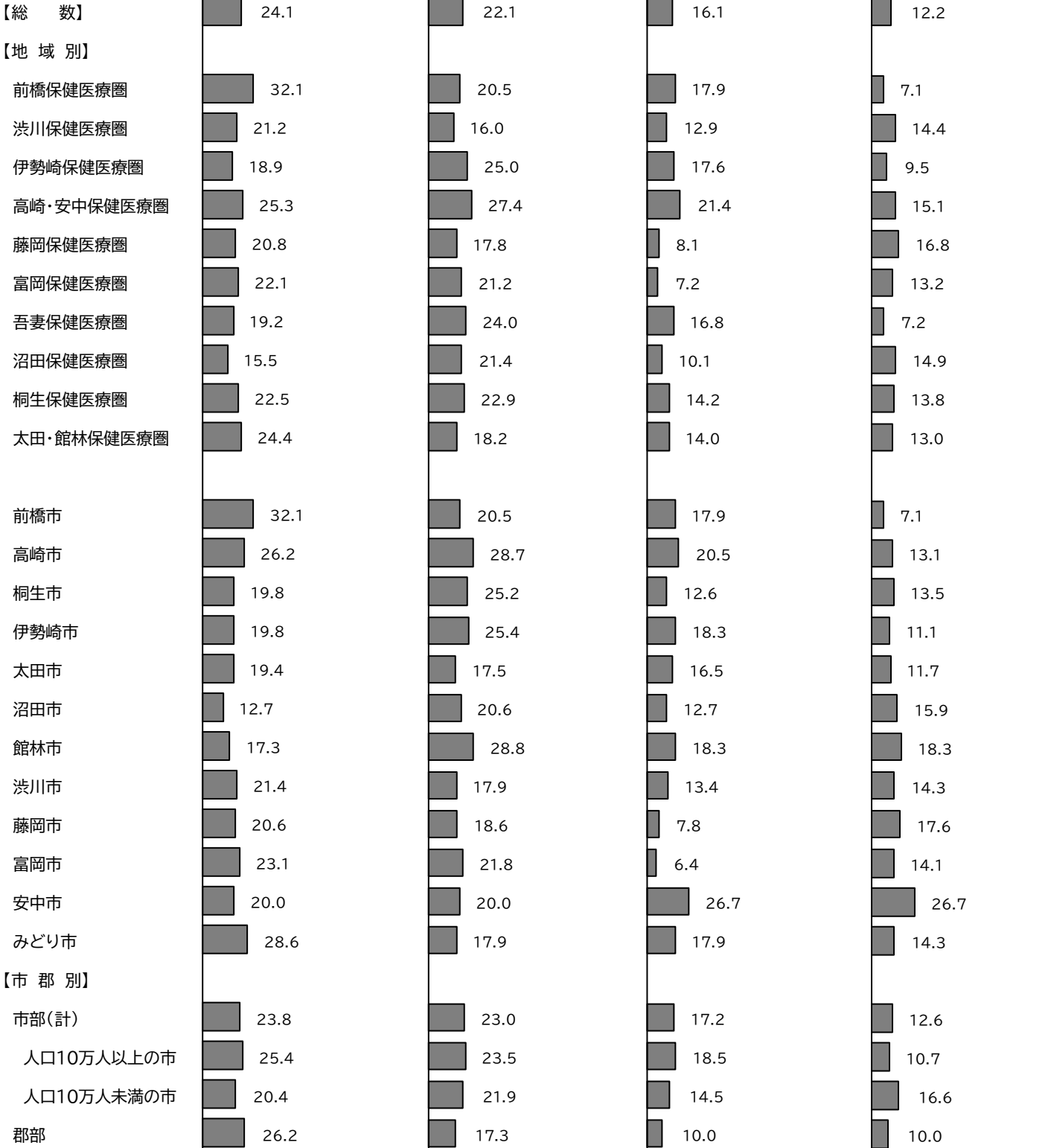
看病してくれる人がいない不安

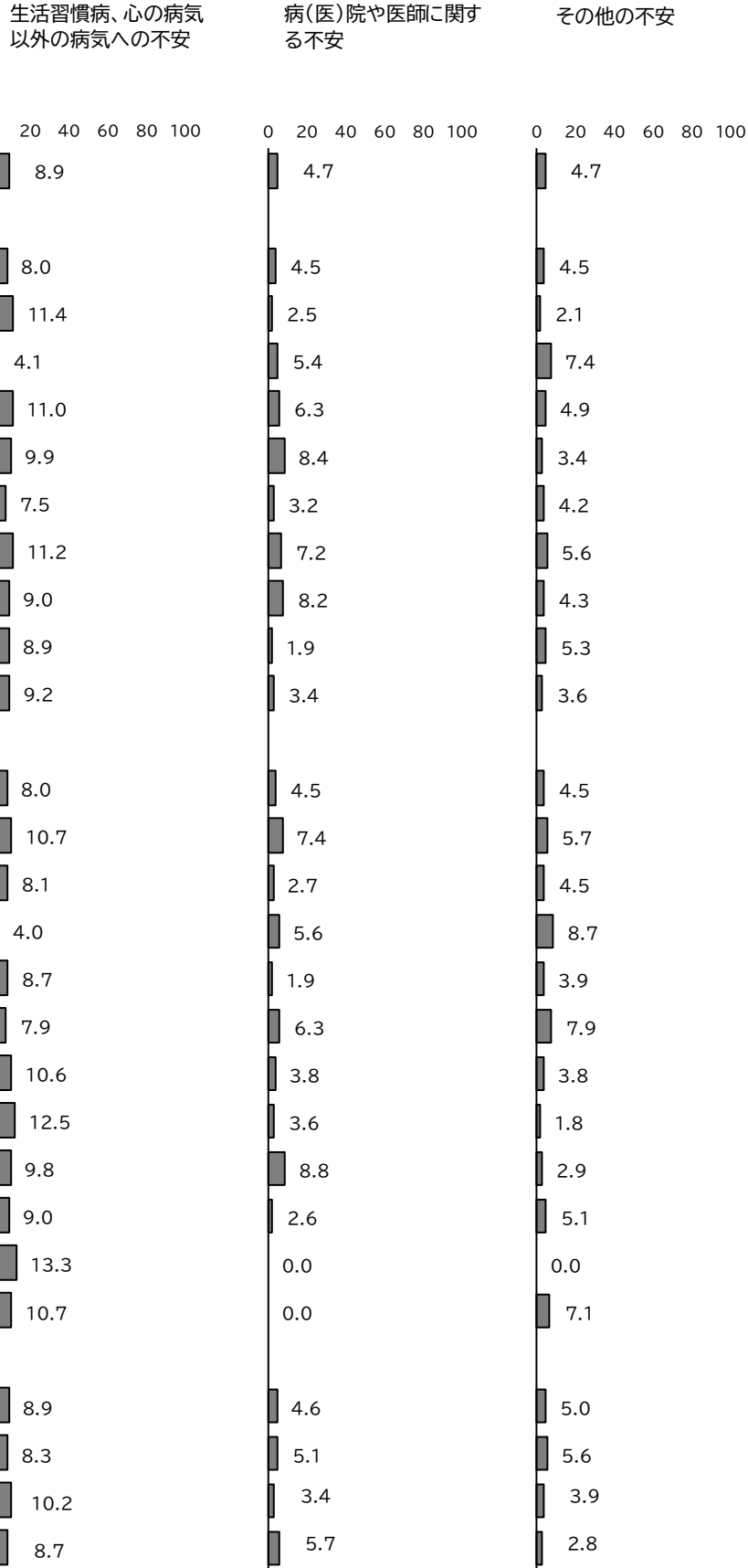
0 20 40 60 80 100

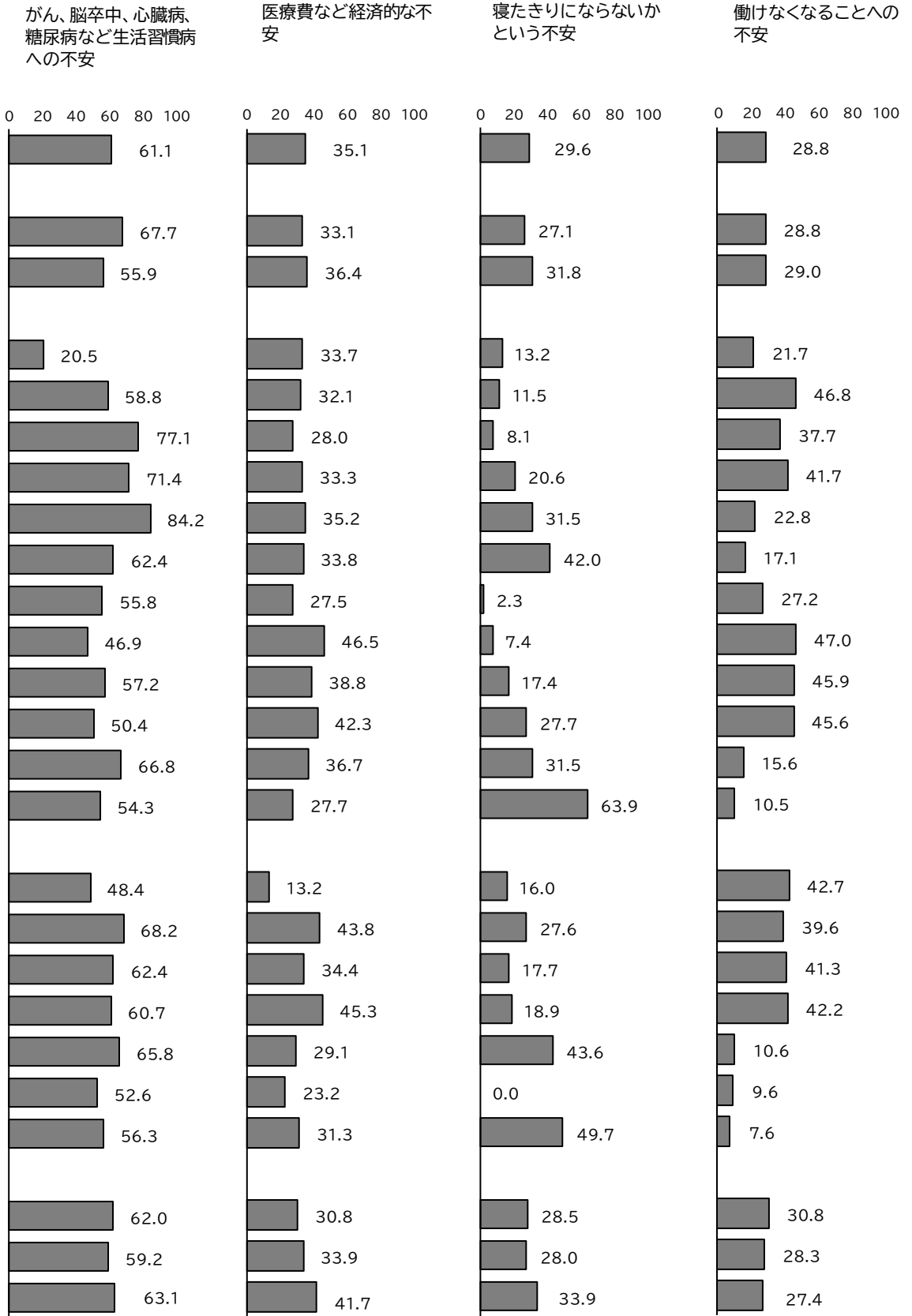
0 20 40 60 80 100

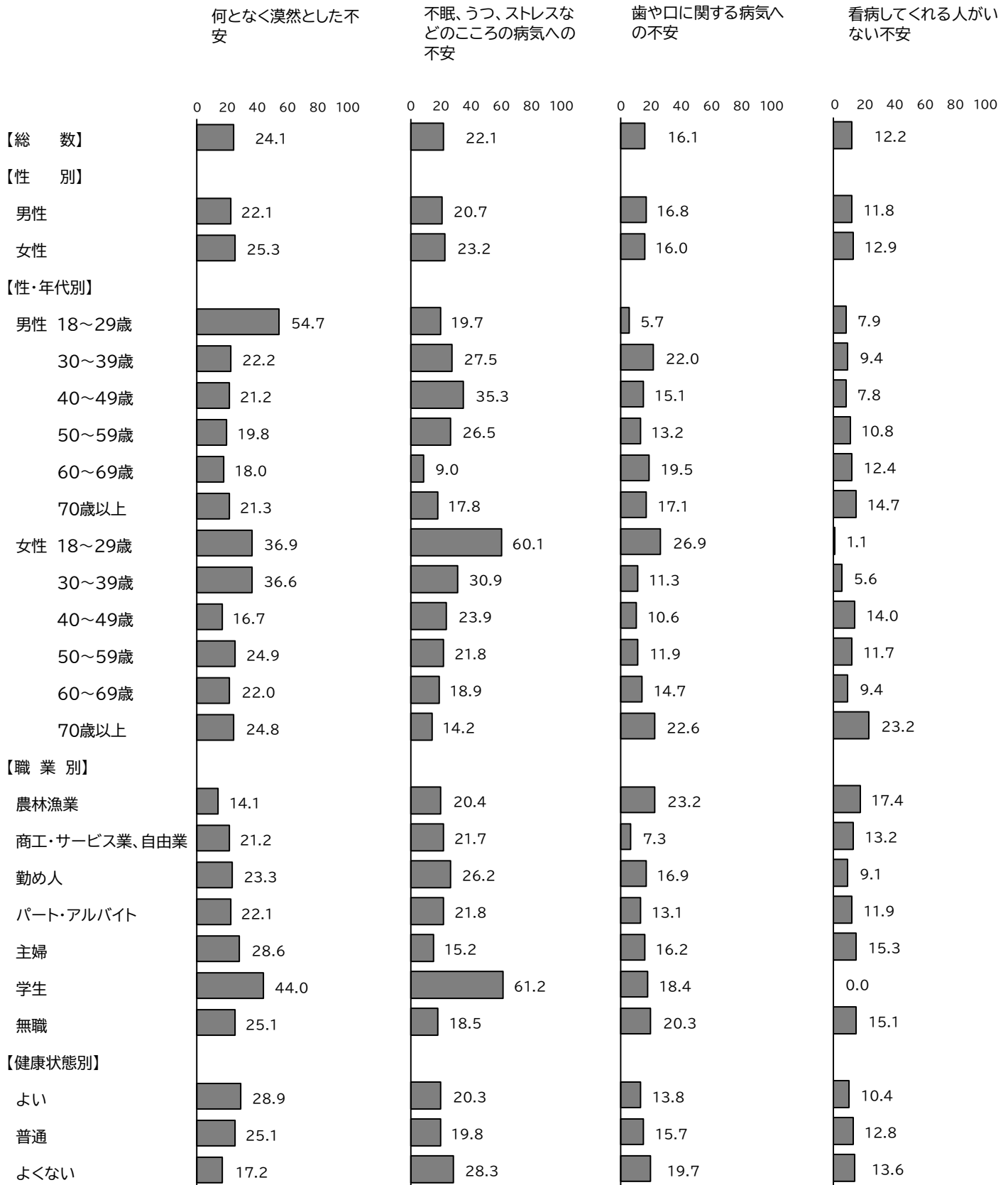
0 20 40 60 80 100

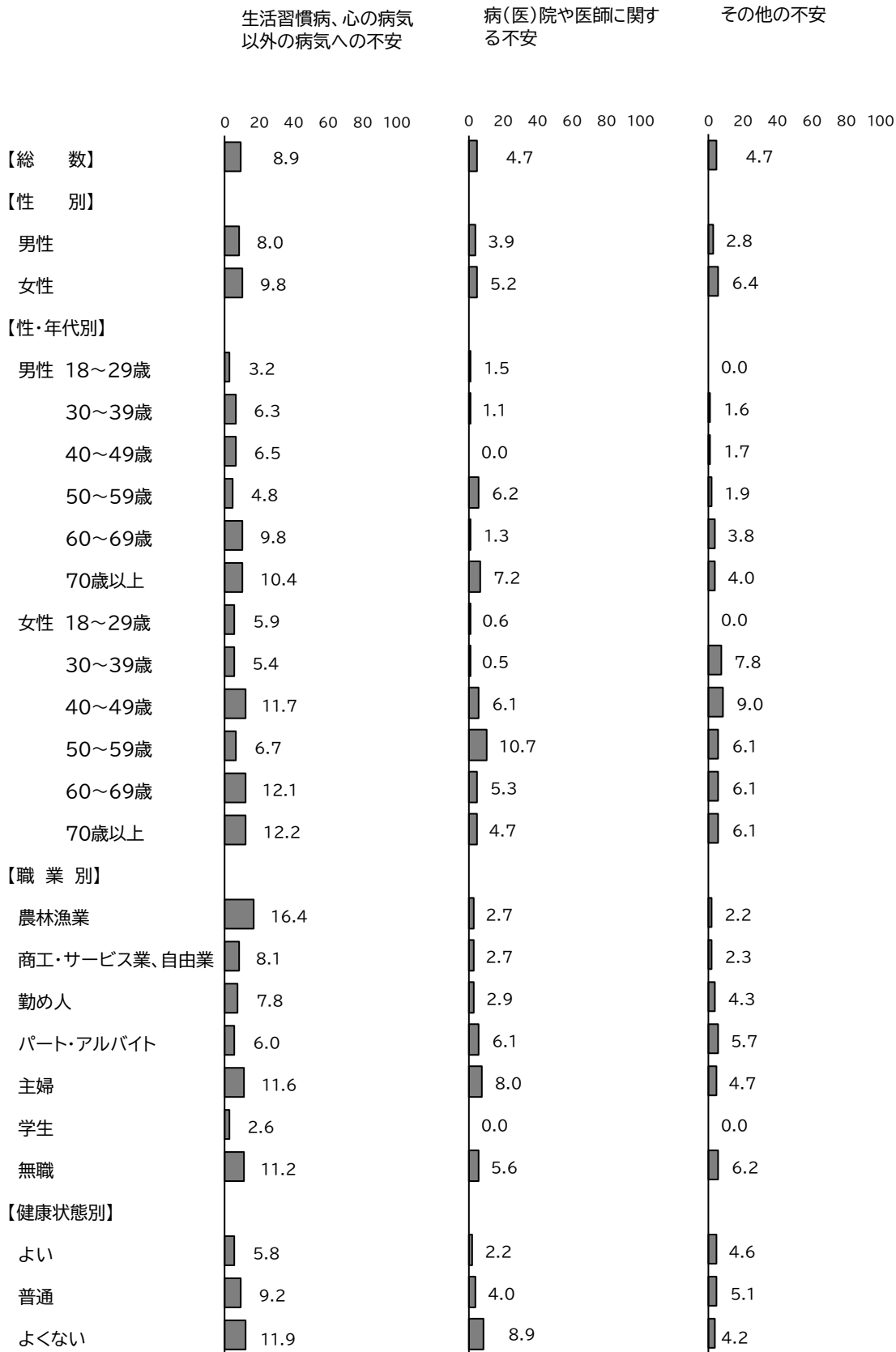
0 20 40 60 80 100











(1) 健康保持のために気をつけていること

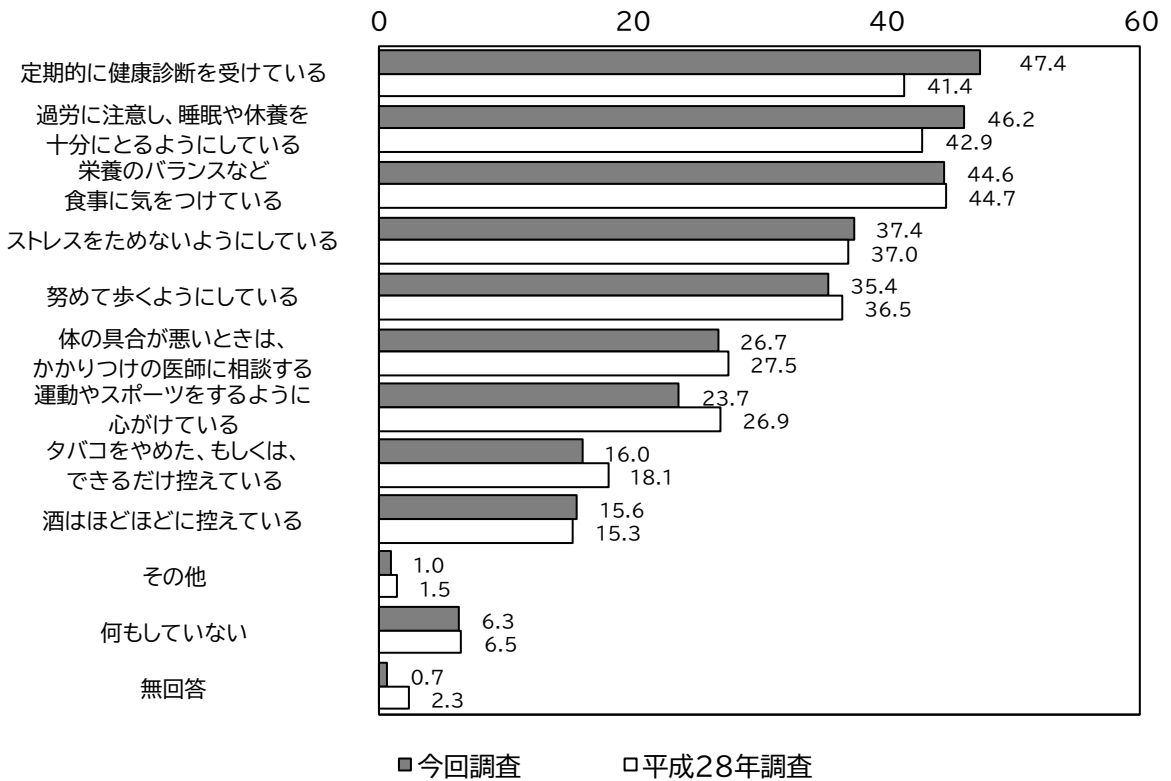
～「定期的に健康診断を受けている」47.4%、
「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」46.2%、
「栄養のバランスなど食事に気をつけている」44.6%～

問3 あなたは、健康のために何か気をつけていることがありますか。

(○はあてはまるものすべて)

(n=全体)

図3-1



健康づくりで気をつけていることは、「定期的に健康診断を受けている」が47.4%と最も多く、次いで「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が46.2%、「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が44.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「定期的に健康診断を受けている」が多くなっている。

◆地域別

桐生保健医療圏を除いて、いずれの地域も「定期的に健康診断を受けている」が40.0%を超えており、その中でも、渋川保健医療圏が55.4%と最も多くなっている。また、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」は太田・館林保健医療圏が51.0%と最も多く、「栄養のバランスなど食事に気をつけている」は高崎・安中保健医療圏が53.1%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部では「定期的に健康診断を受けている」が48.0%と最も多く、郡部では「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が48.8%と最も多くなっている。また、「栄養のバランスなど食事に気をつけている」は郡部(39.3%)に比べ、市部(45.5%)の方が多くなっている。

◆性別

男性では「定期的に健康診断を受けている」が46.1%と最も多く、女性では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が50.8%と最も多くなっている。また、「タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている」は女性(7.3%)に比べ、男性(26.8%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性で多かった「定期的に健康診断を受けている」は70歳以上の男性が55.7%と最も多く、女性で多かった「栄養のバランスなど食事に気をつけている」は60代女性が65.7%と最も多くなっている。その他、「運動やスポーツをするように心がけている」は40代男性が46.4%と多く、「努めて歩くようにしている」は70歳以上の女性が47.4%と多くなっている。

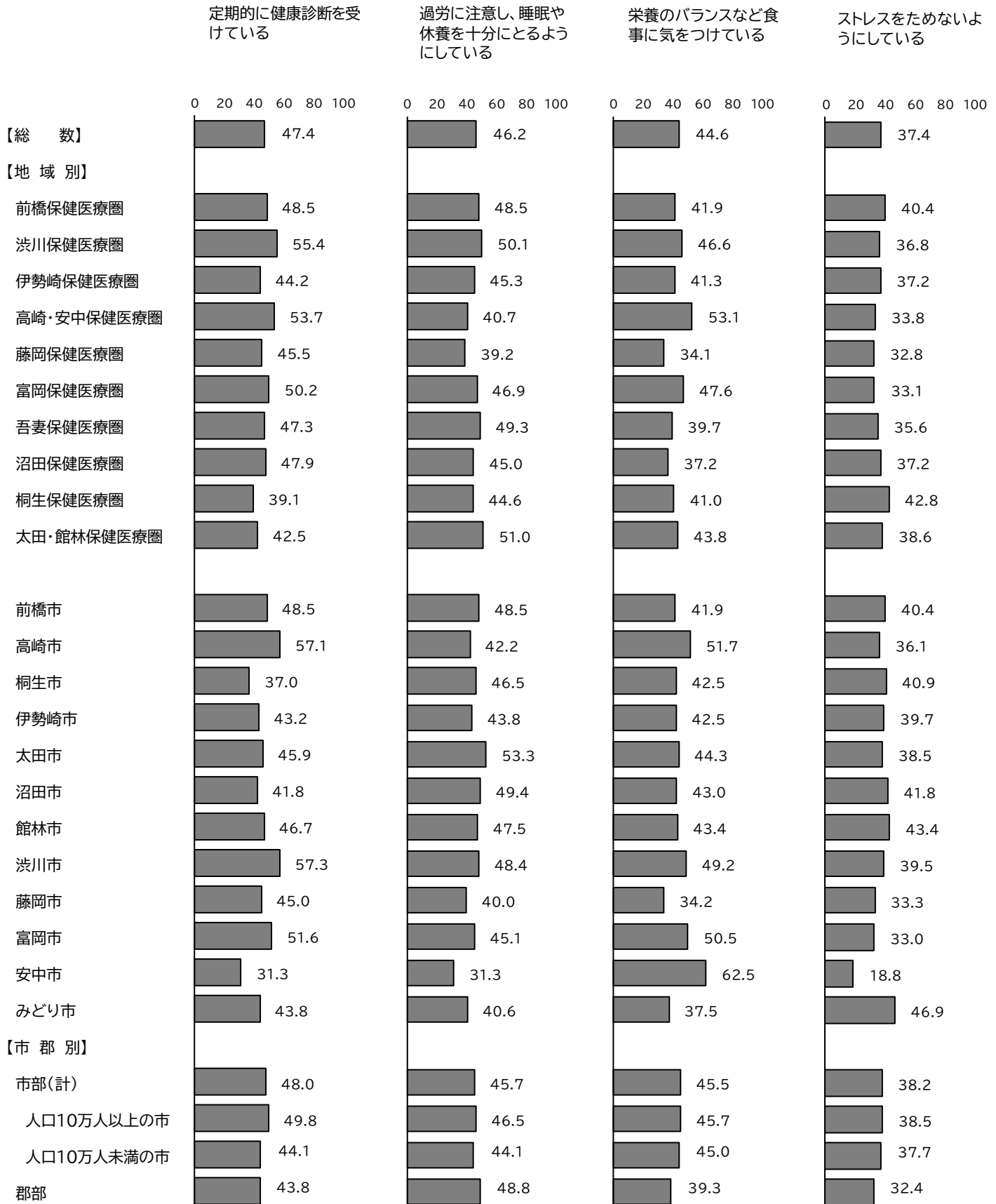
◆職業別

パート・アルバイト、学生では「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が最も多く、主婦では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が69.5%と最も多く、農林漁業では「定期的に健康診断を受けている」が66.7%と最も多くなっている。

◆健康状態別

「体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する」は健康状態がよい(19.1%)に比べ、健康状態がよくない(34.5%)の方が多くなっている。一方、「運動やスポーツをするように心がけている」は健康状態がよくない(18.4%)に比べ、健康状態がよい(30.9%)の方が多くなっている。

図3-2 健康保持のために気をつけていること



努めて歩くようにしている

体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する

運動やスポーツをするように心がけている

タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

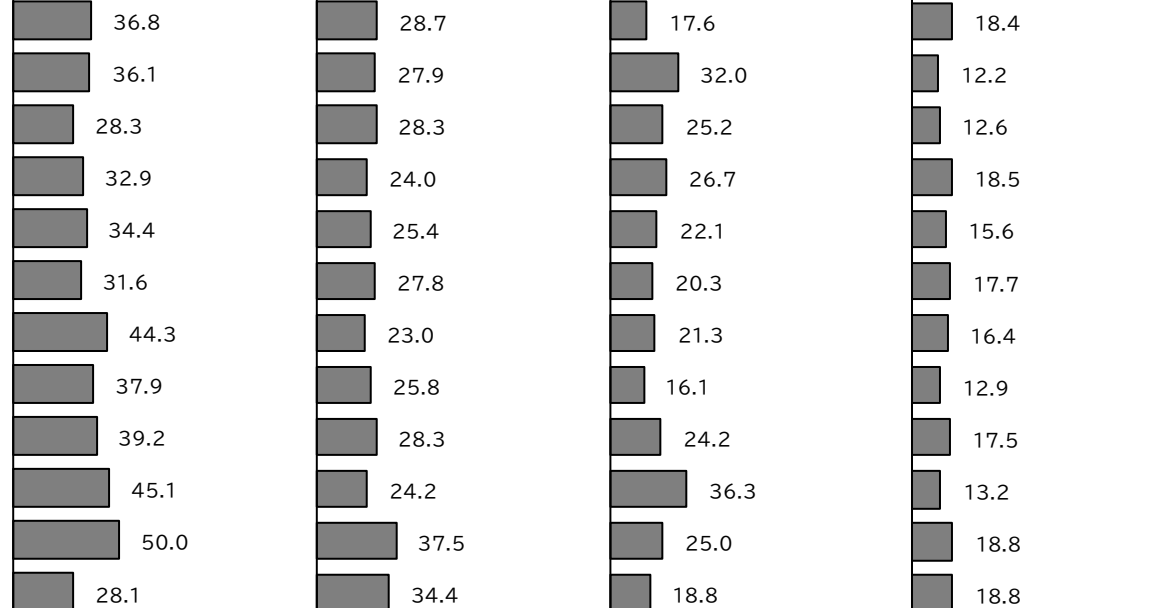
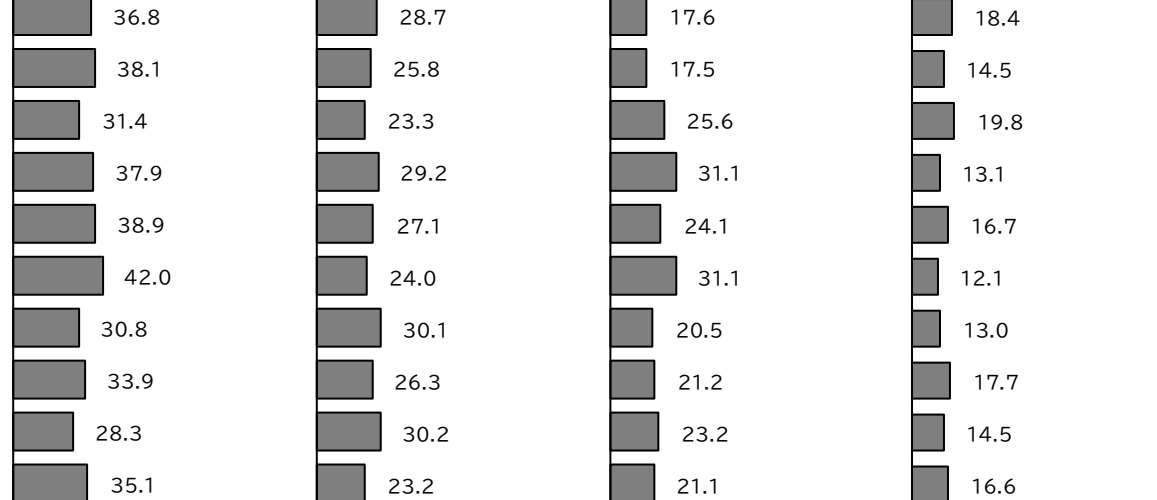
0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

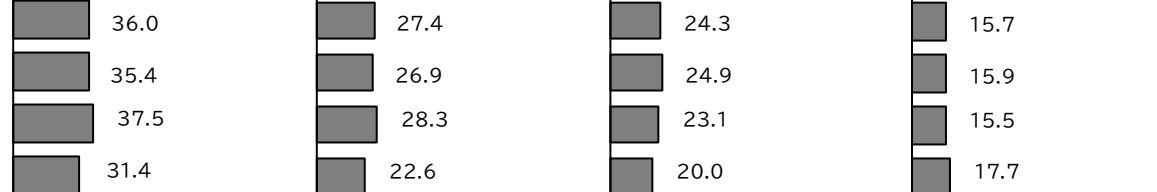
【総 数】

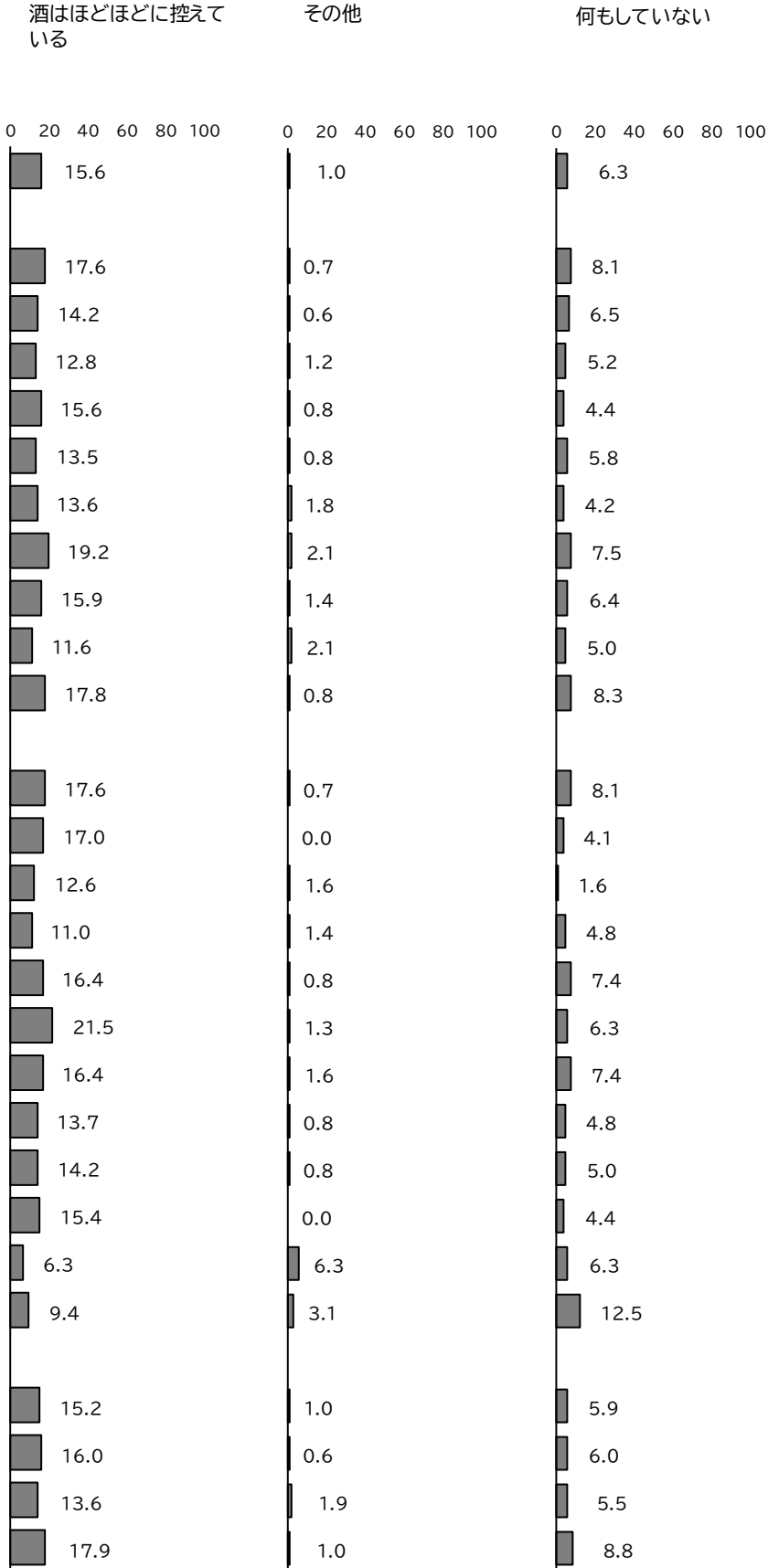


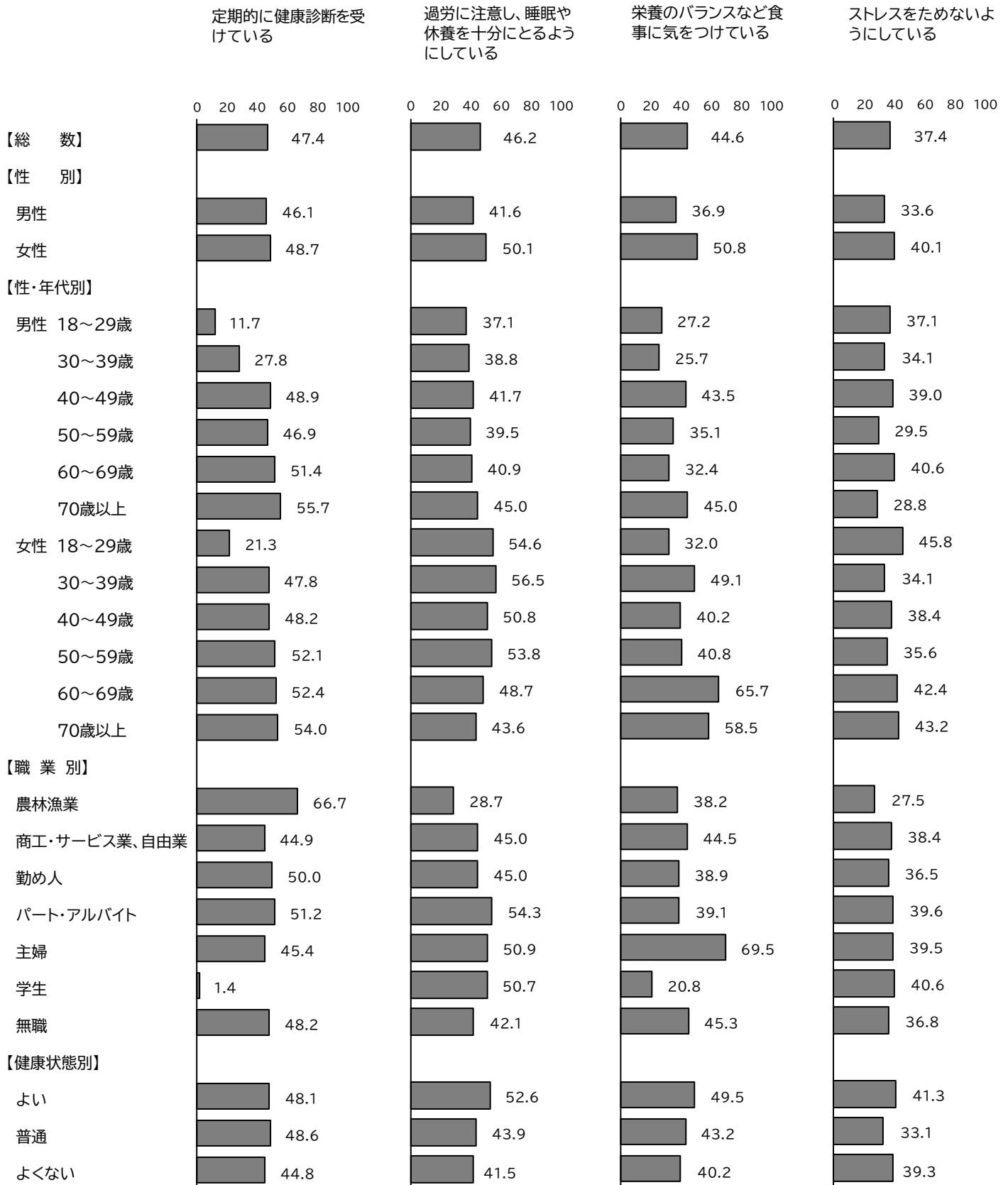
【地 域 別】



【市 郡 別】







努めて歩くようにしている

体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する

運動やスポーツをするように心がけている

タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

【総数】

35.4

26.7

23.7

16.0

【性別】

男性

37.5

23.6

29.9

26.8

女性

33.4

28.4

18.2

7.3

【性・年代別】

男性 18~29歳

12.5

1.9

26.3

9.7

30~39歳

10.2

7.9

25.0

21.7

40~49歳

35.5

14.9

46.4

29.9

50~59歳

33.0

16.3

32.4

28.9

60~69歳

44.3

24.8

24.2

31.0

70歳以上

52.0

39.8

30.0

27.3

女性 18~29歳

19.2

18.3

13.0

8.8

30~39歳

23.3

17.3

11.0

7.5

40~49歳

17.0

22.1

9.8

14.8

50~59歳

25.4

21.7

17.0

5.6

60~69歳

46.6

27.9

22.9

6.2

70歳以上

47.4

46.8

25.7

4.2

【職業別】

農林漁業

25.3

31.6

29.6

16.9

商工・サービス業、自由業

23.5

29.6

25.1

18.5

勤め人

27.9

17.0

26.2

20.1

パート・アルバイト

29.0

24.4

15.0

11.2

主婦

40.9

36.5

27.3

6.4

学生

22.5

2.5

5.6

1.2

無職

54.4

35.8

24.2

19.9

【健康状態別】

よい

35.5

19.1

30.9

16.1

普通

34.1

28.4

20.8

14.1

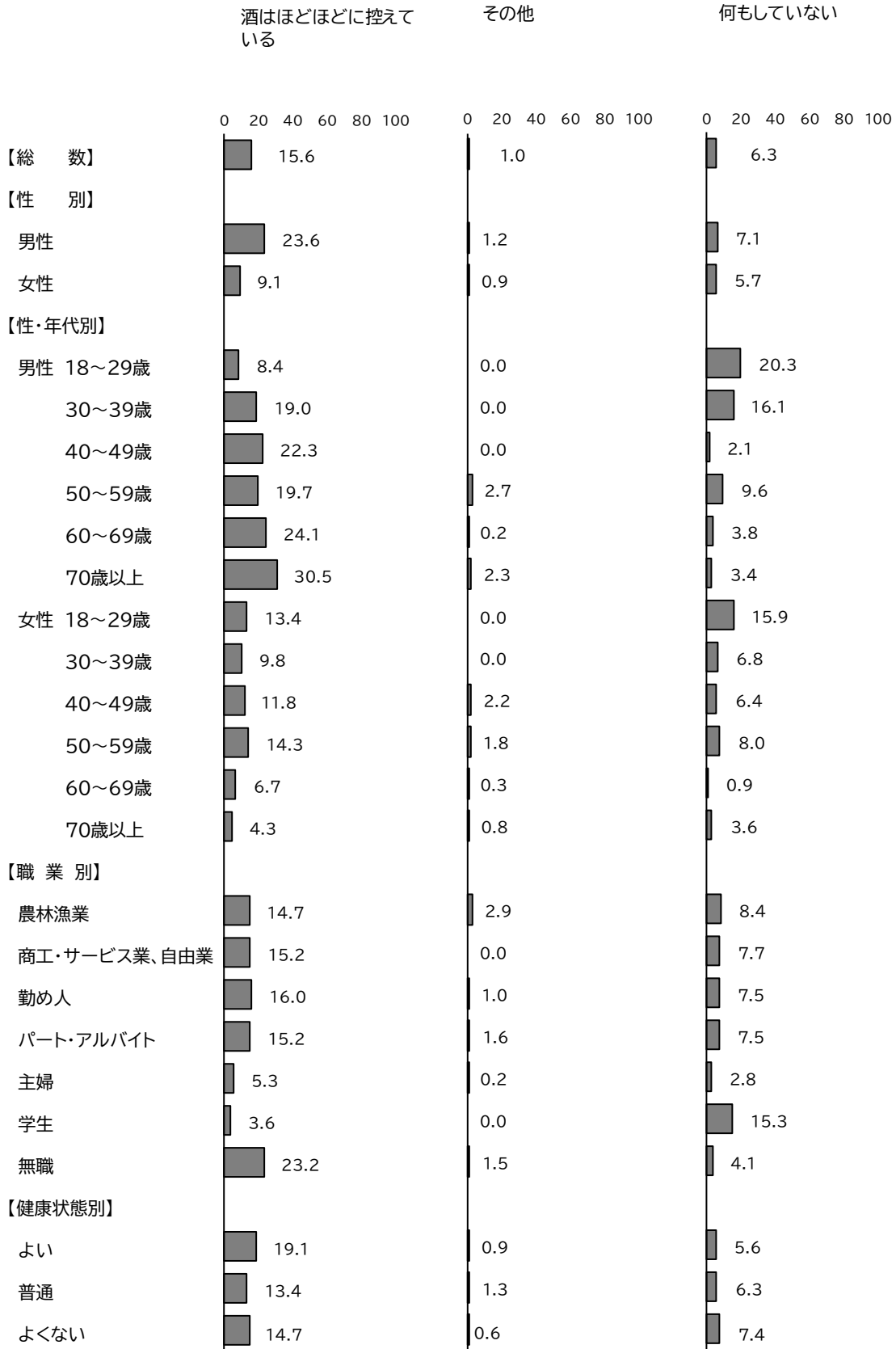
よくない

37.8

34.5

18.4

19.6



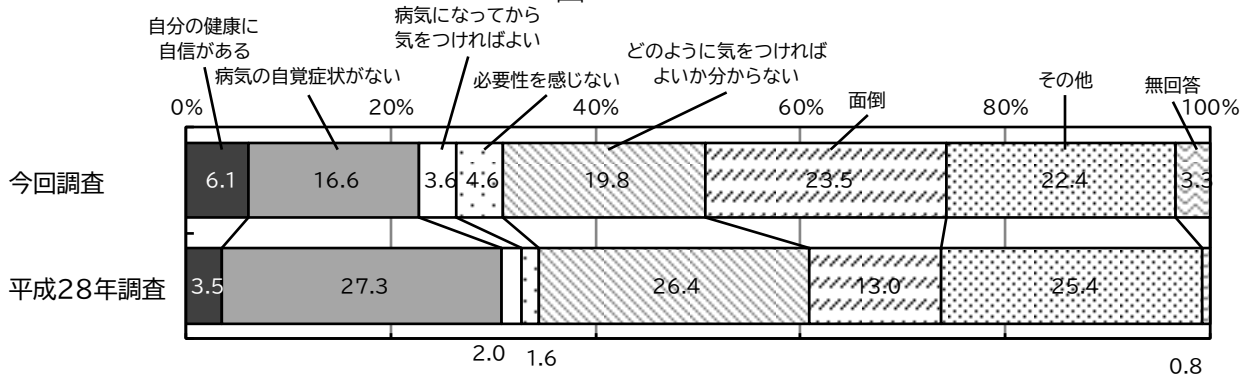
(2) 健康保持のために「何もしていない」理由

～「面倒」23.5%、「どのように気をつければよいか分からない」19.8%～

問3-1 問3で「何もしていない」と回答した理由はどれですか。(○は1つだけ)

(n=健康のために何もしていない人)

図3-3



「何もしていない」理由については、「面倒」が23.5%と最も多く、次いで「どのように気をつければよいか分からない」が19.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「病気の自覚症状がない」が少なく、「面倒」が多くなっている。

◆地域別

「面倒」は桐生保健医療圏が50.0%と最も多くなっており、次いで藤岡保健医療圏が36.2%、富岡保健医療圏が32.2%となっている。

◆市郡別

「病気の自覚症状がない」は市部(13.5%)に比べ、郡部(28.5%)の方が多くなっている。

◆性別

男性では「面倒」が21.9%と最も多く、女性では「面倒」が26.0%と最も多くなっている。

◆性・年代別

40代男性では「面倒」が80.8%と多く、30代女性では「どのように気をつければよいか分からない」が53.2%と多くなっている。

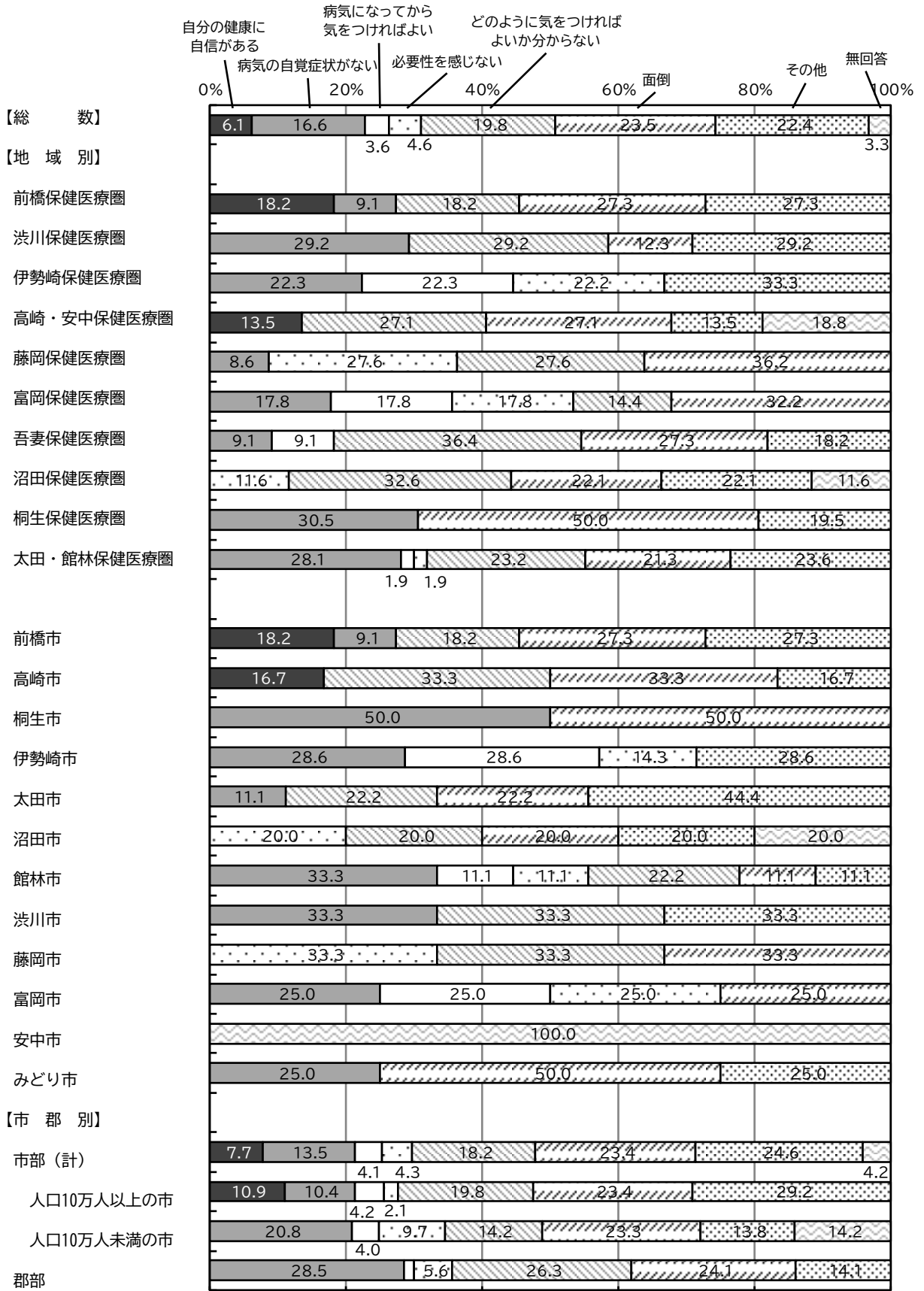
◆職業別

「面倒」は学生が70.7%と最も多く、次いで無職者が47.3%となっている。

◆健康状態別

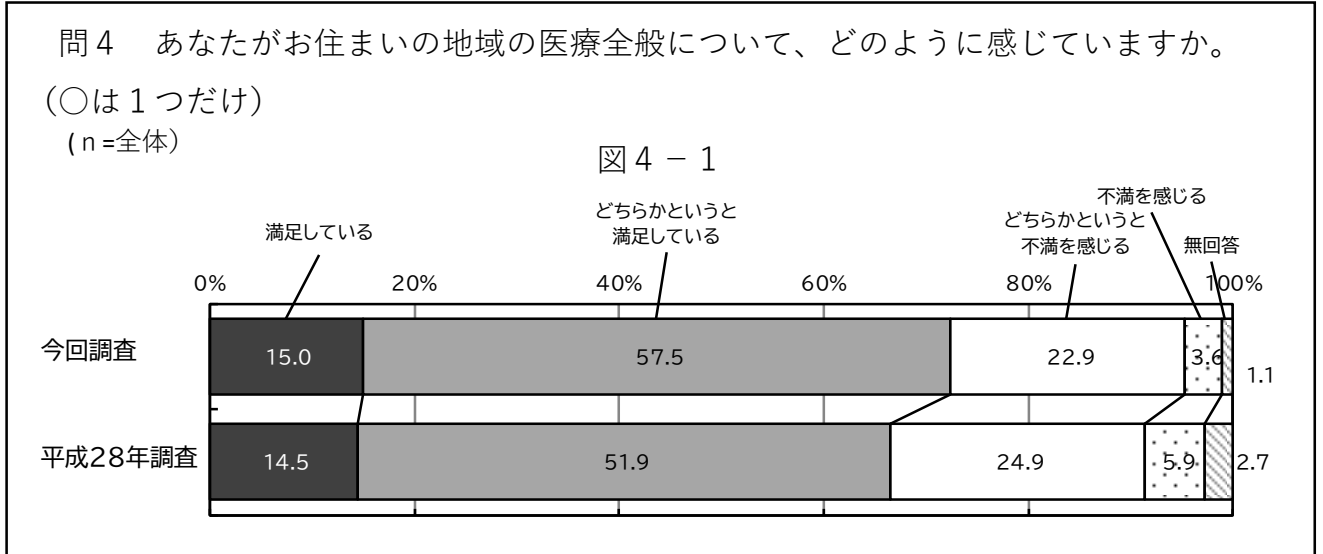
「自分の健康に自信がある」は健康状態がよくない(0.0%)に比べ、健康状態がよい(19.8%)の方が多くなっている。

図3-4 健康保持のために「何もしていない」理由



(1) 地域の医療全般に対する満足度

～＜満足＞72.4%、＜不満＞26.5%～



地域の医療については、「満足している」は15.0%で、これに「どちらかという満足している」(57.5%)と合わせた＜満足＞は72.4%となっている。これに対して「不満を感じる」は3.6%で、これに「どちらかという不満を感じる」(22.9%)と合わせた＜不満＞は26.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、＜満足＞が多くなっている。

◆地域別

＜満足＞は吾妻保健医療圏・沼田保健医療圏を除くと、いずれの地域も70.0%を超える若しくは70.0%近くになっている。一方、沼田保健医療圏は＜満足＞が58.4%、吾妻保健医療圏は＜満足＞(40.4%)に比べ、＜不満＞が59.6%と多くなっている。

◆市郡別

＜満足＞は郡部(59.0%)に比べ、市部(74.7%)の方が多くなっている。市部の中でも人口10万人未満の市(65.0%)に比べ、人口10万人以上の市(79.2%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

＜満足＞は男性と女性とも70.0%を超えている。

◆性・年代別

＜満足＞は男性では20代以下が84.7%、女性では20代以下が83.2%と20代以下が最も多くなっている。

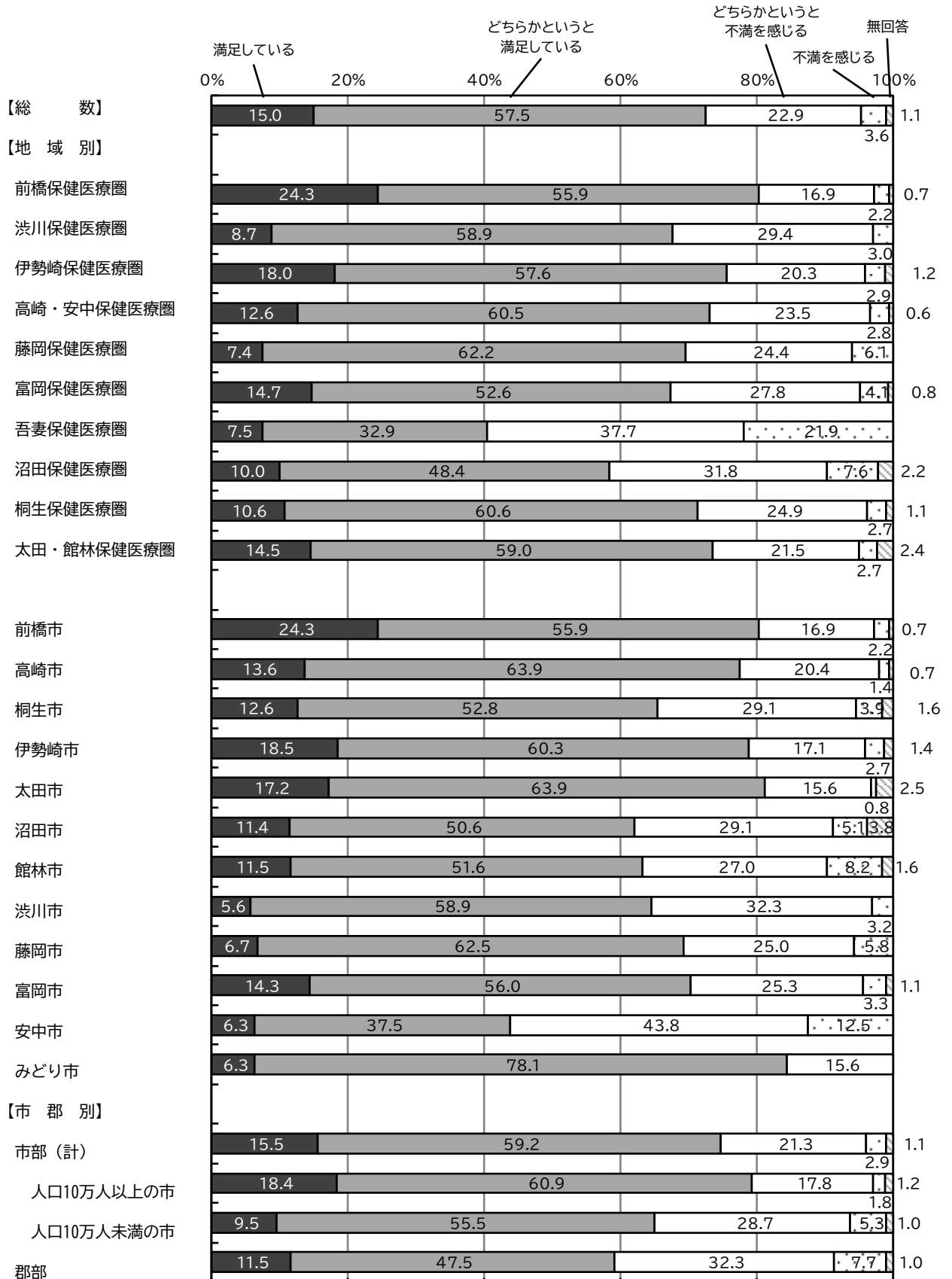
◆職業別

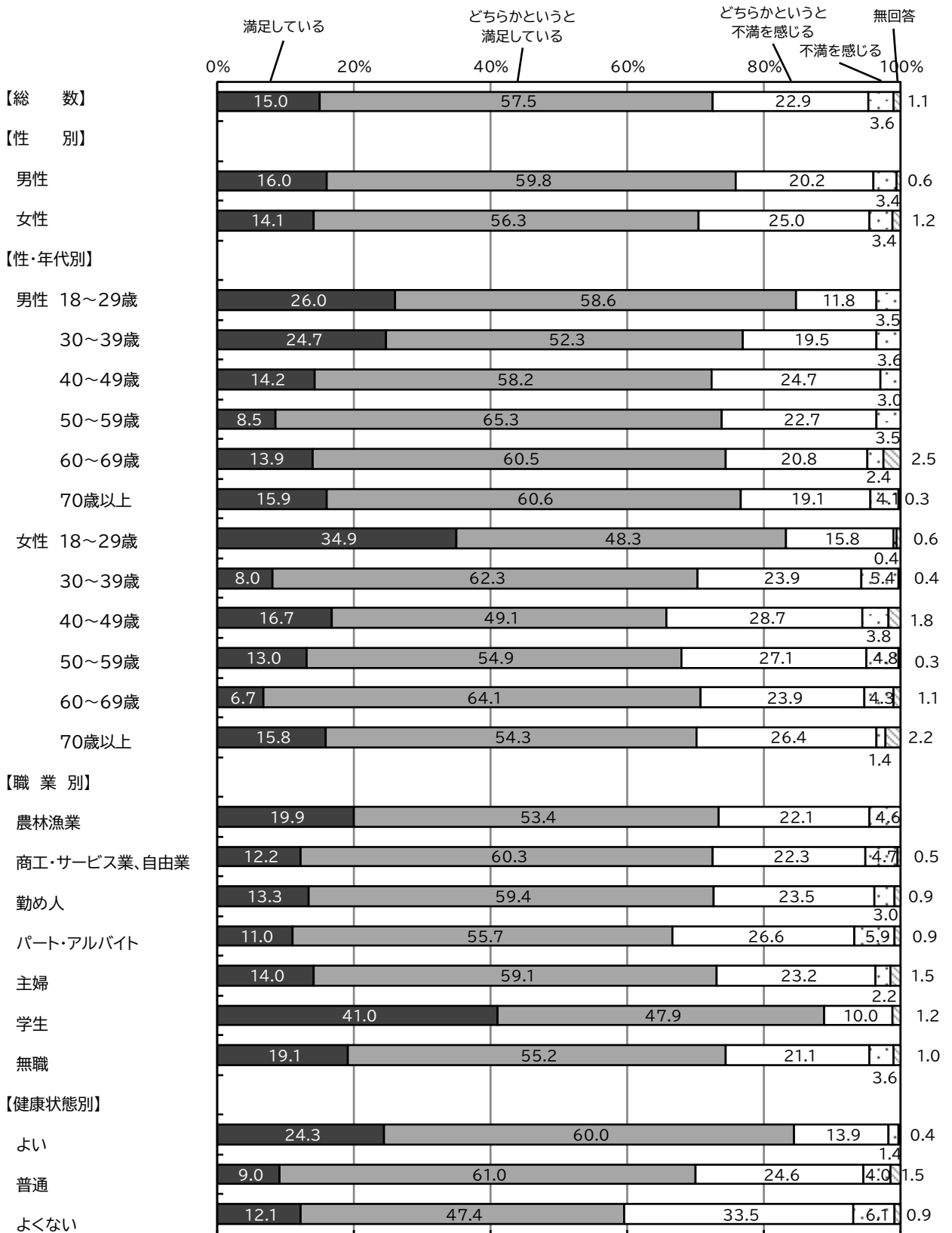
＜満足＞は学生が88.9%と最も多くなっている。一方、＜不満＞はパート・アルバイトが32.5%と最も多い。

◆健康状態別

＜満足＞は健康状態がよいが84.3%、健康状態がよくないが59.5%となっており、健康状態により差異がみられる。

図4-2 地域の医療全般に対する満足度





(2) 地域の医療に対する意識

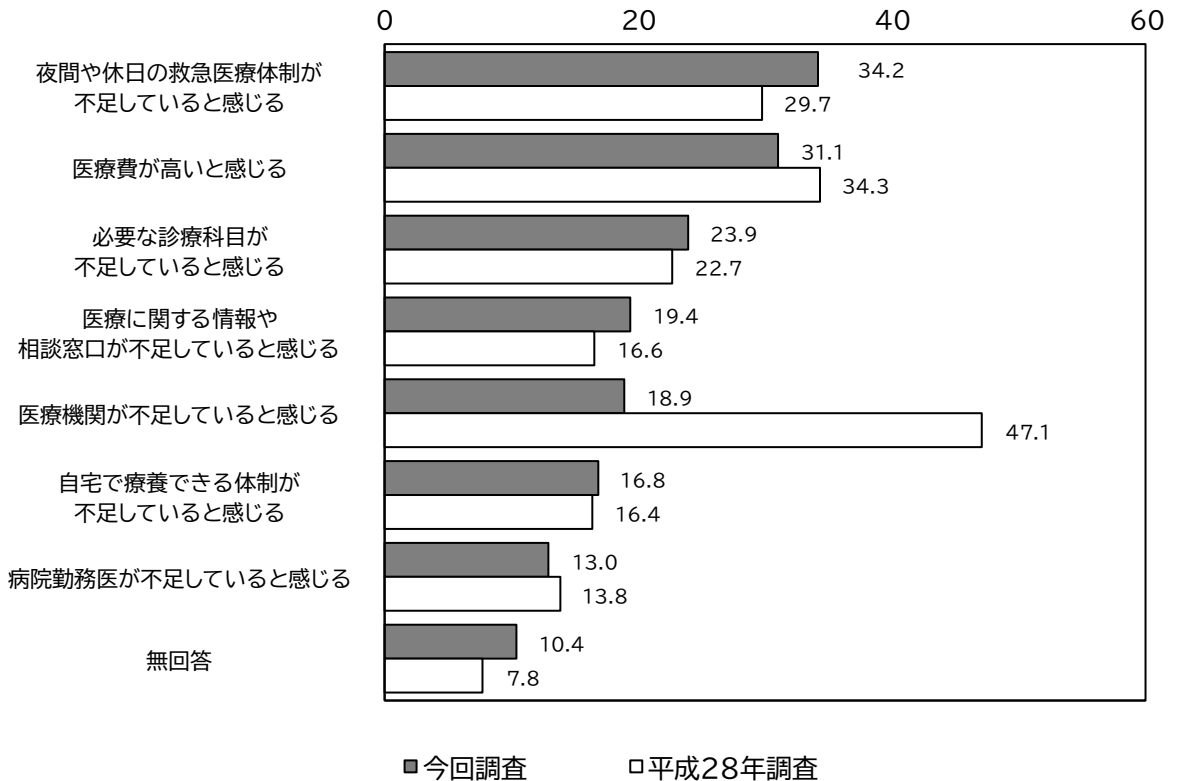
～「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」34.2%が最も多い～

問5 地域の医療に関する以下の項目について、どのように感じていますか。

(○はあてはまるものすべて)

(n=全体)

図4-3



地域医療について感じることとしては、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が34.2%、「医療費が高いと感じる」が31.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、前回調査でトップだった「医療機関が不足していると感じる」が大きく減少して18.9%となり、一方で「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」がやや多くなっている。

◆地域別

吾妻保健医療圏では、「医療機関が不足していると感じる」、「必要な診療科目が不足していると感じる」が多くなっている。また、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」では前橋保健医療圏が44.9%と最も多くなっている。

◆市郡別

「医療機関が不足していると感じる」は市部(17.3%)に比べ、郡部(28.0%)の方が多くなっている。一方、「医療に関する情報や相談窓口が不足していると感じる」は郡部(12.6%)に比べ、市部(20.5%)の方が多くなっている。

◆性別

男性は「医療費が高いと感じる」が34.8%で最も多く、女性は「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が36.5%で多くなっている。

◆性・年代別

「医療費が高いと感じる」は、男性では60代が49.6%と最も多くなっている。

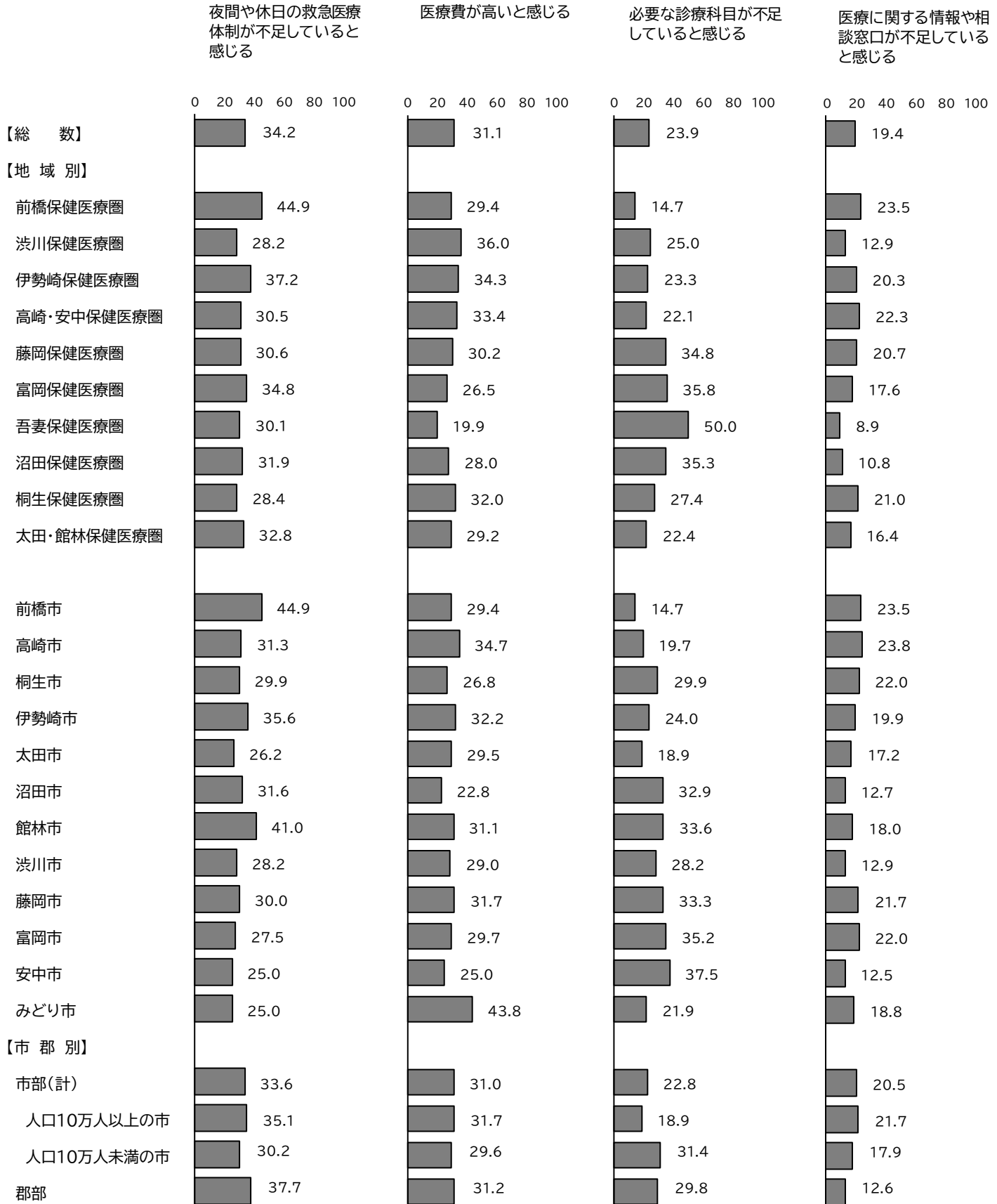
◆職業別

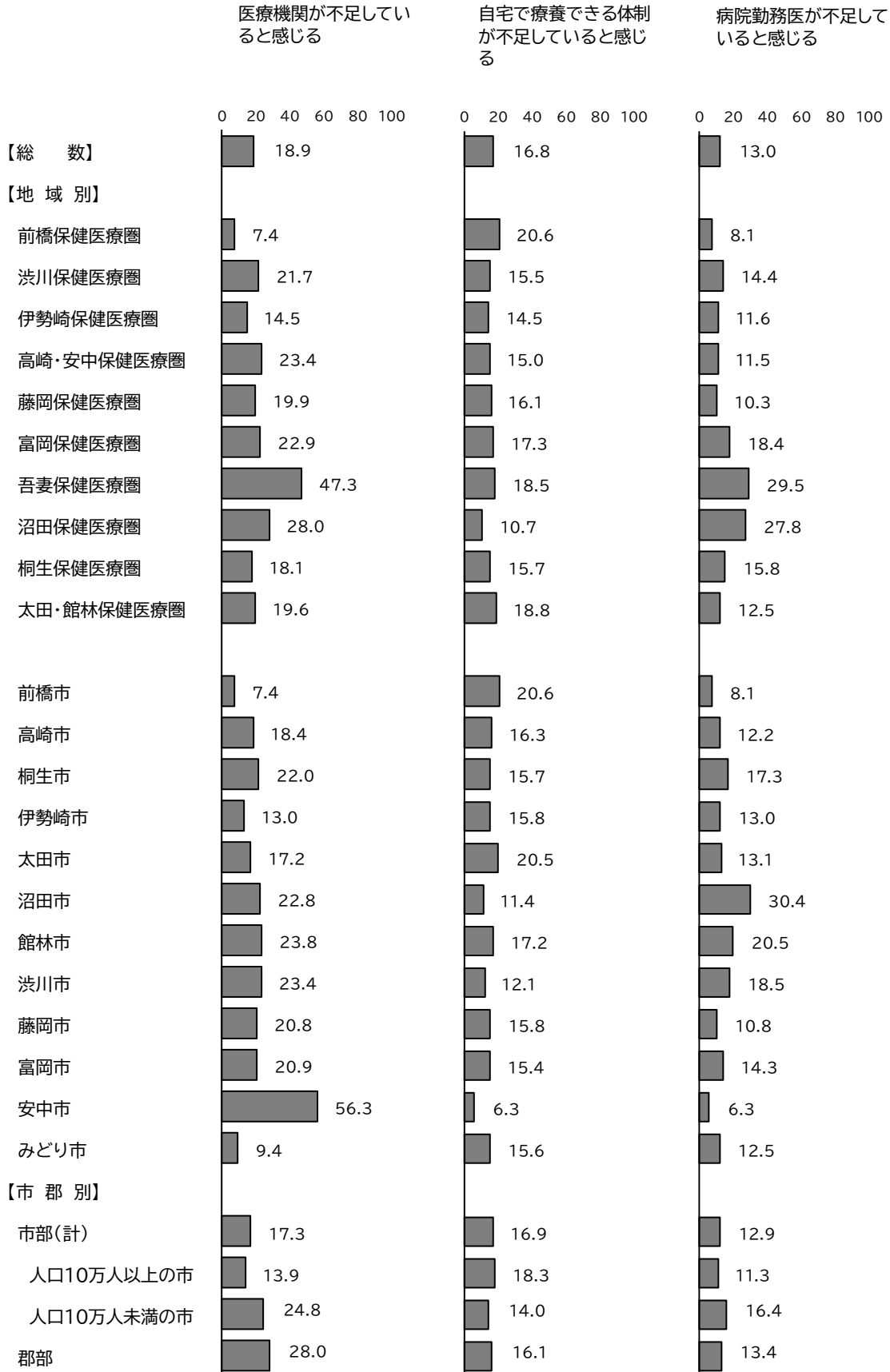
農林漁業では「必要な診療科目が不足していると感じる」が34.7%で最も多くなっている。

◆健康状態別

「医療費が高いと感じる」は、健康状態がよい(28.0%)に比べ、健康状態がよくない(35.7%)の方が多くなっている。その他、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」を除いたいずれの項目も同様の傾向がみられる。

図4-4 地域の医療に対する意識





夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる

医療費が高いと感じる

必要な診療科目が不足していると感じる

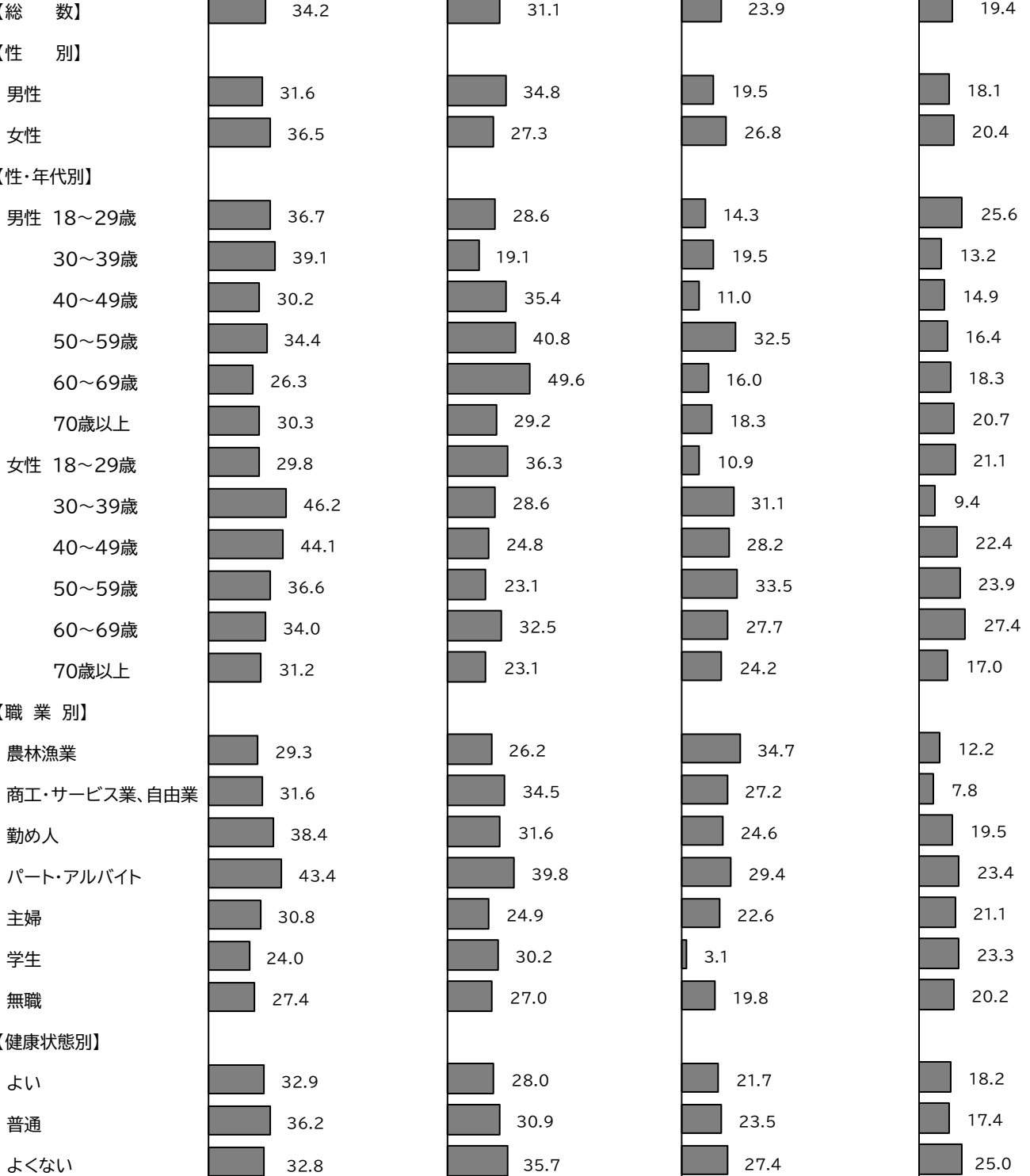
医療に関する情報や相談窓口が不足していると感じる

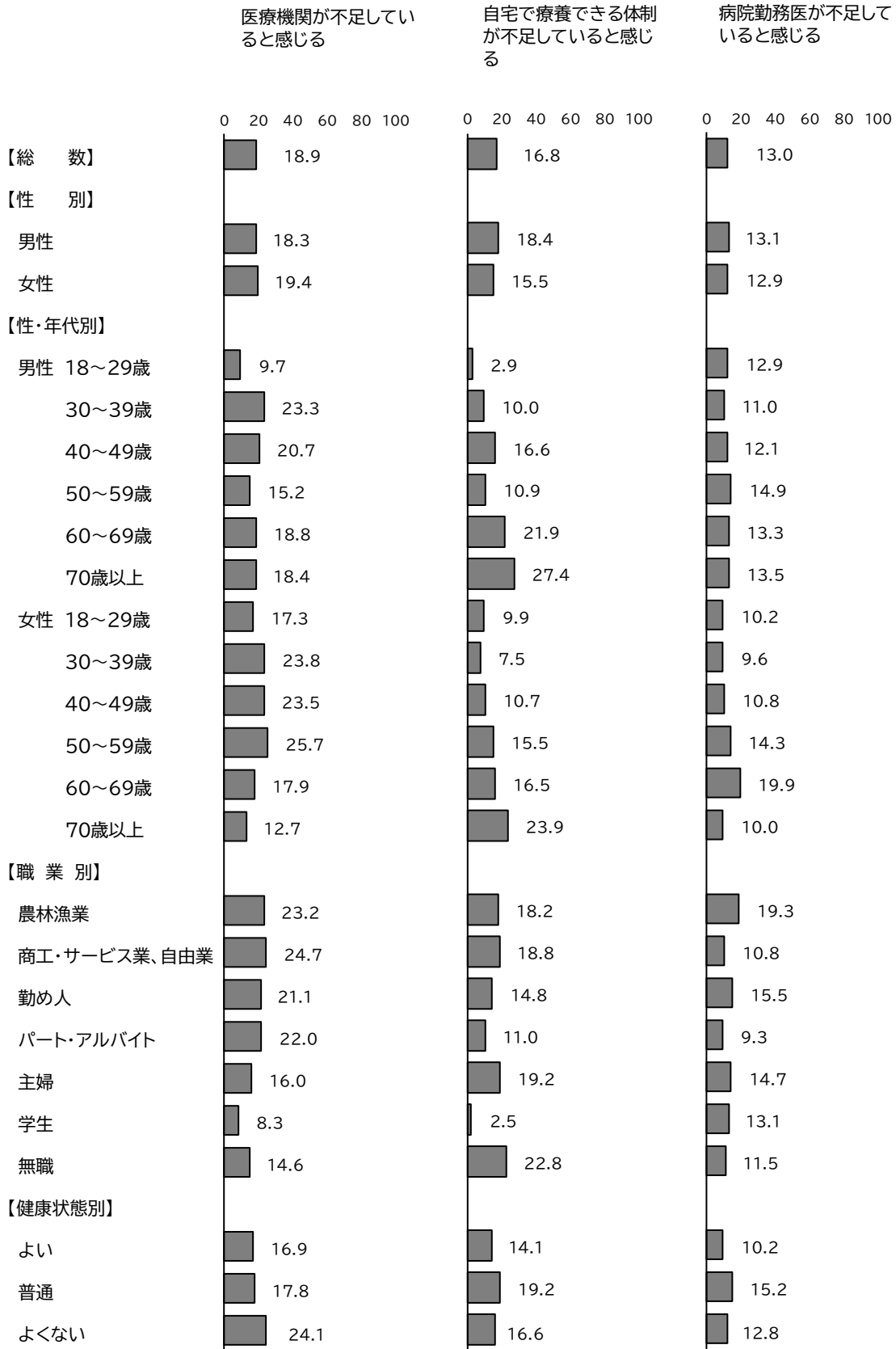
0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100





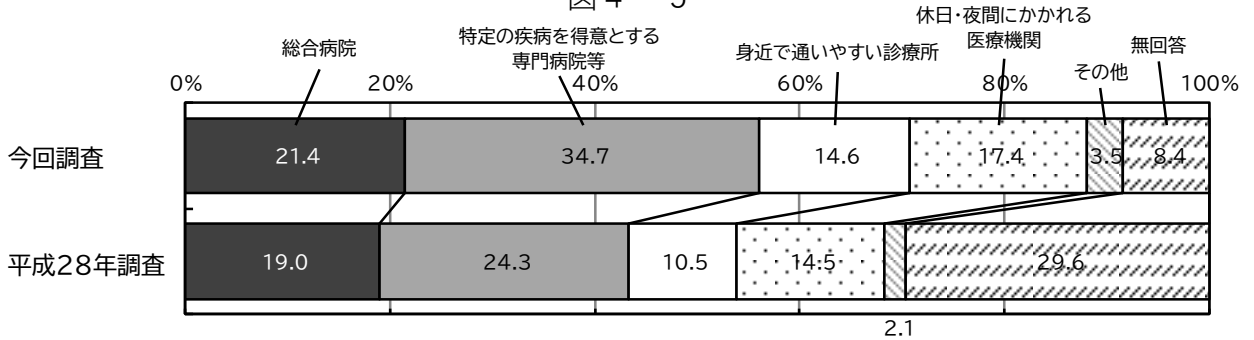
(3) 不足している医療機関

～「特定の疾病を得意とする専門病院等」34.7%、「総合病院」21.4%～

問5-1 具体的にはどのような医療機関が不足しているとお考えですか。(○は1つだけ)

(n=医療機関が不足していると感じている人)

図4-5



不足している医療機関としては、「特定の疾病を得意とする専門病院等」が34.7%で最も多く、続いて、「総合病院」が21.4%、「休日・夜間にかかれる医療機関」が17.4%、「身近で通いやすい診療所」が14.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「特定の疾病を得意とする専門病院等」が多くなっている。

◆地域別

「特定の疾病を得意とする専門病院等」は前橋保健医療圏と高崎・安中保健医療圏を除くと、いずれの地域も最も多くなっている。前橋保健医療圏では、「身近で通いやすい診療所」が最も多く、高崎・安中保健医療圏では、「総合病院」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性とも「特定の疾病を得意とする専門病院等」が最も多くなっている。また、「総合病院」は女性(16.9%)に比べ、男性(26.9%)の方が多くなっており、「身近で通いやすい診療所」は男性(9.9%)に比べ、女性(18.0%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「休日・夜間にかかれる医療機関」は、男性では20代以下が47.7%と最も多く、女性では40代が25.6%と最も多くなっている。また、男性では50代で「総合病院」が多く、女性では20代以下で「身近で通いやすい診療所」が多くなっている。

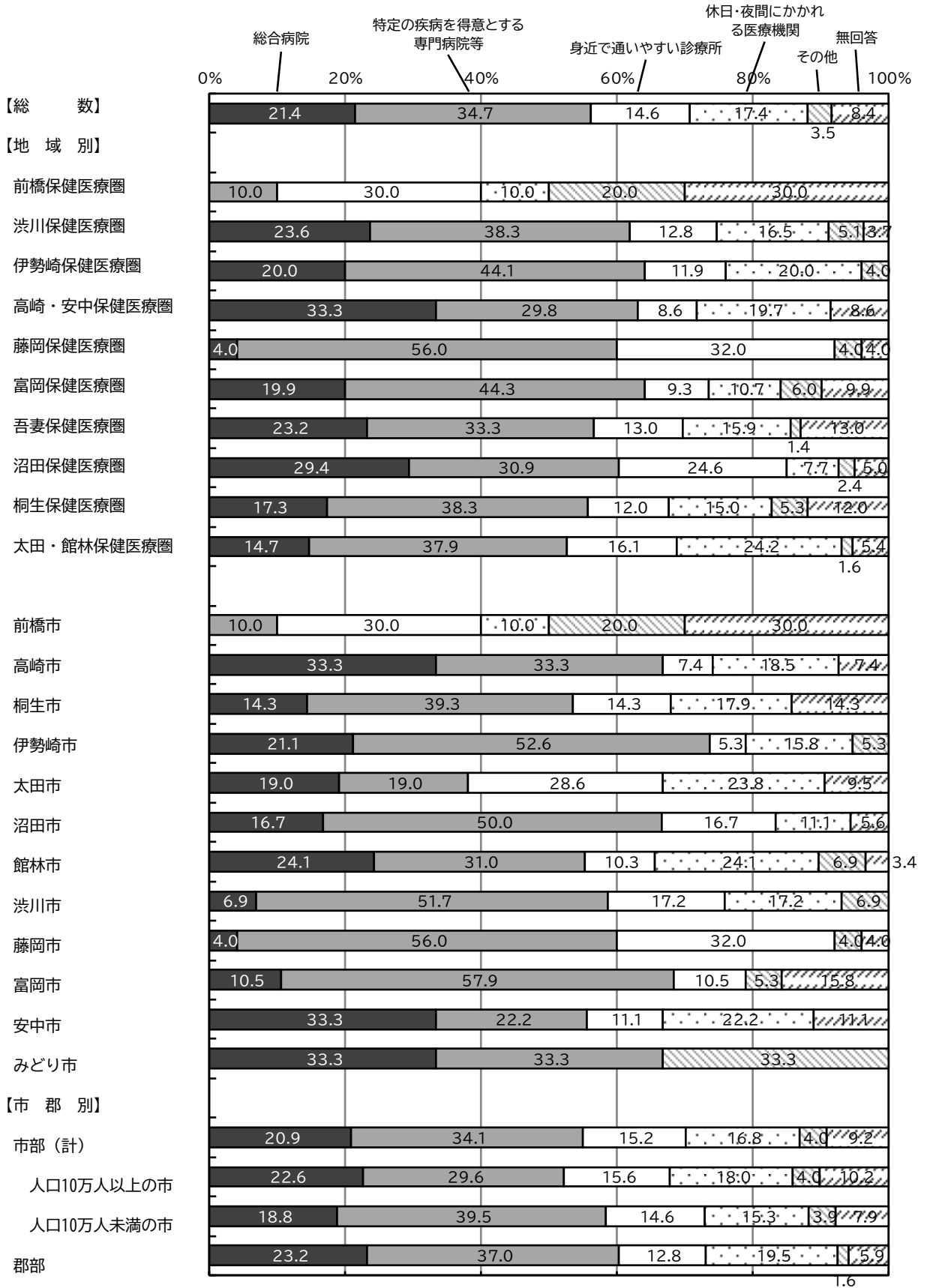
◆職業別

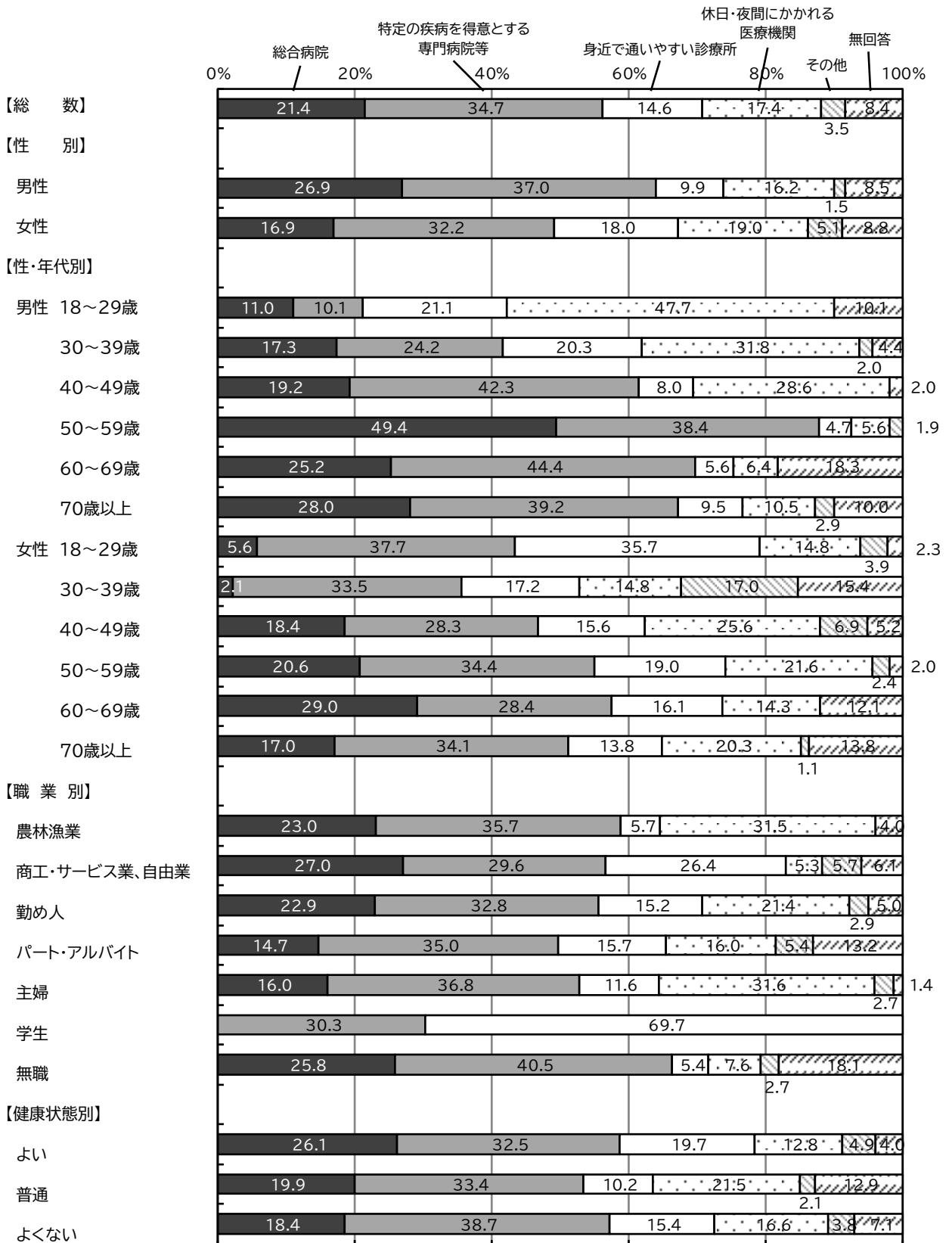
学生では「身近で通いやすい診療所」が69.7%と最も多くなっている。

◆健康状態別

「総合病院」は、健康状態がよくない(18.4%)に比べ、健康状態がよい(26.1%)の方が多くなっている。

図 4 - 6 不足している医療機関



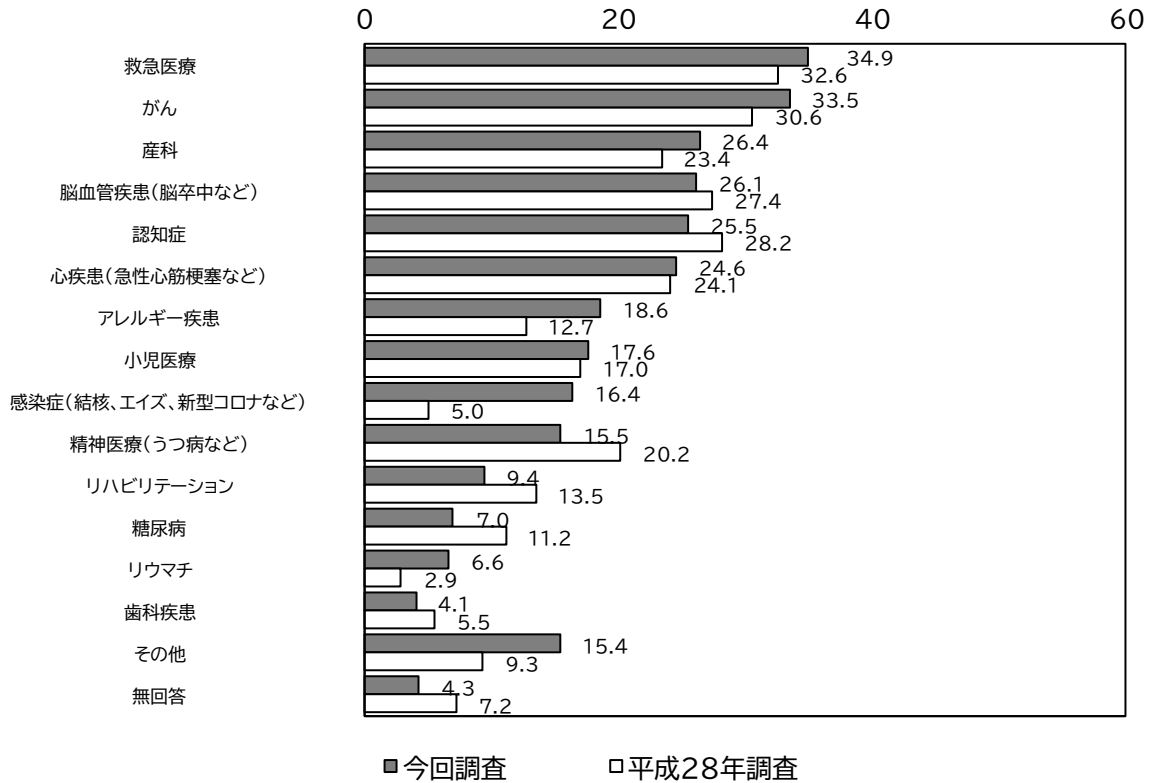


(4) 不足している医療分野

～「救急医療」34.9%、「がん」33.5%～

問5-2 具体的にはどのような分野の治療を行う医療機関が不足しているとお考えですか。(○はあてはまるものすべて)

(n=医療機関が不足していると感じている人) 図4-7



*平成28年調査では「感染症(結核、エイズ、新型コロナなど)」は「感染症(結核、エイズなど)」で聴取

不足している医療分野については、「救急医療」が34.9%と最も多く、次いで「がん」が33.5%、「産科」が26.4%、「脳血管疾患(脳卒中など)」が26.1%、「認知症」が25.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「アレルギー疾患」「感染症(結核、エイズ、新型コロナなど)」が多くなっている。一方、「精神医療(うつ病など)」、「リハビリテーション」、「糖尿病」がやや少なくなっている。

◆地域別

吾妻保健医療圏では、「産科」が71.0%と多くなっている。

◆市郡別

「産科」は市部(21.3%)に比べ、郡部(44.8%)の方が多くなっている。同様に「小児医療」「救急医療」は市部に比べ、郡部の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「認知症」は女性(20.5%)に比べ、男性(32.2%)の方が多くなっている。一方、「産科」は男性(21.0%)に比べ、女性(31.7%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「精神医療(うつ病など)」は、女性では20代以下が55.0%と最も多くなっている。

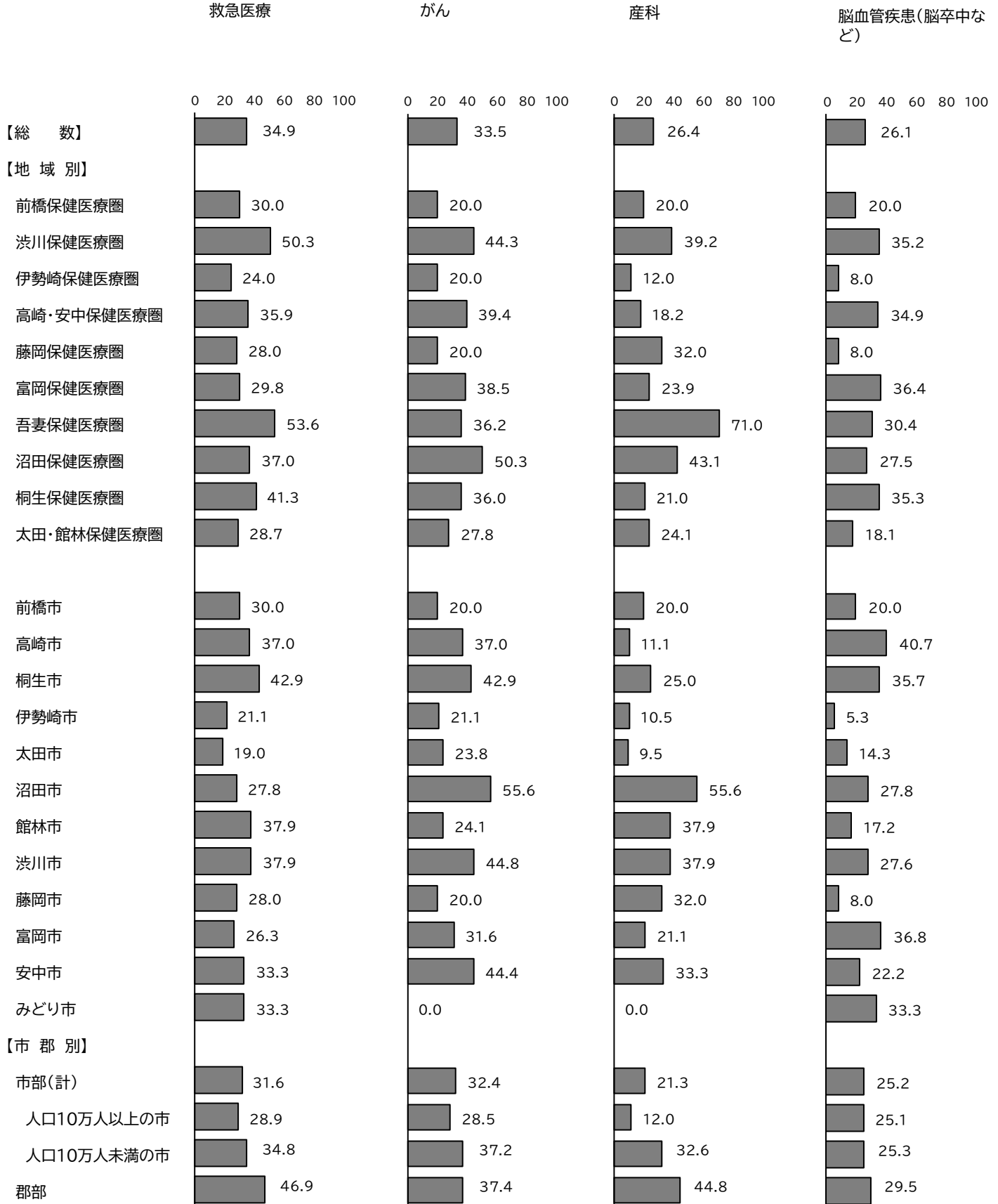
◆職業別

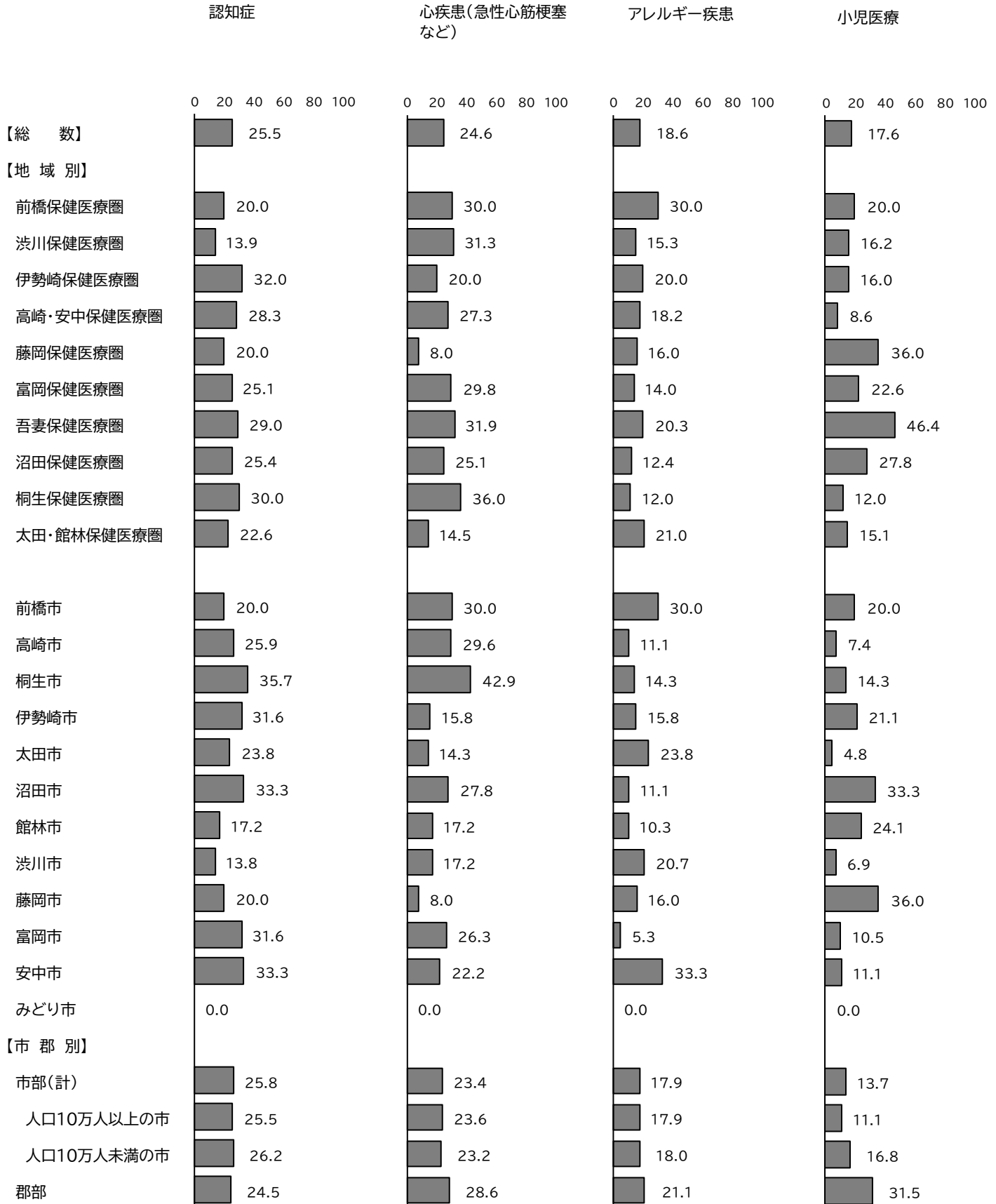
主婦では「心疾患(急性心筋梗塞など)」が36.5%と他の職業に比べ多くなっている。

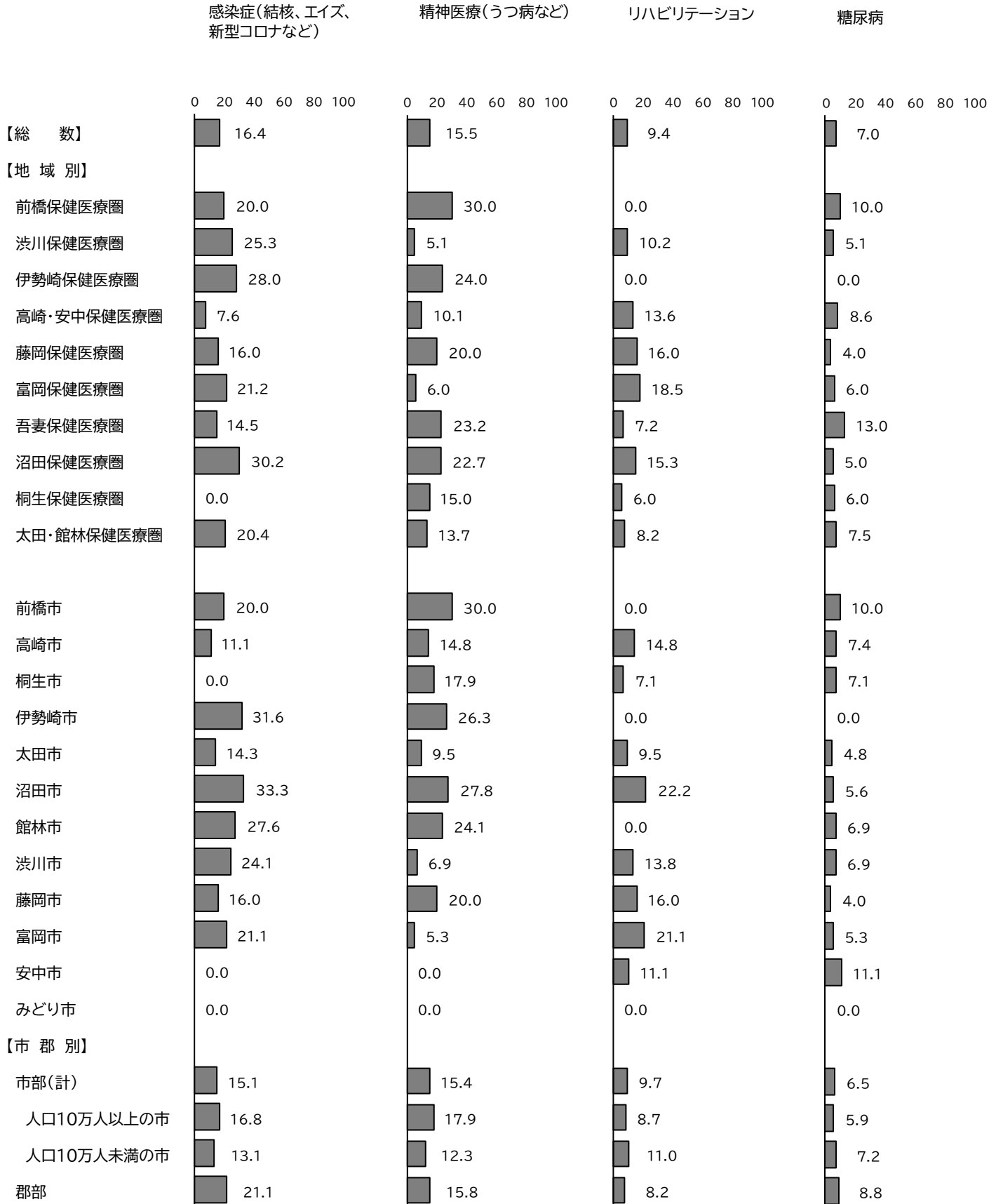
◆健康状態別

健康状態がよいでは「感染症(結核、エイズ、新型コロナなど)」が27.3%と健康状態がよくないに比べ多くなっており、健康状態がよくないでは「がん」が38.9%と健康状態がよいに比べ多くなっている。

図 4 - 8 不足している医療分野







リウマチ

歯科疾患

その他

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

【総 数】

6.6

4.1

15.4

【地 域 別】

前橋保健医療圏

0.0

0.0

20.0

渋川保健医療圏

10.2

2.6

5.1

伊勢崎保健医療圏

8.0

0.0

32.1

高崎・安中保健医療圏

5.1

6.1

7.6

藤岡保健医療圏

4.0

8.0

28.0

富岡保健医療圏

11.3

5.3

30.5

吾妻保健医療圏

2.9

8.7

14.5

沼田保健医療圏

5.3

0.0

14.8

桐生保健医療圏

6.0

3.0

25.7

太田・館林保健医療圏

10.3

4.4

11.1

前橋市

0.0

0.0

20.0

高崎市

7.4

3.7

11.1

桐生市

7.1

3.6

17.9

伊勢崎市

5.3

0.0

42.1

太田市

4.8

0.0

4.8

沼田市

11.1

0.0

11.1

館林市

3.4

3.4

6.9

渋川市

13.8

3.4

6.9

藤岡市

4.0

8.0

28.0

富岡市

5.3

0.0

31.6

安中市

0.0

11.1

0.0

みどり市

0.0

0.0

66.7

【市 郡 別】

市部(計)

5.3

3.2

15.2

人口10万人以上の市

5.2

1.6

16.3

人口10万人未満の市

5.4

5.1

13.8

郡部

11.3

7.3

16.4

救急医療

がん

産科

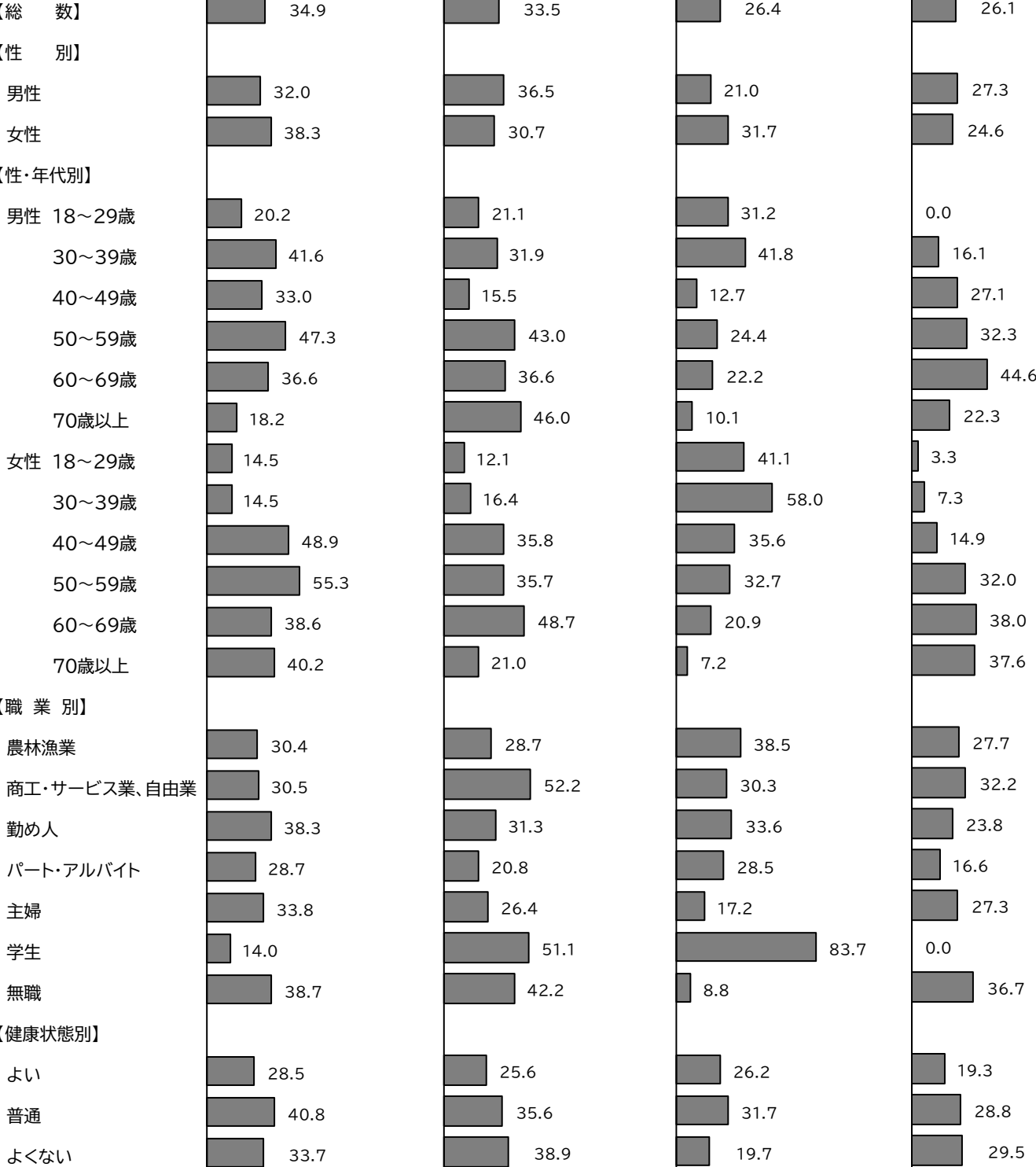
脳血管疾患(脳卒中など)

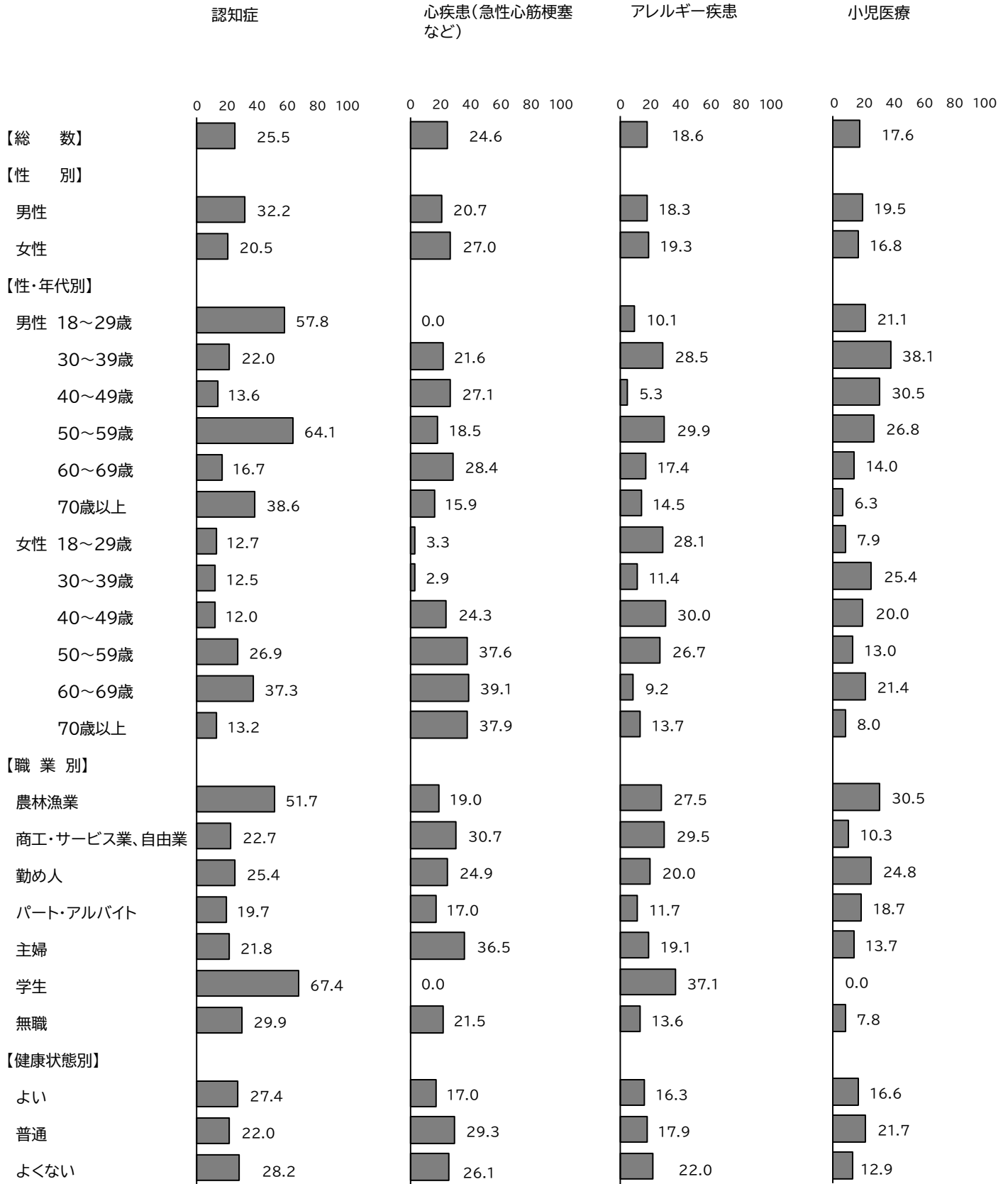
0 20 40 60 80 100

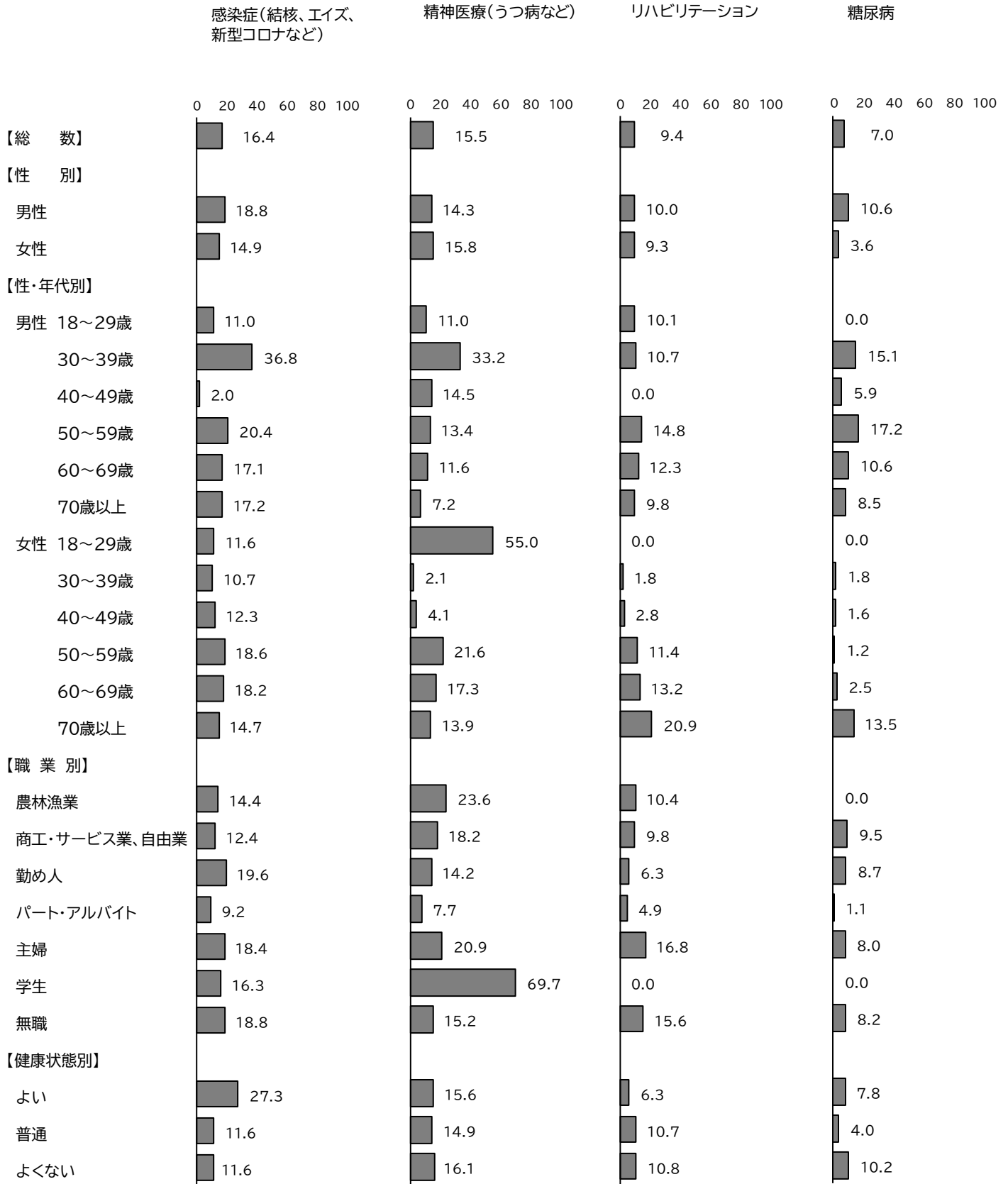
0 20 40 60 80 100

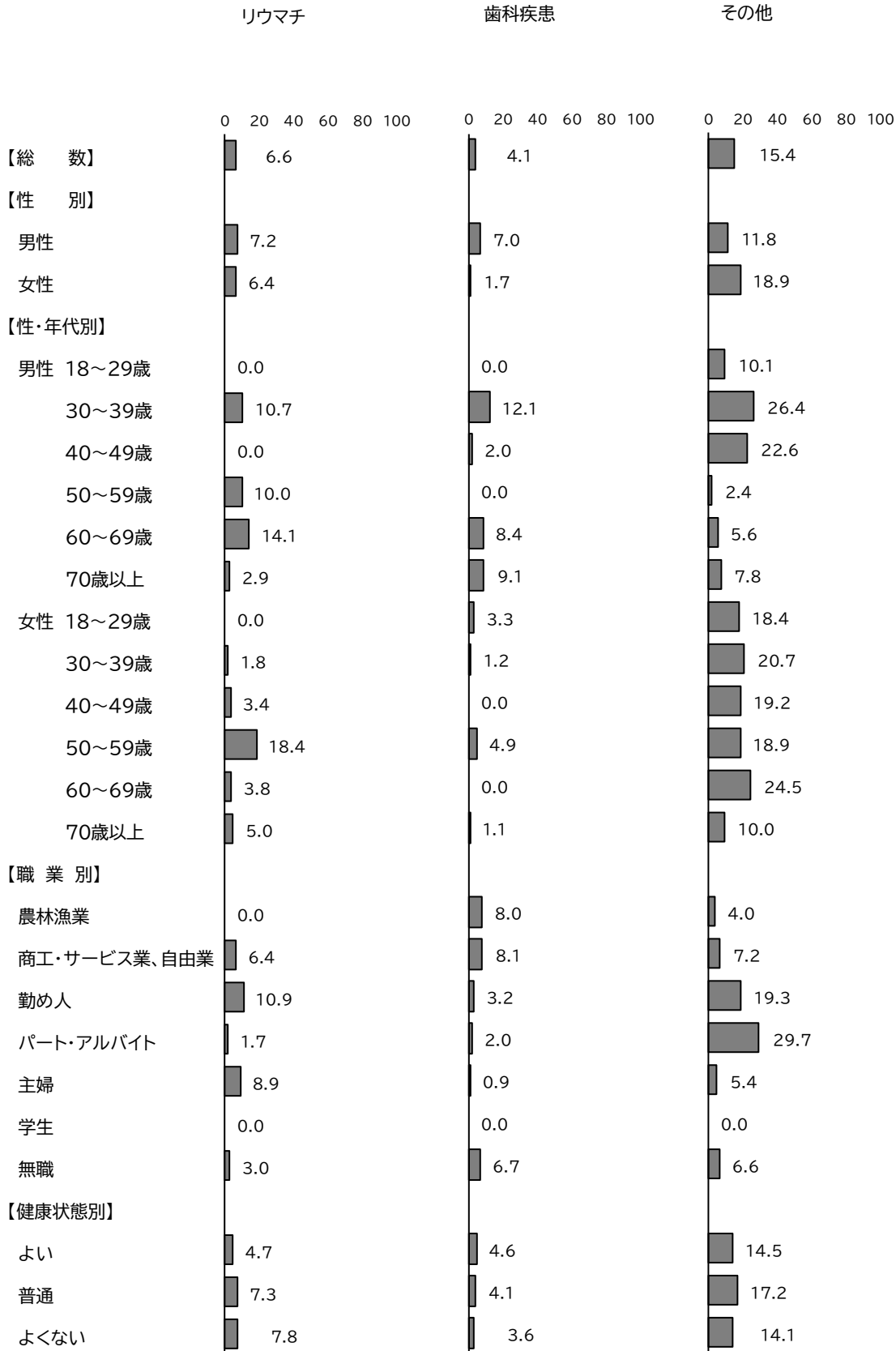
0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100







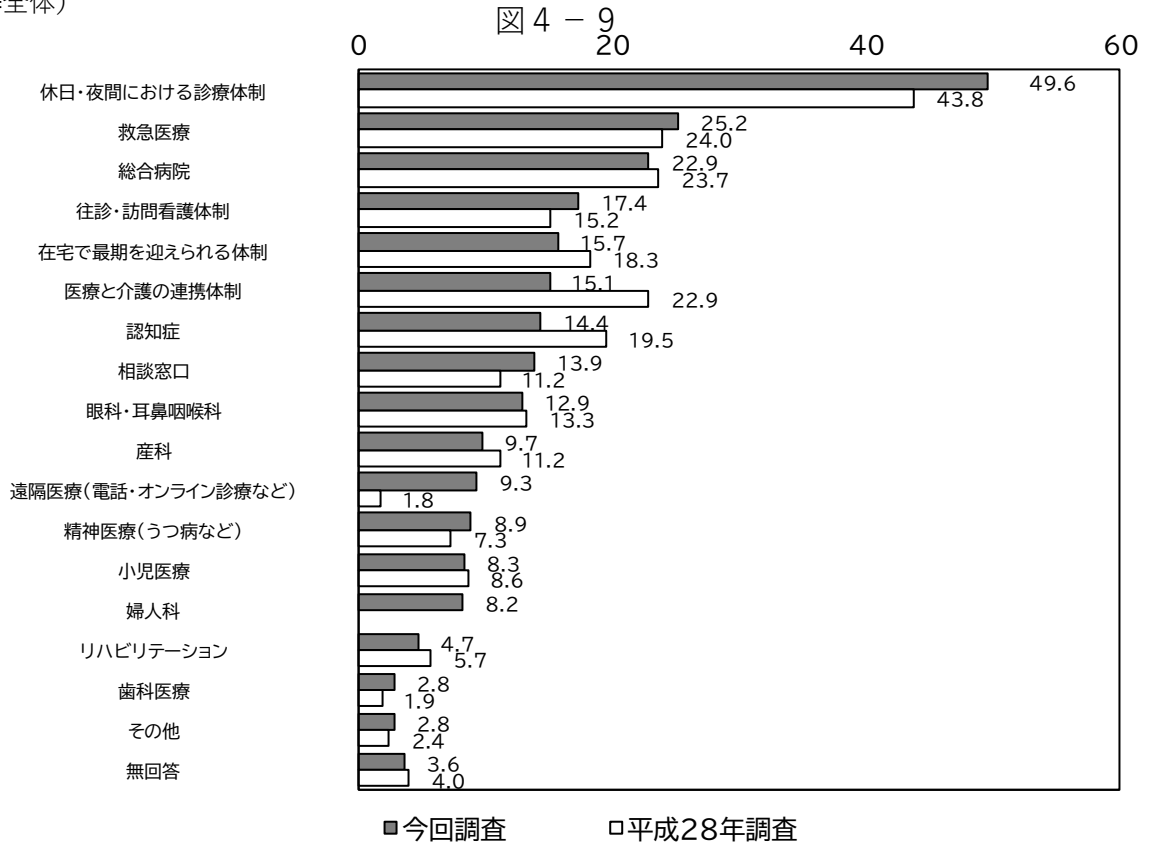


(5) 充実してほしい医療機関

～「休日・夜間における診療体制」49.6%が最も多い～

問6 あなたがお住まいの地域の医療について、これから充実して欲しいと思うことはなんですか。(○は3つまで)

(n=全体)



*平成28年調査では「婦人科」は聴取なし、
「遠隔医療(電話・オンライン診療など)」は「遠隔医療」で聴取

自分が住む地域で充実してほしい医療機関については、「休日・夜間における診療体制」が49.6%で最も多く、次いで「救急医療」が25.2%、「総合病院」が22.9%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「医療と介護の連携体制」「認知症」が少なくなっていて、「休日・夜間における診療体制」「遠隔医療(電話・オンライン診療など)」が多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「休日・夜間における診療体制」が最も多くなっている。また、吾妻保健医療圏では「産科」「眼科・耳鼻咽喉科」「小児医療」が他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「眼科・耳鼻咽喉科」は市部(11.4%)に比べ、郡部(21.6%)の方が多くなっている。

◆性別

「総合病院」は女性(19.7%)に比べ、男性(26.1%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「小児医療」は、女性では30代が28.5%と最も多くなっている。

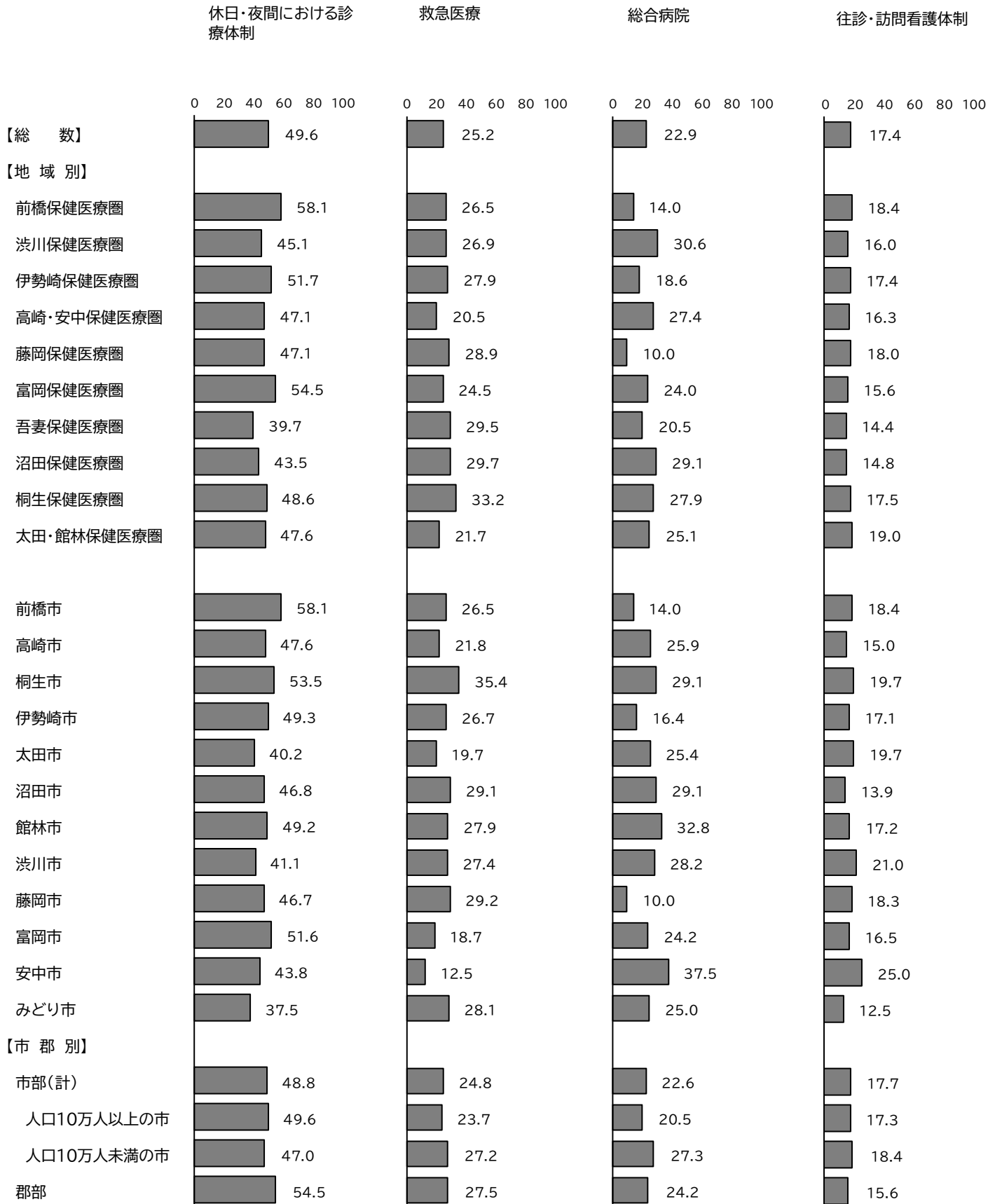
◆職業別

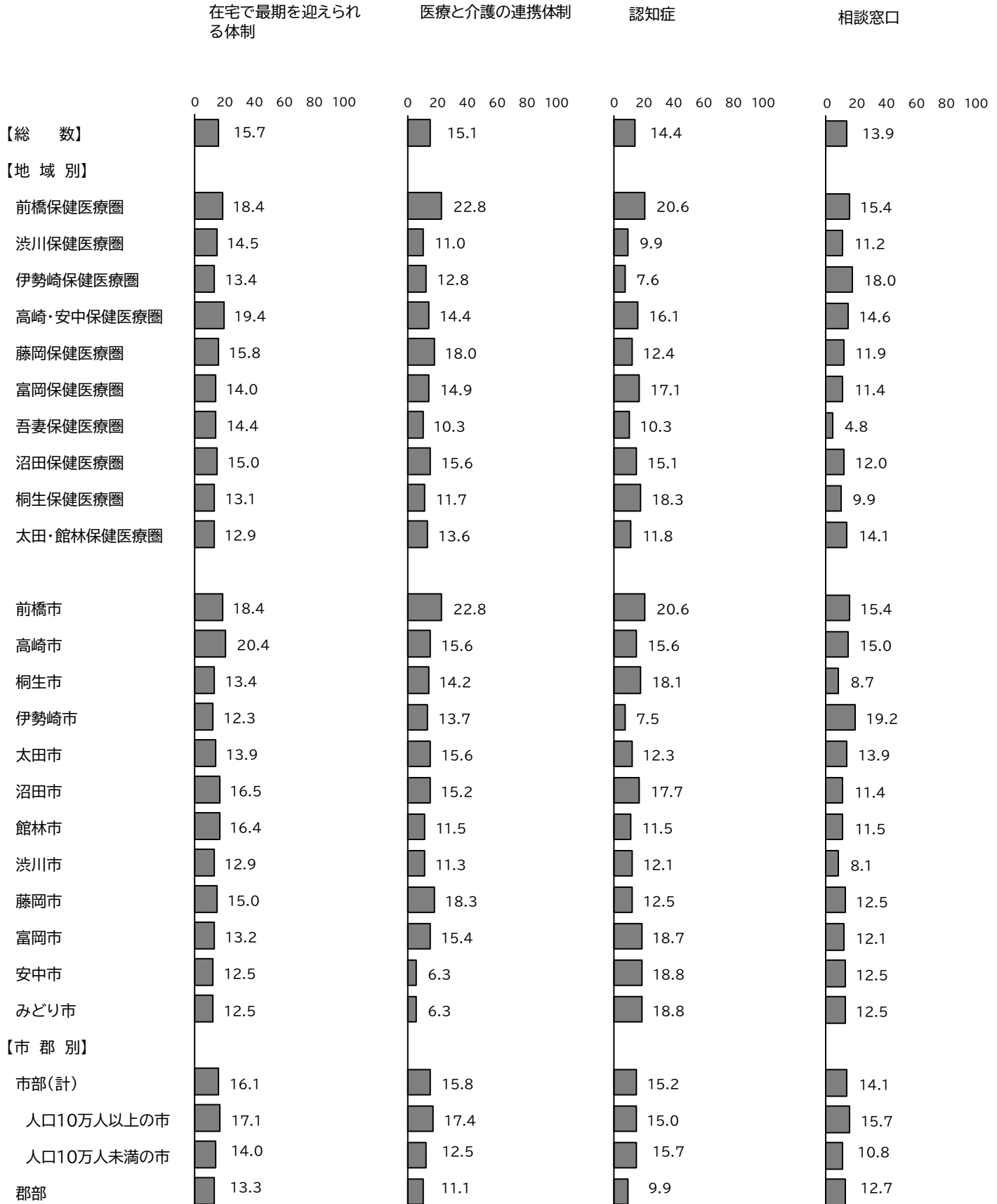
いずれの職業も「休日・夜間における診療体制」が最も多くなっており、勤め人(58.8%)、パート・アルバイト(56.3%)は特に多い。また、「歯科医療」は学生が20.1%と他の職業に比べ多くなっている。

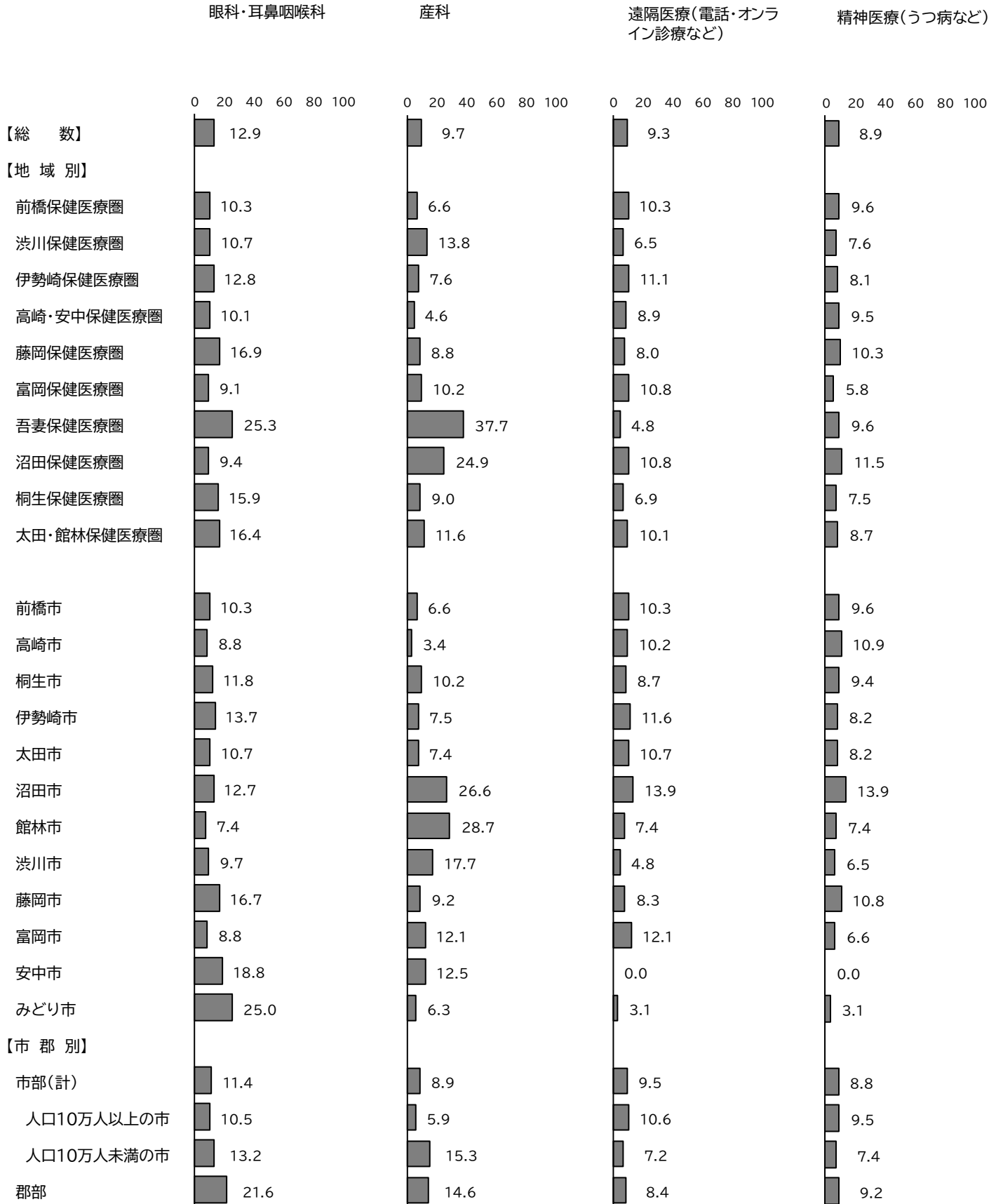
◆健康状態別

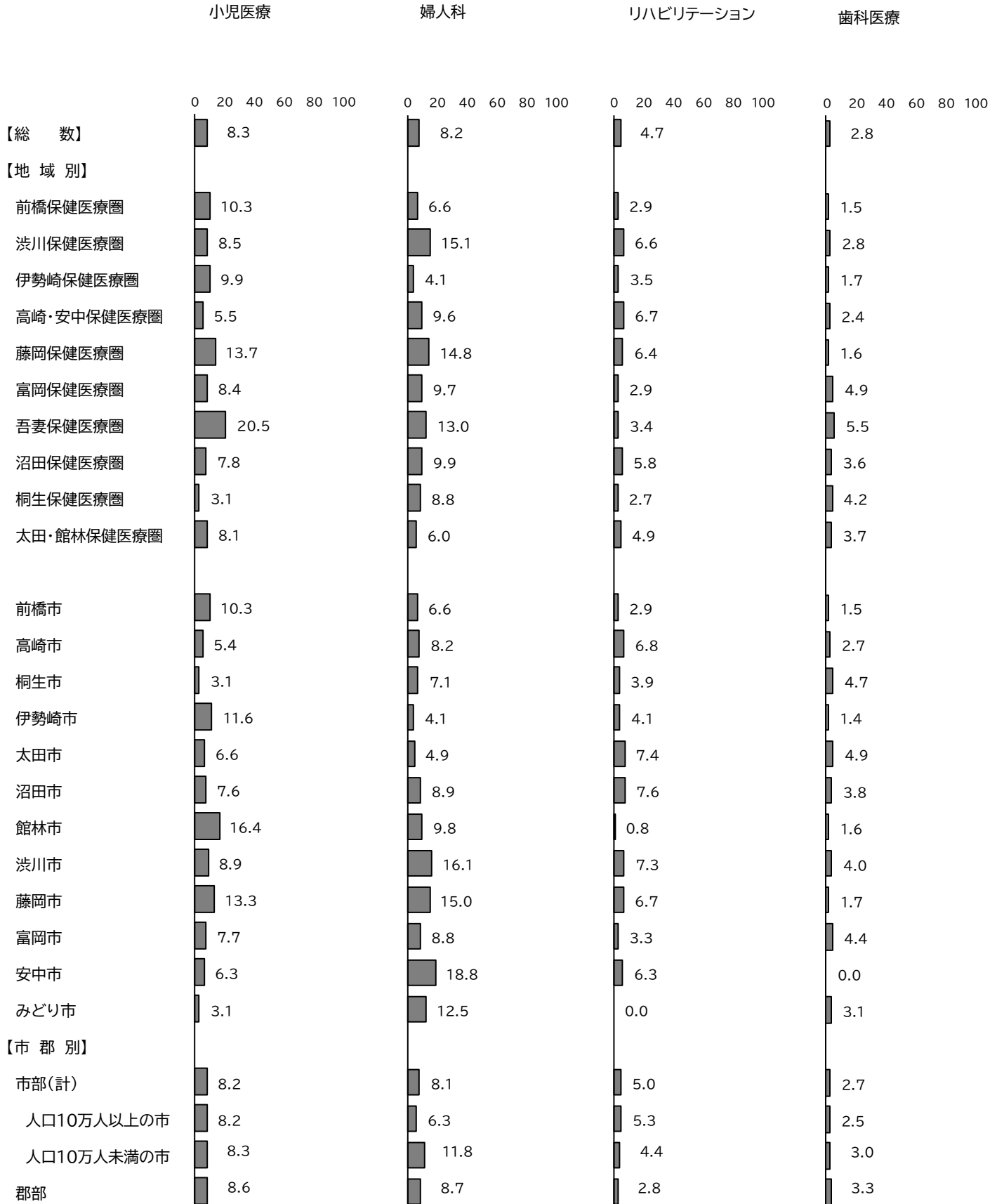
「総合病院」では健康状態がよい(19.4%)に比べて、健康状態がよくないの方が27.3%と多くなっている。

図4-10 充実してほしい医療機関



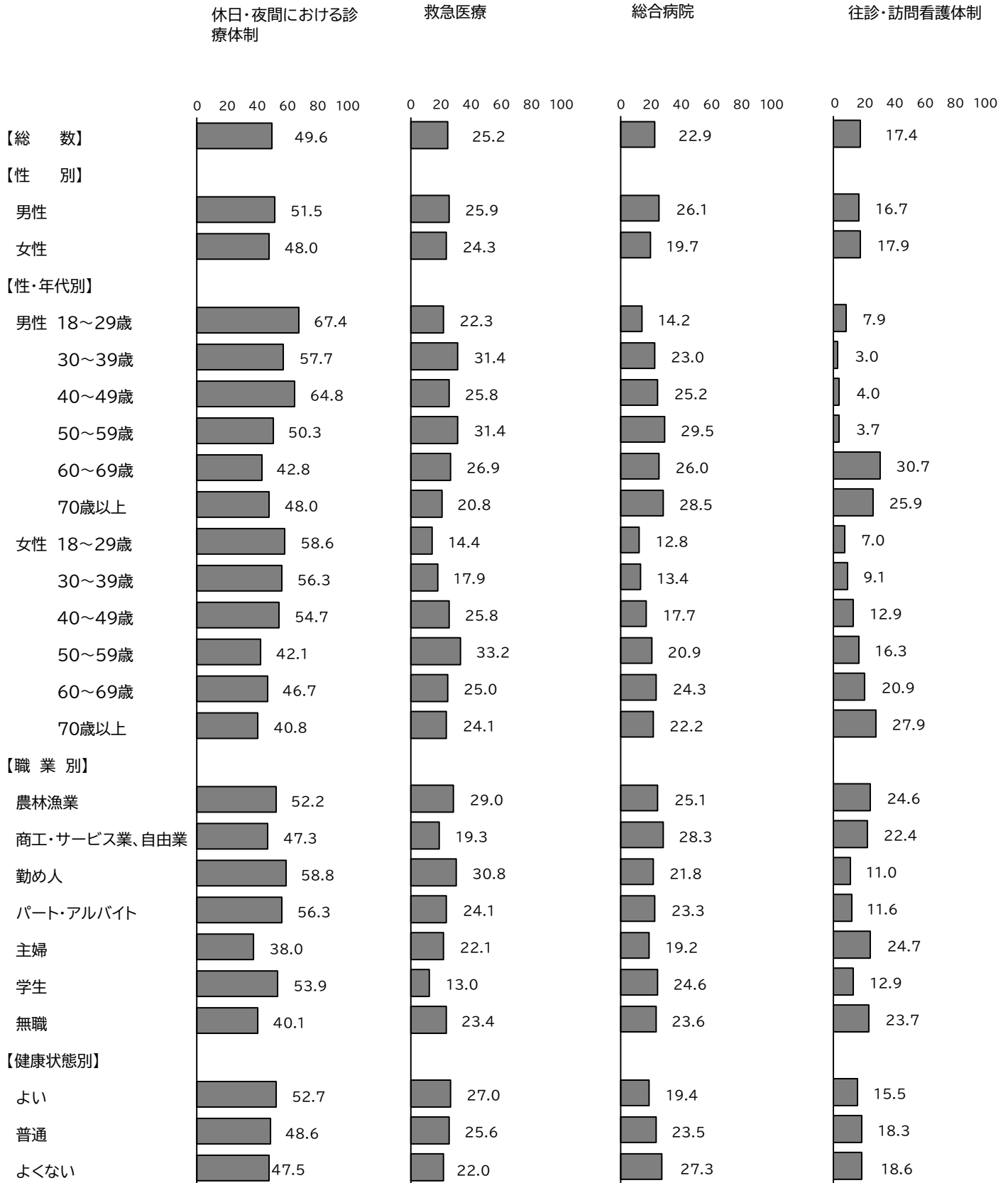


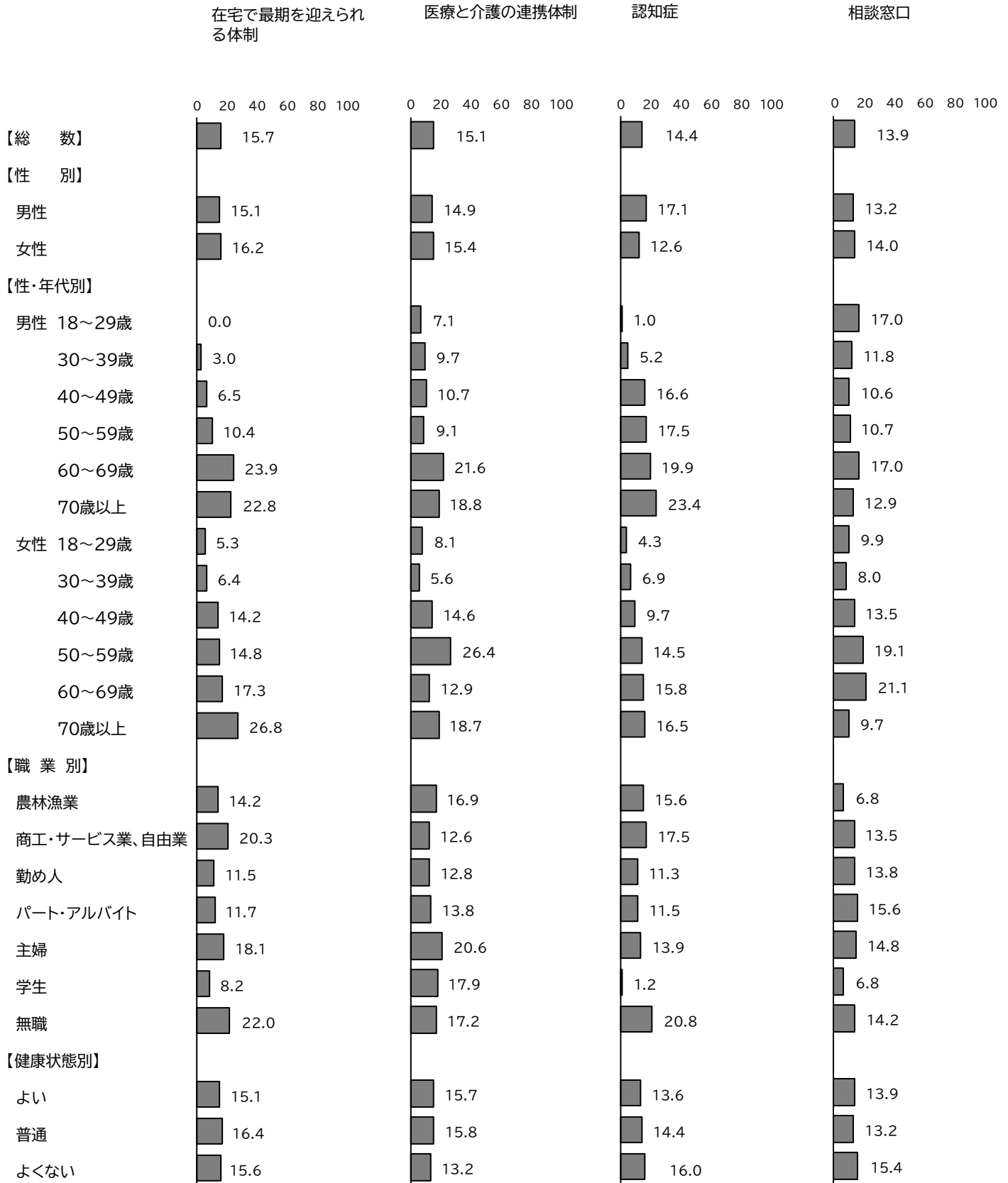


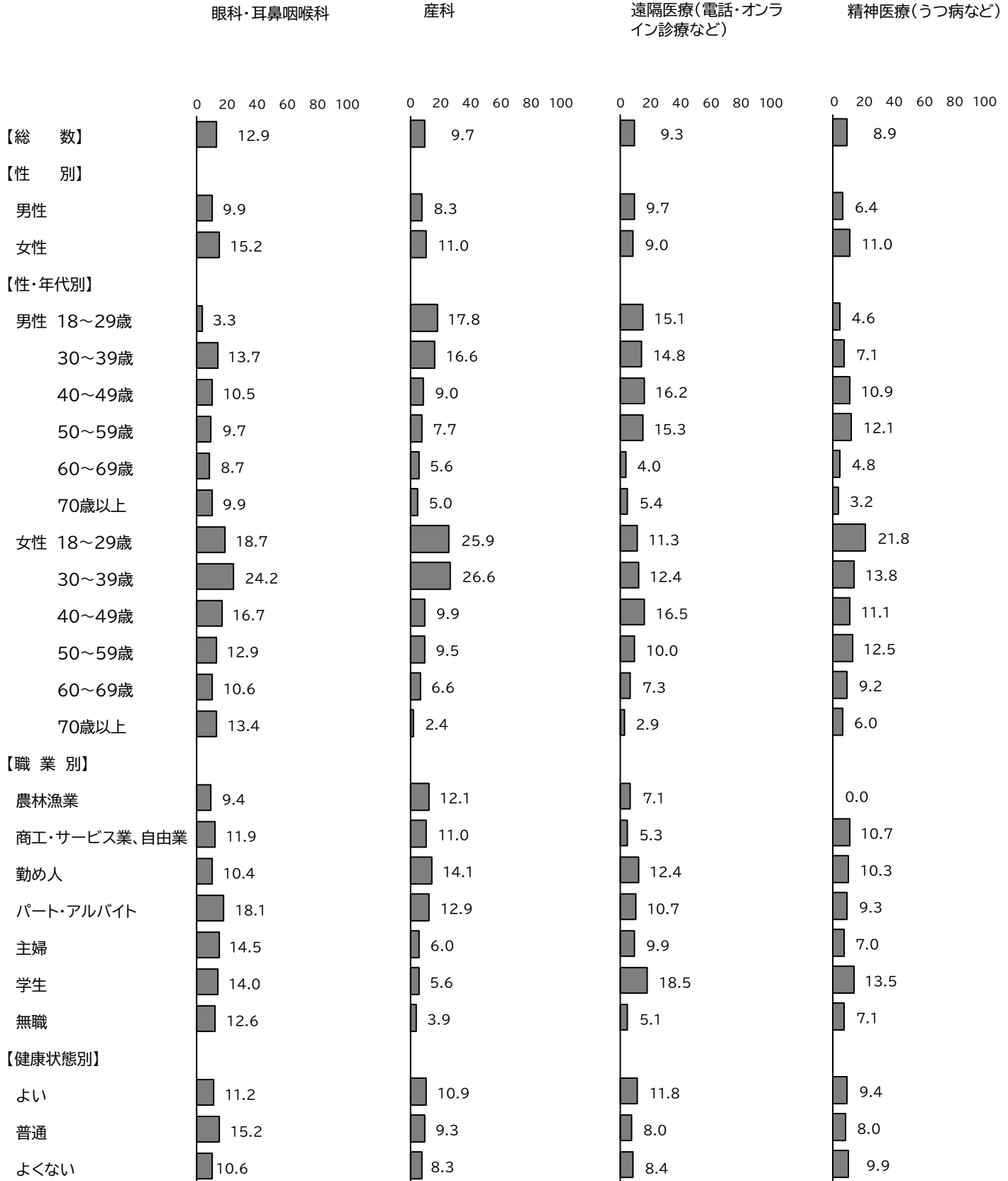


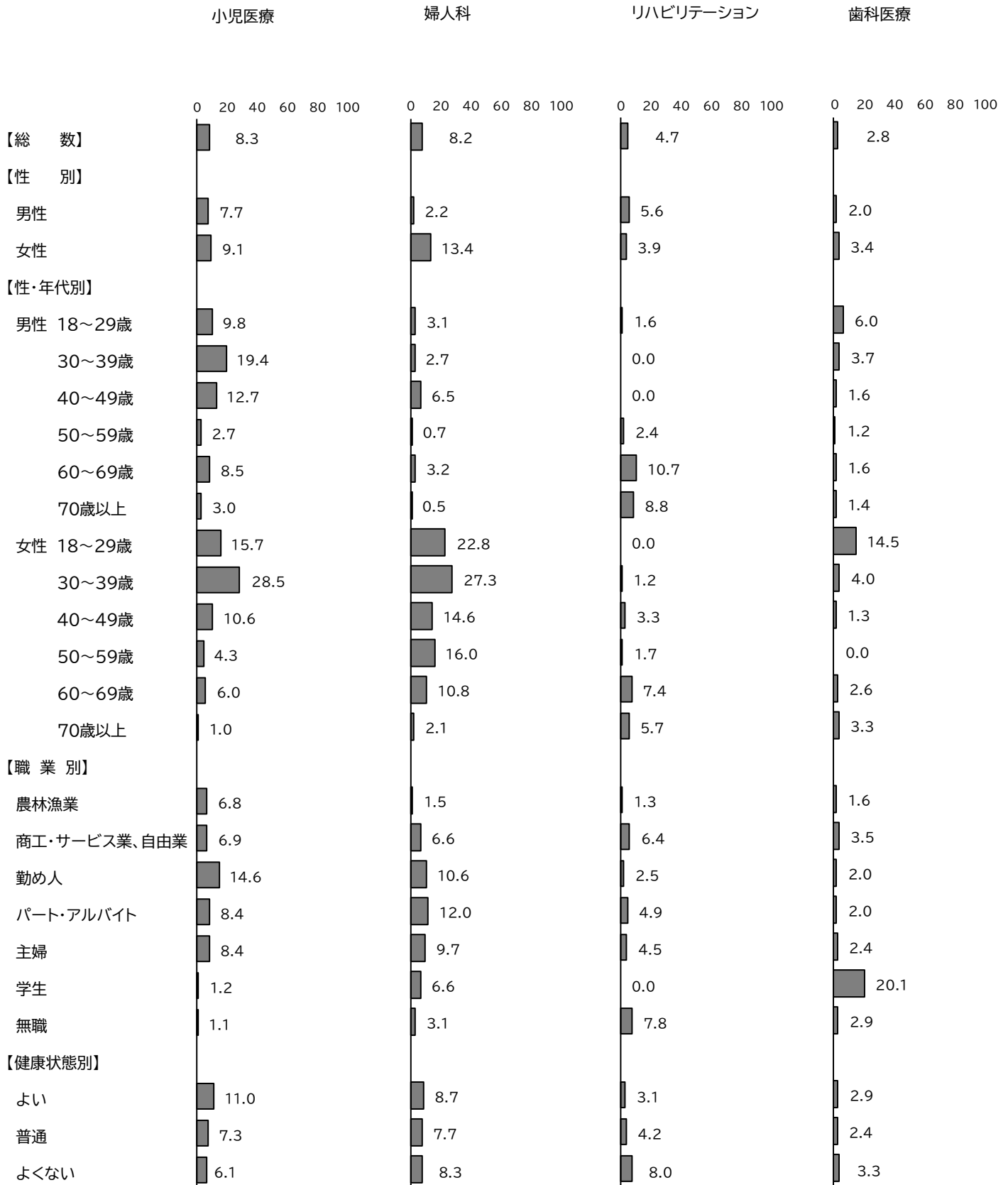
その他



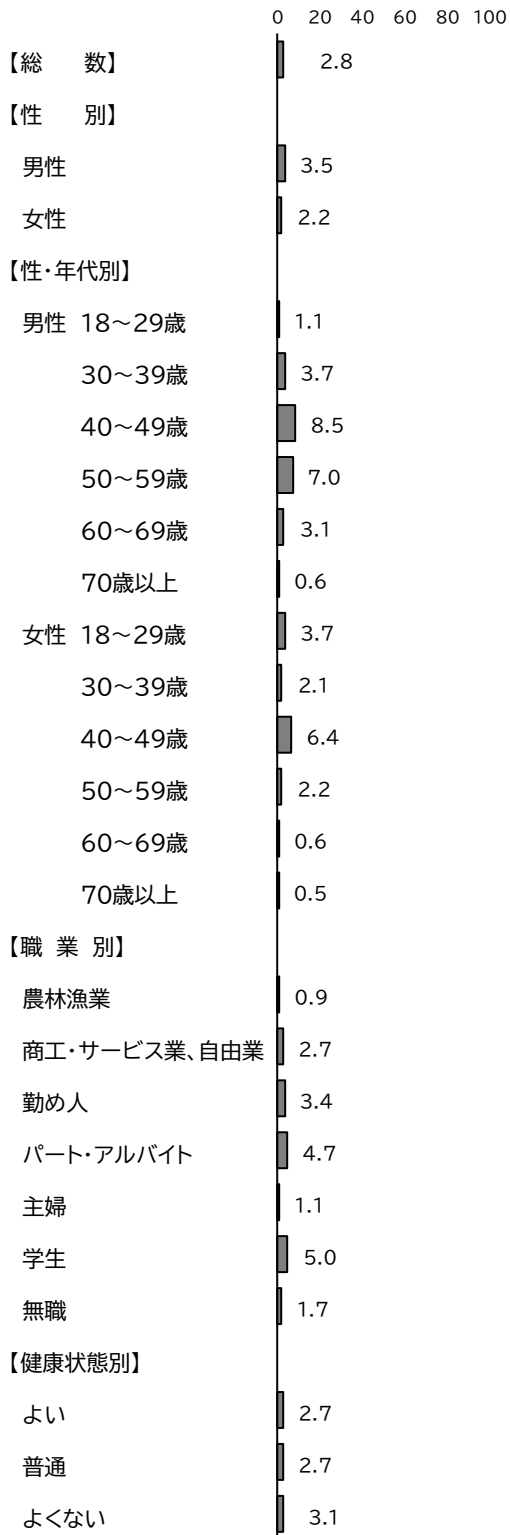








その他



(1) 医療機関の選択

～軽い病気にかかった場合は「医院（診療所）」44.4%、
 重い病気にかかった場合は「地域の総合病院」45.5%、
 「専門性の高い病院」30.8%～

問7 あなたが、カゼや微熱など軽い病気にかかったとき、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は1つだけ）

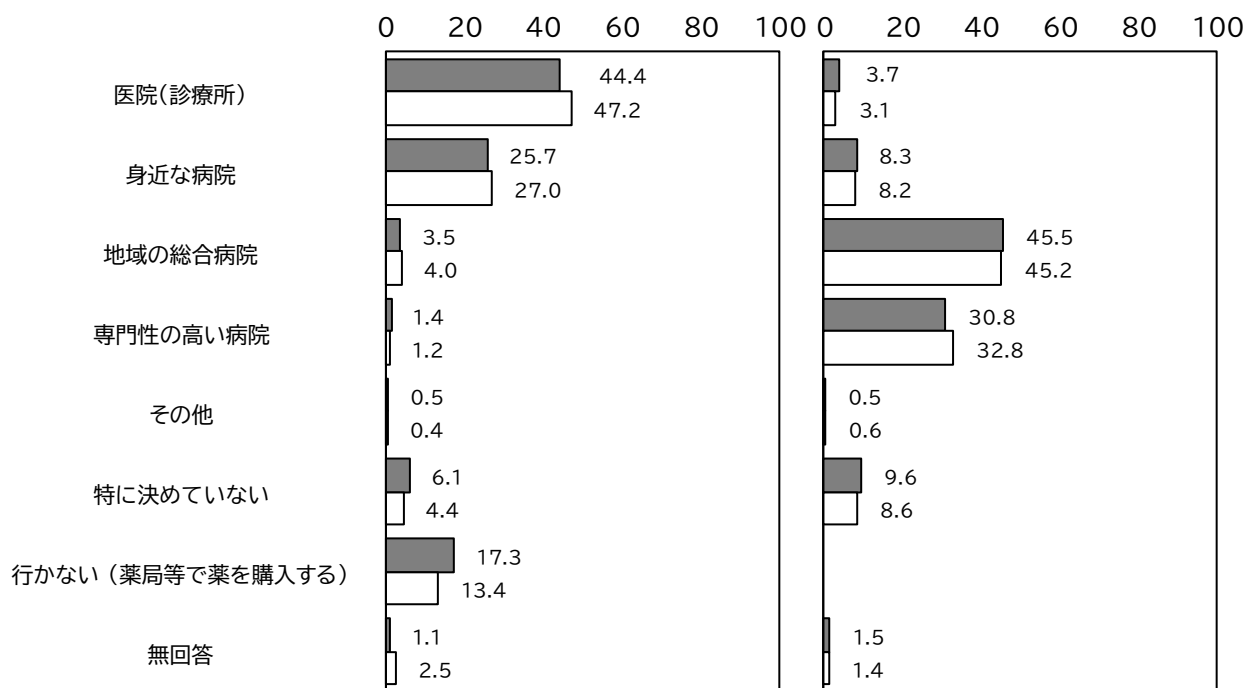
問8 あなたが、入院が必要かもしれない重い病気にかかった場合、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は1つだけ）

(n=全体)

図5-1

軽い病気にかかった場合

重い病気にかかった場合



■今回調査 □平成28年調査

*重い病気にかかった場合は「行かない(薬局等で薬を購入する)」の項目なし

カゼや微熱などの軽い病気の際に、受診する医療機関としては、「医院（診療所）」が44.4%と最も多くなっており、次いで「身近な病院」が25.7%となっている。

症状の重い病気にかかったときについては、「地域の総合病院」が45.5%と最も多くなっており、次いで「専門性の高い病院」が30.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、軽い病気の場合と重い病気の場合でほぼ同様となっているが、軽い病気の場合の「行かない（薬局等で薬を購入する）」がやや多くなっている。

◆地域別

軽い病気の場合、吾妻保健医療圏を除いて、いずれの地域も「医院(診療所)」が最も多くなっている。

重い病気の場合、吾妻保健医療圏を除いて、いずれの地域も「地域の総合病院」が多くなっており、その中でも富岡保健医療圏が60.8%と最も多くなっている。

◆市郡別

軽い病気の場合、「身近な病院」は郡部(22.1%)に比べ、市部(26.3%)の方がやや多くなっている。

重い病気の場合、市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

軽い病気の場合、「行かない(薬局等で薬を購入する)」は男性(14.6%)に比べ、女性(19.9%)の方が多くなっている。

重い病気の場合、「地域の総合病院」は女性(39.7%)に比べ、男性(51.9%)の方が多くなっている。一方、「専門性の高い病院」は男性(26.0%)に比べ、女性(35.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

軽い病気の場合、「身近な病院」は女性の20代以下で39.4%と多くなっている。

重い病気の場合、「専門性の高い病院」は40～50代の女性が多くなっている。

◆職業別

軽い病気の場合、「身近な病院」では農林漁業(54.2%)と学生(39.1%)が特に多くなっている。

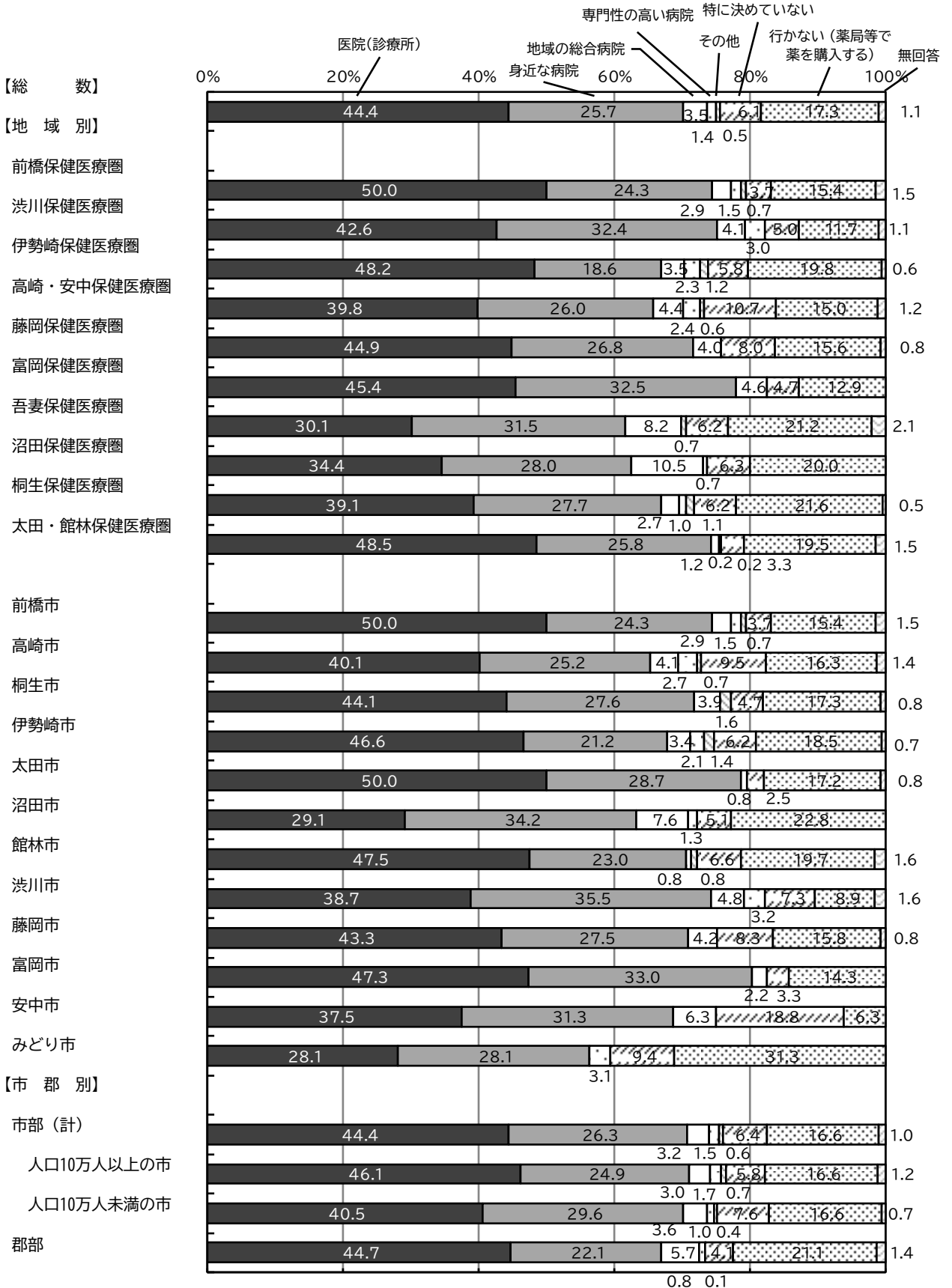
重い病気の場合、主婦と学生を除くといずれの職業も「地域の総合病院」が多くなっており、その中でも農林漁業(63.3%)が多くなっている。

◆健康状態別

軽い病気の場合、「医院(診療所)」は健康状態がよくない(40.6%)に比べ、健康状態がよい(48.1%)の方が多くなっている。

重い病気の場合、健康状態で大きな差異はみられないが、「医院(診療所)」は健康状態がよくない(1.1%)に比べ、健康状態がよい(6.5%)の方が多くなっている。

図5-2 医療機関の選択（軽い病気にかかった場合）



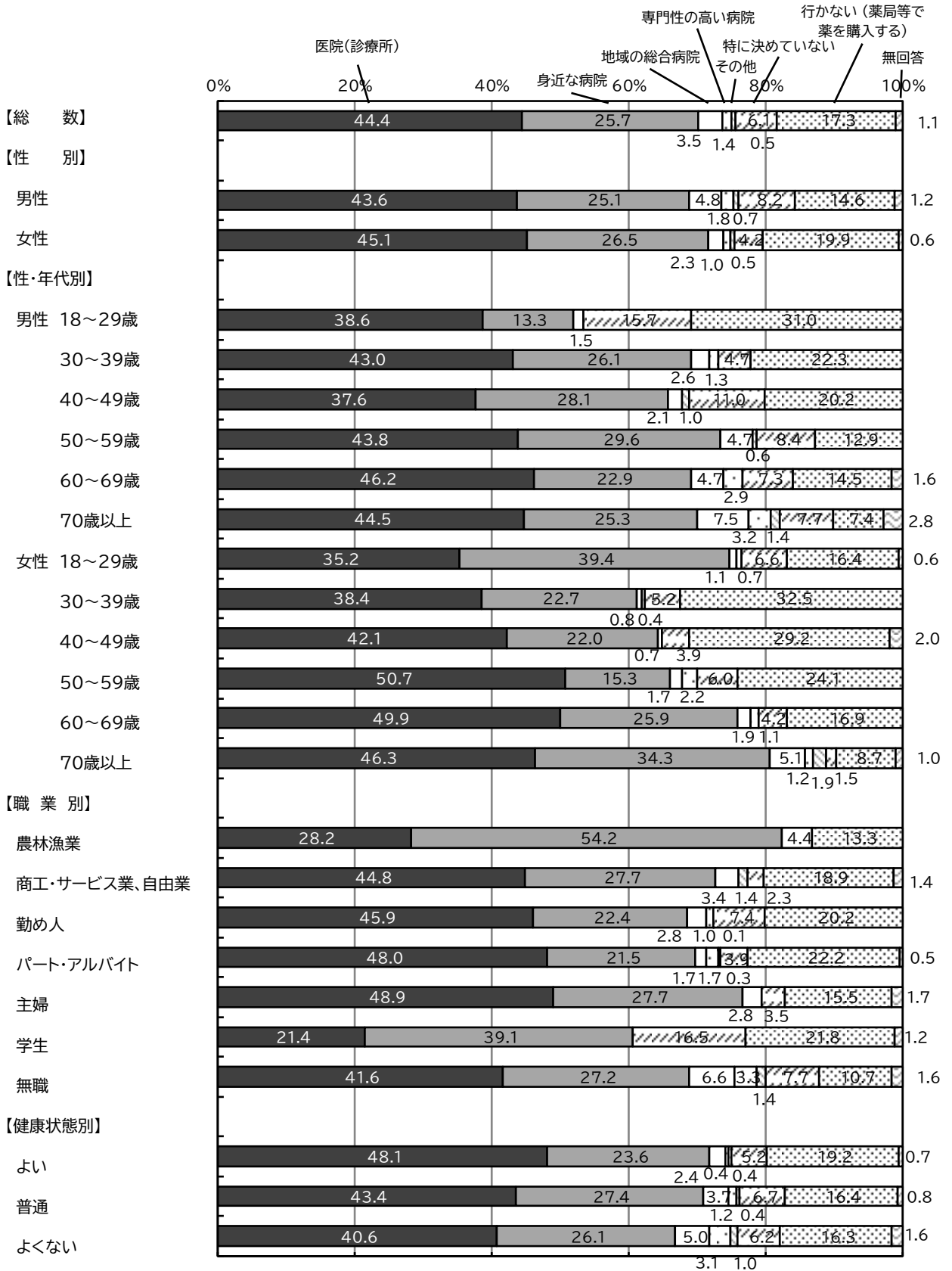
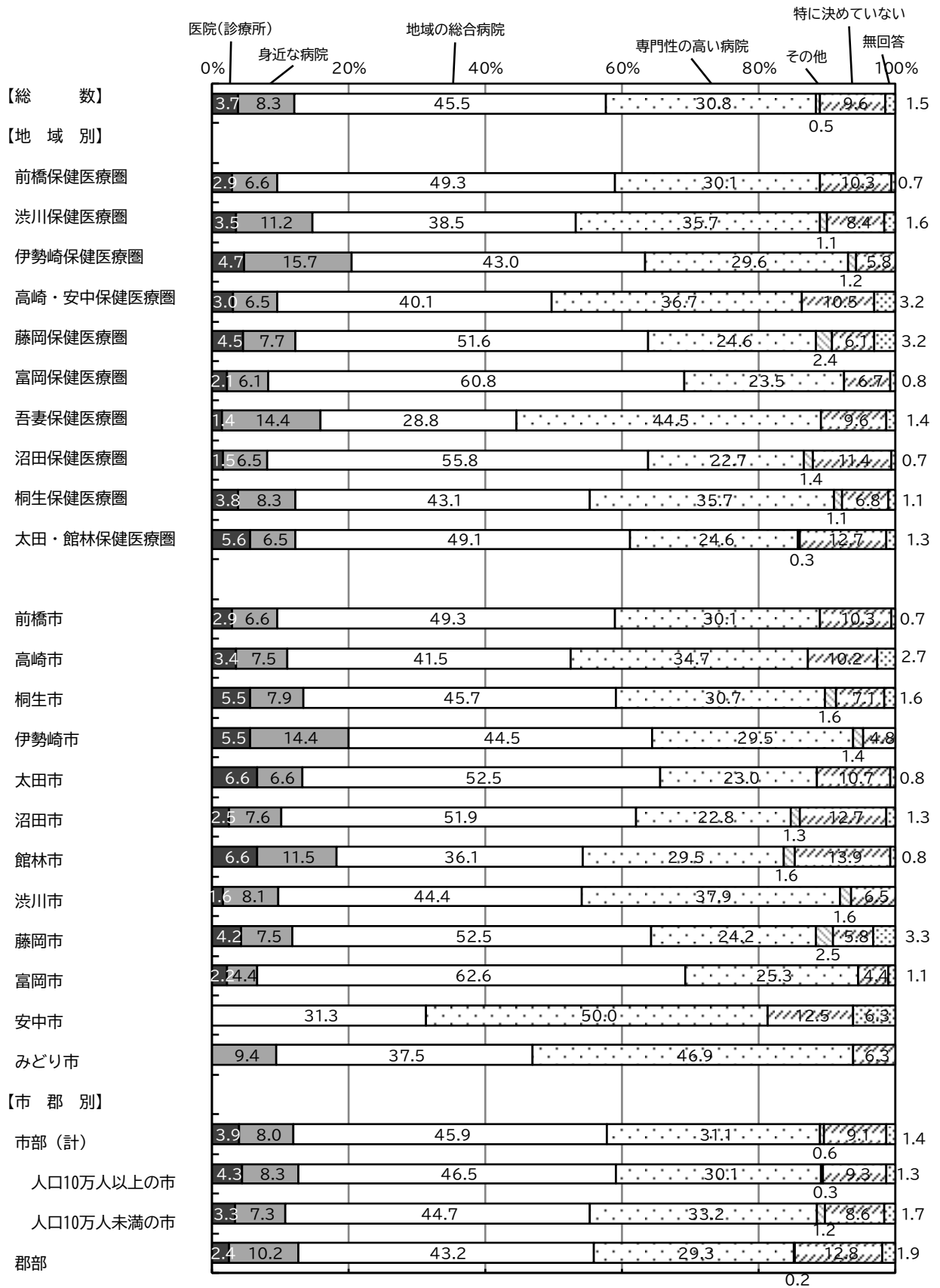
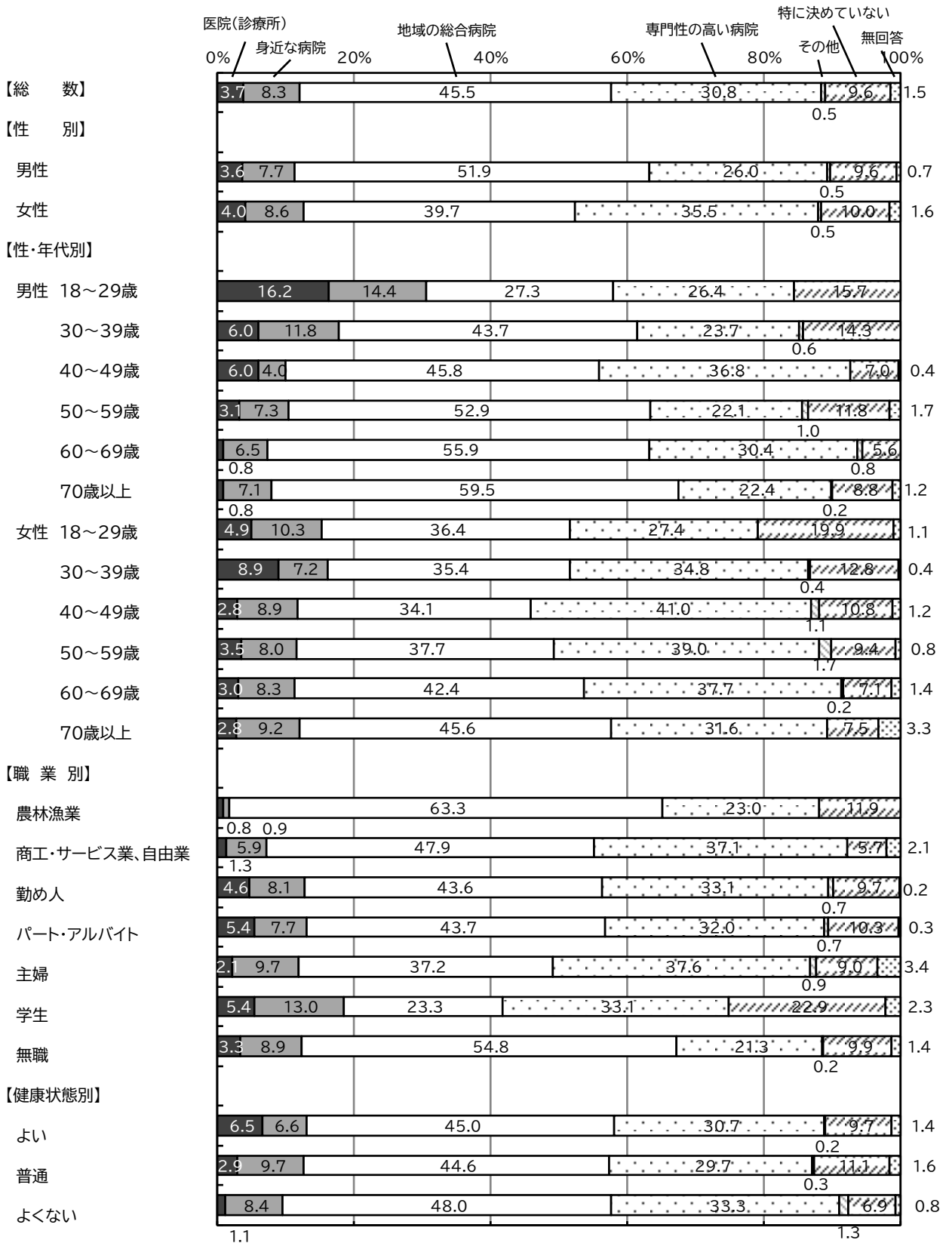


図5-3 医療機関の選択（重い病気にかかった場合）



0.2



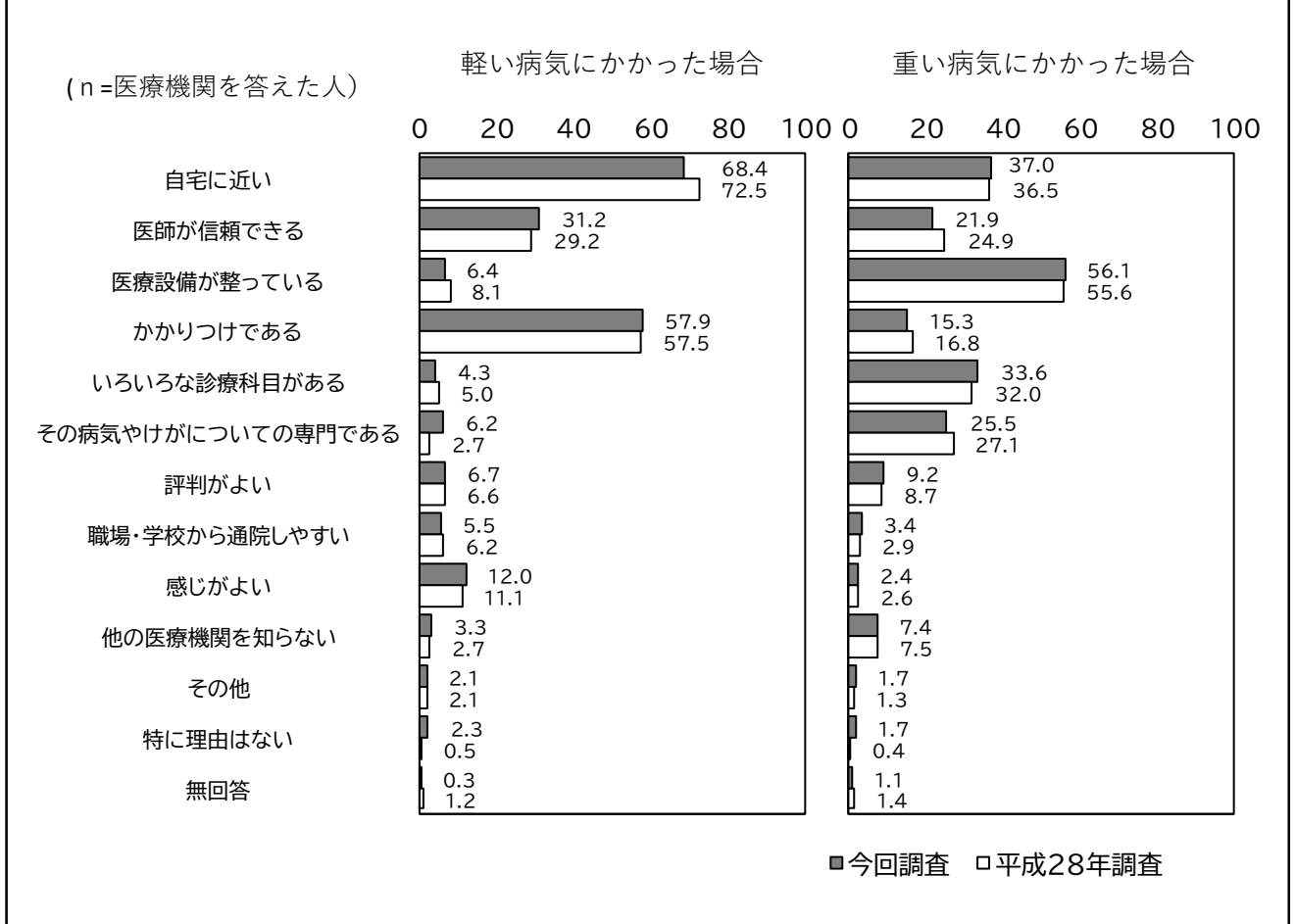
(2) 医療機関の選択理由

～軽い病気にかかった場合は「自宅に近い」68.4%、「かかりつけである」57.9%、
重い病気にかかった場合は「医療設備が整っている」56.1%～

問7-1 その医療機関を選ぶのはどのような理由からですか。(○は3つまで)

問8-1 その医療機関を選ぶのは、どのような理由からですか。(○は3つまで)

図5-4



医療機関の選択理由としては、軽い病気の場合、「自宅に近い」が68.4%と最も多く、次いで「かかりつけである」が57.9%、「医師が信頼できる」が31.2%となっている。

重い病気の場合、「医療設備が整っている」が56.1%と最も多く、次いで「自宅に近い」が37.0%、「いろいろな診療科目がある」が33.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

軽い病気の場合、いずれの地域も「自宅に近い」と「かかりつけである」が多くなっている。

重い病気の場合、藤岡保健医療圏を除くと、いずれの地域も「医療設備が整っている」が最も多くなっている。また、藤岡保健医療圏では「自宅に近い」が47.0%と最も多くなっている。

◆市郡別

軽い病気の場合、「医師が信頼できる」は郡部(25.7%)に比べ、市部(32.2%)の方が多くなっている。一方、「いろいろな診療科目がある」は市部(3.4%)に比べ、郡部(9.8%)の方が多くなっている。

重い病気の場合、「自宅に近い」は郡部(32.4%)に比べ、市部(37.7%)の方が多くなっている。

◆性別

軽い病気の場合、男性と女性で差異はほとんどみられないが、「かかりつけである」は女性(55.7%)に比べ、男性(60.2%)の方がやや多くなっている。

重い病気の場合、男性と女性とも「医療設備が整っている」が最も多くなっている。また、「その病気やけがについての専門である」は男性(21.9%)に比べ、女性(28.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

軽い病気の場合、「かかりつけである」は60代男性が76.7%と他の性別・年代と比べ多くなっている。

重い病気の場合、20代以下男性を除くと、いずれの性別・年代も「医療設備が整っている」が最も多くなっている。「自宅に近い」は20代以下男性が51.0%と他の性別・年代と比べ多くなっている。

◆職業別

軽い病気の場合、いずれの職業も「自宅に近い」と「かかりつけである」が多くなっている。

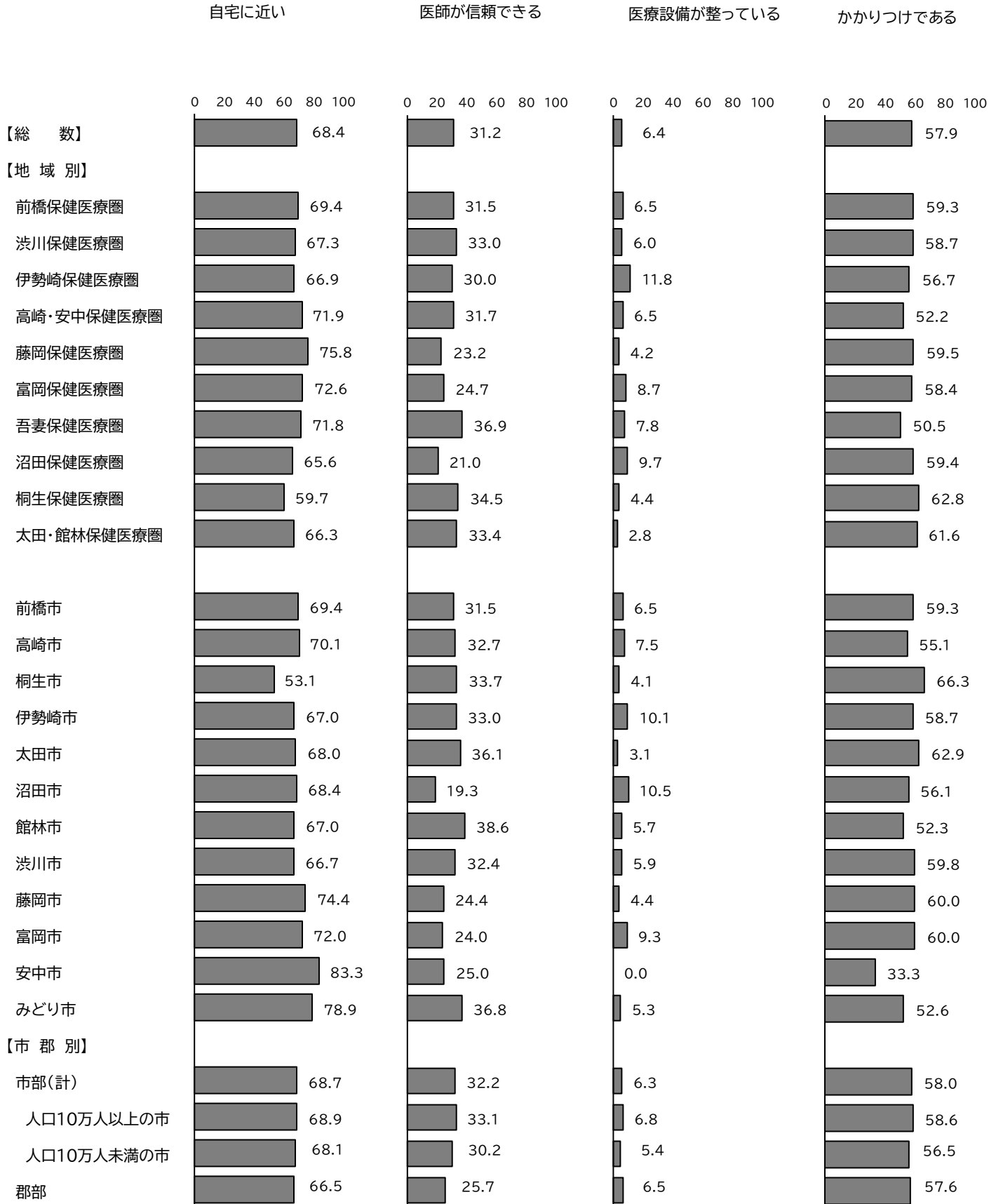
重い病気の場合、農林漁業を除くといずれの職業も「医療設備が整っている」が最も多くなっている。農林漁業では「いろいろな診療科目がある」が69.0%と最も多くなっている。

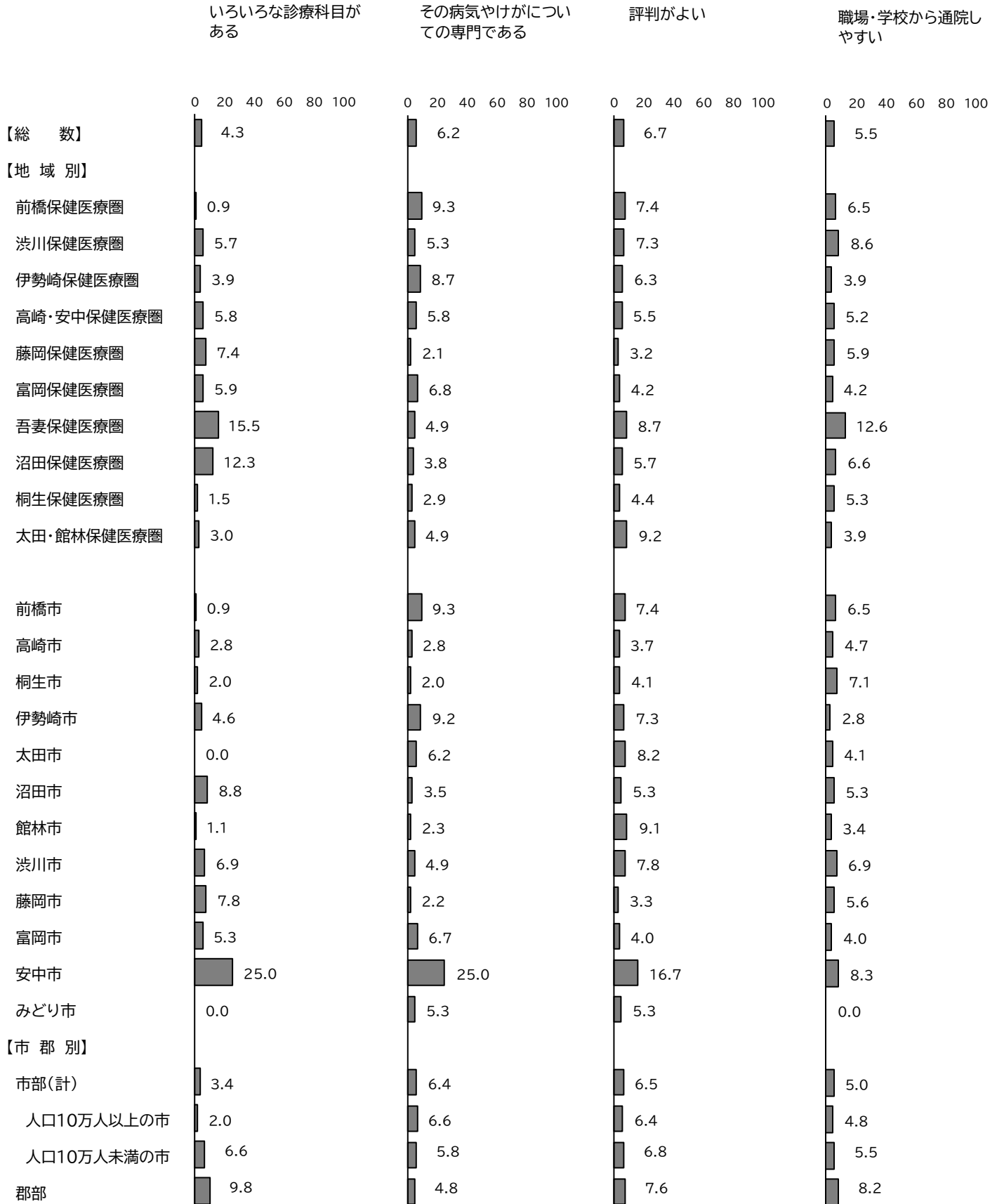
◆健康状態別

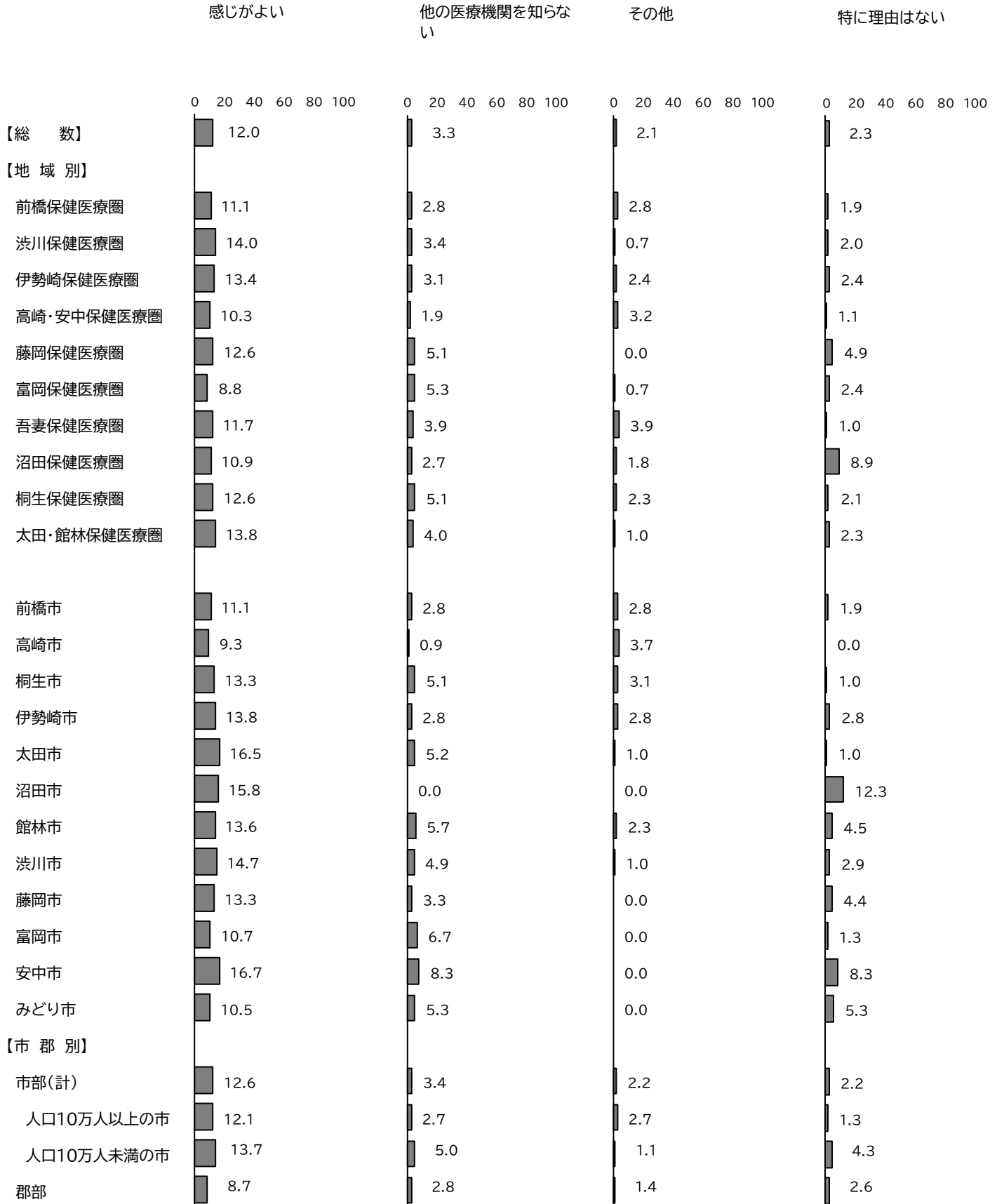
軽い病気の場合、「かかりつけである」は健康状態がよい(50.4%)に比べ、健康状態がよくない(63.7%)の方が多くなっている。

重い病気の場合、健康状態で大きな差異はみられないが、「かかりつけである」は健康状態がよい(12.0%)に比べ、健康状態がよくない(21.3%)の方が多くなっている。

図 5 - 5 医療機関の選択理由（軽い病気にかかった場合）





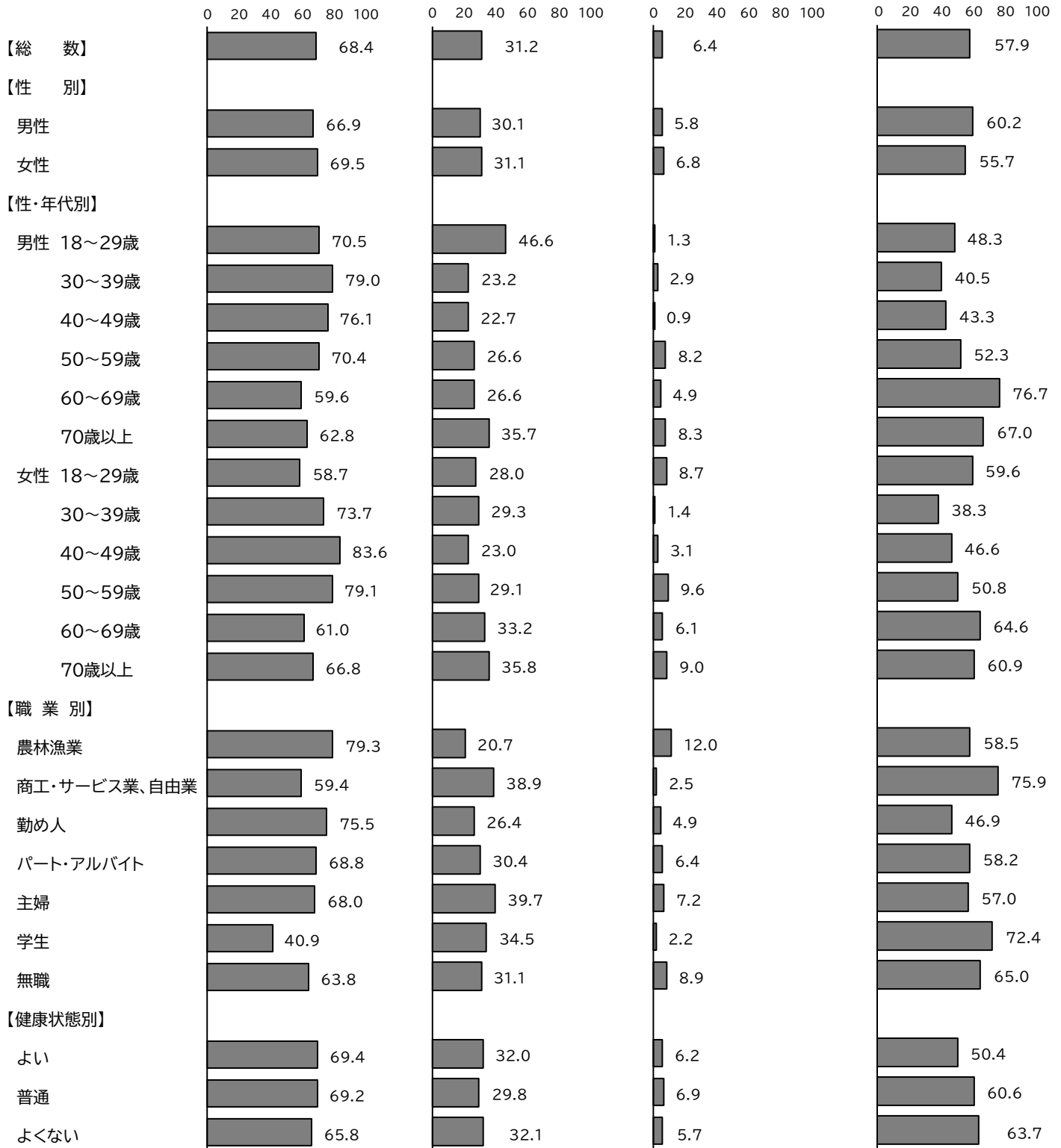


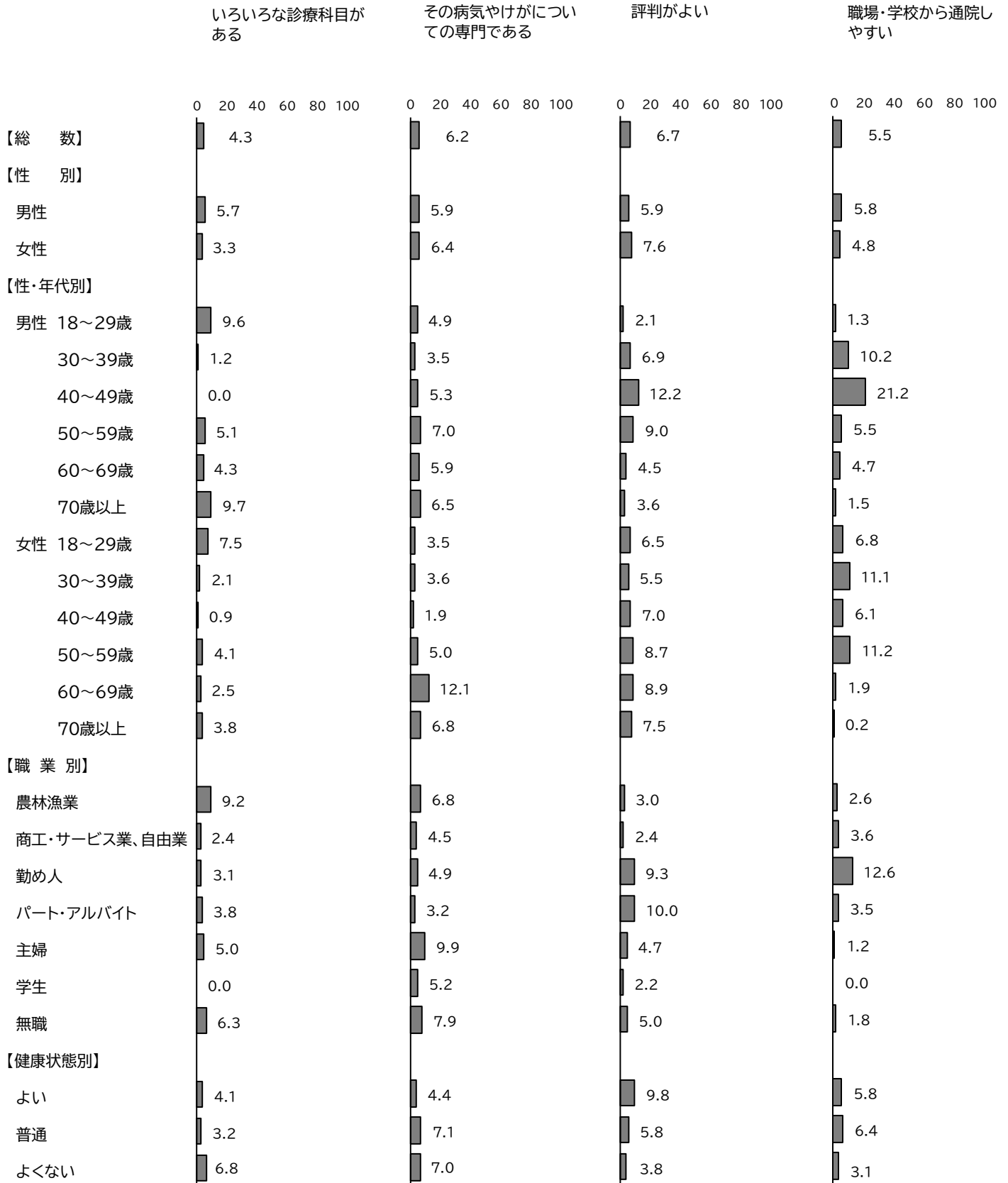
自宅に近い

医師が信頼できる

医療設備が整っている

かかりつけである





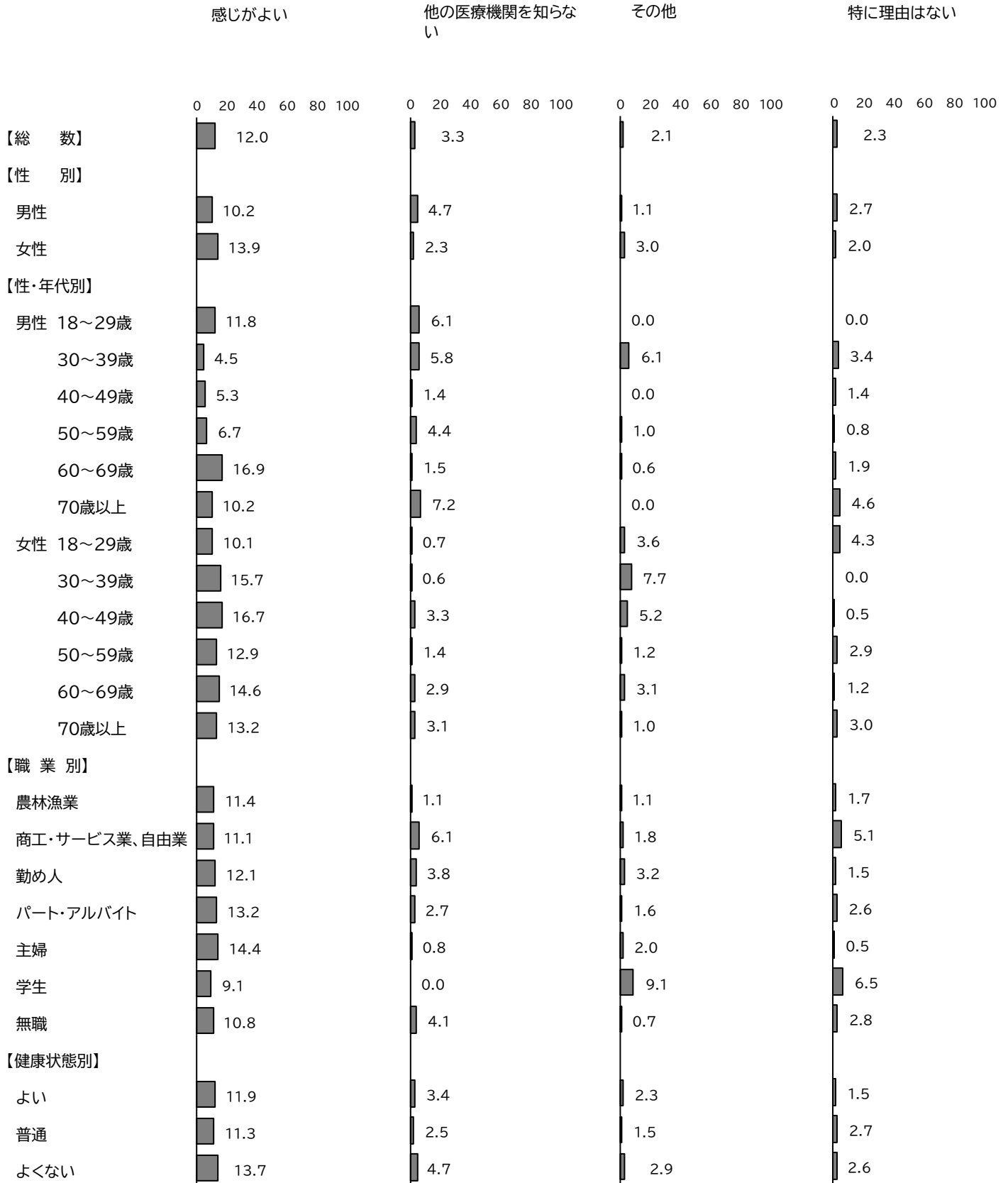
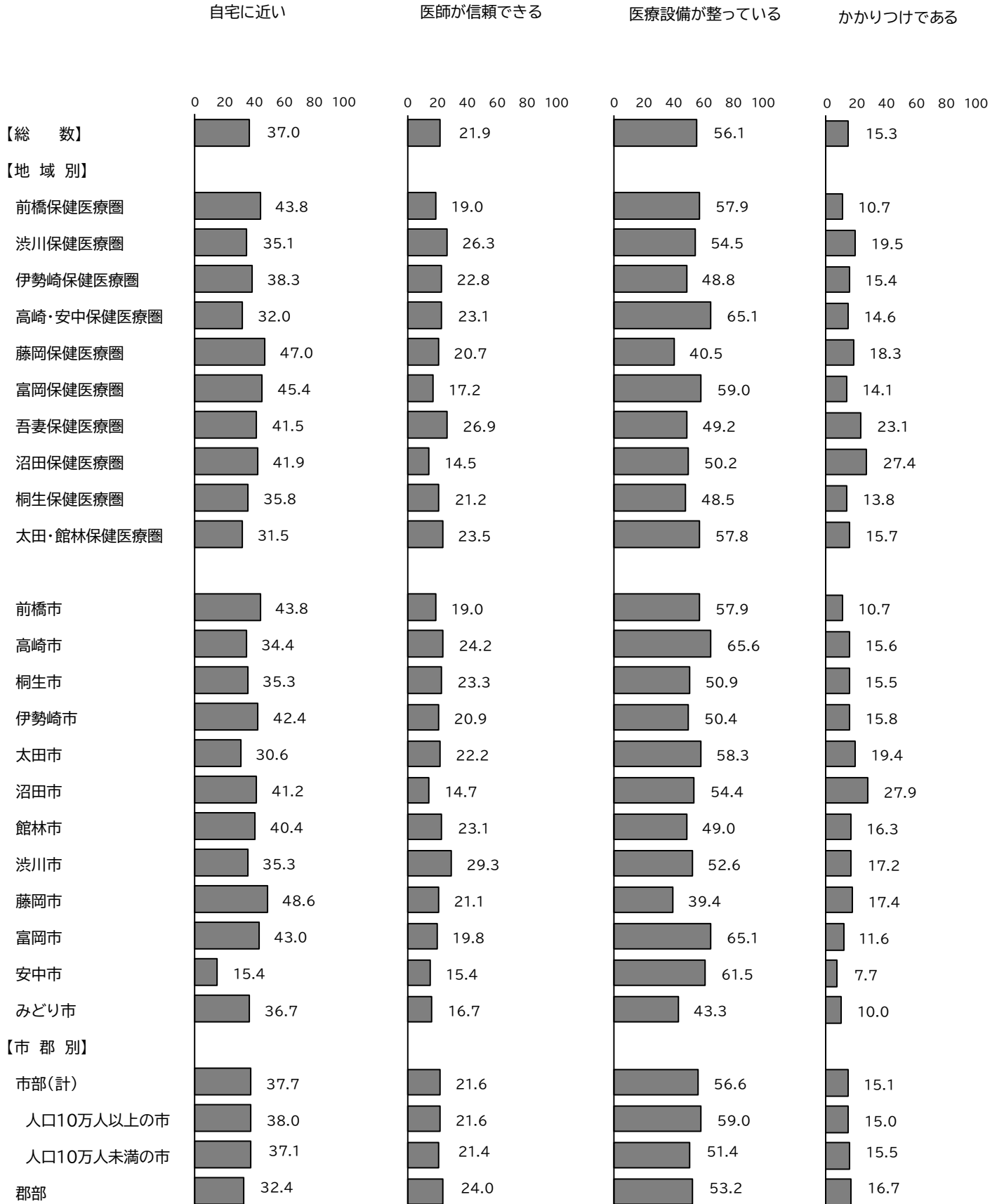
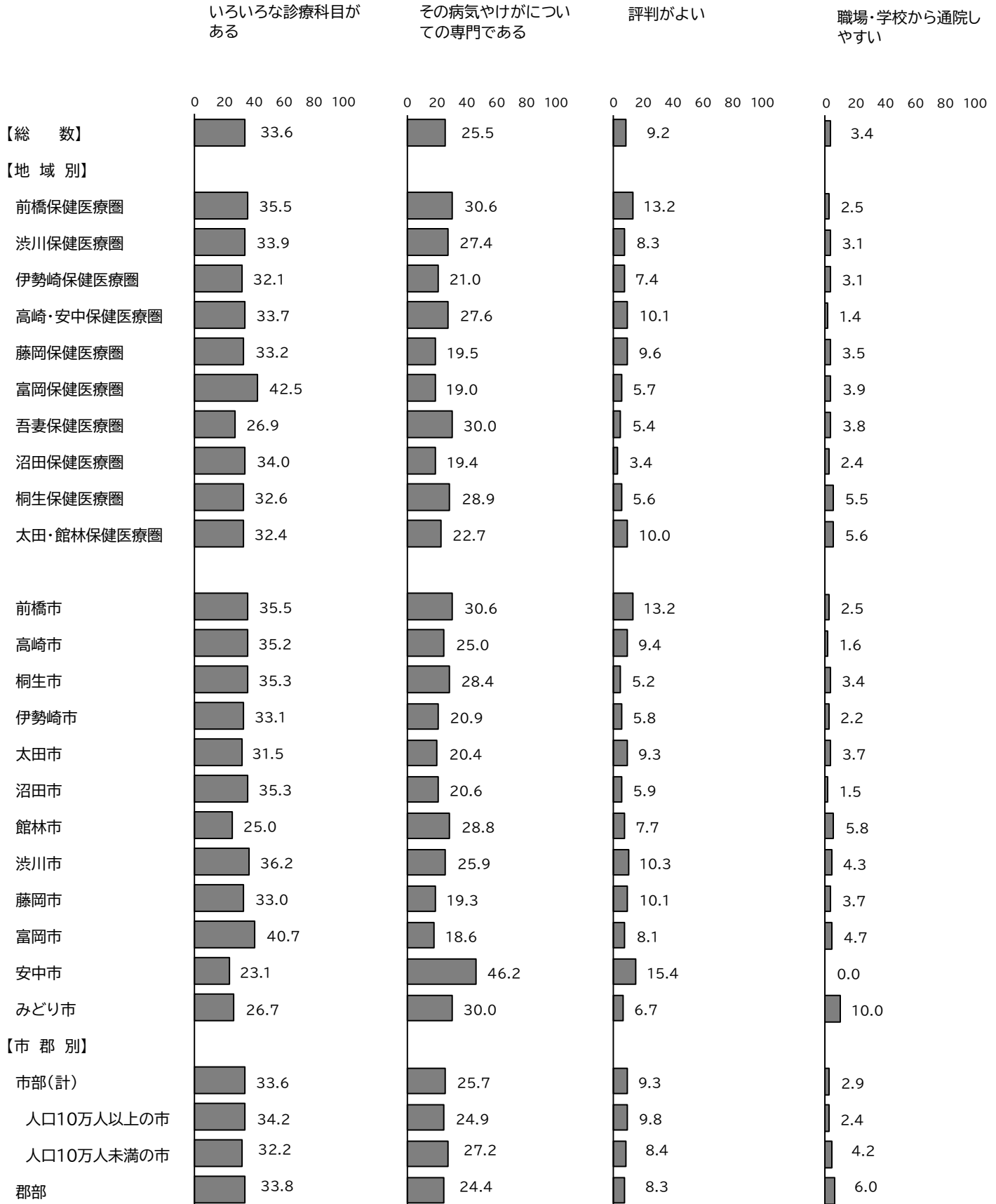
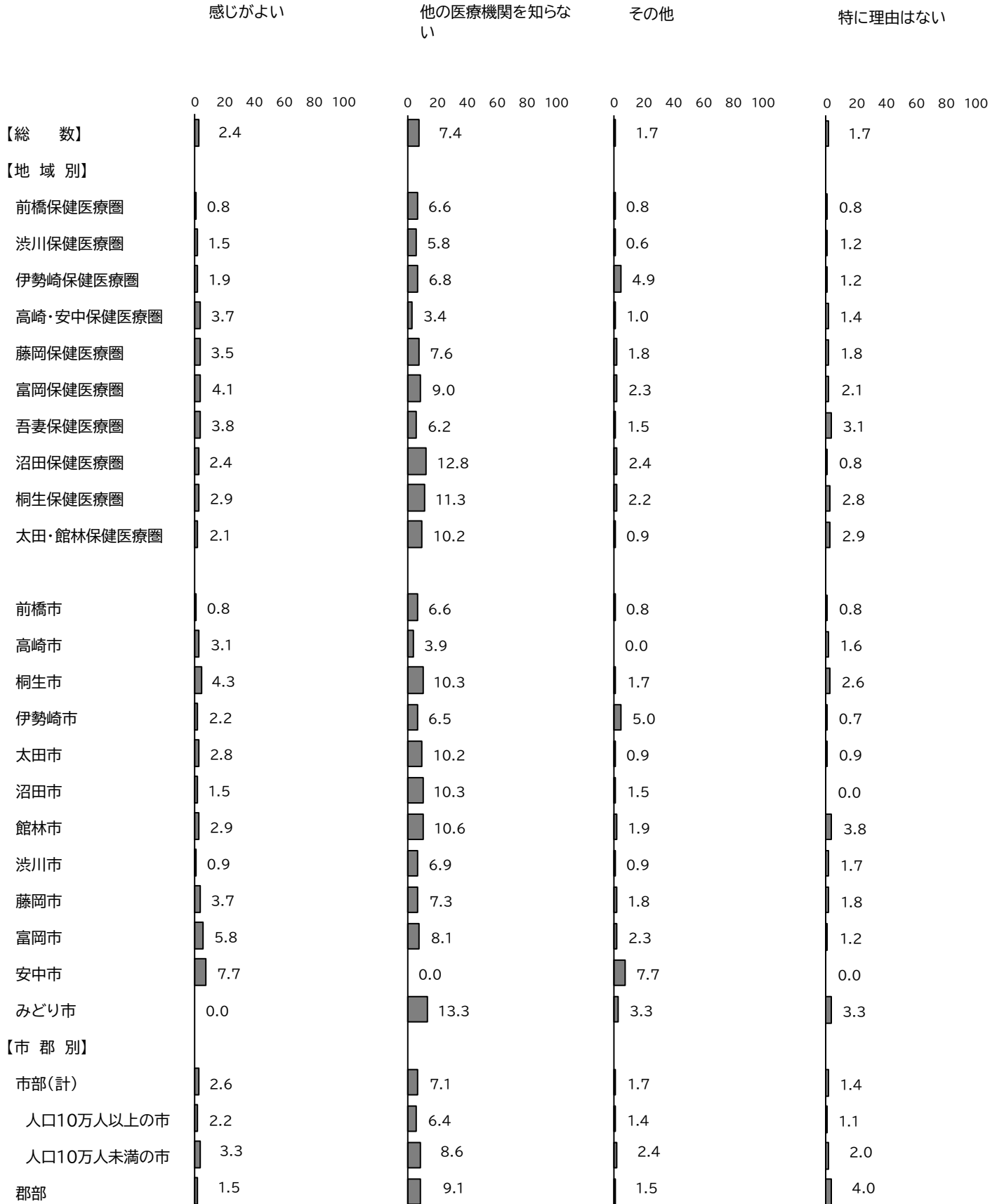


図5-6 医療機関の選択理由（重い病気にかかった場合）







自宅に近い

医師が信頼できる

医療設備が整っている

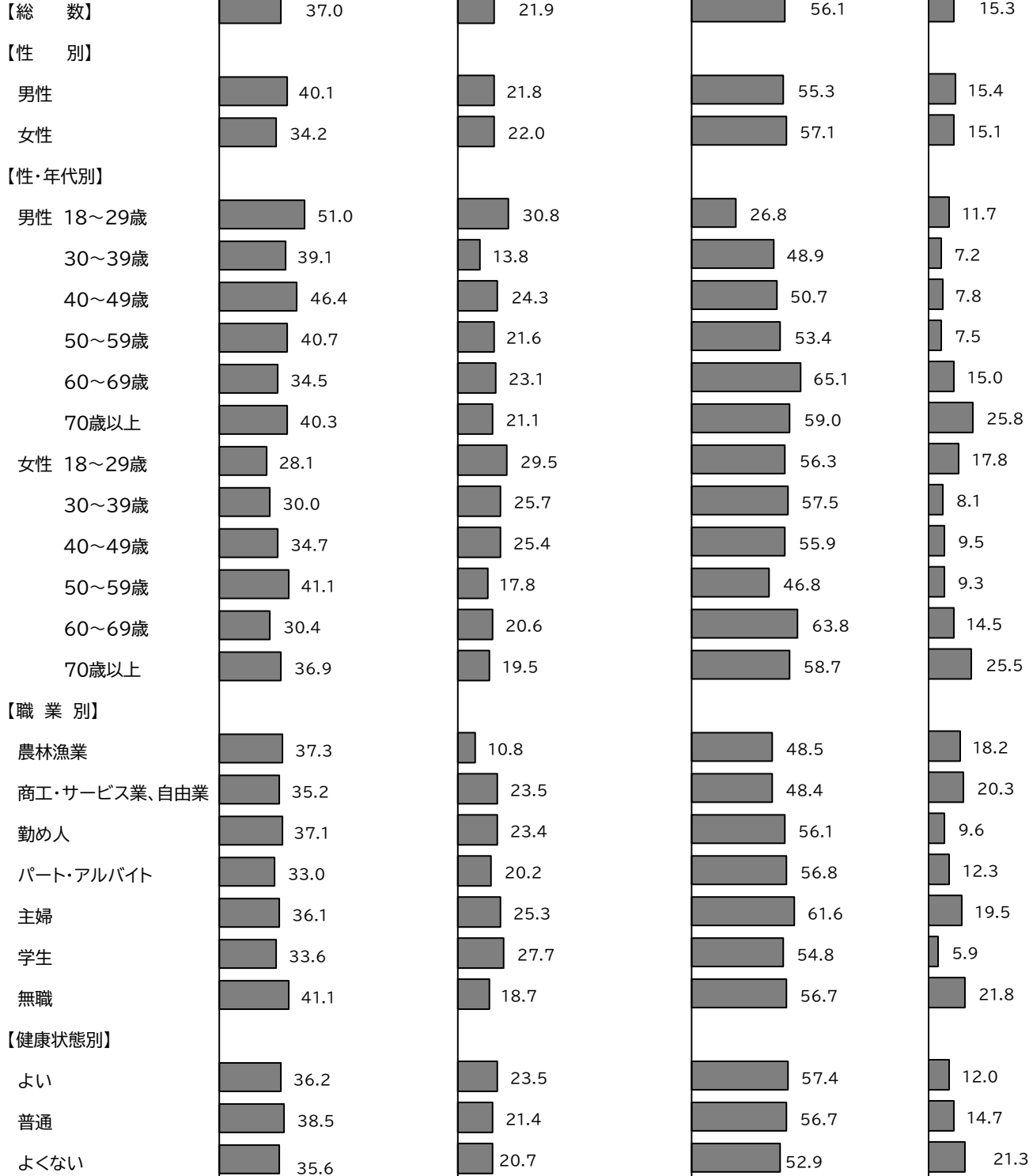
かかりつけである

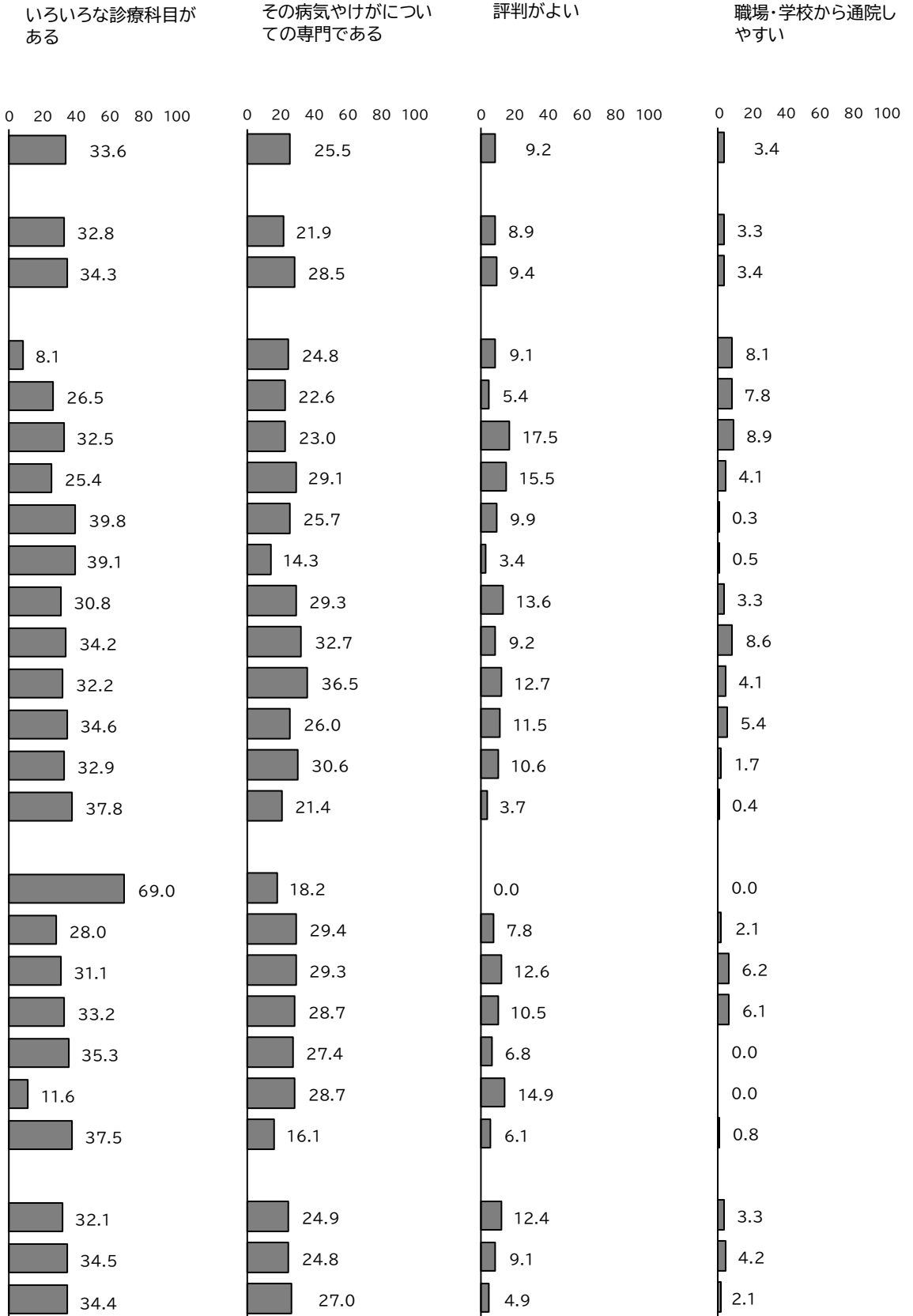
0 20 40 60 80 100

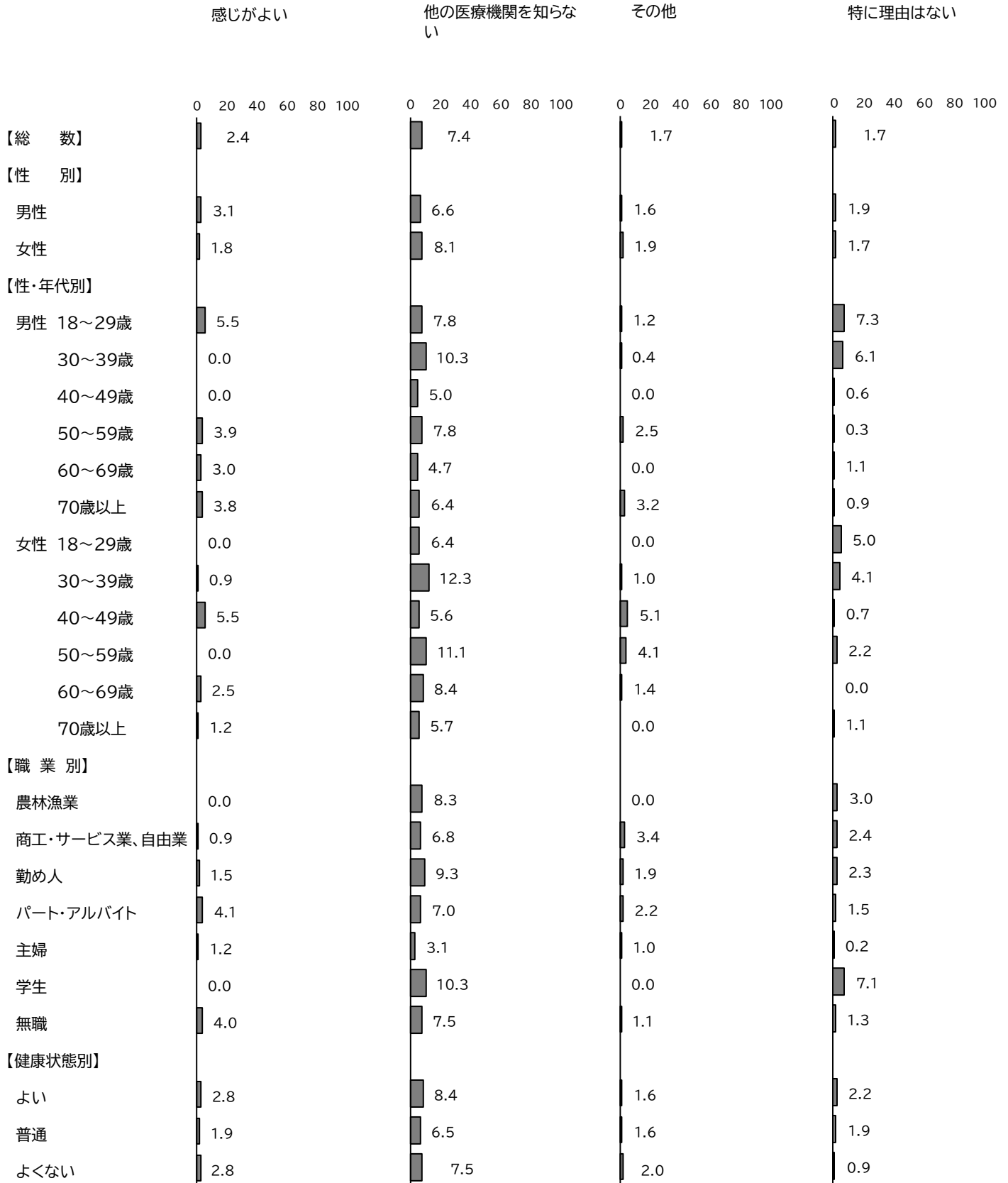
0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100







(3) 医療機関の所在地

～軽い病気にかかった場合、重い病気にかかった場合のいずれも「前橋市」、
「高崎市」が多い～

問7-2 主に診療を受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。（○は1つだけ）

問8-2 主に診療を受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。（○は1つだけ）

図5-7

(n=医療機関を答えた人)

市町村	軽い病気にかかった場合		重い病気にかかった場合	
	今回調査	平成28年調査	今回調査	平成28年調査
前橋市	20.0%	19.8%	25.4%	26.9%
高崎市	21.6%	19.4%	20.4%	18.0%
桐生市	5.0%	5.9%	4.3%	5.0%
伊勢崎市	10.1%	10.6%	9.8%	10.5%
太田市	13.3%	11.5%	14.0%	11.6%
沼田市	2.8%	3.1%	2.9%	3.4%
館林市	4.0%	3.9%	3.5%	4.0%
渋川市	3.8%	2.9%	3.4%	2.1%
藤岡市	3.1%	3.0%	2.7%	2.7%
富岡市	3.0%	2.8%	3.0%	3.7%
安中市	1.5%	2.3%	0.8%	1.2%
みどり市	2.2%	2.1%	1.4%	1.3%
榛東村	0.4%	0.4%	0.2%	0.1%
吉岡町	0.6%	0.8%	0.2%	0.3%
上野村	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
神流町	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
下仁田町	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%
南牧村	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
甘楽町	0.5%	0.5%	0.1%	0.1%
中之条町	0.3%	0.5%	0.2%	0.2%
長野原町	0.2%	0.6%	0.1%	0.4%
嬭恋村	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%
草津町	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
高山村	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
東吾妻町	0.3%	0.8%	0.8%	1.0%
片品村	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
川場村	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
昭和村	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
みなかみ町	0.4%	0.6%	0.1%	0.1%
玉村町	1.1%	1.2%	0.5%	0.4%
板倉町	0.2%	0.9%	0.0%	0.2%
明和町	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
千代田町	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
大泉町	1.3%	1.4%	0.3%	0.3%
邑楽町	0.4%	0.6%	0.0%	0.0%
県外	0.5%	1.0%	2.5%	3.4%

主に診察を受ける、あるいは受けたい医療機関の所在地は、軽い病気の場合では「高崎市」が最も多くなっており、重い病気の場合では「前橋市」が最も多くなっており、いずれの場合も、回答者の所在地と同じ市町村若しくは最寄りの市町村を選ぶ傾向がみられる。

平成28年調査結果との比較では、軽い病気の場合と重い病気の場合ではほぼ同様となっている。

◆地域別

軽い病気の場合、重い病気の場合ともに、いずれの地域も回答者の所在地と同じ市町村若しくは最寄りの市町村を選ぶ傾向がみられる。

◆市郡別

軽い病気の場合、重い病気の場合ともに、市部は「前橋市」「高崎市」が特に多くなっており、郡部は「太田市」が最も多くなっている。

◆性別

軽い病気の場合、重い病気の場合ともに、男性と女性で差異はほとんどみられないが、軽い病気の場合の「高崎市」は男性(19.1%)に比べ、女性(24.0%)の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

軽い病気の場合、40代男性では「高崎市」が30.8%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

重い病気の場合、30代女性では「太田市」が22.7%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

◆職業別

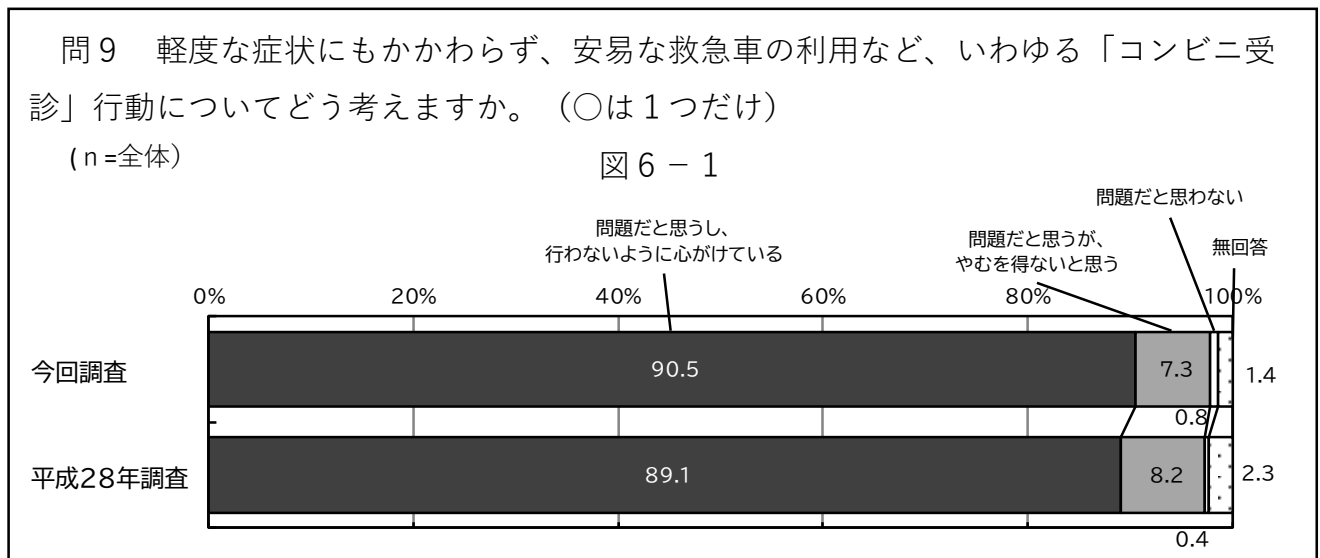
軽い病気の場合、重い病気の場合ともに、主婦は「高崎市」が最も多くなっており、他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

軽い病気の場合、重い病気の場合ともに、健康状態で大きな差異はみられないが、「伊勢崎市」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっており、「太田市」は健康状態がよくないに比べ、健康状態がよいの方が多くなっている。

(1) 「コンビニ受診」行動について

～「問題だと思うし、行わないように心がけている」90.5%が断然多い～



コンビニ受診については、「問題だと思うし、行わないように心がけている」が90.5%と多くなっている。また、「問題だと思うが、やむを得ないと思う」が7.3%、「問題だと思わない」は0.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「問題だと思うし、行わないように心がけている」が最も多くなっており、その中でも富岡保健医療圏は95.9%と他の地域に比べて多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「問題だと思うが、やむを得ないと思う」は男性(5.4%)に比べ、女性(8.5%)の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

「問題だと思うし、行わないように心がけている」は60代女性は95.3%と他の年代に比べ多くなっている。

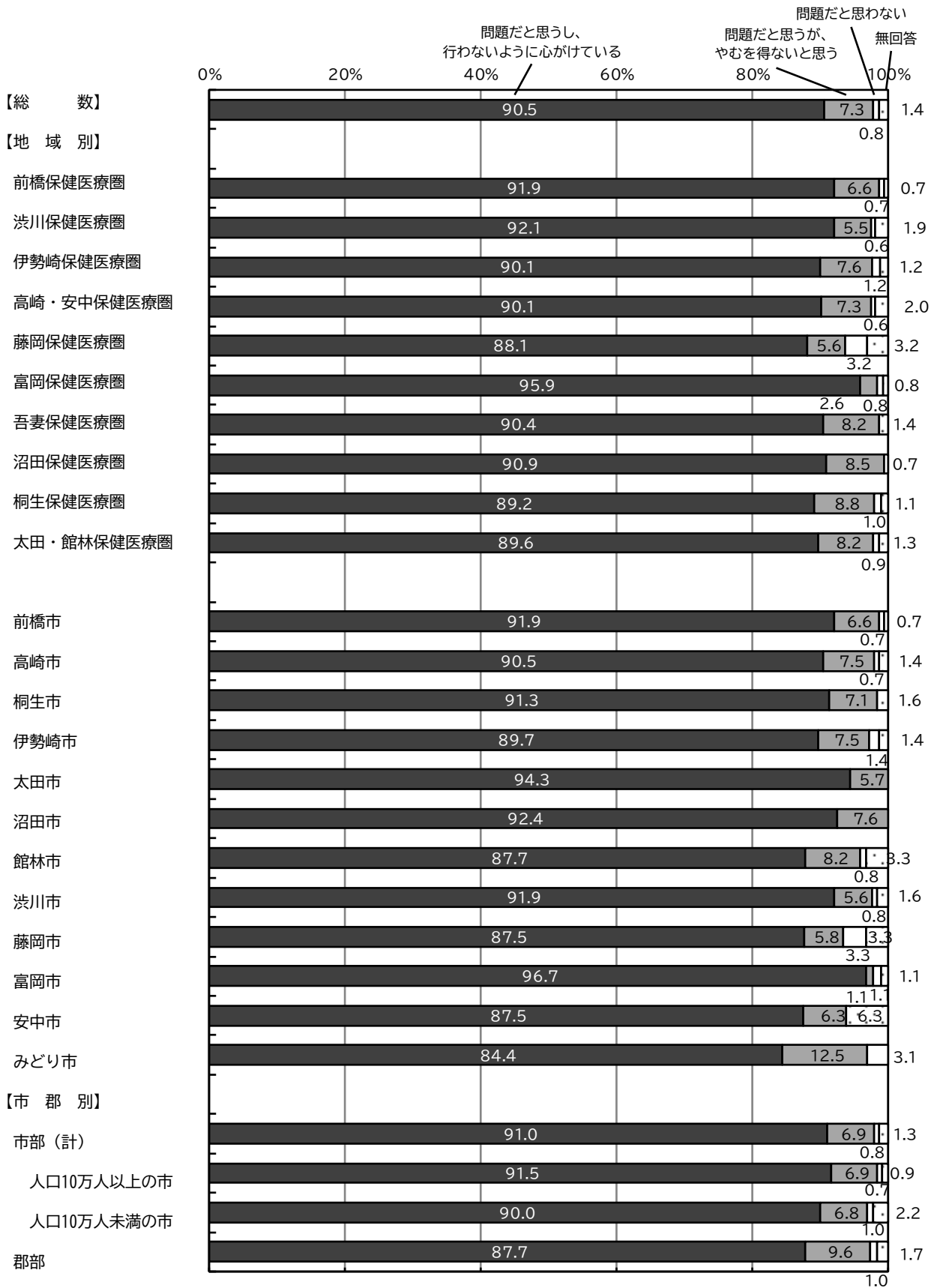
◆職業別

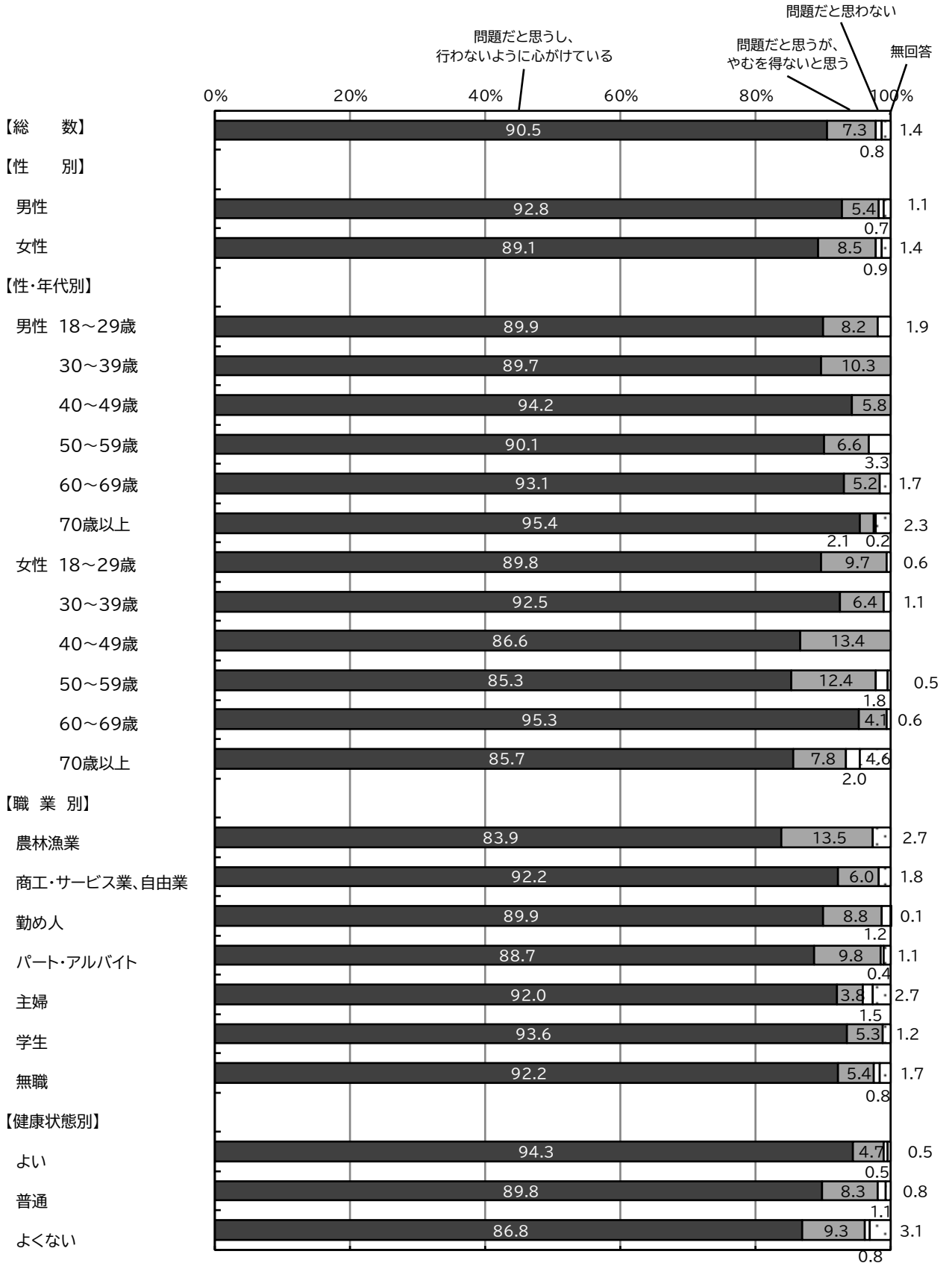
農林漁業では「問題だと思うが、やむを得ないと思う」が13.5%と他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

「問題だと思うし、行わないように心がけている」は健康状態がよくない(86.8%)に比べ、健康状態がよい(94.3%)の方が多くなっている。

図 6 - 2 「コンビニ受診」 行動



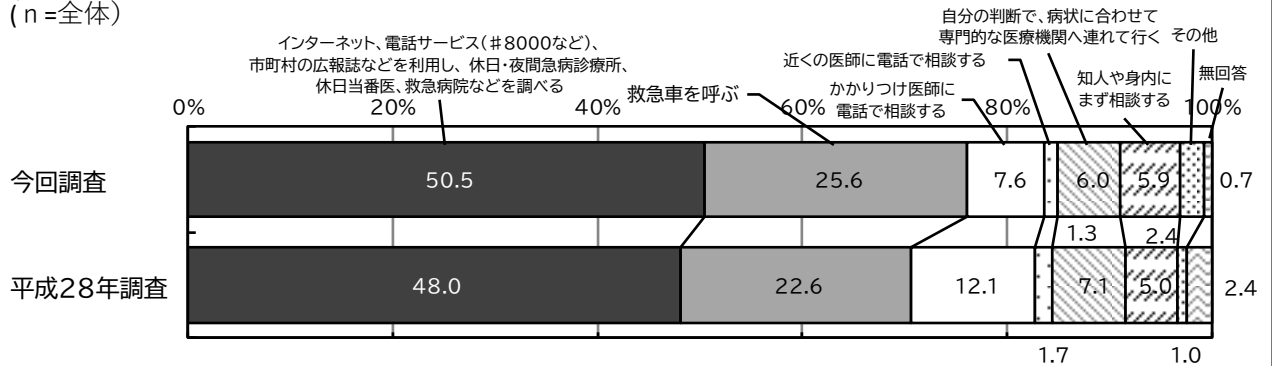


(2) 家族が夜間や休日に病気になった際の対応

～「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」50.5%～

問10 家族のだれかが、夜間や休日に急病（生死に関わらないと判断できるもの）になり、医師にみてもらいたいとき、まず、一番初めにどうしますか。（○は1つだけ）
（n=全体）

図6-3



急病時、一番初めにすることについては、「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が50.5%と最も多くなっており、次いで「救急車を呼ぶ」が25.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「救急車を呼ぶ」がやや多くなり、「かかりつけ医師に電話で相談する」がやや少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられない。

◆性別

「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は男性（46.2%）に比べ、女性（55.5%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「救急車を呼ぶ」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられ、70歳以上では最も多くなっている。

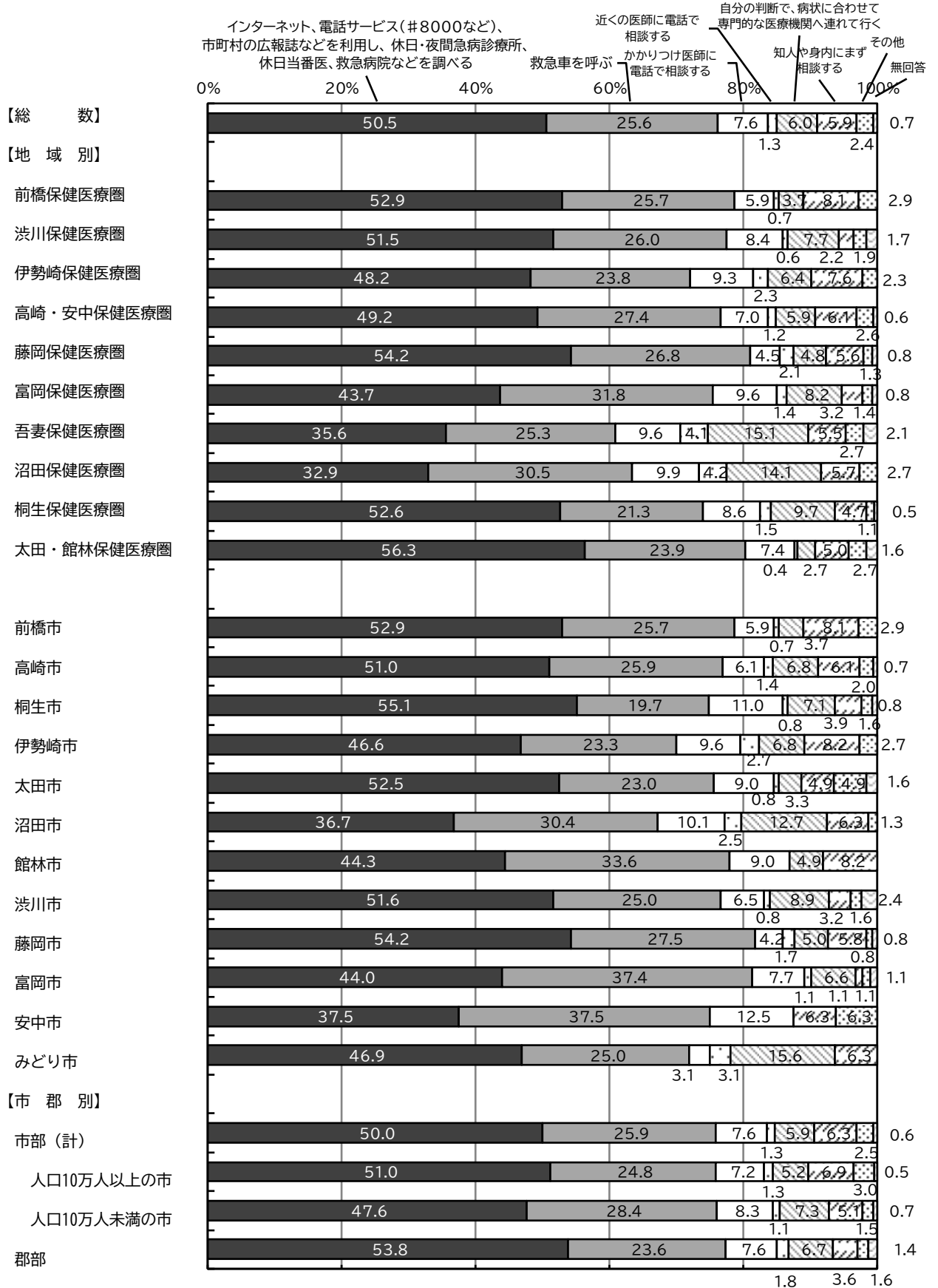
◆職業別

農林漁業と無職者は「救急車を呼ぶ」が最も多くなっている。

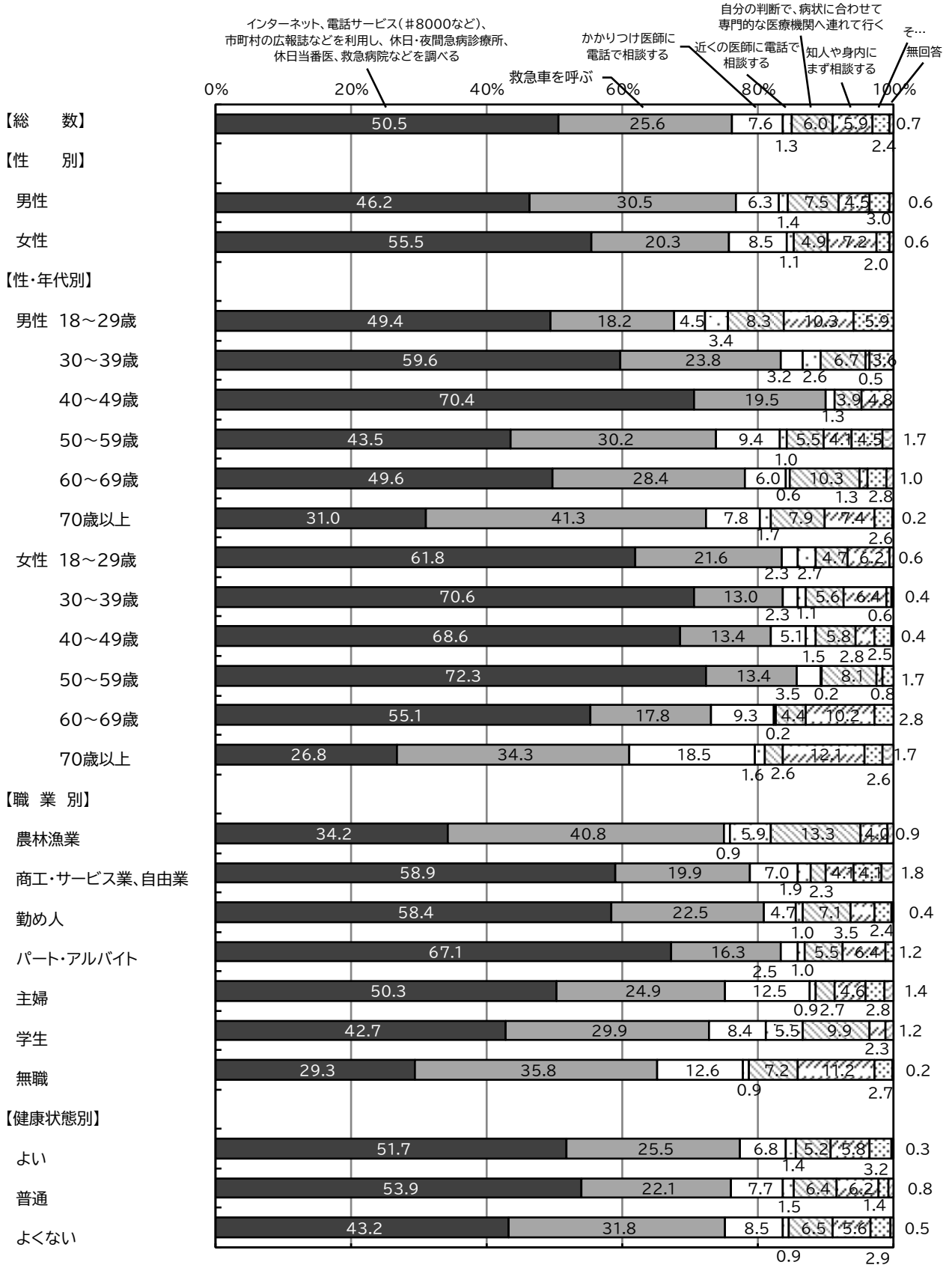
◆健康状態別

「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は健康状態がよくない（43.2%）に比べ、健康状態がよい（51.7%）の方が多くなっている。

図 6 - 4 家族が夜間や休日に病気になった際の対応

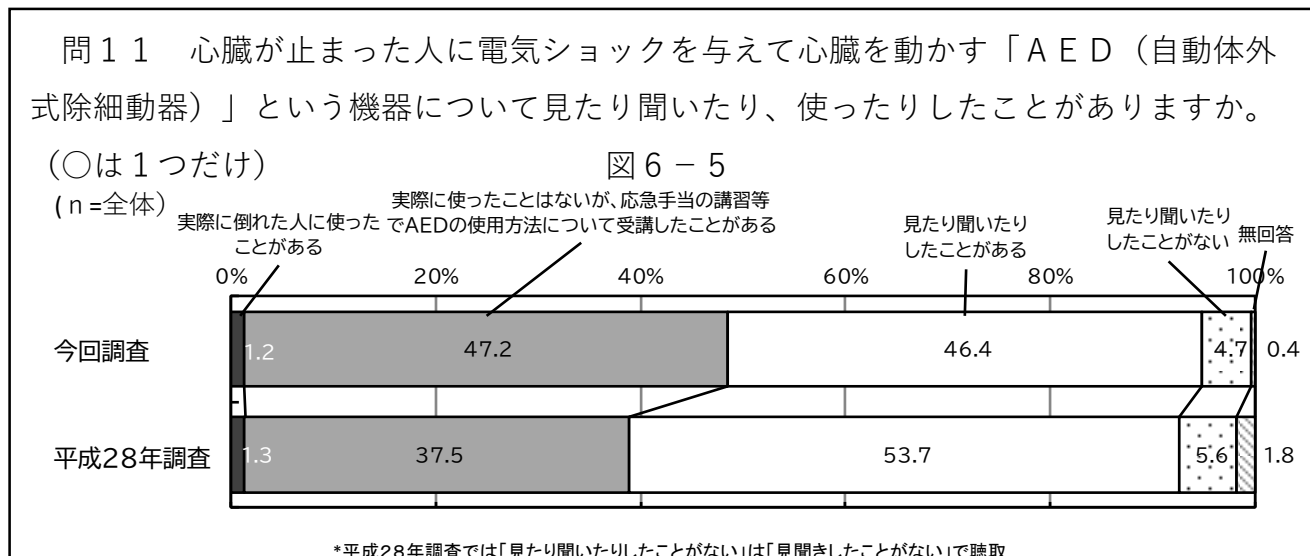


1.8 3.6 1.6



(3) AED の認知度

～<AEDを見聞きしたり、使ったことがある>人は94.9%と断然多い～



AEDの認知度については、「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある」が47.2%と最も多くなっており、これに「見たり聞いたりしたことがある」（46.4%）と「実際に倒れた人に使ったことがある」（1.2%）を合わせた<AEDを見聞きしたり、使ったことがある>は94.9%と多くなっている。

平成28年調査結果との比較では、「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある」が多くなり、「見たり聞いたりしたことがある」が少なくなっている。

◆地域別

藤岡保健医療圏を除くと、いずれの地域も<AEDを見聞きしたり、使ったことがある>が90.0%より多くなっている。

◆市郡別

「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある」は群部(43.8%)に比べ、市部(47.8%)がやや多くなっている。

◆性別

「見たり聞いたりしたことがある」は女性(44.6%)に比べ、男性(49.4%)がやや多くなっている。

◆性・年代別

「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある」は、男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられる。

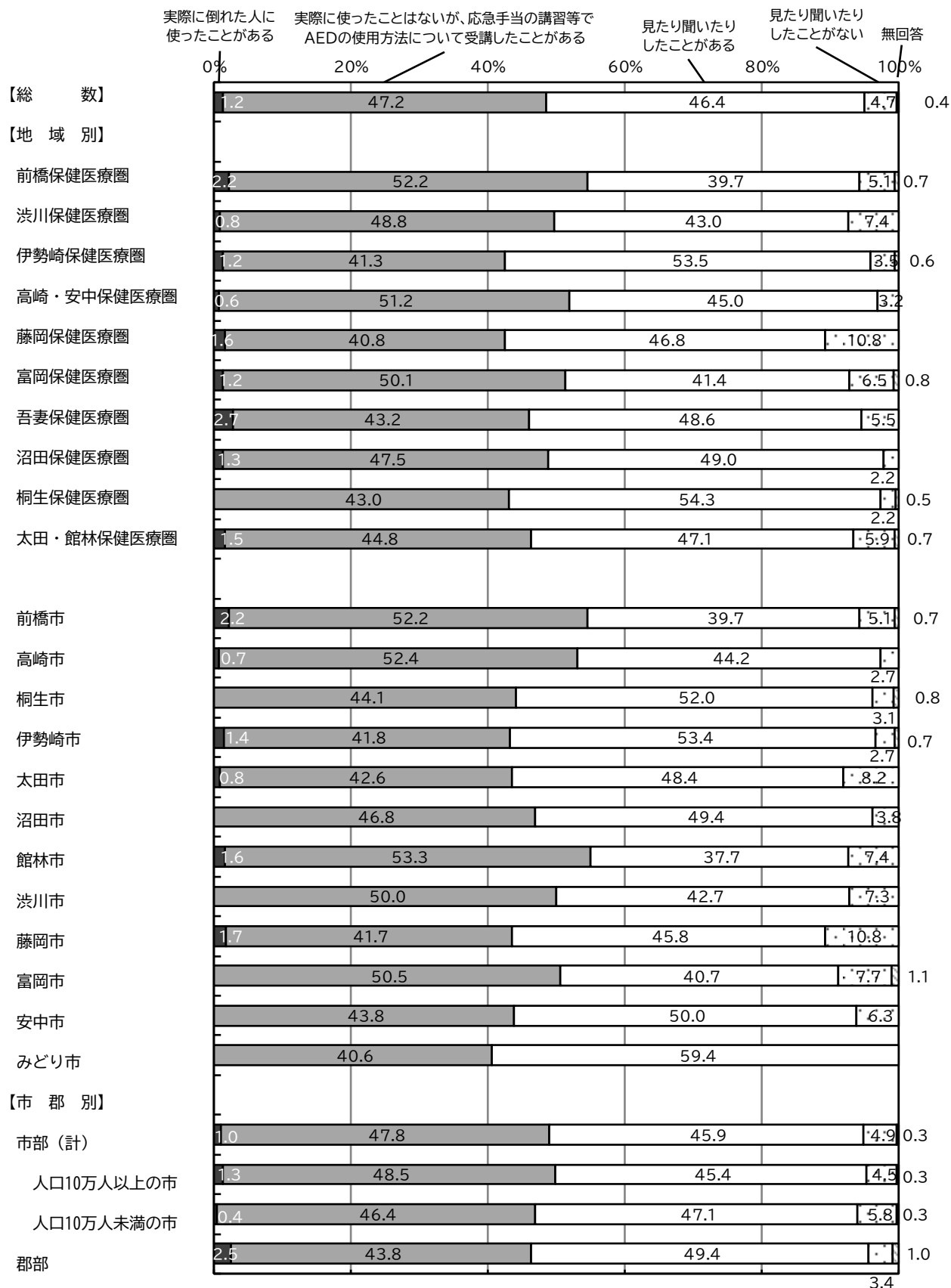
◆職業別

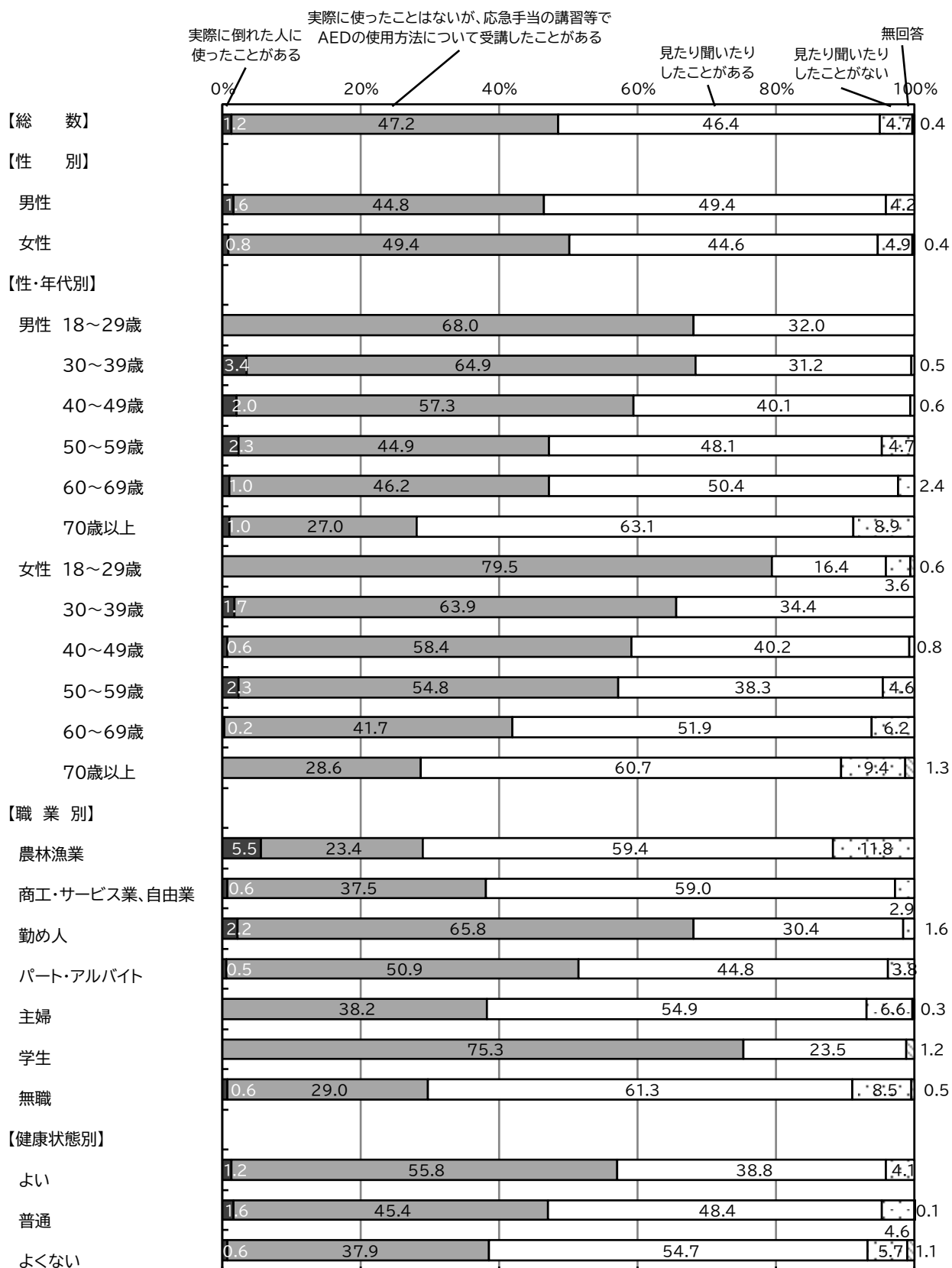
「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある」は学生が75.3%と他の年代に比べ多くなっている。

◆健康状態別

「見たり聞いたりしたことがある」は健康状態がよい(38.8%)に比べ、健康状態がよくない(54.7%)の方が多くなっている。

図6-6 AEDの認知度





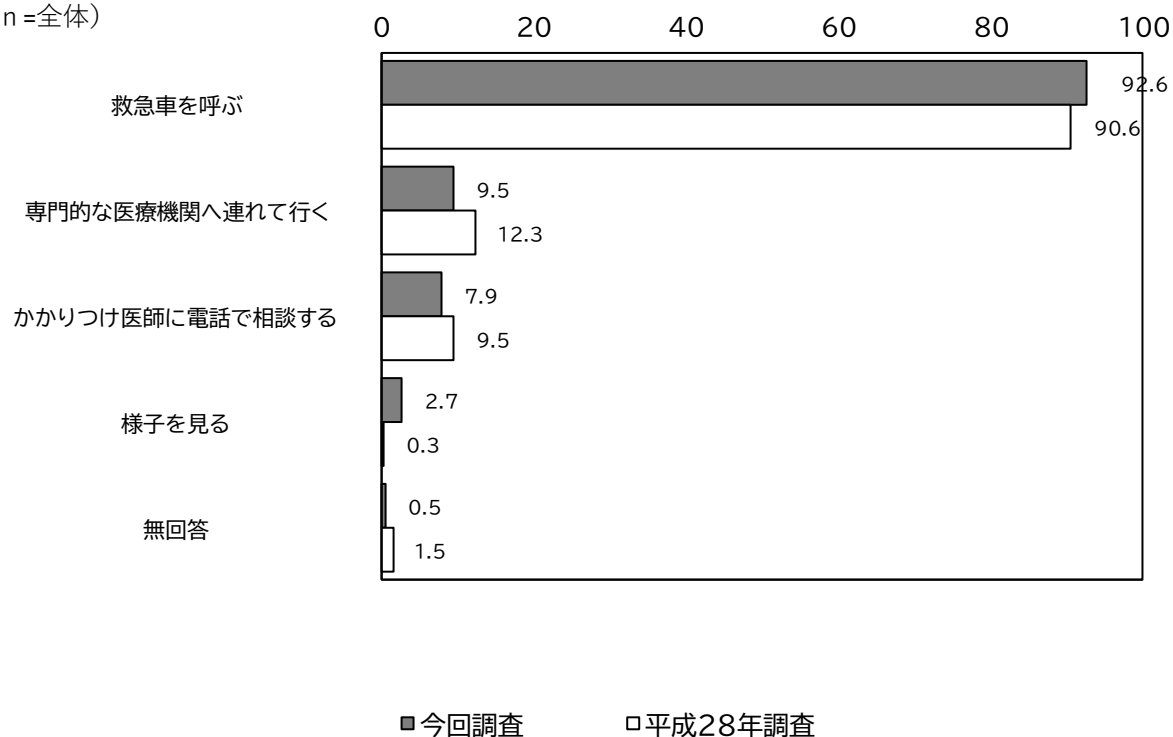
(4) 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応

～「救急車を呼ぶ」92.6%が断然多い～

問12 脳梗塞は、発症してから4時間30分以内に治療を開始することが効果的といわれていますが、家族のだれかに脳梗塞疑いの症状（意識を失っていびきをかいている、顔や腕の麻痺、ろれつが回らないなど）が現れた場合、どうしますか。（○はあてはまるものすべて）

図6-7

(n=全体)



脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応としては、「救急車を呼ぶ」が92.6%と最も多くなっており、他の項目と比べ大きく差がある。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「救急車を呼ぶ」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

性別・年代で差異はほとんどみられない。

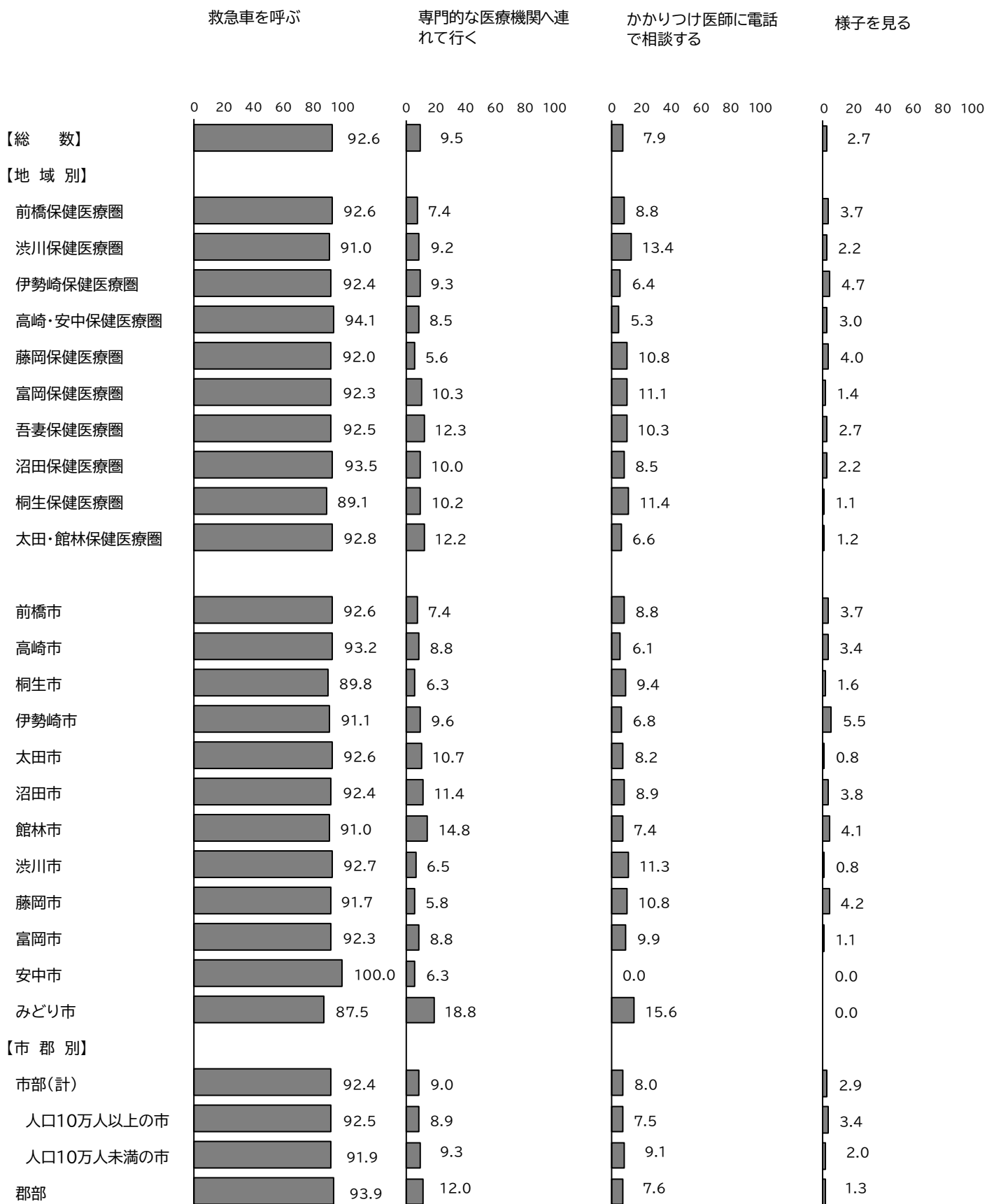
◆職業別

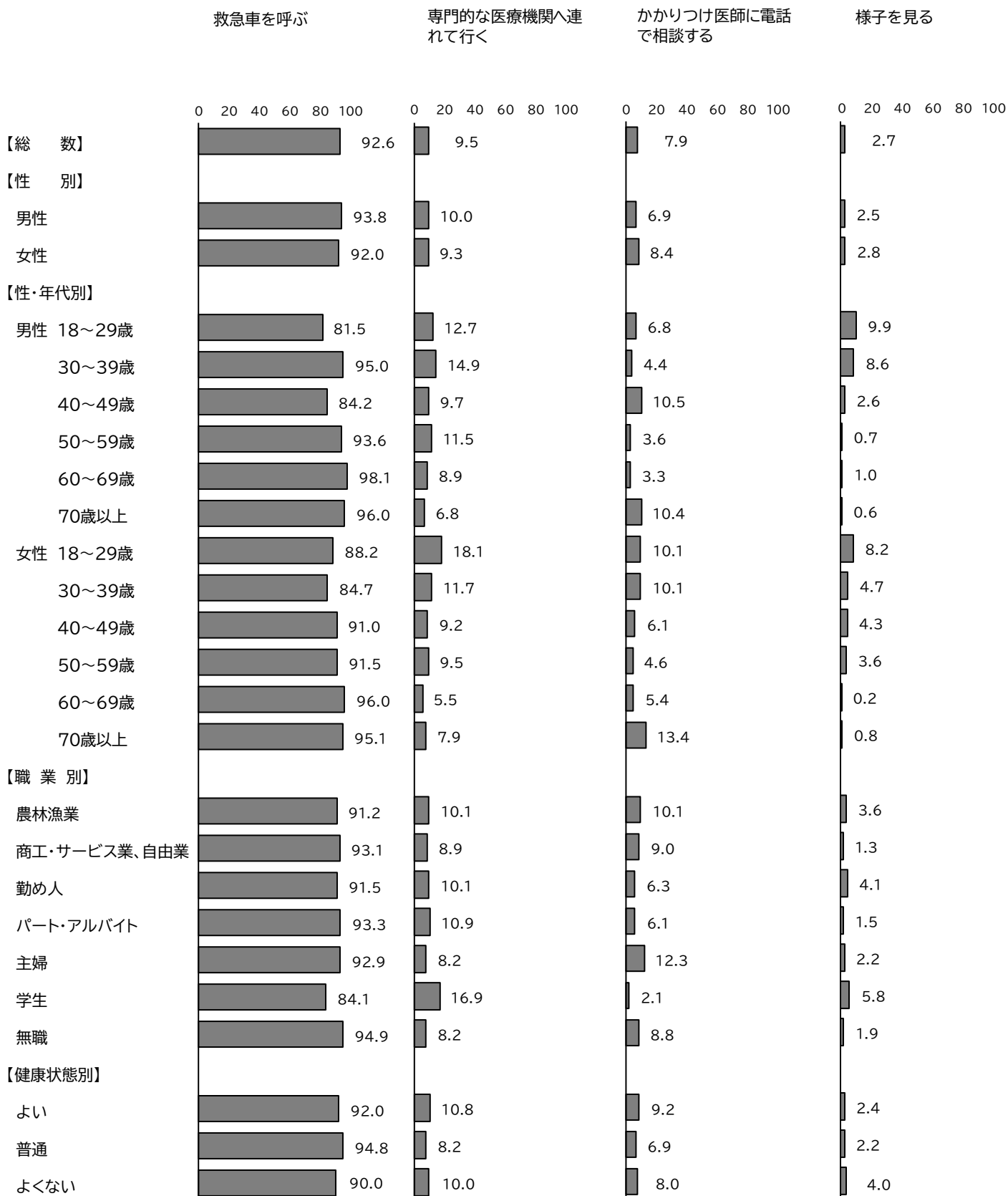
学生では「専門的な医療機関へ連れて行く」が16.9%となっており、他の職業と比べ多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図 6 - 8 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応



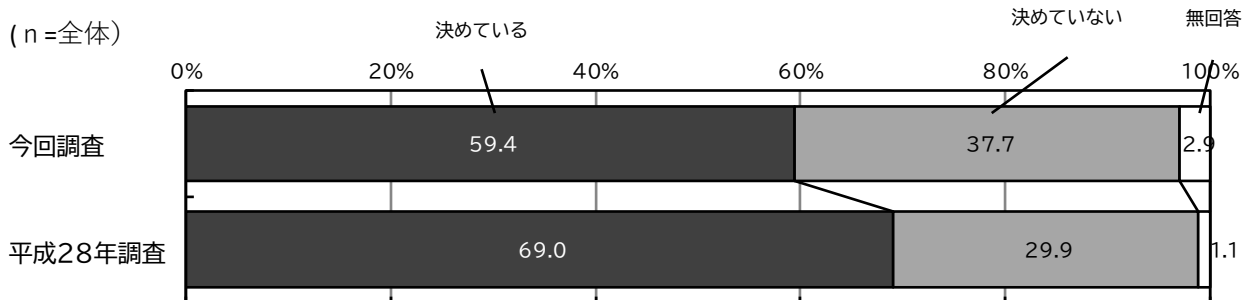


(1) かかりつけ医師の有無

～「決めている」59.4%が多数～

問13 あなたは、かかりつけ医師を決めていますか。(○は1つだけ)

図7-1



かかりつけ医師については、「決めている」が59.4%で半数以上を占めている。一方、「決めていない」は37.7%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「決めていない」が多くなり、「決めている」が少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が50.0%を超えている。

◆市郡別

「決めている」は群部(53.8%)に比べ、市部(60.3%)の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「決めている」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられるが、男性と女性とも40代の「決めている」は30代を下回っている。

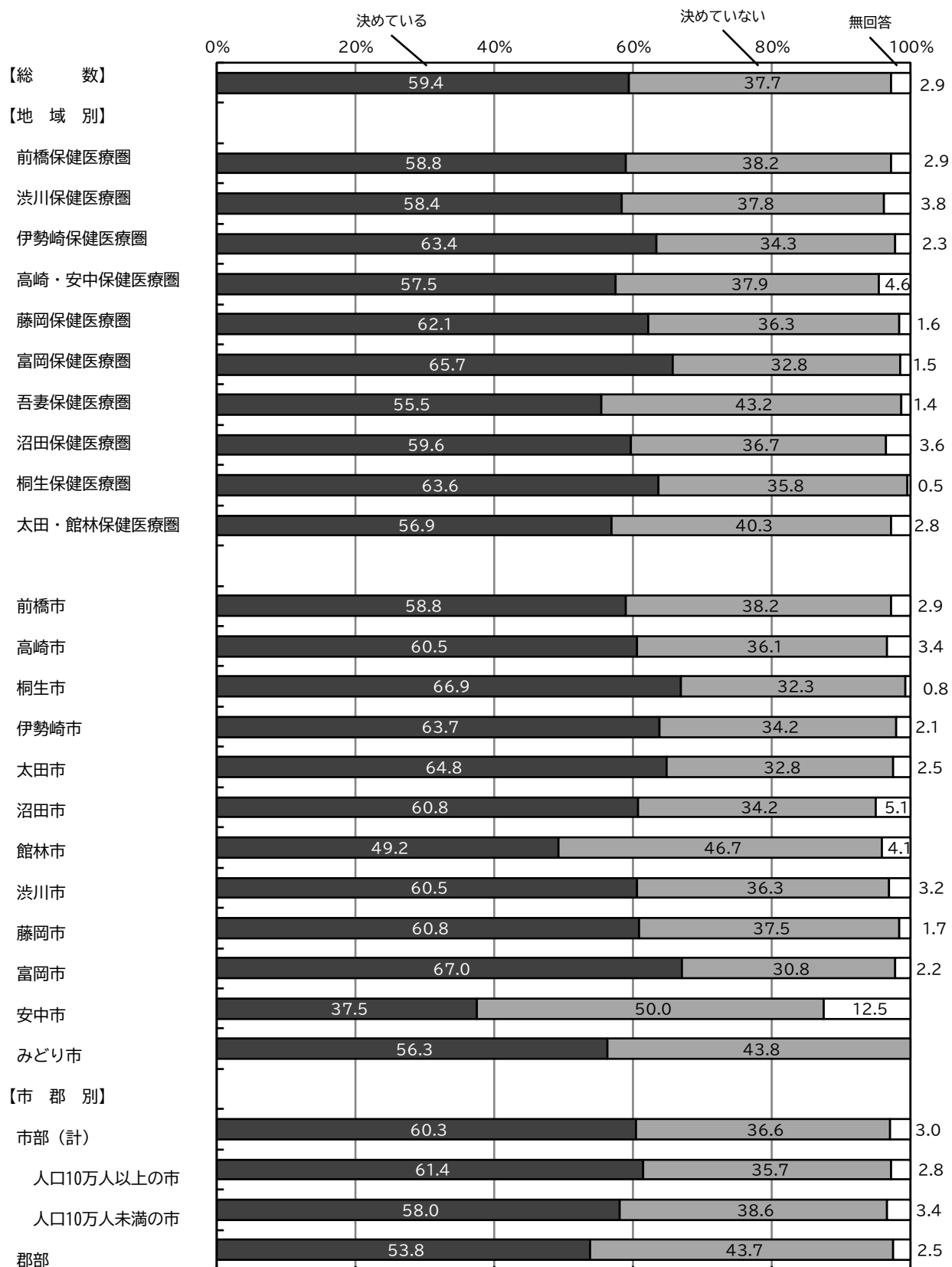
◆職業別

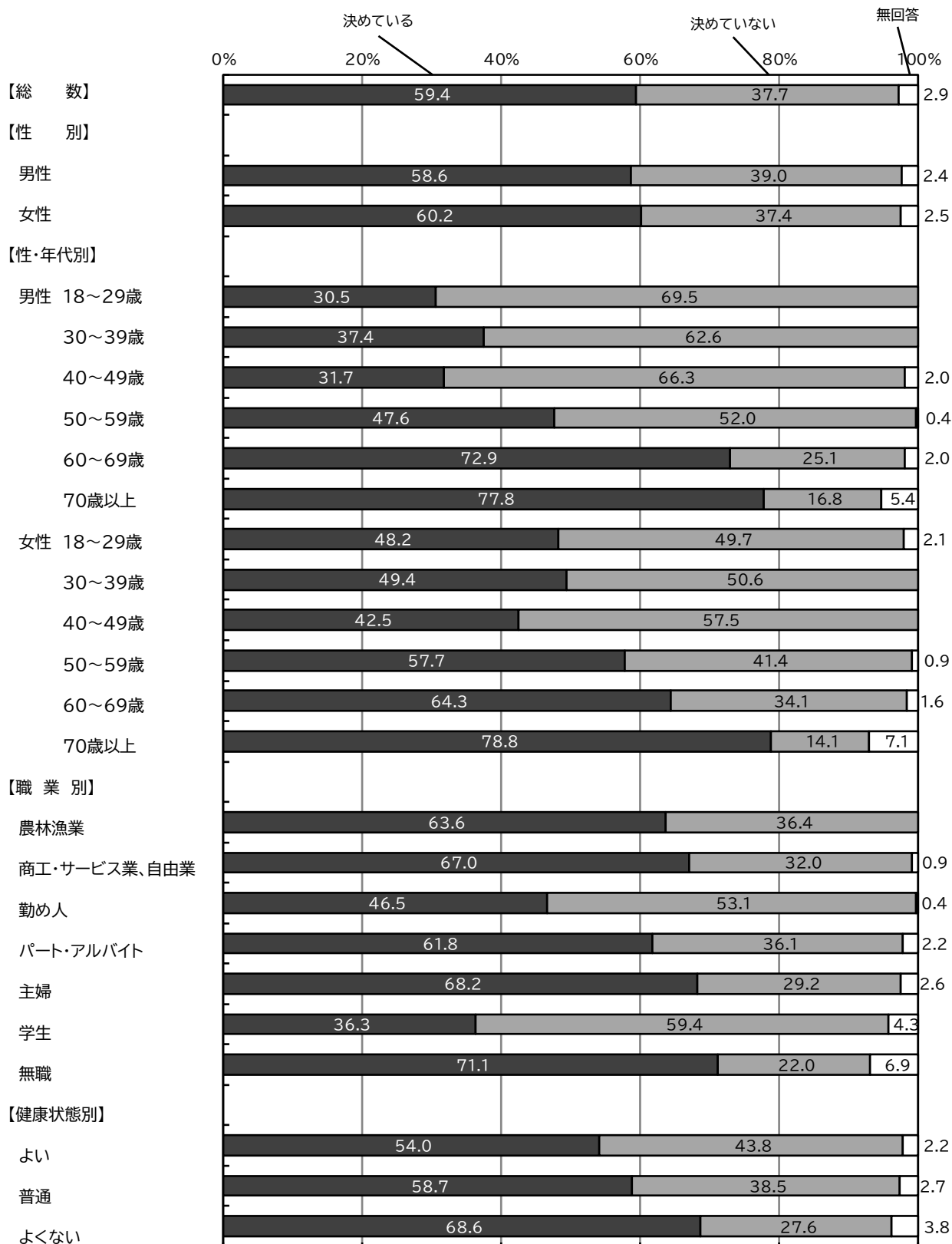
勤め人と学生を除いて、いずれの職業も「決めている」が半数以上を占めている。一方、学生は「決めている」が36.3%と他の職業に比べて最も少なくなっている。

◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよい(54.0%)に比べ、健康状態がよくない(68.6%)の方が多くなっている。

図 7 - 2 かかりつけ医師の有無





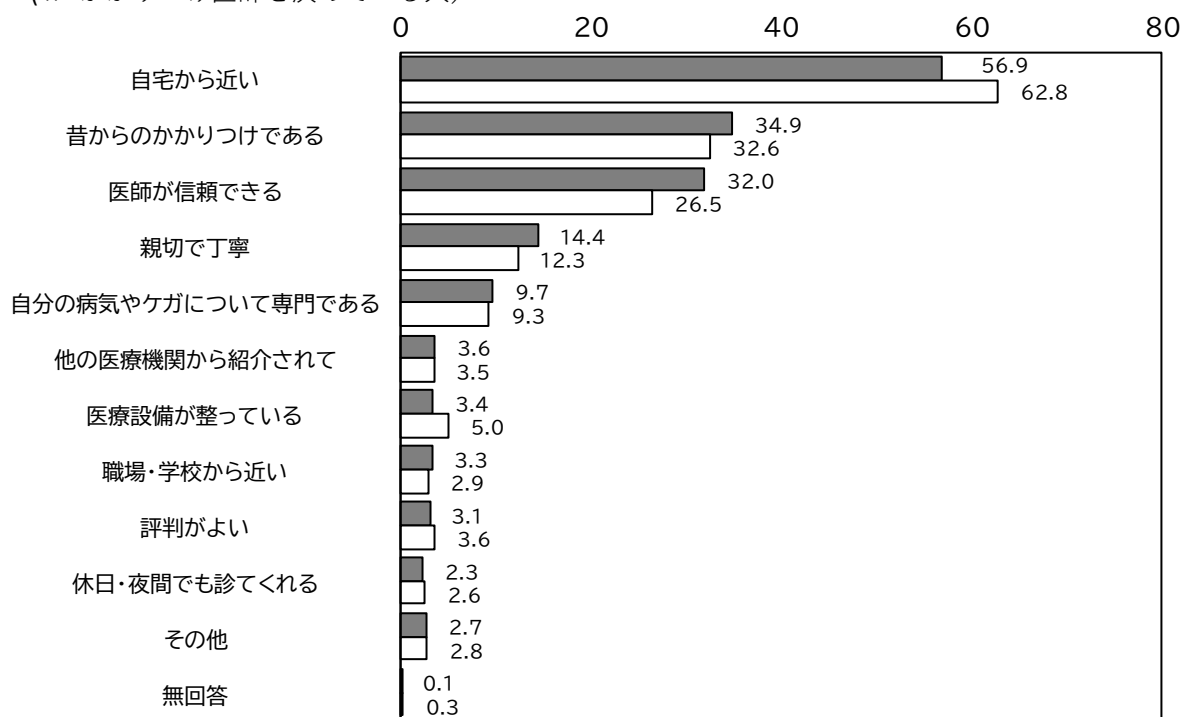
(2) かかりつけ医師を決めている理由

～「自宅から近い」56.9%が最も多い～

問13-1 かかりつけ医師を決めているのは、どのような理由からですか。(○は2つまで)

図7-3

(n=かかりつけ医師を決めている人)



■今回調査 □平成28年調査

*平成28年調査では「職場・学校から近い」は「職場から近い」で聴取

かかりつけ医師を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が56.9%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が34.9%、「医師が信頼できる」が32.0%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「自宅から近い」が少なくなっており、「医師が信頼できる」が多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっている。一方、前橋保健医療圏は「医師が信頼できる」が42.5%と他の地域に比べて高くなっている。

◆市郡別

「医師が信頼できる」は郡部(24.0%)に比べ、市部(33.2%)の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「自宅から近い」が最も多くなっている。また、「昔からのかかりつけである」は女性(30.0%)に比べ、男性(40.6%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性と女性とも20代以下を除いていずれの年代も「自宅から近い」が最も多くなっている。20代以下男性と20代以下女性は「昔からのかかりつけである」が50.0%を超えて最も多くなっている。

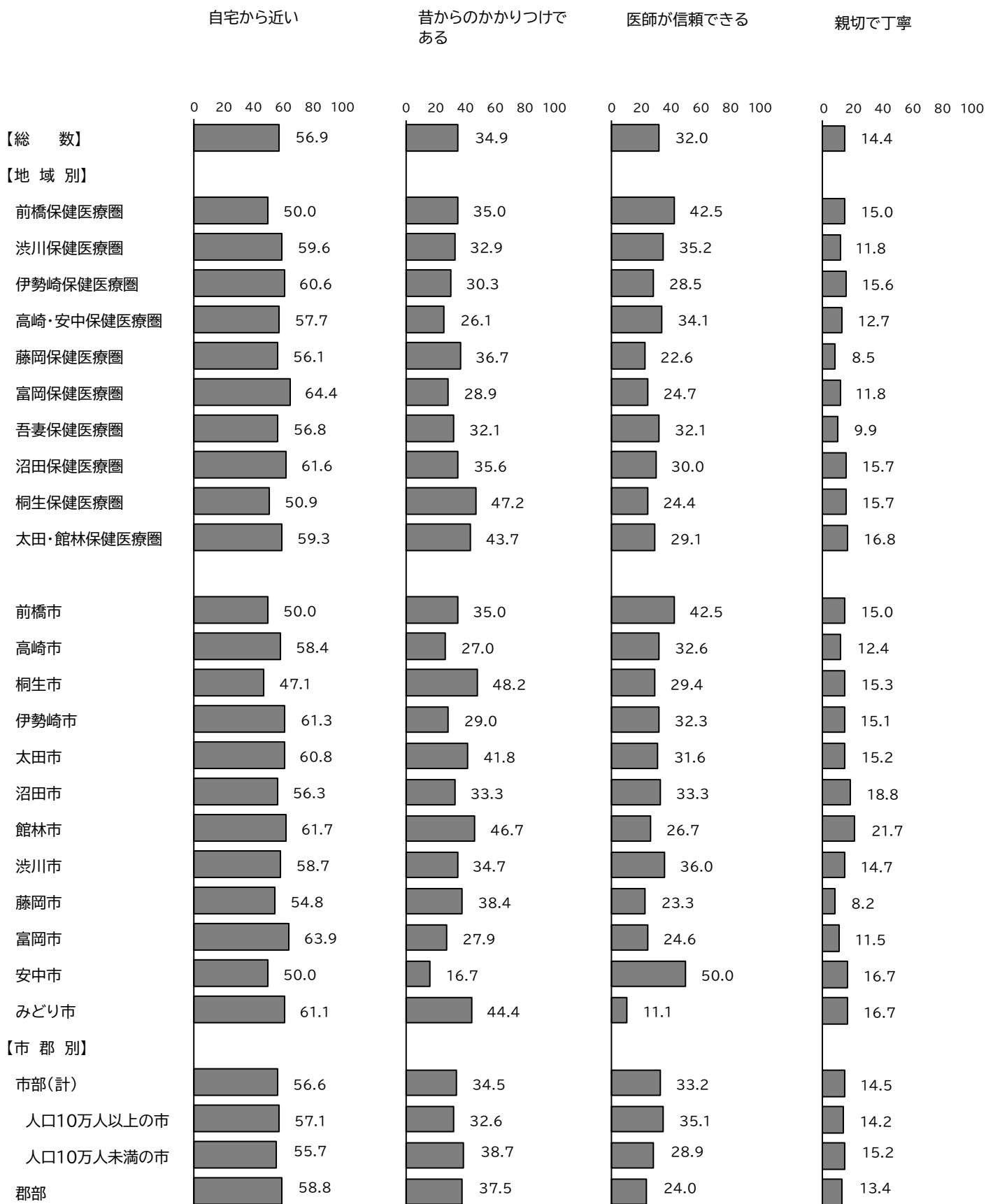
◆職業別

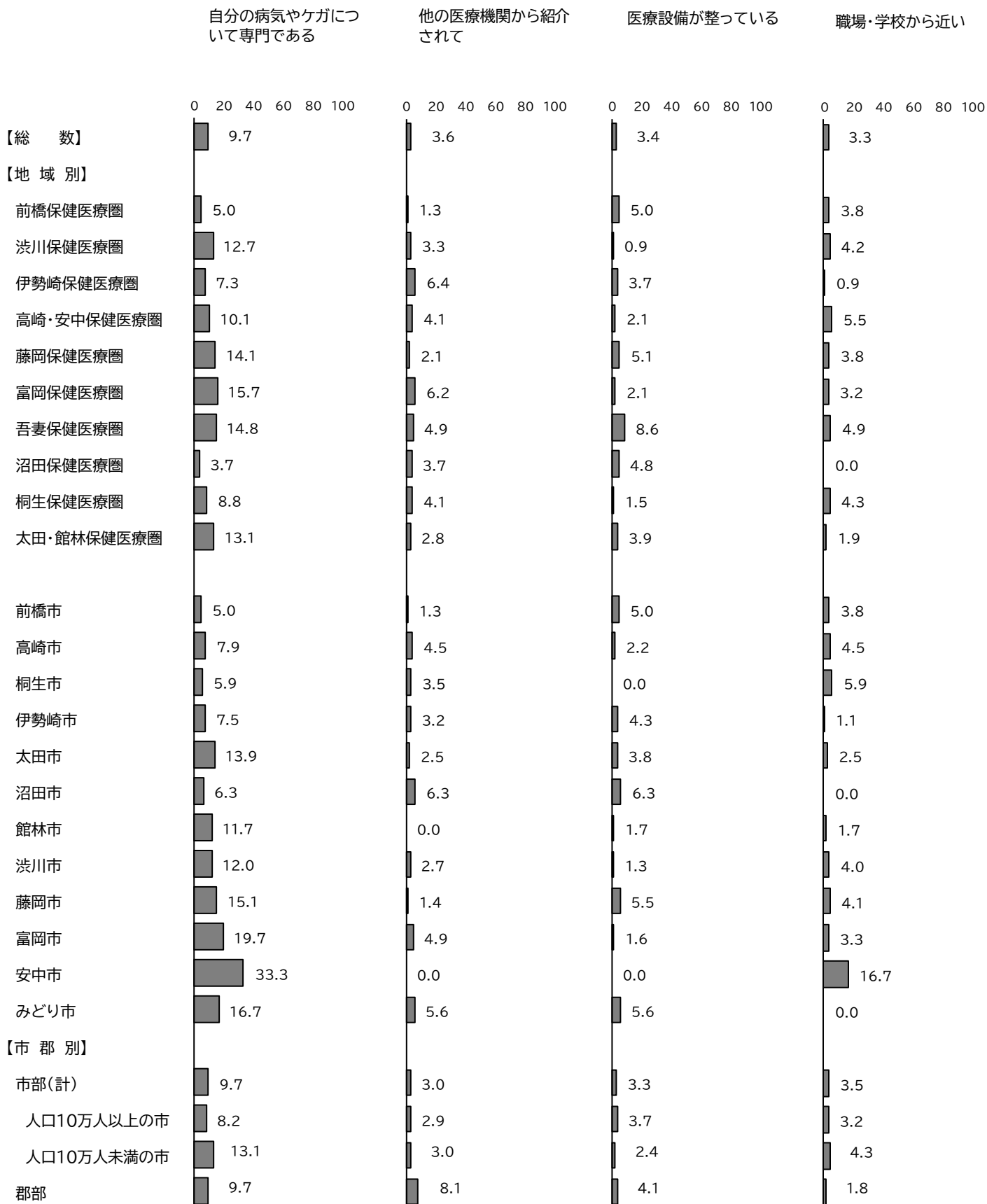
「自宅から近い」は農林漁業が85.4%と最も多くなっている。「昔からのかかりつけである」は学生が84.4%と最も多くなっている。

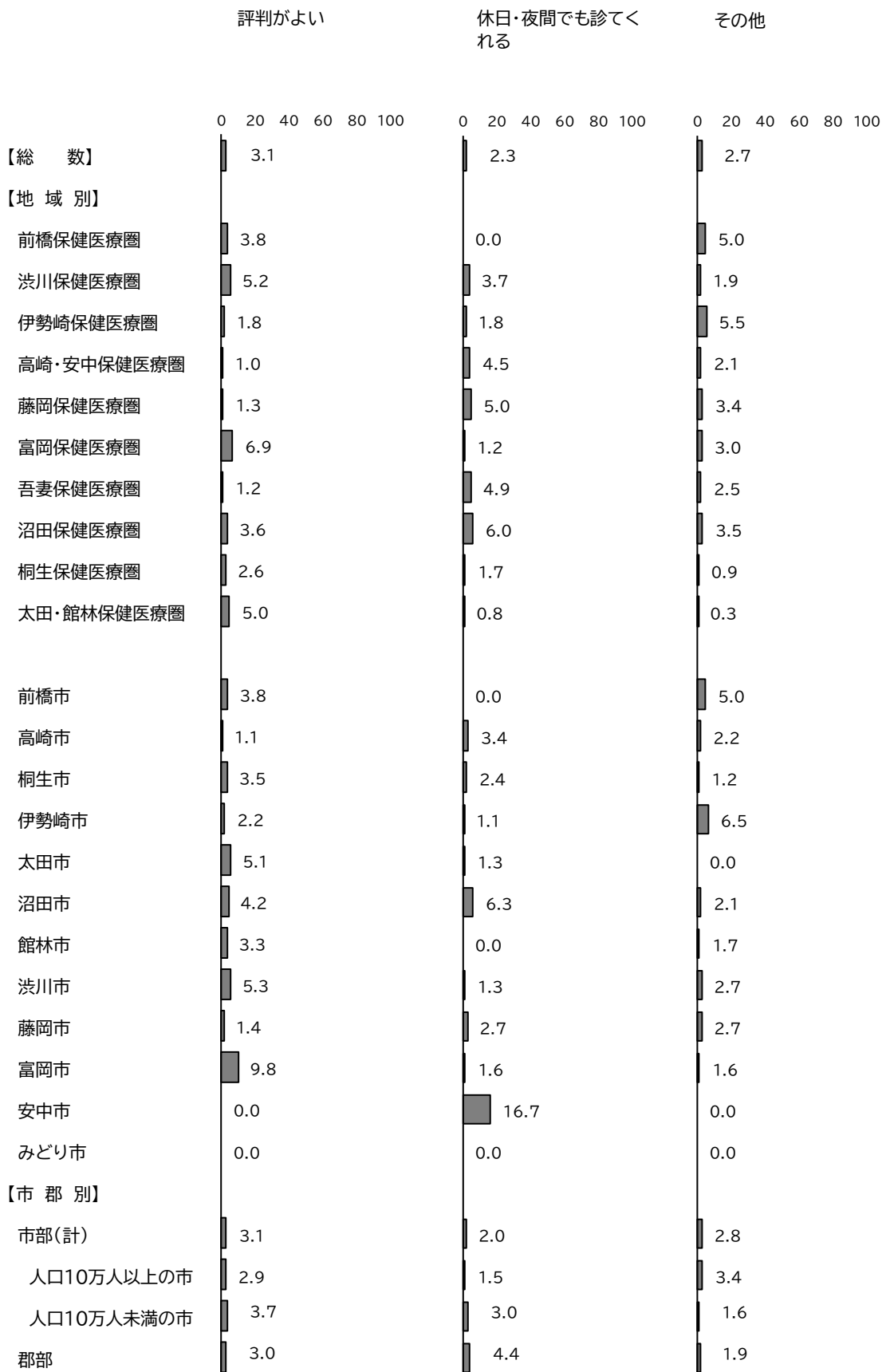
◆健康状態別

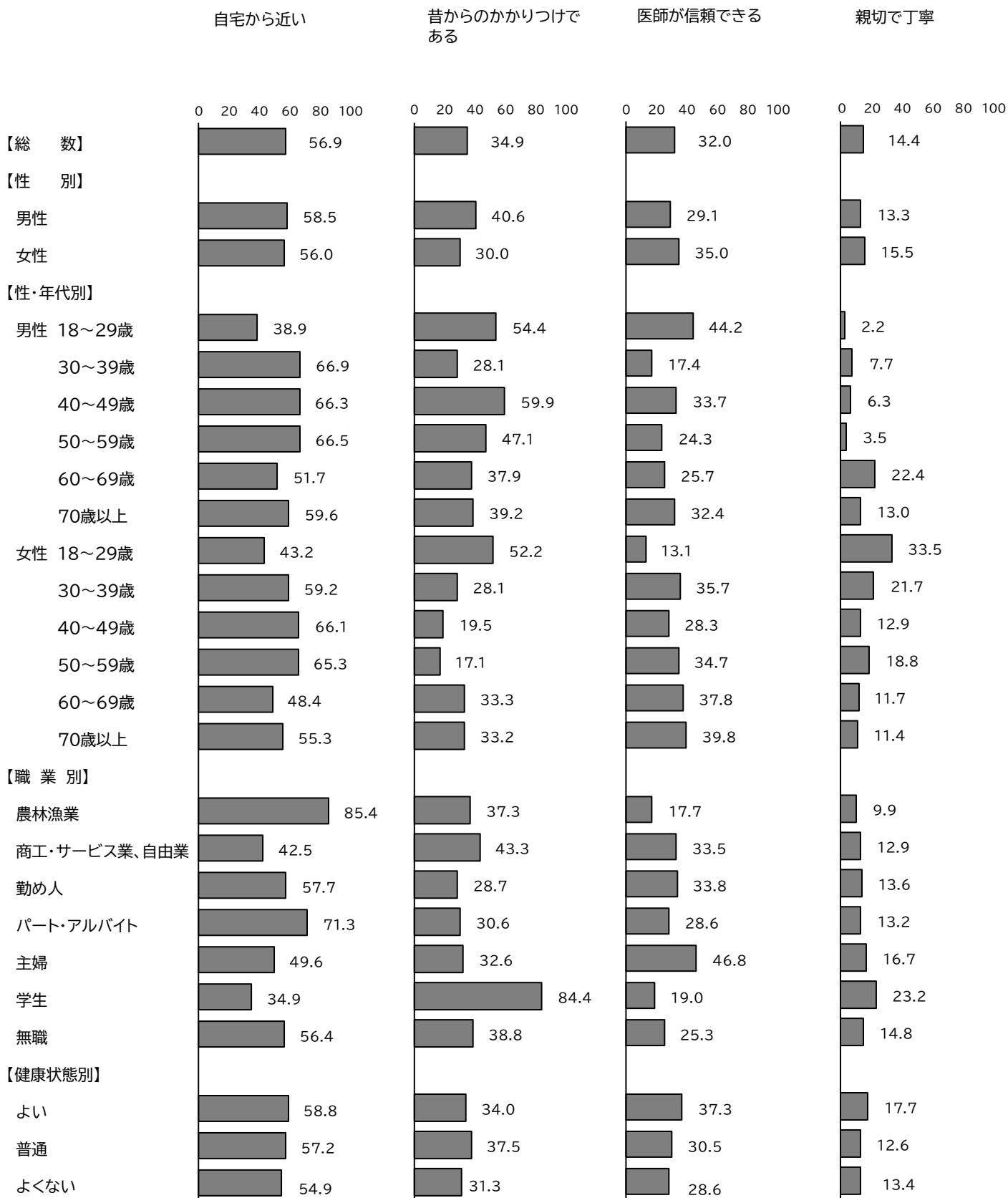
「医師が信頼できる」は健康状態がよくない(28.6%)に比べ、健康状態がよい(37.3%)の方が多くなっている。

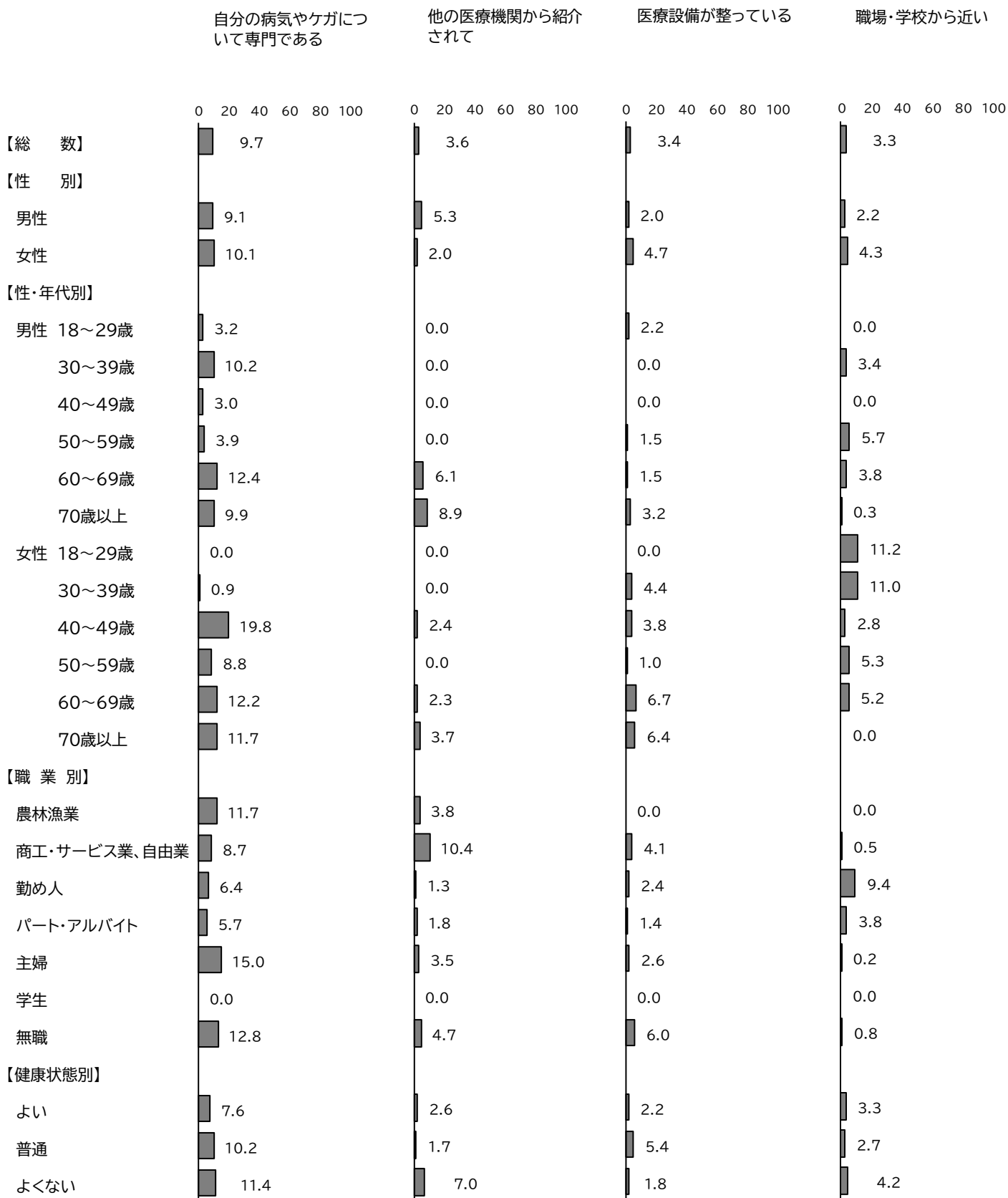
図7-4 かかりつけ医師を決めている理由

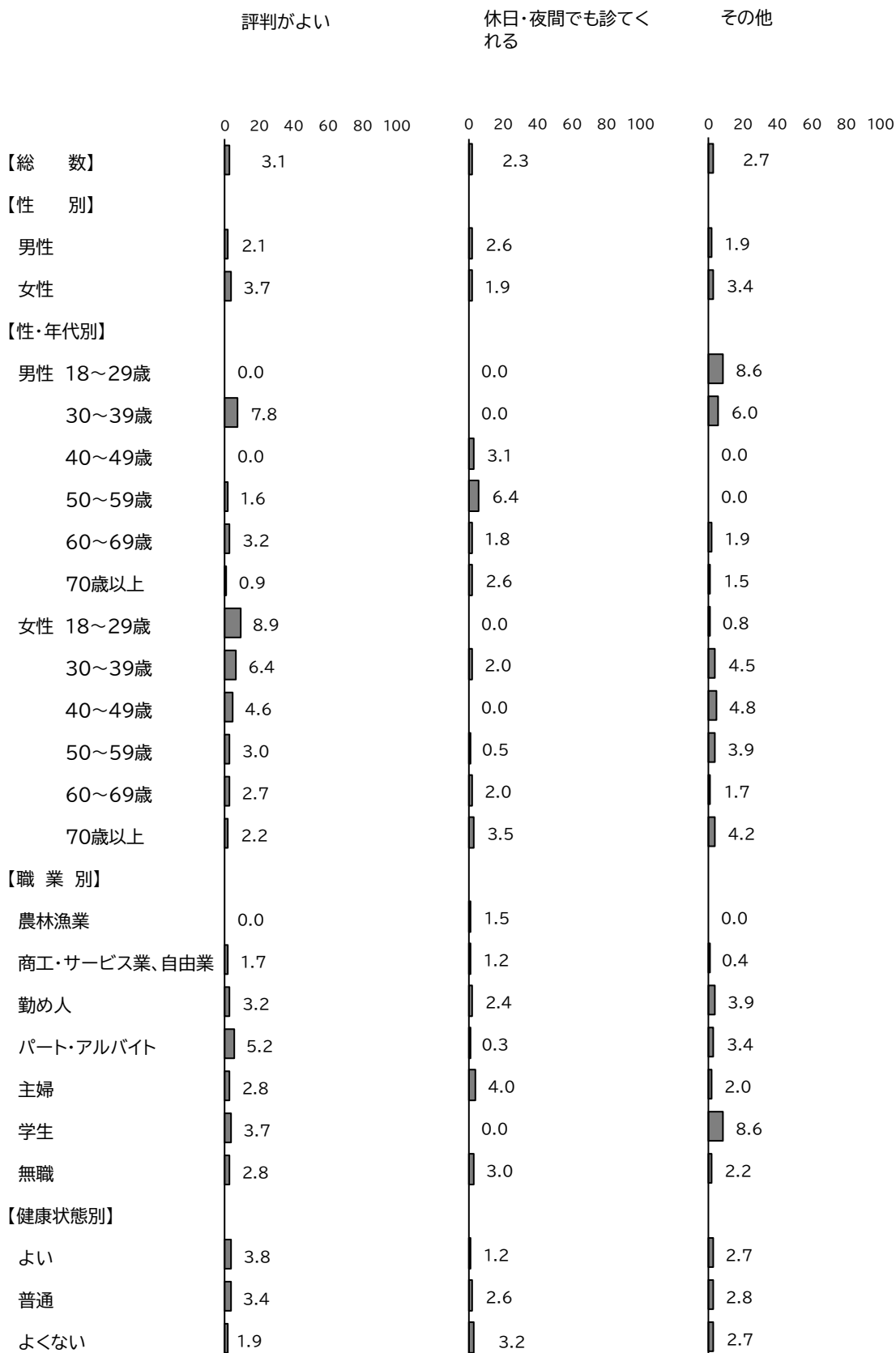












(3) かかりつけ医師を決めていない理由

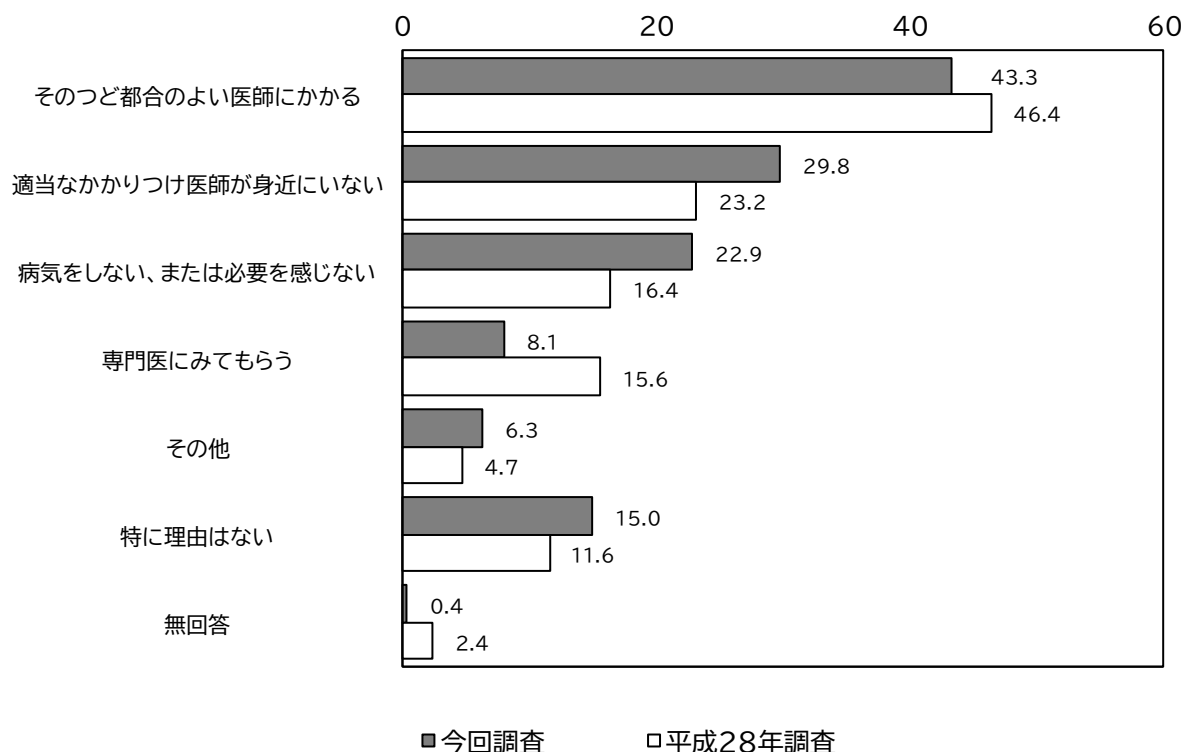
～「そのつど都合のよい医師にかかる」43.3%が最も多い～

問13-2 かかりつけ医師を決めていないのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

図7-5

(n=かかりつけ医師を決めていない人)



かかりつけ医師を決めない理由については、「そのつど都合のよい医師にかかる」が43.3%と最も多く、次いで「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が29.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「専門医にみてもらう」が少なく、「適当なかかりつけ医師が身近にいない」、「病気をしない、または必要を感じない」が多くなっている。

◆地域別

富岡保健医療圏は「そのつど都合のよい医師にかかる」が51.4%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「病気をしない、または必要を感じない」は郡部(17.4%)に比べ、市部(24.1%)の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「そのつど都合のよい医師にかかる」が最も多くなっている。

◆性・年代別

「病気をしない、または必要を感じない」は男性20代以下で49.8%と他の性別・年代に比べて多くなっている。

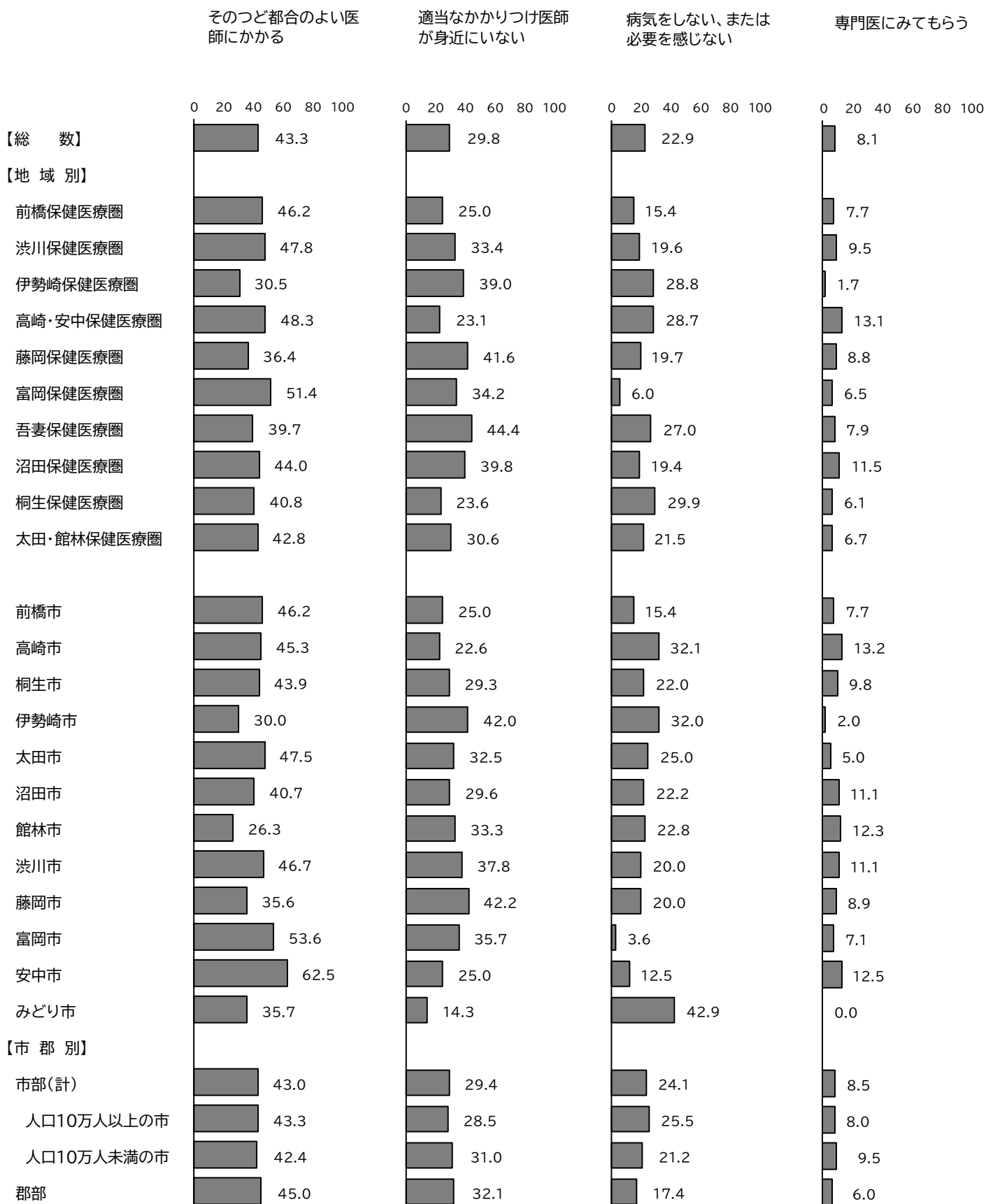
◆職業別

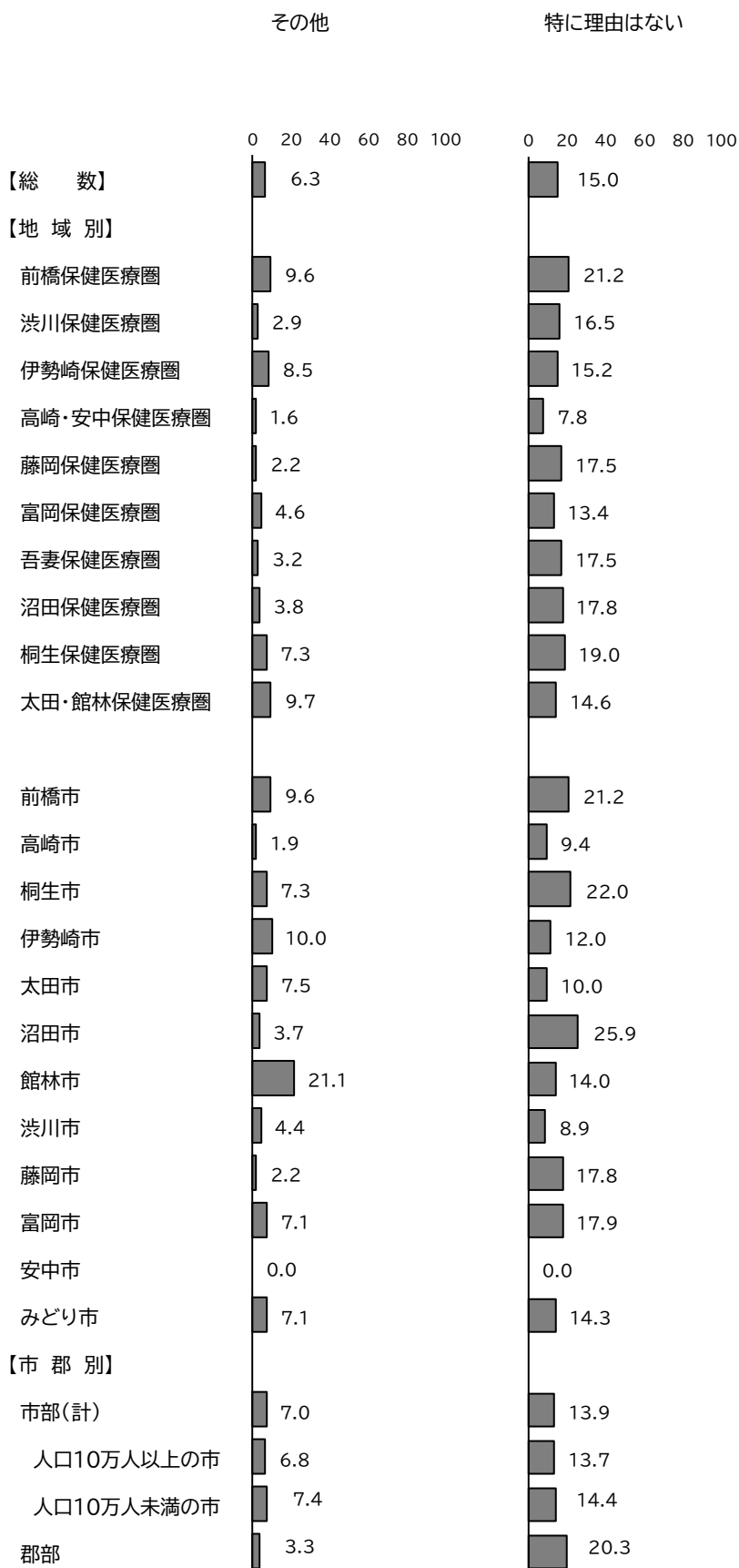
「専門医にみてもらう」は無職者が17.4%と他の職業に比べて多くなっている。

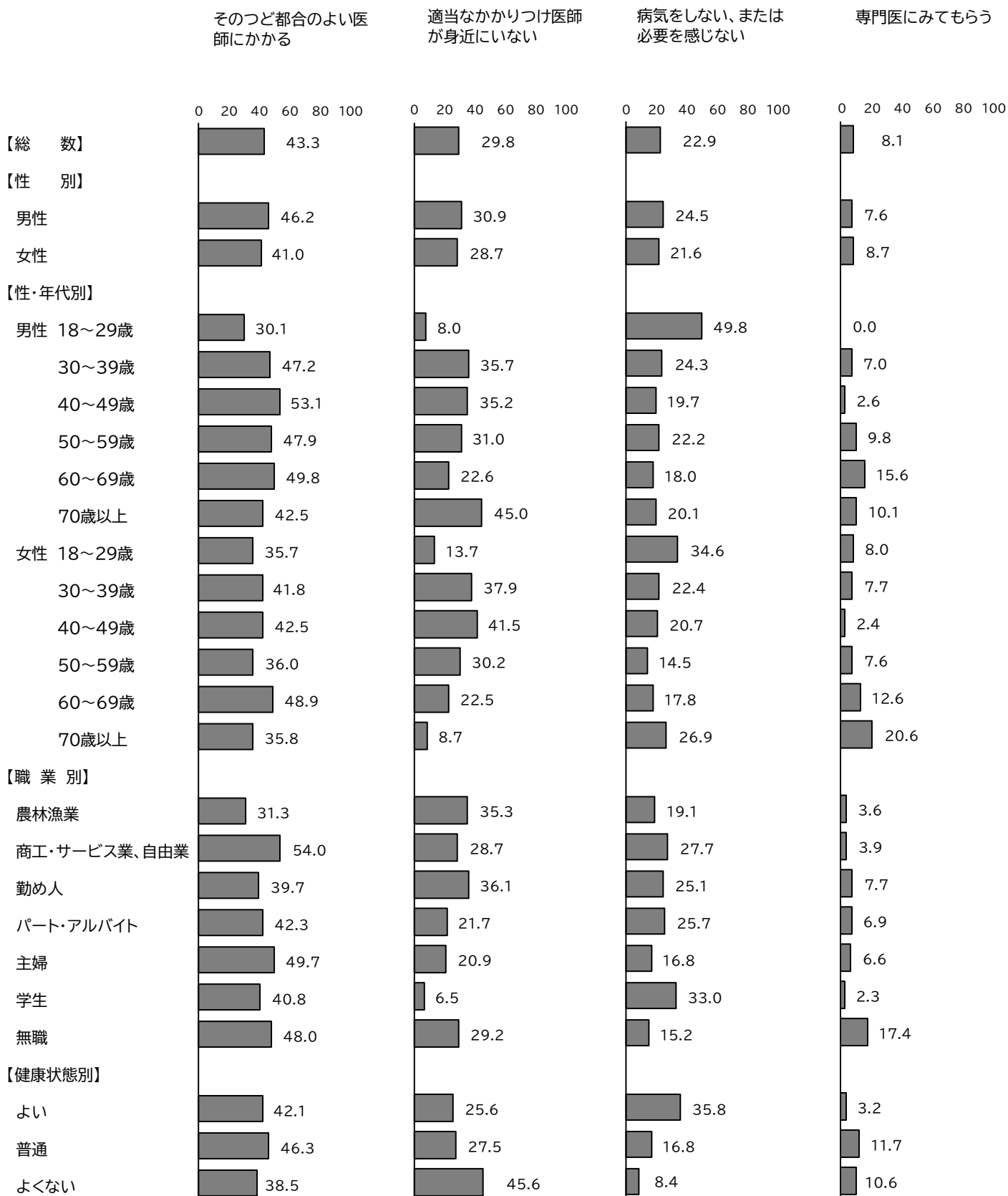
◆健康状態別

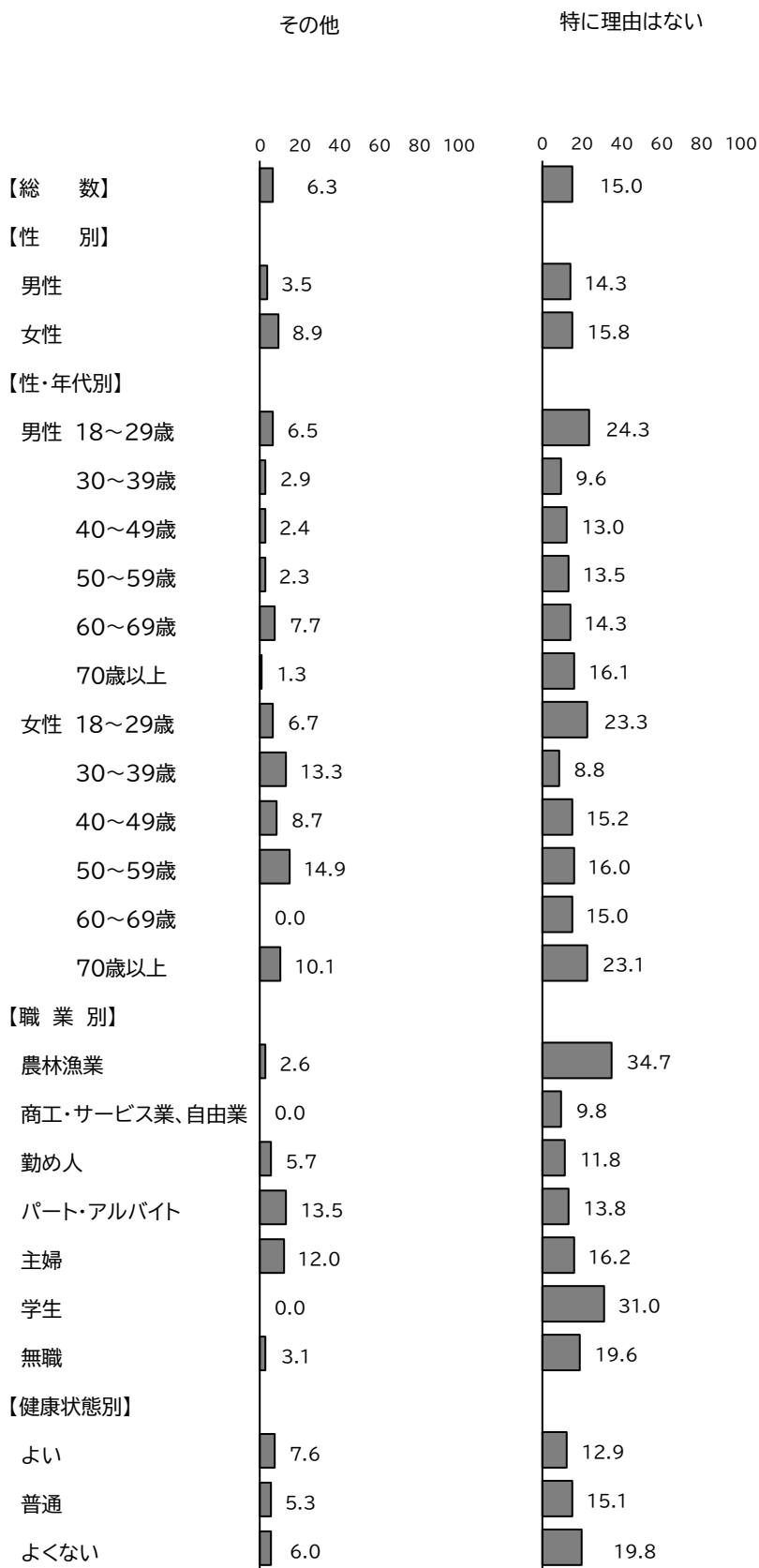
「適当なかかりつけ医師が身近にいない」は健康状態がよい(25.6%)に比べ、健康状態がよくない(45.6%)の方が多くなっている。「病気をしない、または必要を感じない」は健康状態がよくない(8.4%)に比べ、健康状態がよい(35.8%)の方が多くなっている。

図7-6 かかりつけ医師を決めていない理由



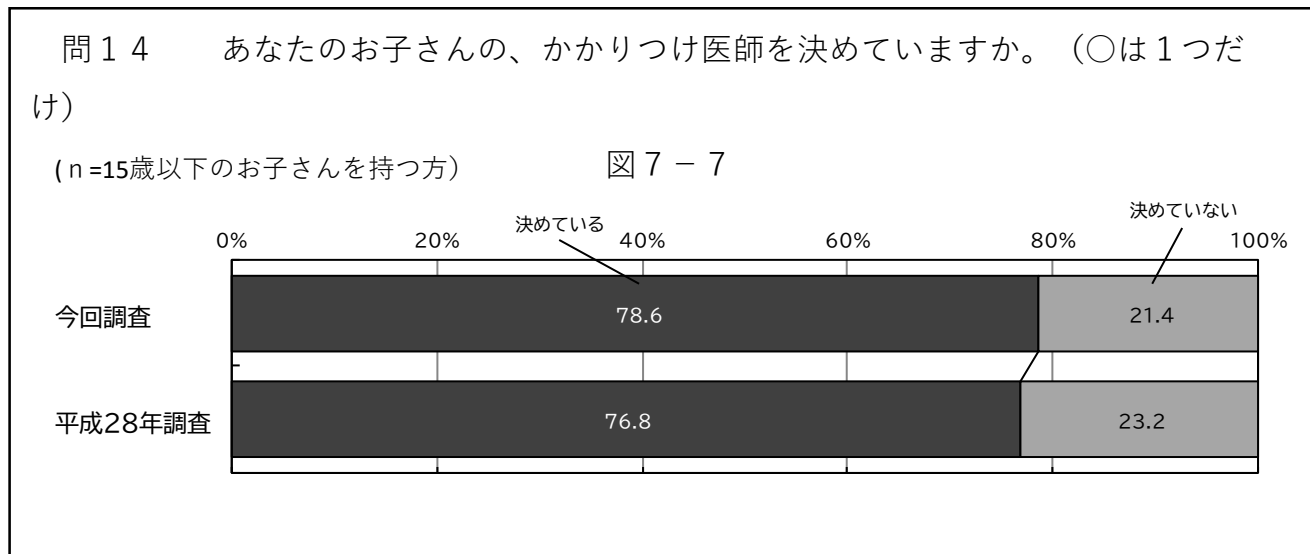






(4) 子どものかかりつけ医師の有無

～「決めている」78.6%が多数～



子どものかかりつけ医師については、「決めている」が78.6%となっており、「決めていない」の21.4%を大きく上回る。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が半数以上を占めている。その中でも伊勢崎保健医療圏は90.3%と他の地域に比べて多くなっている。一方、吾妻保健医療圏は50.0%と他の地域に比べ少なくなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられないが、「決めている」は郡部(75.4%)に比べ、市部(79.2%)がやや多くなっている。

◆性別

「決めている」は男性(71.2%)に比べ、女性(84.1%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性と女性とも20代以下・30代で「決めている」が多くなっている。

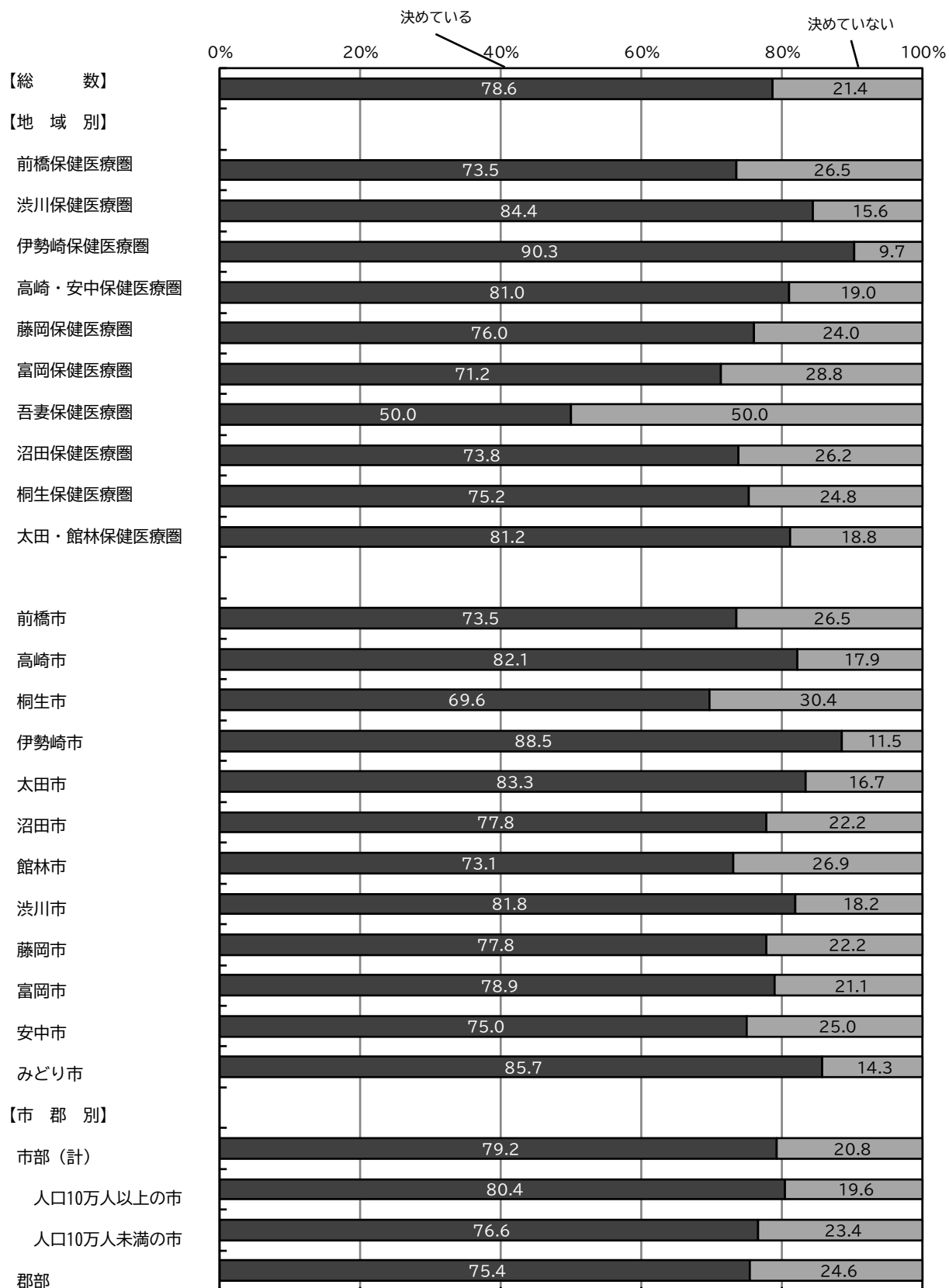
◆職業別

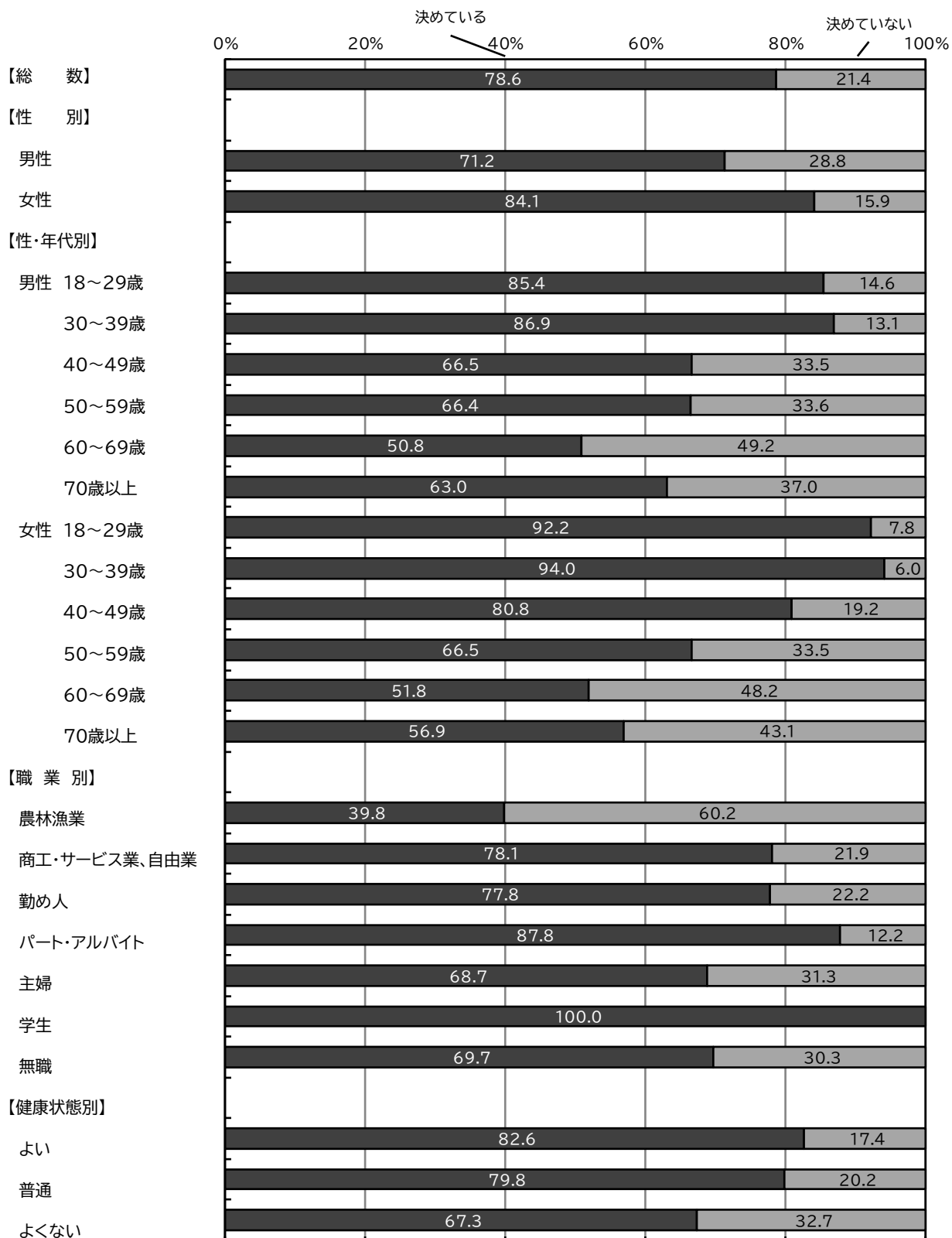
「決めている」は農林漁業(39.8%)で特に少なくなっている。

◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよくない(67.3%)に比べ、健康状態がよい(82.6%)の方が多くなっている。

図7-8 子供のかかりつけ医師の有無





(5) 子どものかかりつけ医師を決めている理由

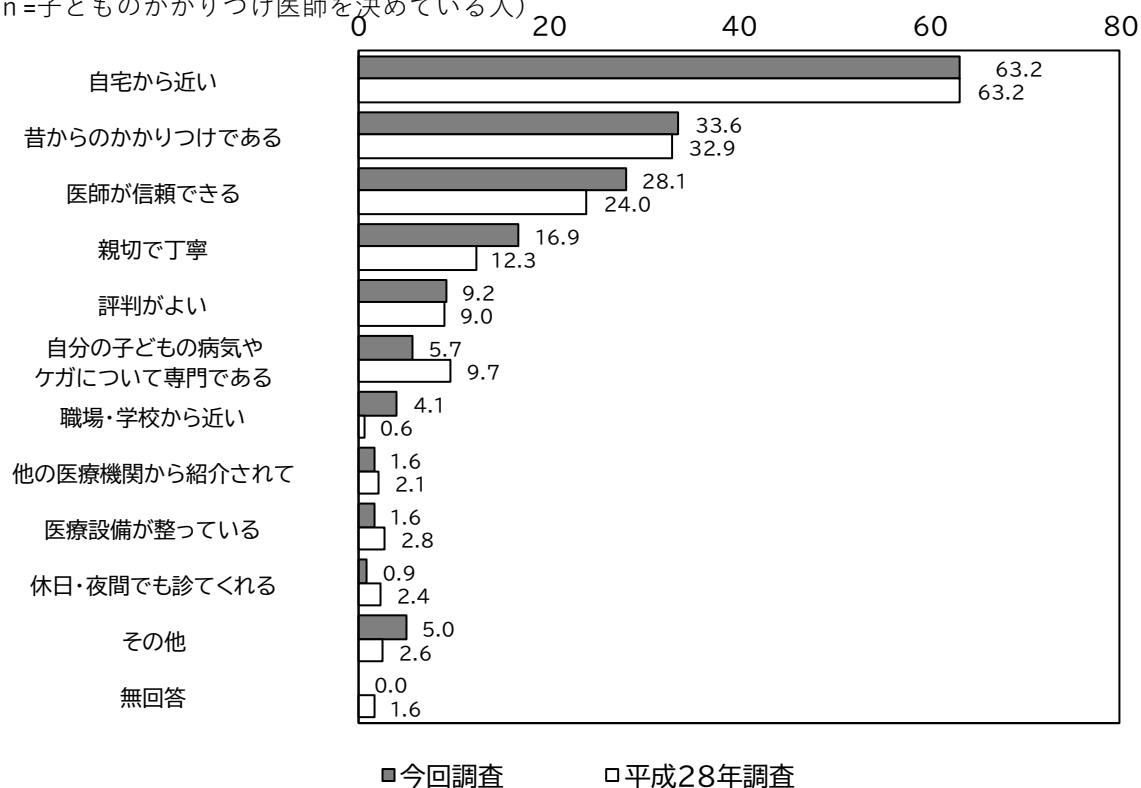
～「自宅から近い」63.2%が最も多い～

問14-1 かかりつけ医師を決めているのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

図7-9

(n=子どものかかりつけ医師を決めている人)



*平成28年調査では「職場・学校から近い」は「職場から近い」で聴取

子どものかかりつけ医師を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が63.2%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が33.6%、「医師が信頼できる」が28.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっている。その中でも藤岡保健医療圏は81.0%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「自宅から近い」は郡部(53.7%)に比べ、市部(65.1%)が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「自宅から近い」が最も多くなっている。また、「昔からのかかりつけである」は女性(27.6%)に比べ、男性(43.2%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「昔からのかかりつけである」は60代男性で92.0%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

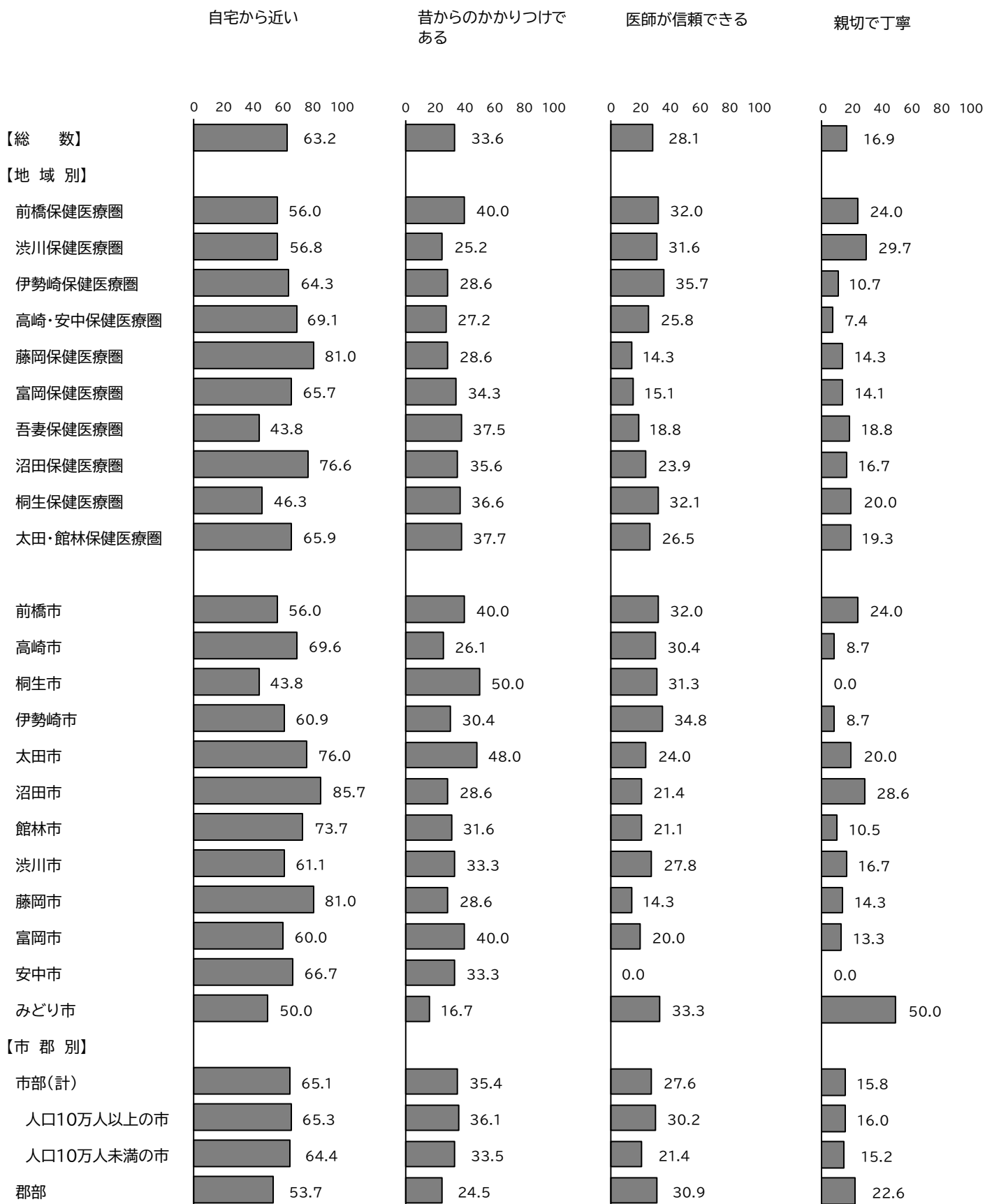
◆職業別

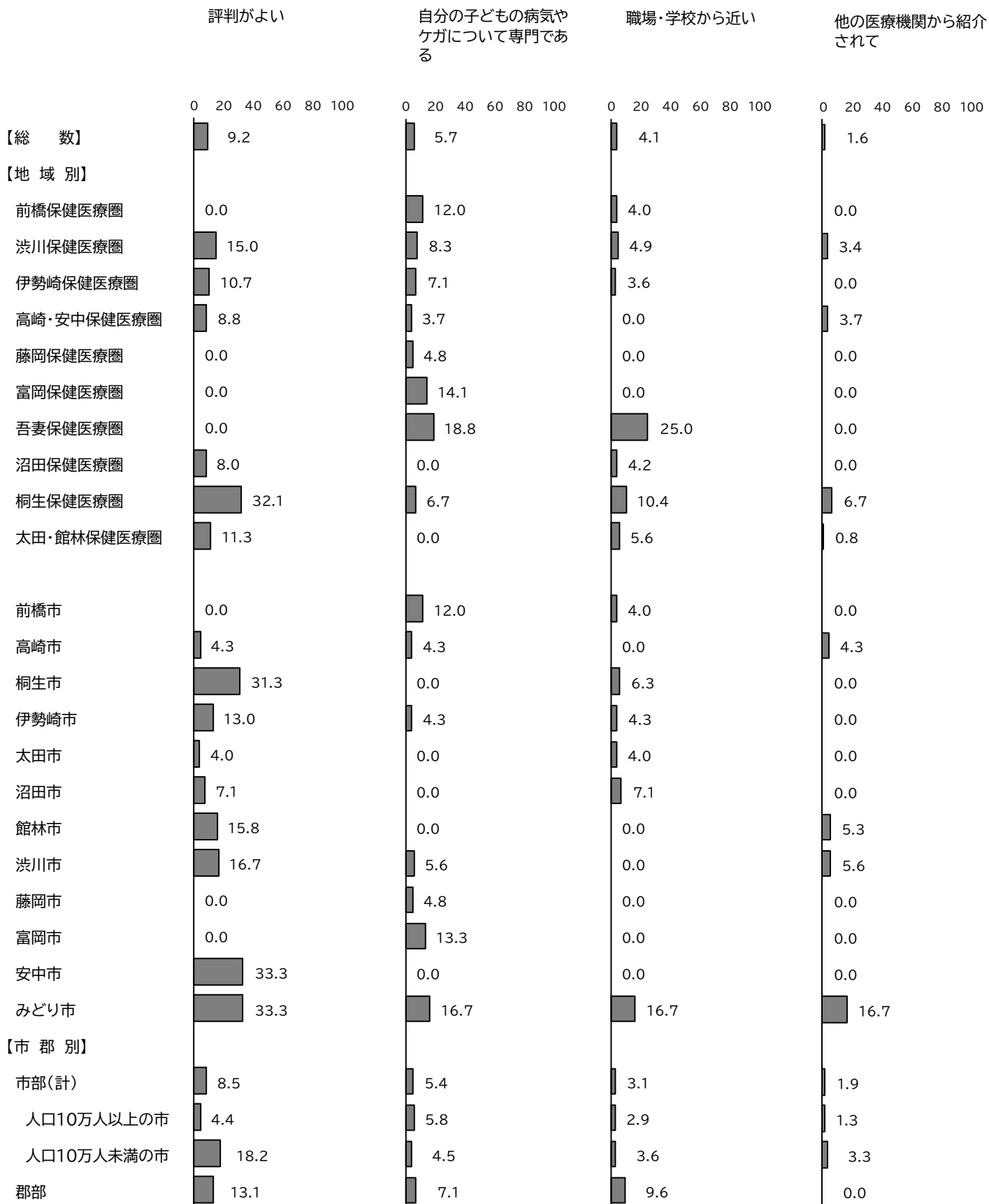
商工・サービス業、自由業と学生を除いていずれの職業も「自宅から近い」が最も多くなっている。

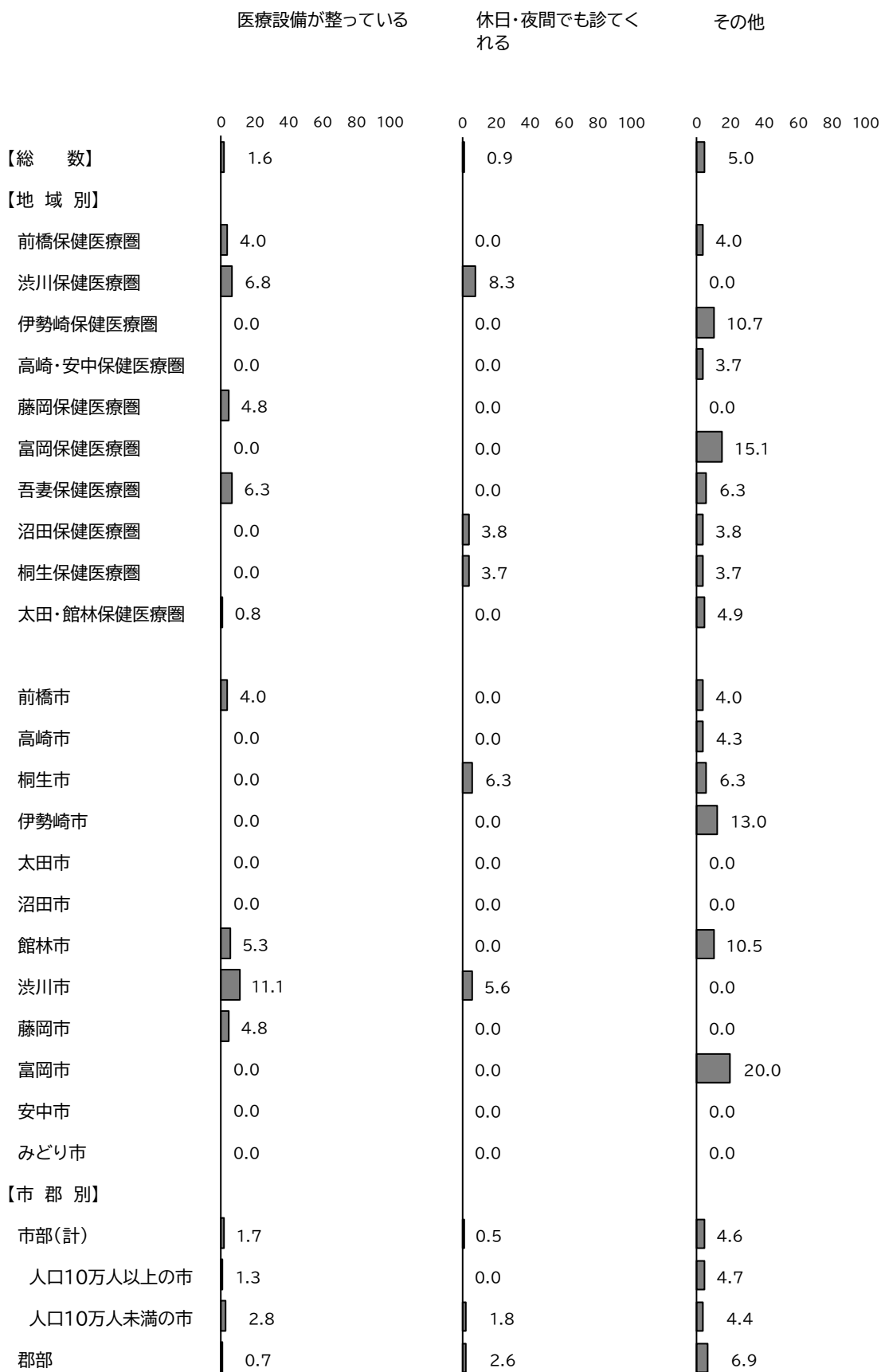
◆健康状態別

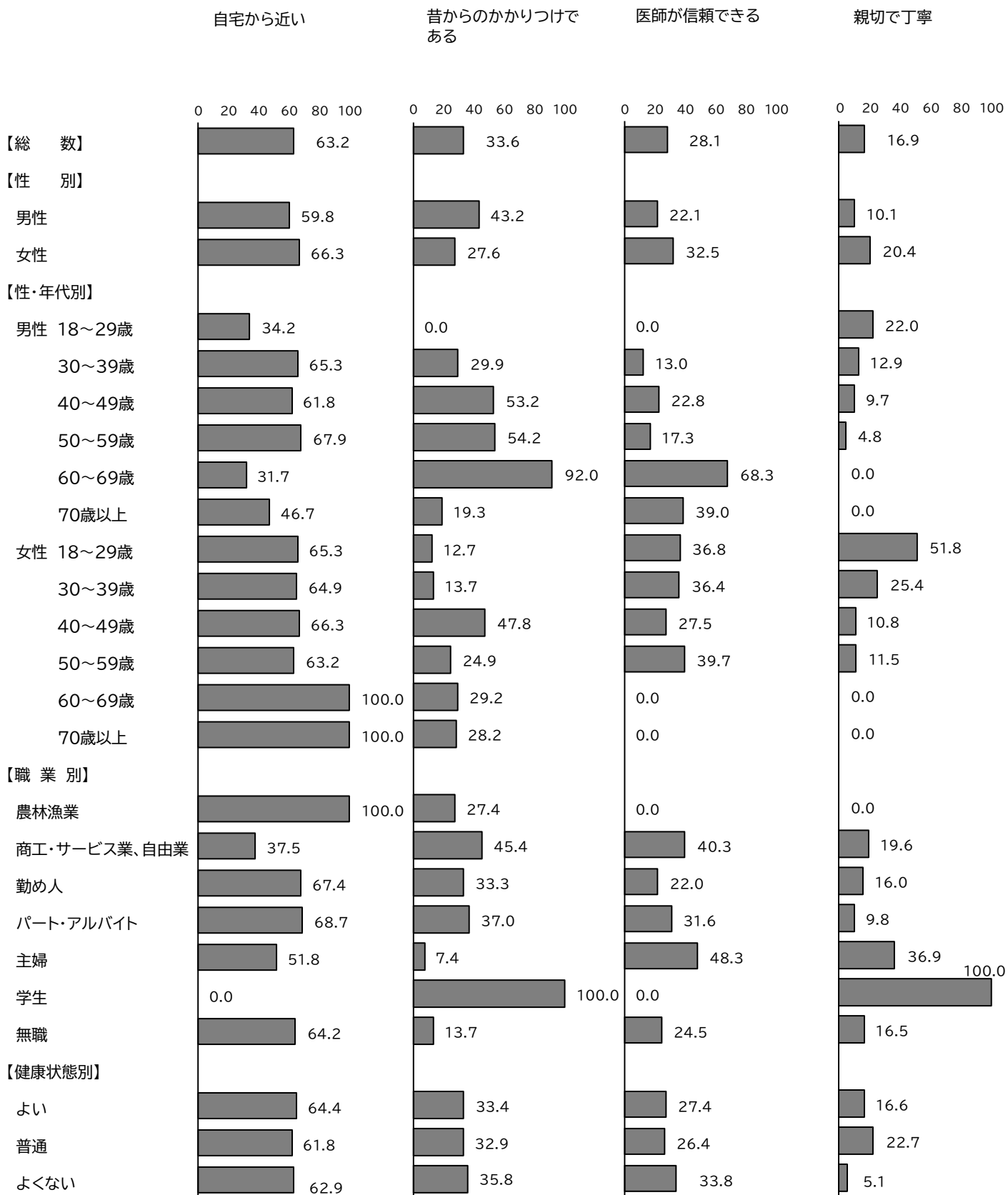
「親切で丁寧」は健康状態がよくない(5.1%)に比べ、健康状態がよい(16.6%)の方が多くなっている。

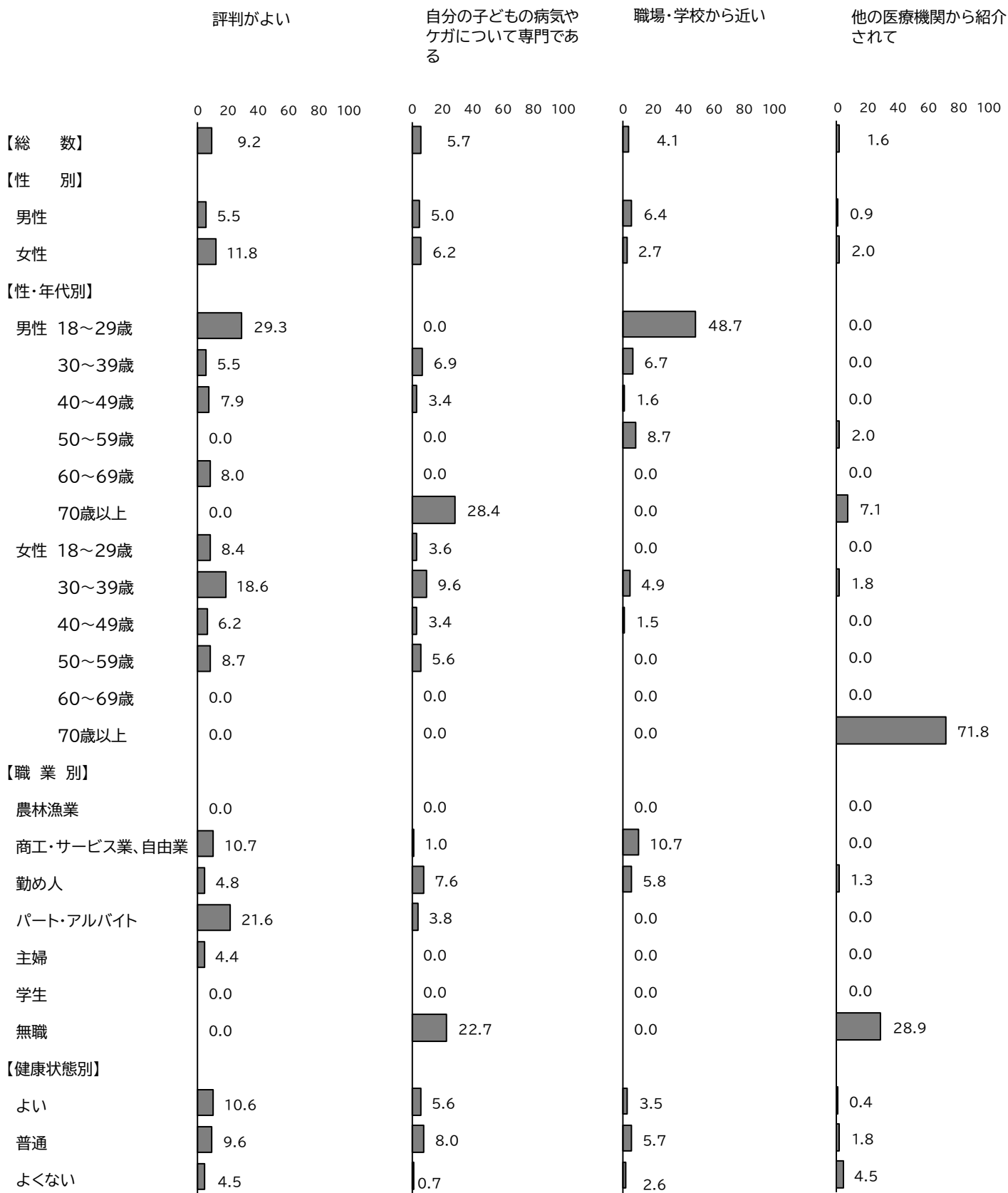
図7-10 子どものかかりつけ医を決めている理由

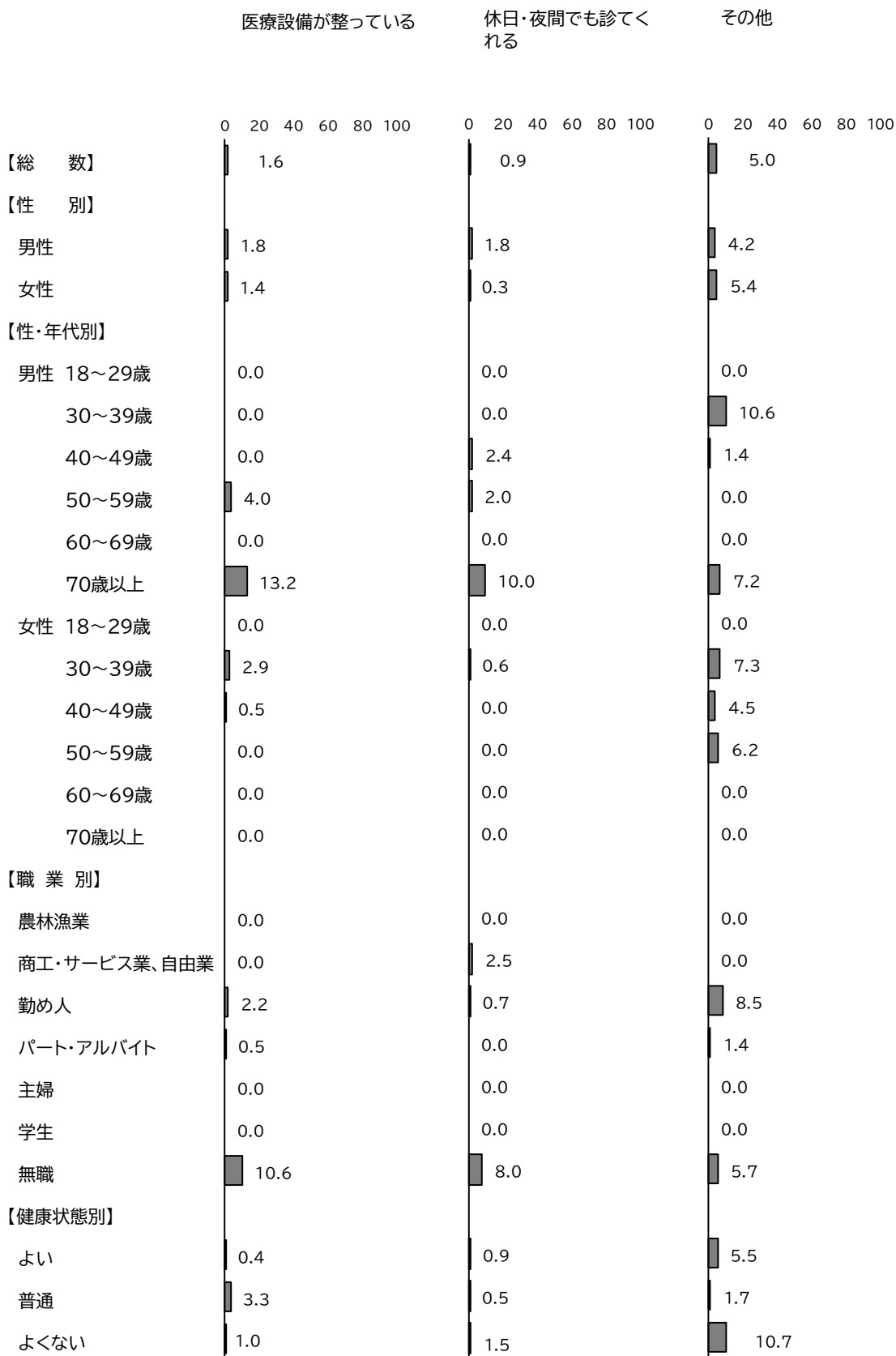












(6) 子どものかかりつけ医師を決めていない理由

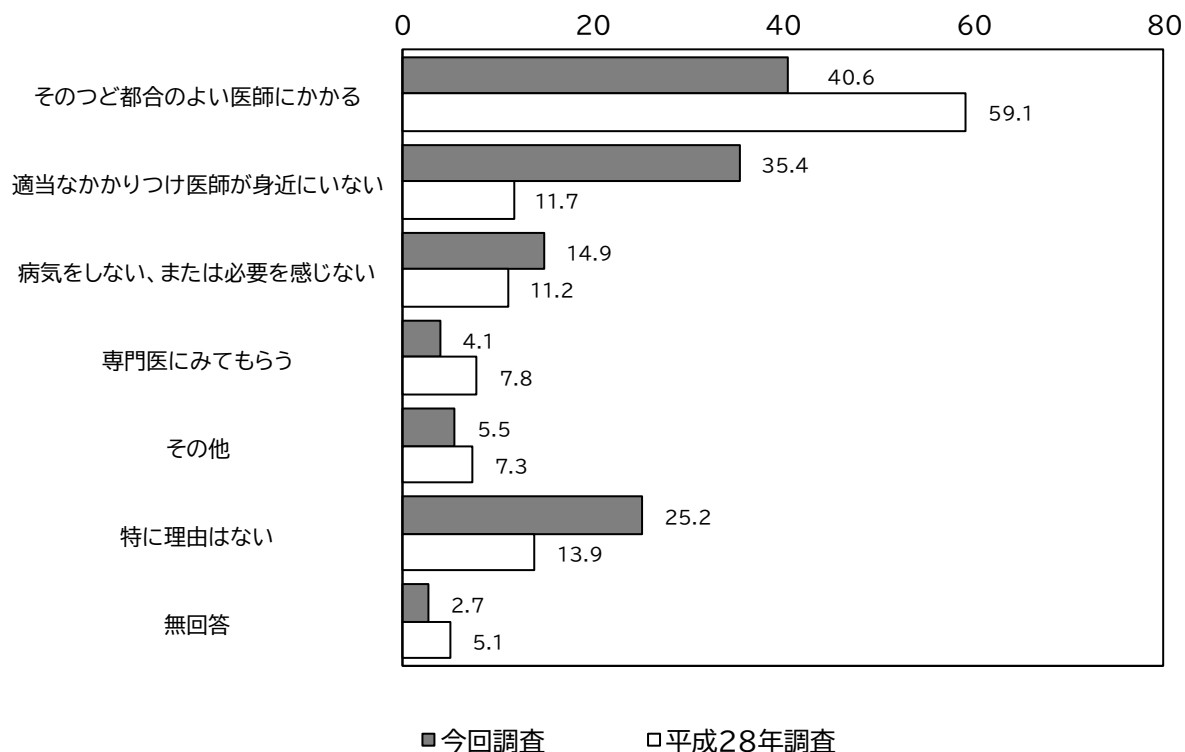
～「そのつど都合のよい医師にかかる」40.6%が最も多い～

問14-2 かかりつけ医師を決めていないのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

図7-11

(n=子どものかかりつけ医師を決めていない人)



かかりつけ医師を決めない理由については、「そのつど都合のよい医師にかかる」が40.6%と最も多くなっている。次いで「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が35.4%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「そのつど都合のよい医師にかかる」は少なくなっており、「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が多くなっている。

◆地域別

吾妻保健医療圏では「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が62.5%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「そのつど都合のよい医師にかかる」は女性(36.7%)に比べ、男性(43.4%)の方が多くなっている。一方、「適当なかかりつけ医師が身近にいない」は男性(28.5%)に比べ、女性(45.2%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「病気をしない、または必要を感じない」は女性60代では77.0%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

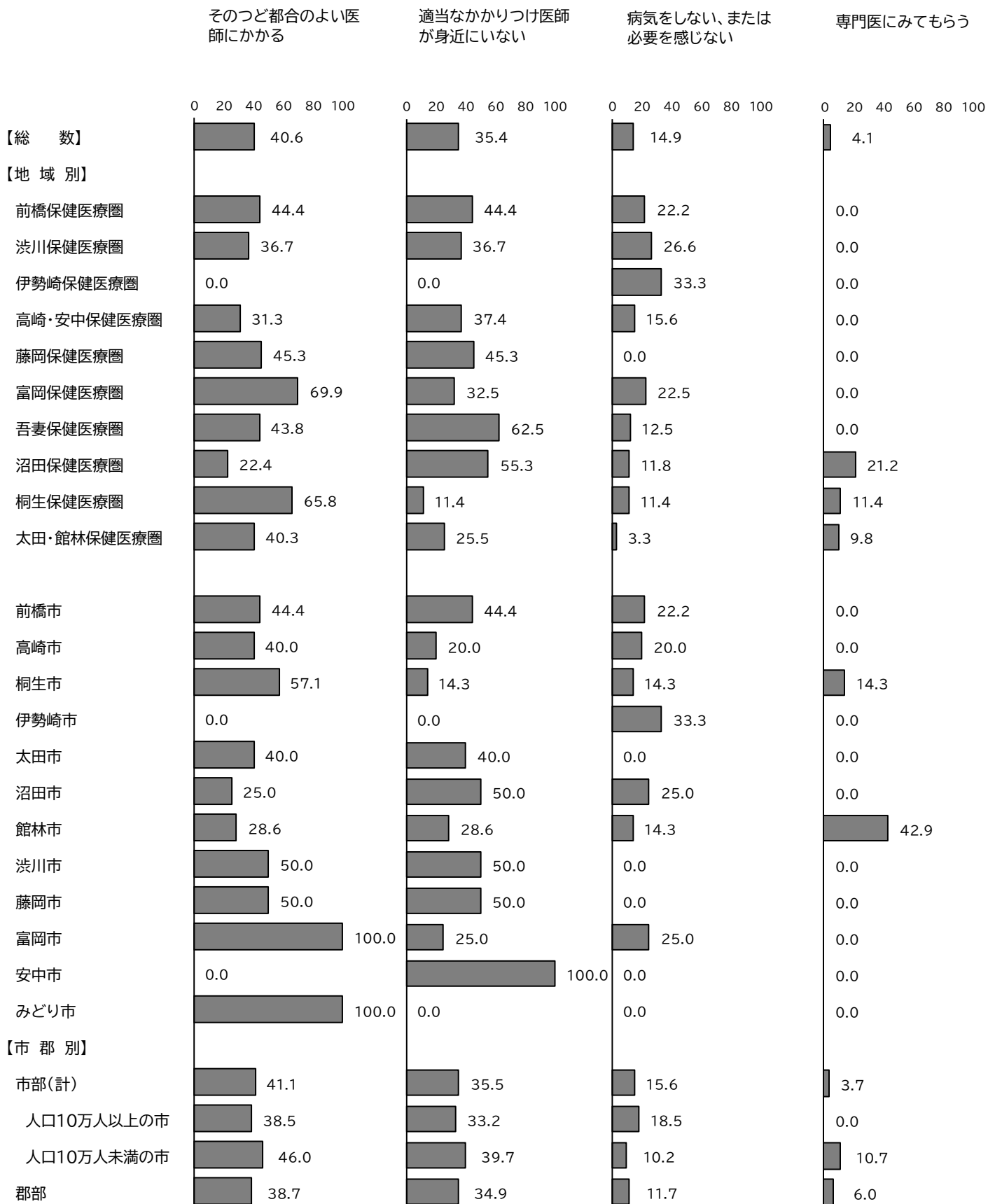
◆職業別

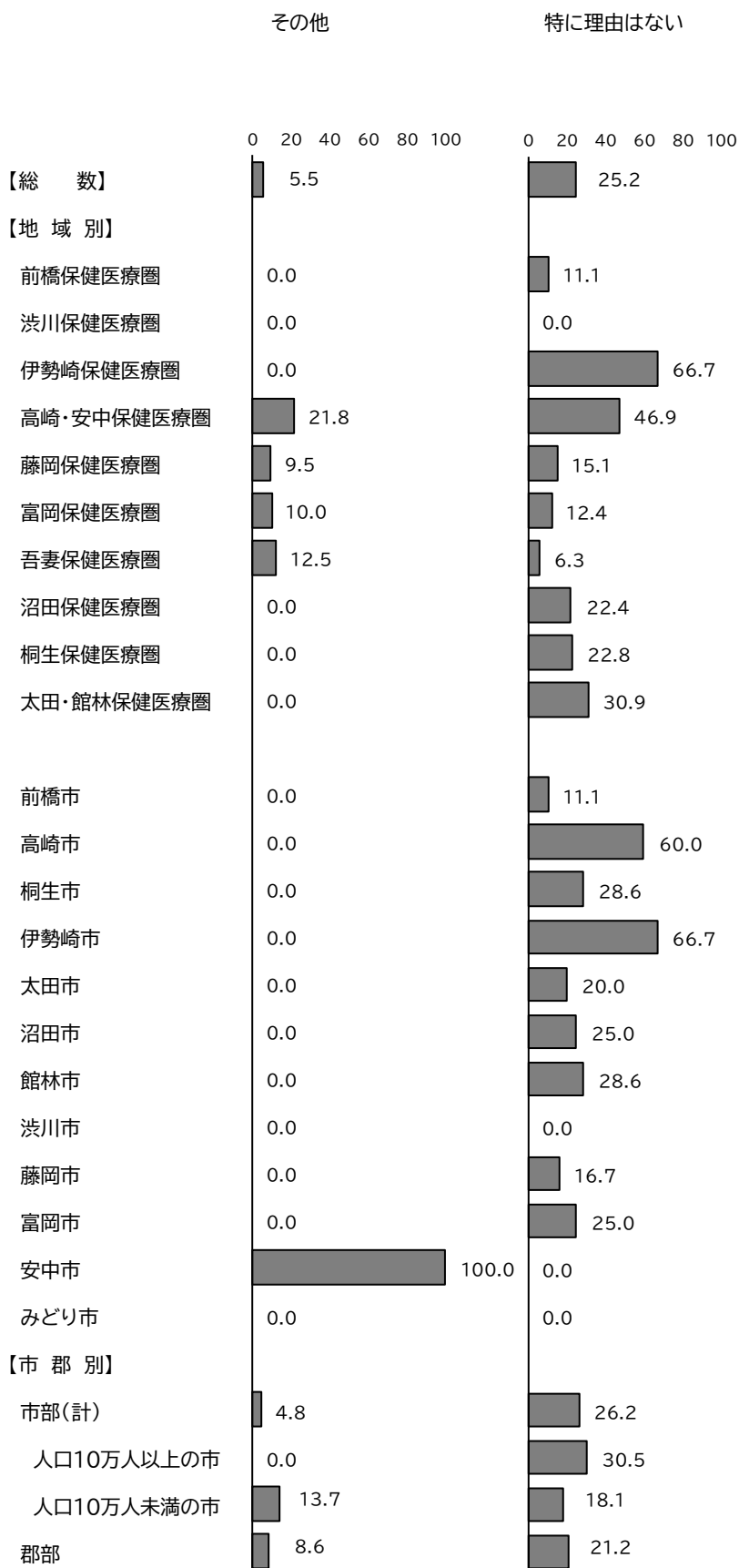
「そのつど都合のよい医師にかかる」は勤め人とパート・アルバイトが他の職業に比べ多くなっている。

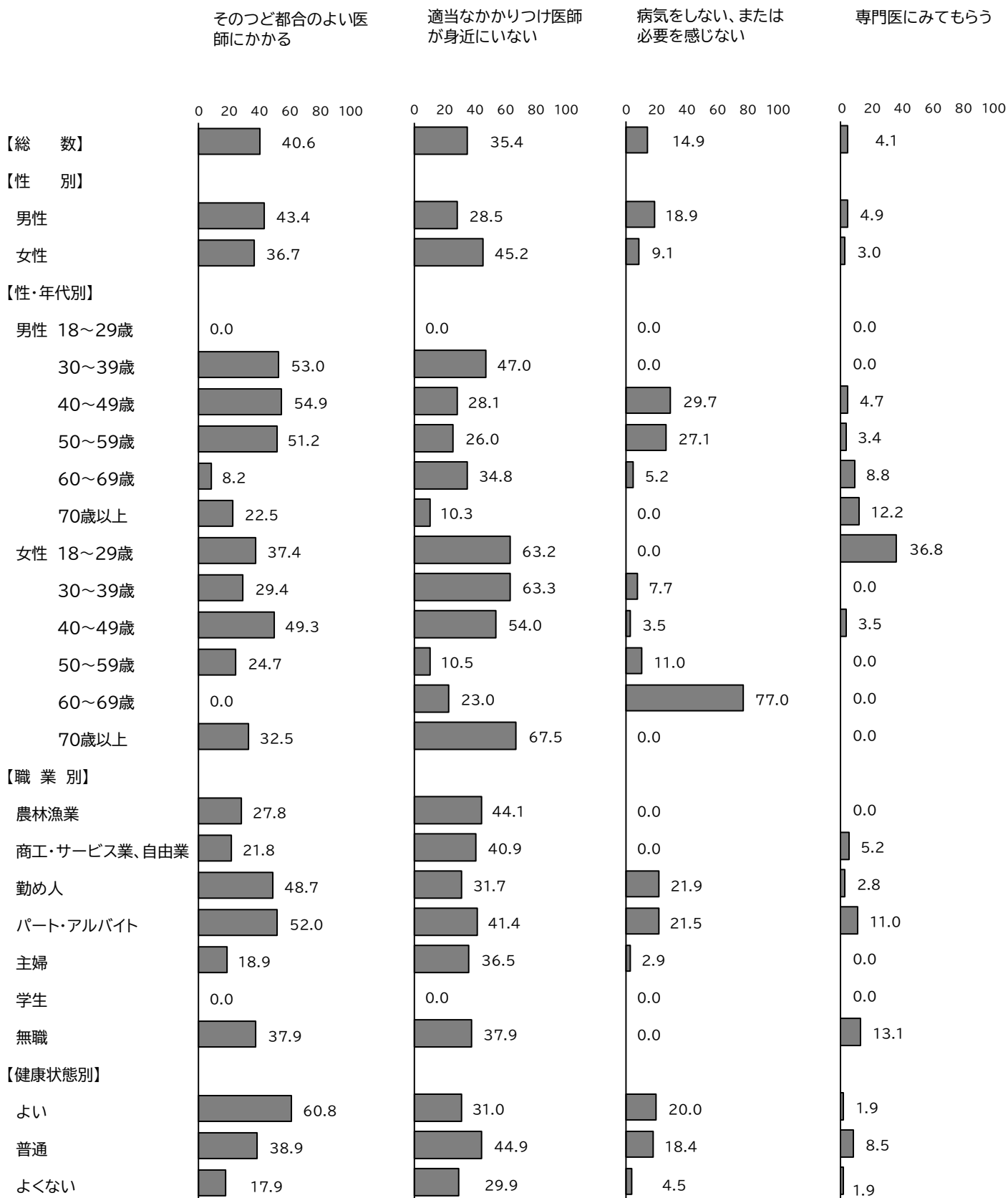
◆健康状態別

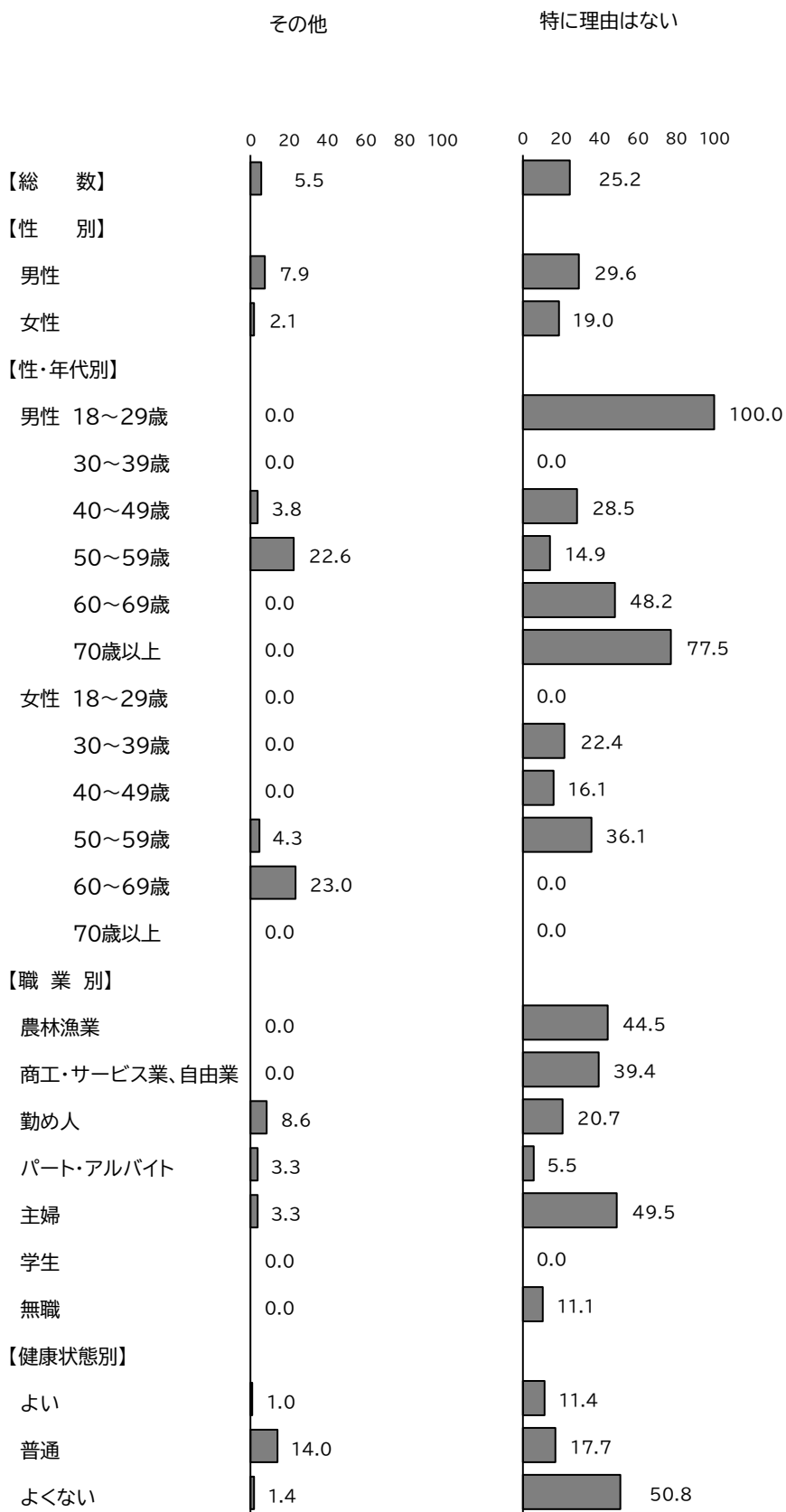
「そのつど都合のよい医師にかかる」は健康状態がよくない(17.9%)に比べ、健康状態がよい(60.8%)の方が多くなっている。

図7-12 子どものかかりつけ医師を決めていない理由



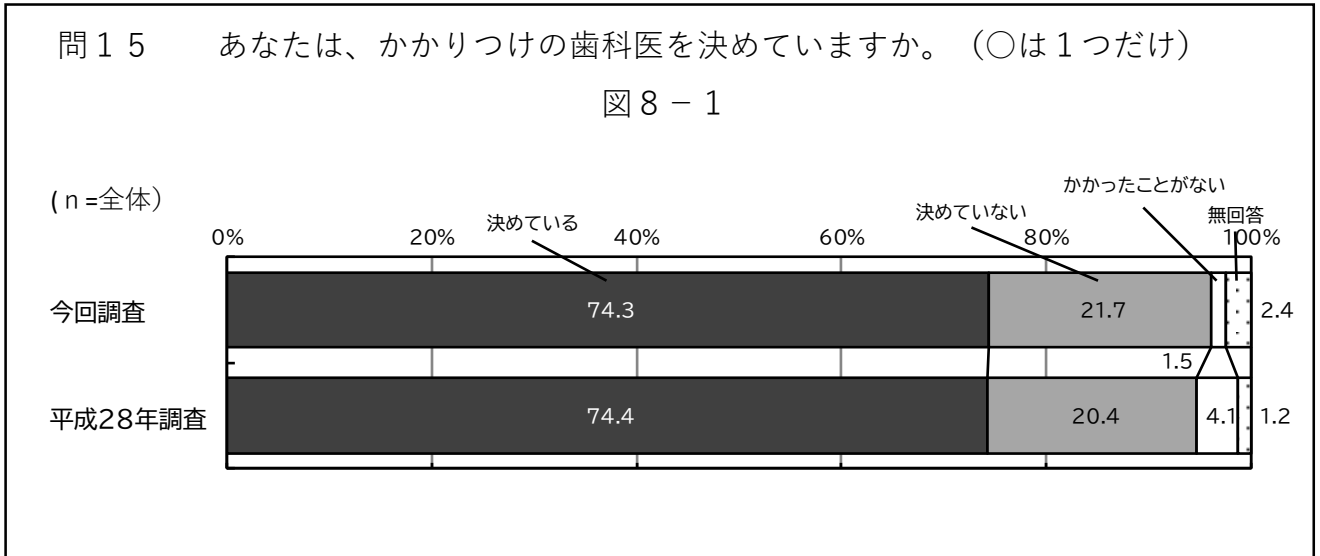






(1) かかりつけ歯科医の有無

～「決めている」74.3%が最も多い～



かかりつけ歯科医については、「決めている」が74.3%と最も多くなっている。また、「決めていない」は21.7%、「かかったことがない」は1.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「決めている」は男性(70.8%)に比べ、女性(78.3%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「決めている」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられる。

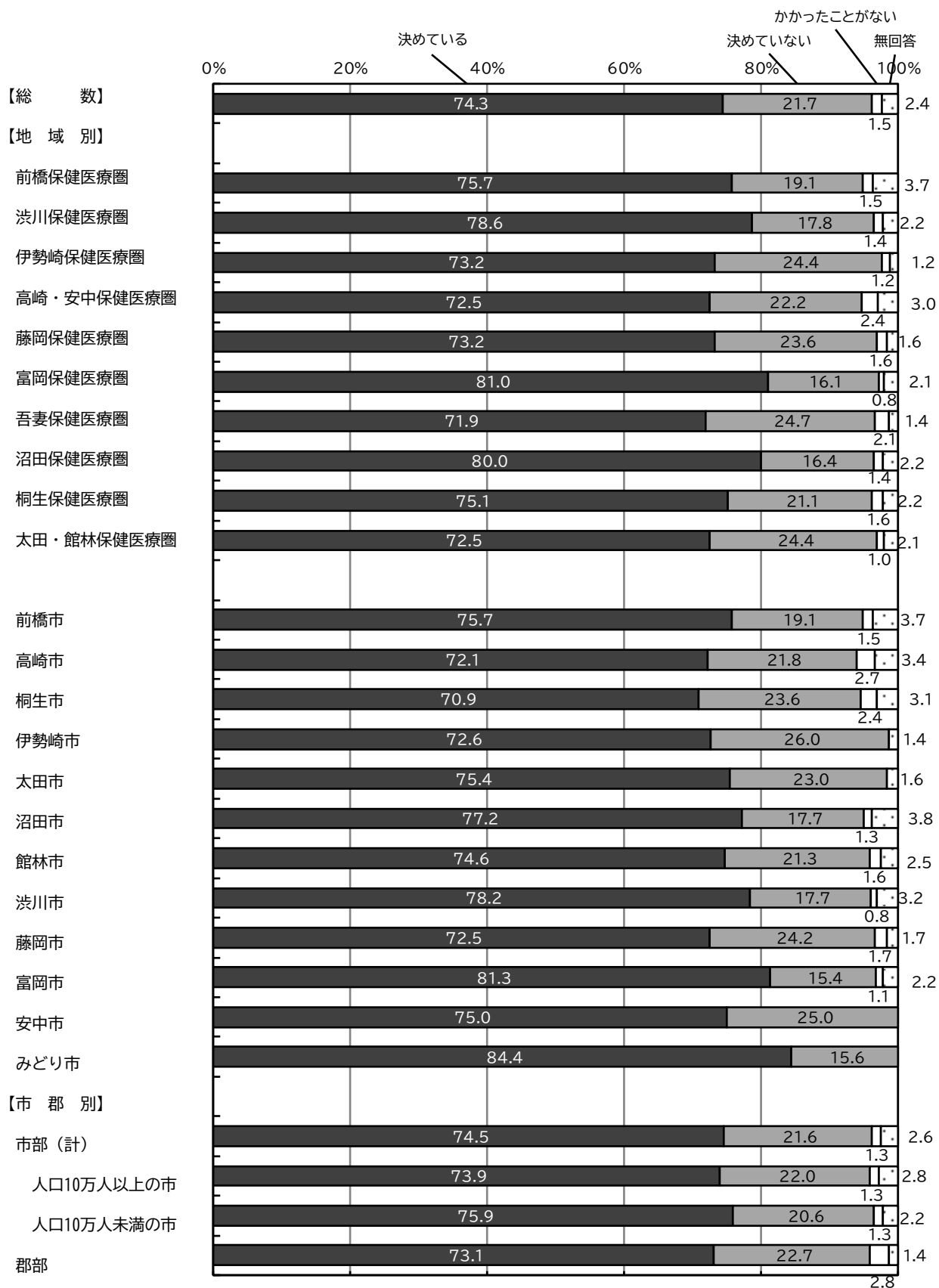
◆職業別

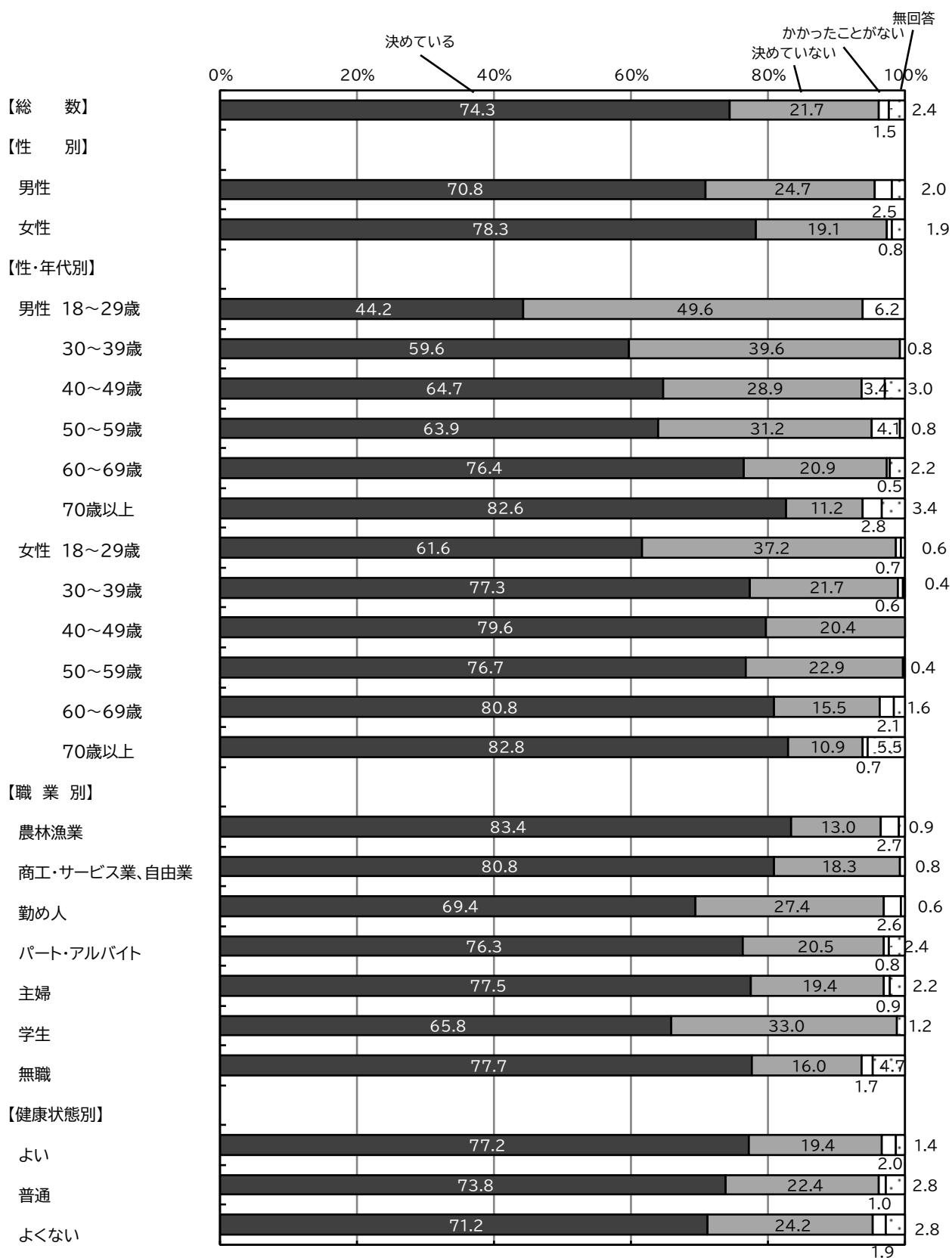
学生と勤め人を除くと、いずれの職業も「決めている」が70.0%を超えている。特に、農林漁業は83.4%と他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよくない(71.2%)に比べ、健康状態がよい(77.2%)の方が多くなっている。

図8-2 かかりつけ歯科医の有無





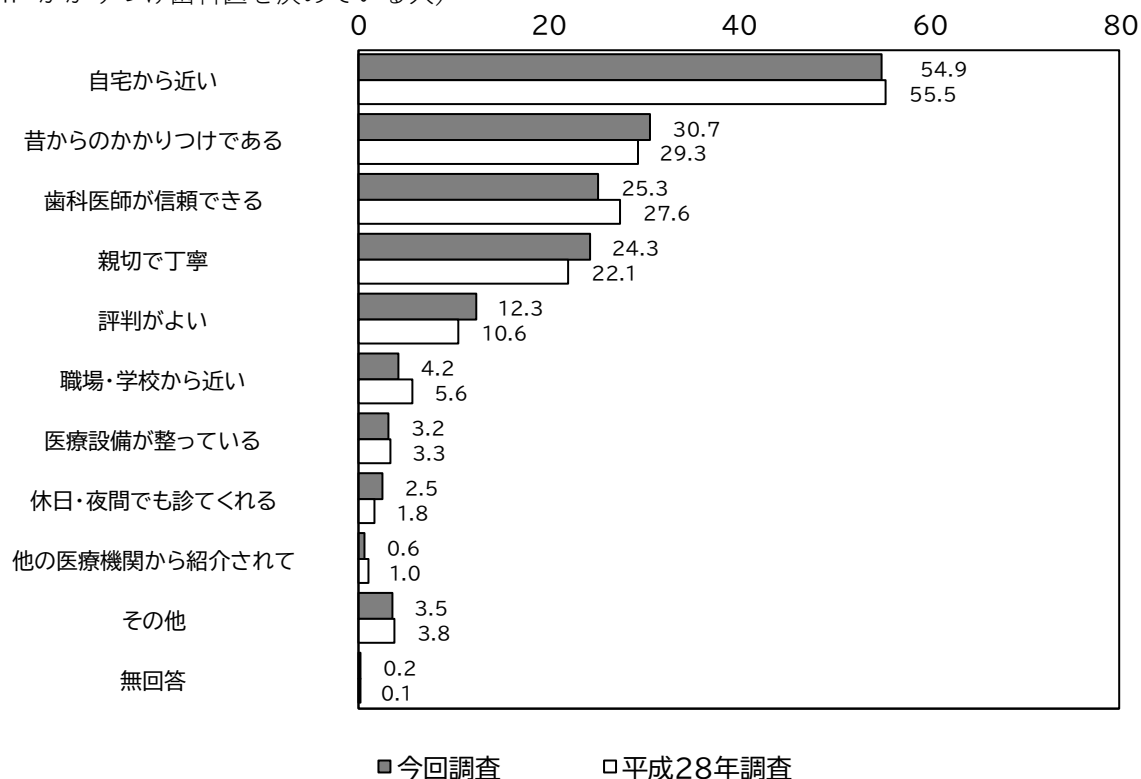
(2) かかりつけ歯科医を決めている理由

～「自宅から近い」54.9%が最も多い～

問15-1 その歯科医に決めたのはなぜですか。(○は2つまで)

図8-3

(n=かかりつけ歯科医を決めている人)



*平成28年調査では「職場・学校から近い」は「職場から近い」で聴取

かかりつけ歯科医を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が54.9%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が30.7%、「歯科医師が信頼できる」が25.3%、「親切で丁寧」が24.3%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっている。また、沼田保健医療圏は「昔からのかかりつけである」が41.6%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「歯科医師が信頼できる」は郡部(18.5%)に比べ、市部(26.5%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「自宅から近い」は男性(51.4%)に比べ、女性(57.7%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

20代以下女性を除いて、いずれの性別・年代も「自宅から近い」が最も多くなっている。

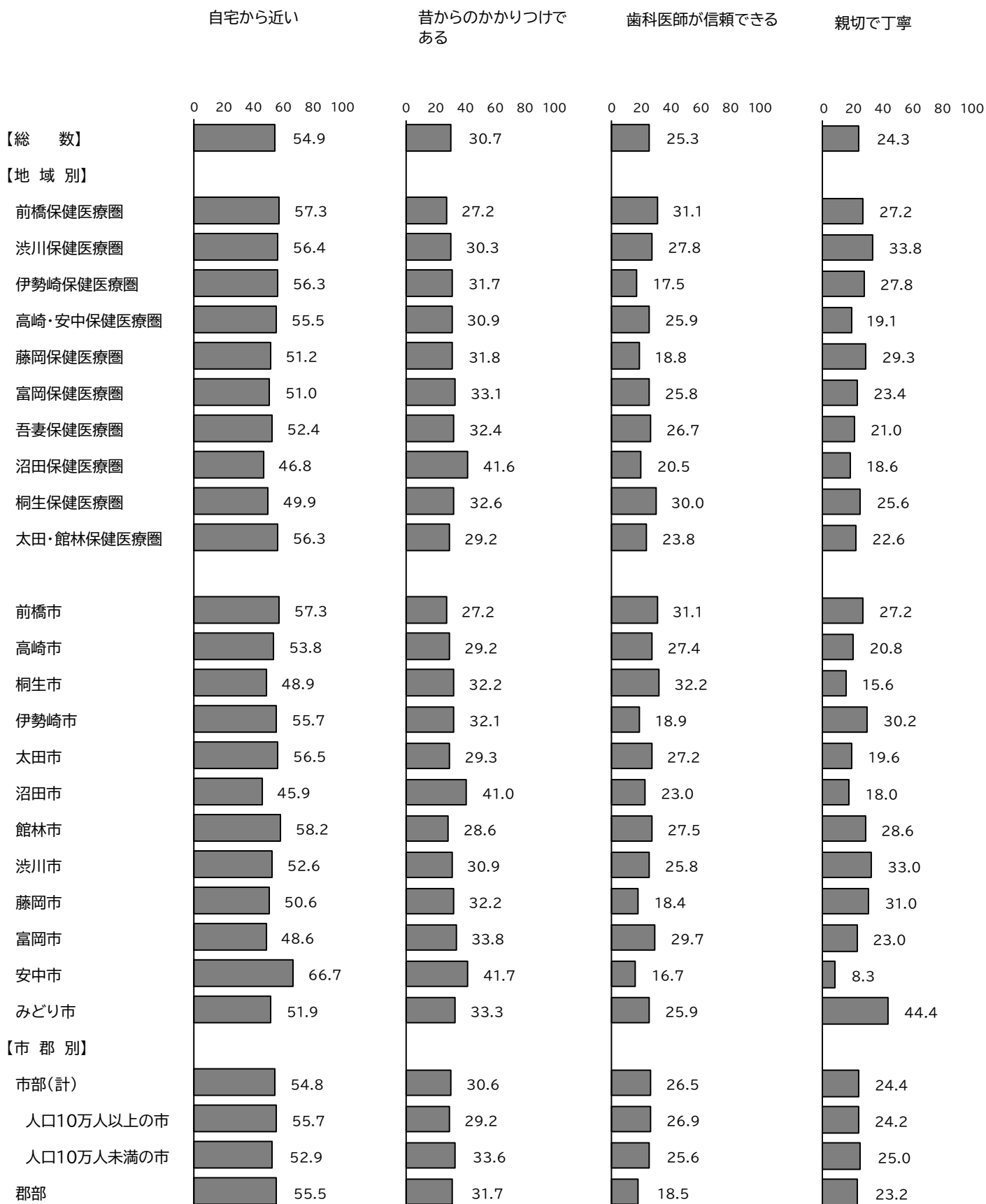
◆職業別

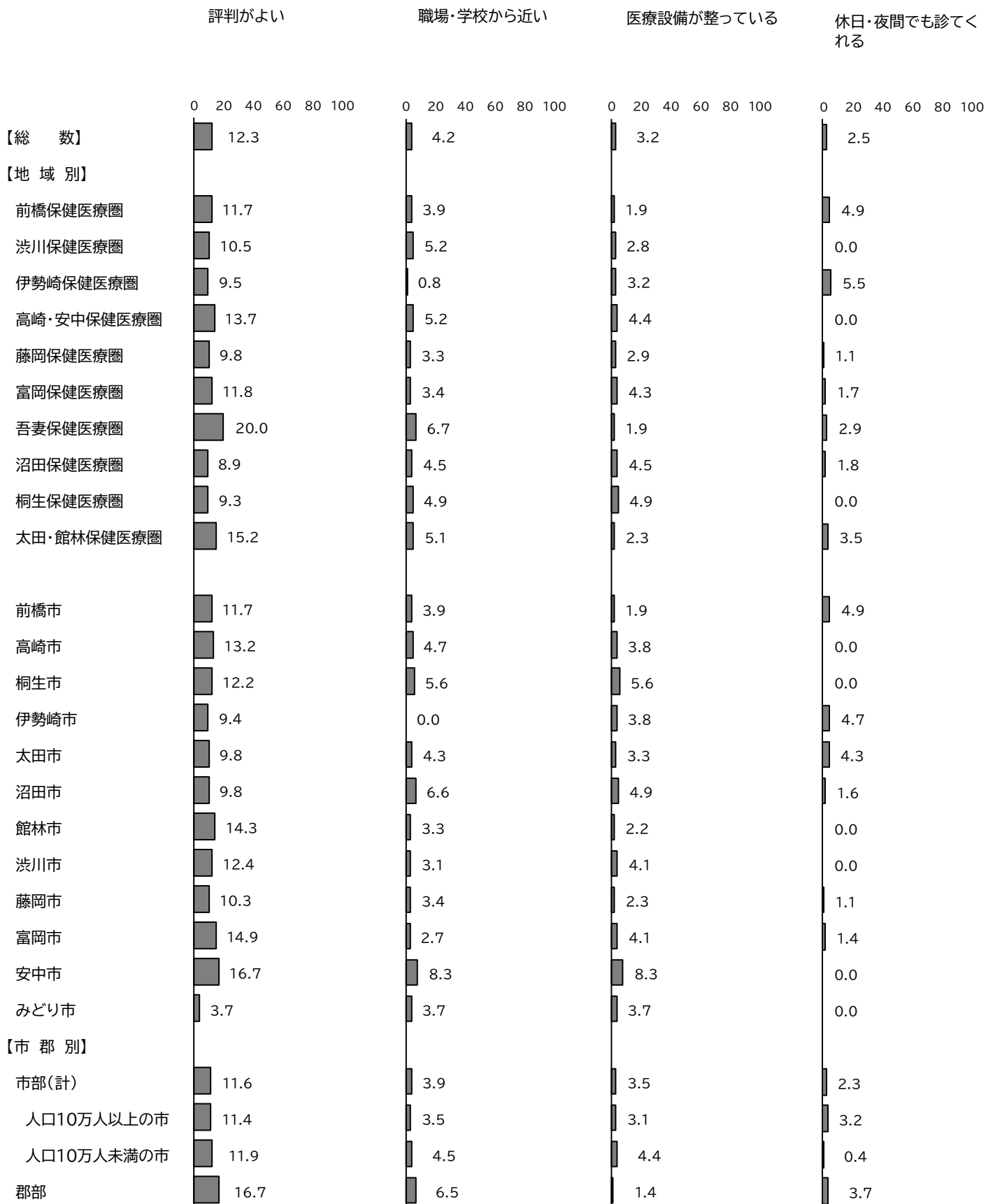
農林漁業を除くといずれの職業も「自宅から近い」が最も多くなっている。また、農林漁業は「歯科医師が信頼できる」が45.7%となっており、他の職業に比べ多くなっている。

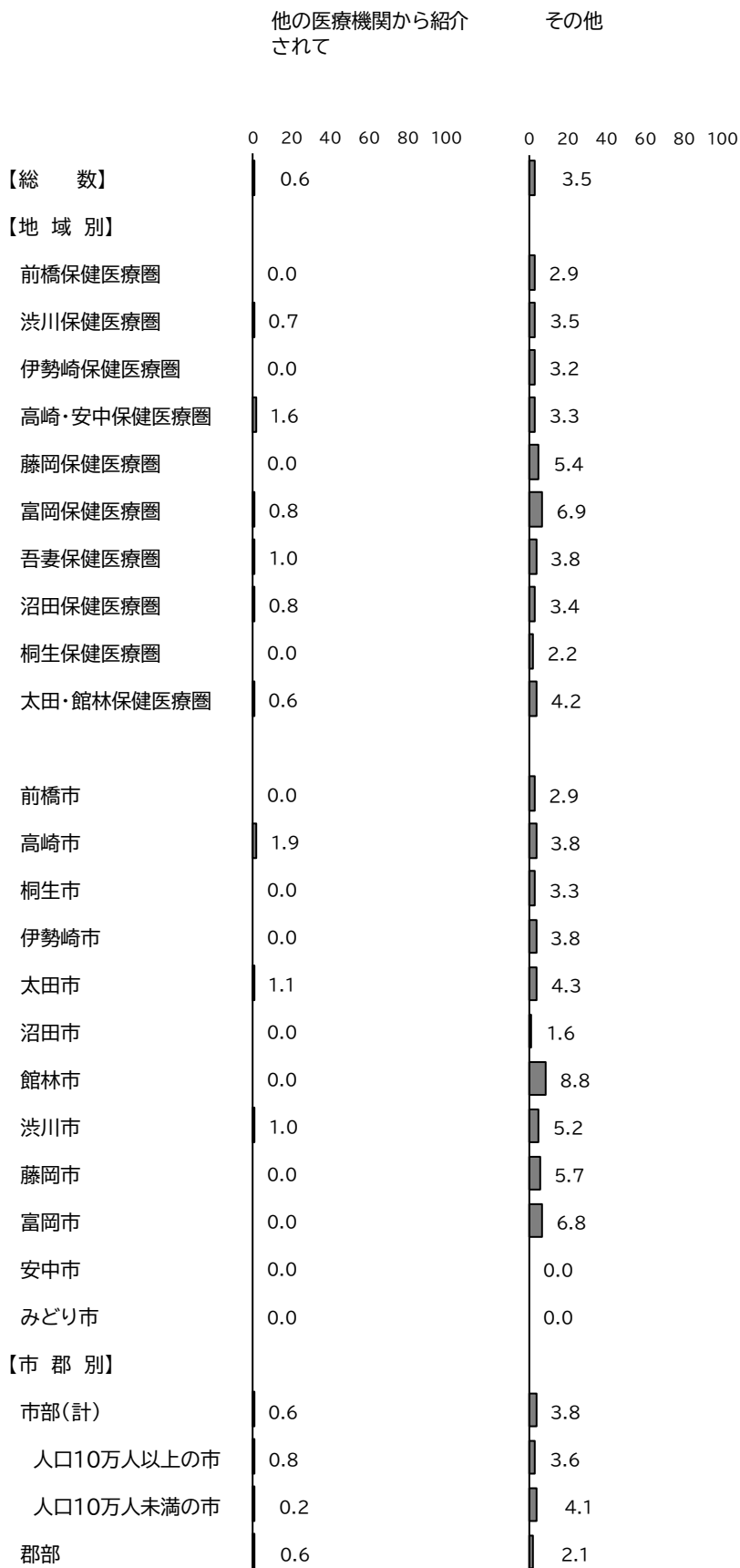
◆健康状態別

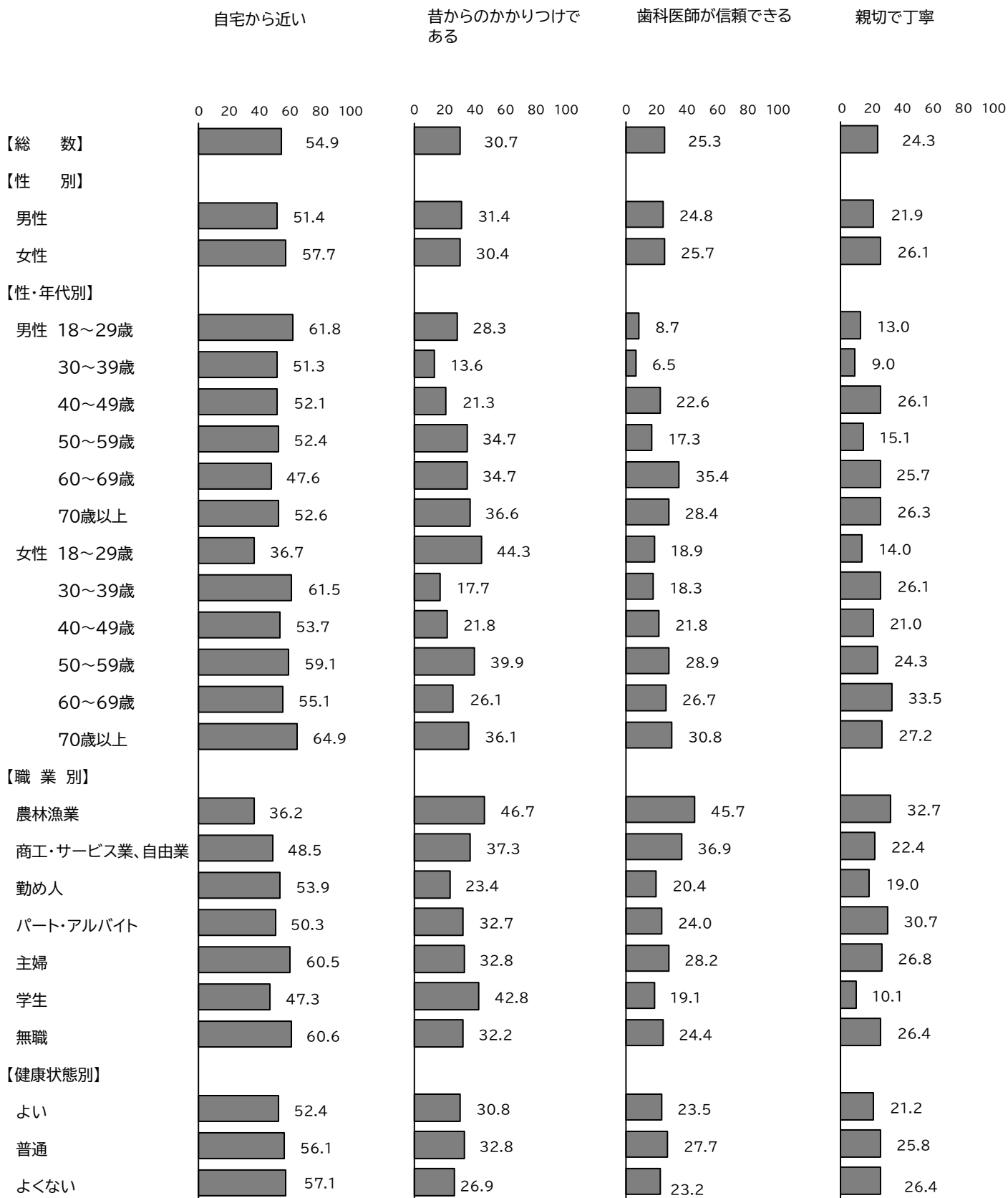
「評判がよい」は健康状態がよくない(9.5%)に比べ、健康状態がよい(17.1%)の方が多くなっている。

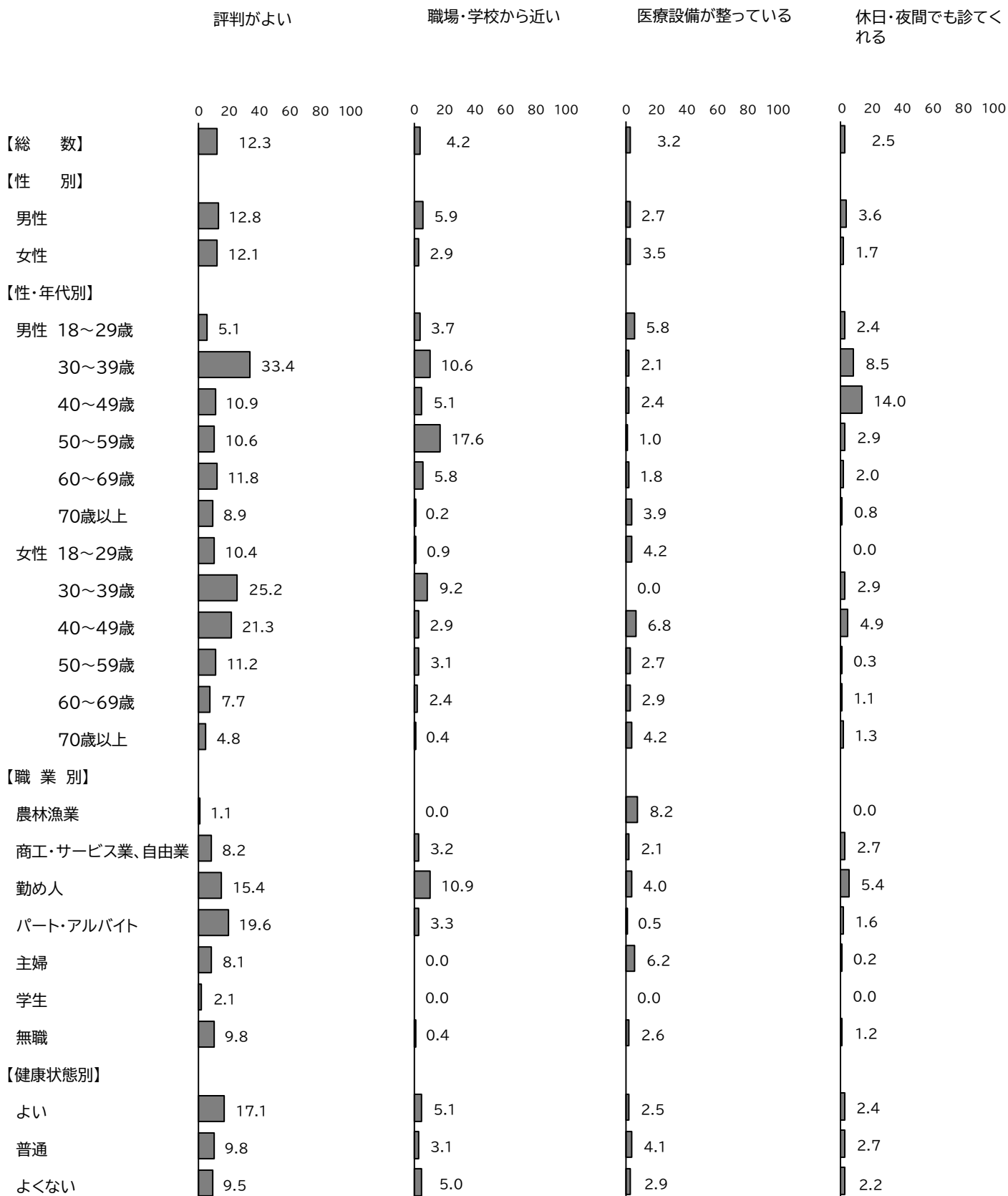
図8-4 かかりつけ歯科医を決めている理由

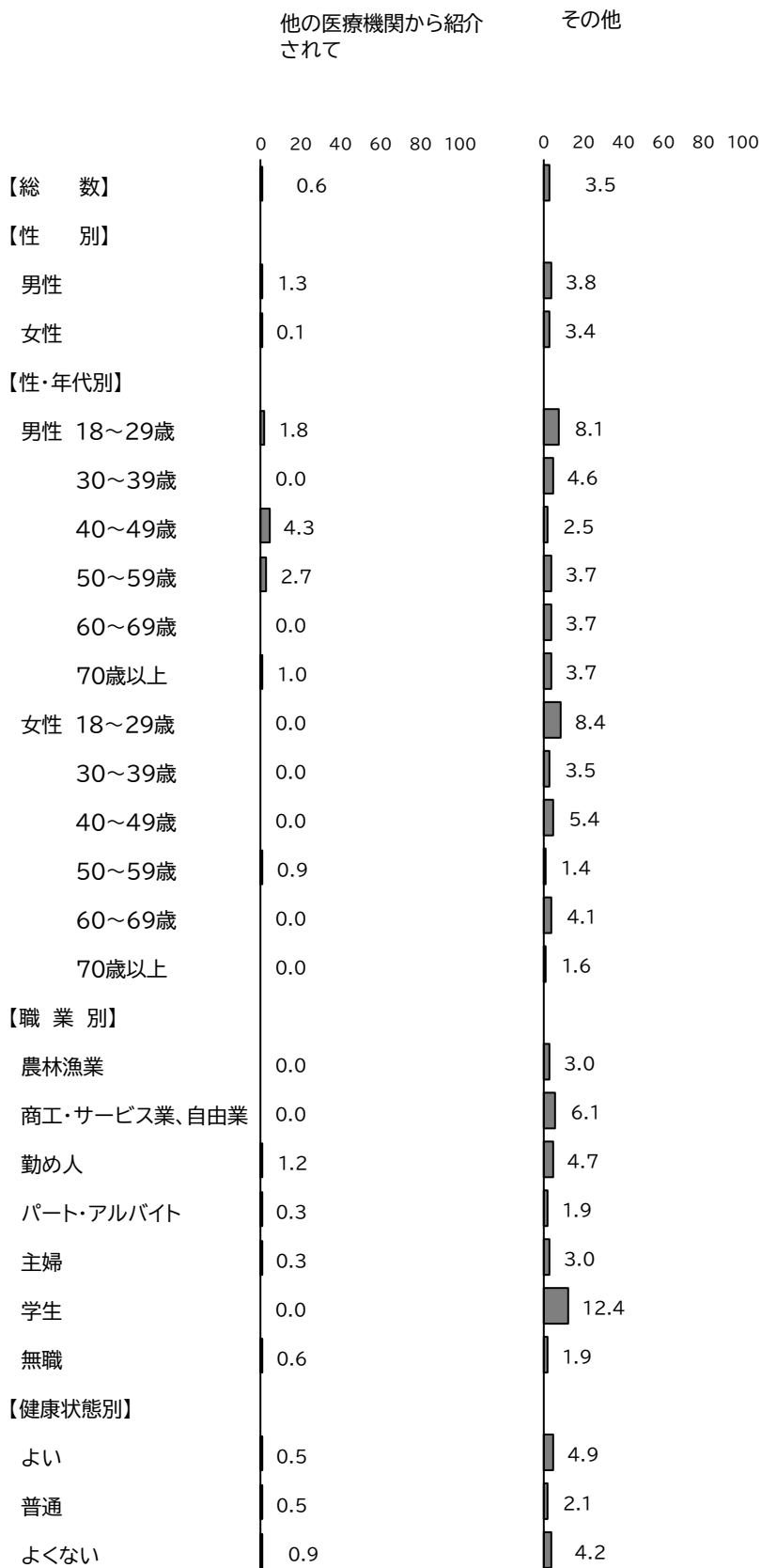












(1) 歯科の保健医療についての要望

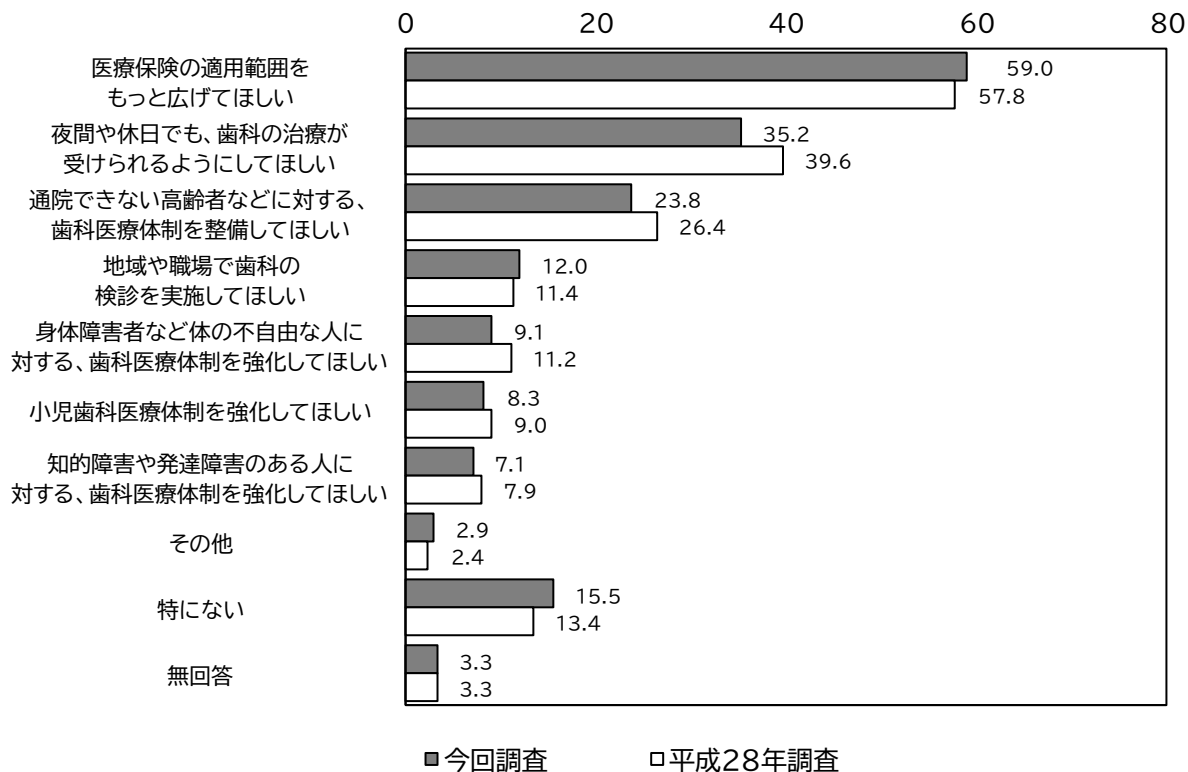
～「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」59.0%、「夜間や休日でも、
 歯科の治療が受けられるようにしてほしい」35.2%～

問16 あなたは、歯科の保健医療についてどのようなことを望みますか。

(○はあてはまるものすべて)

(n=全体)

図9-1



歯科の保健医療についての要望としては、「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が59.0%と最も多く、次いで「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」が35.2%、「通院できない高齢者などに対する、歯科医療体制を整備してほしい」が23.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」がやや少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が最も多くなっている。また、吾妻保健医療圏は「通院できない高齢者などに対する、歯科医療体制を整備してほしい」が30.1%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」は郡部(54.5%)に比べ、市部(59.8%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」は女性(30.3%)に比べ、男性(41.2%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」は女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、男性と女性とも高い年代ほど「通院できない高齢者などに対する、歯科医療体制を整備してほしい」が多くなる傾向がみられる。

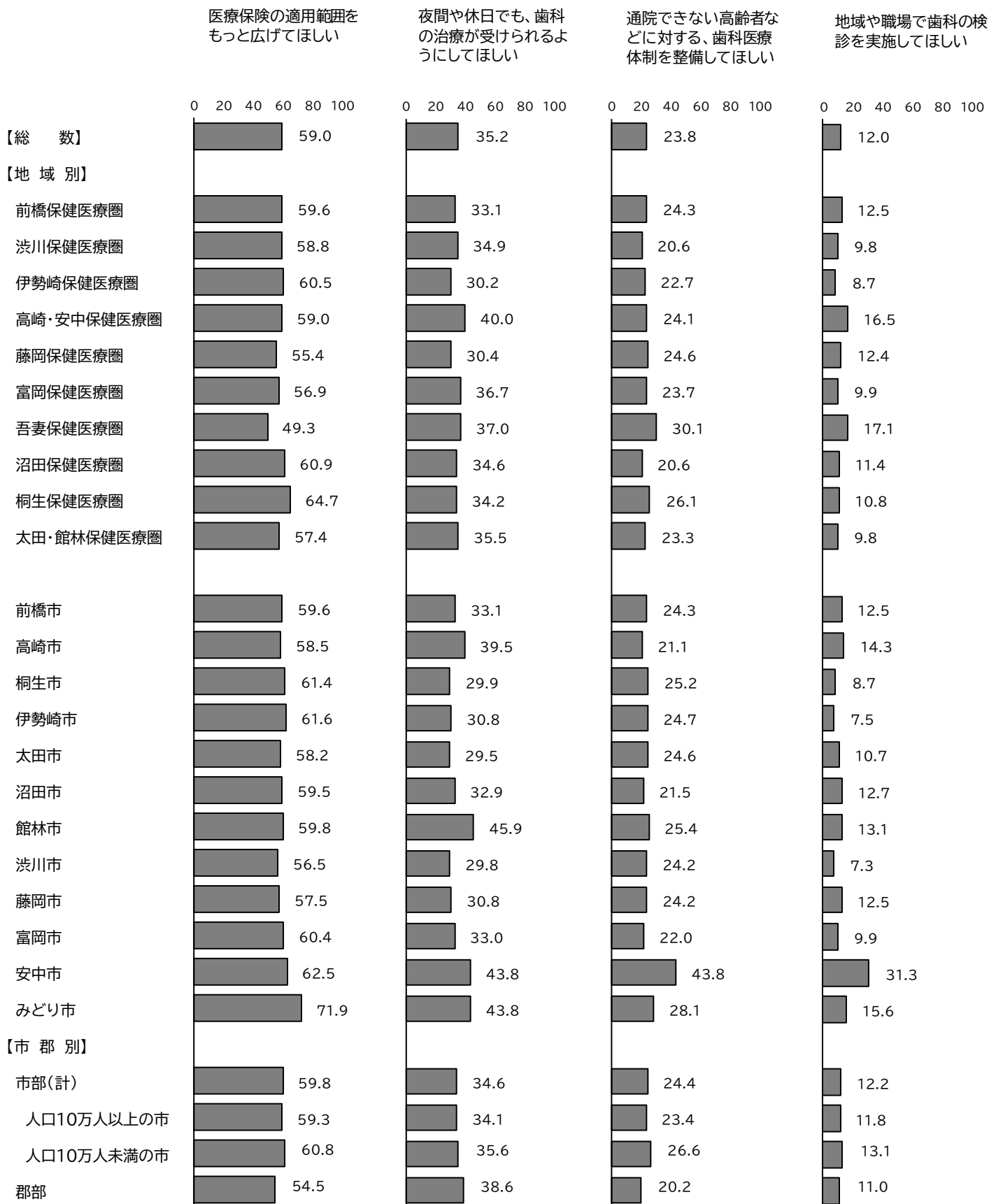
◆職業別

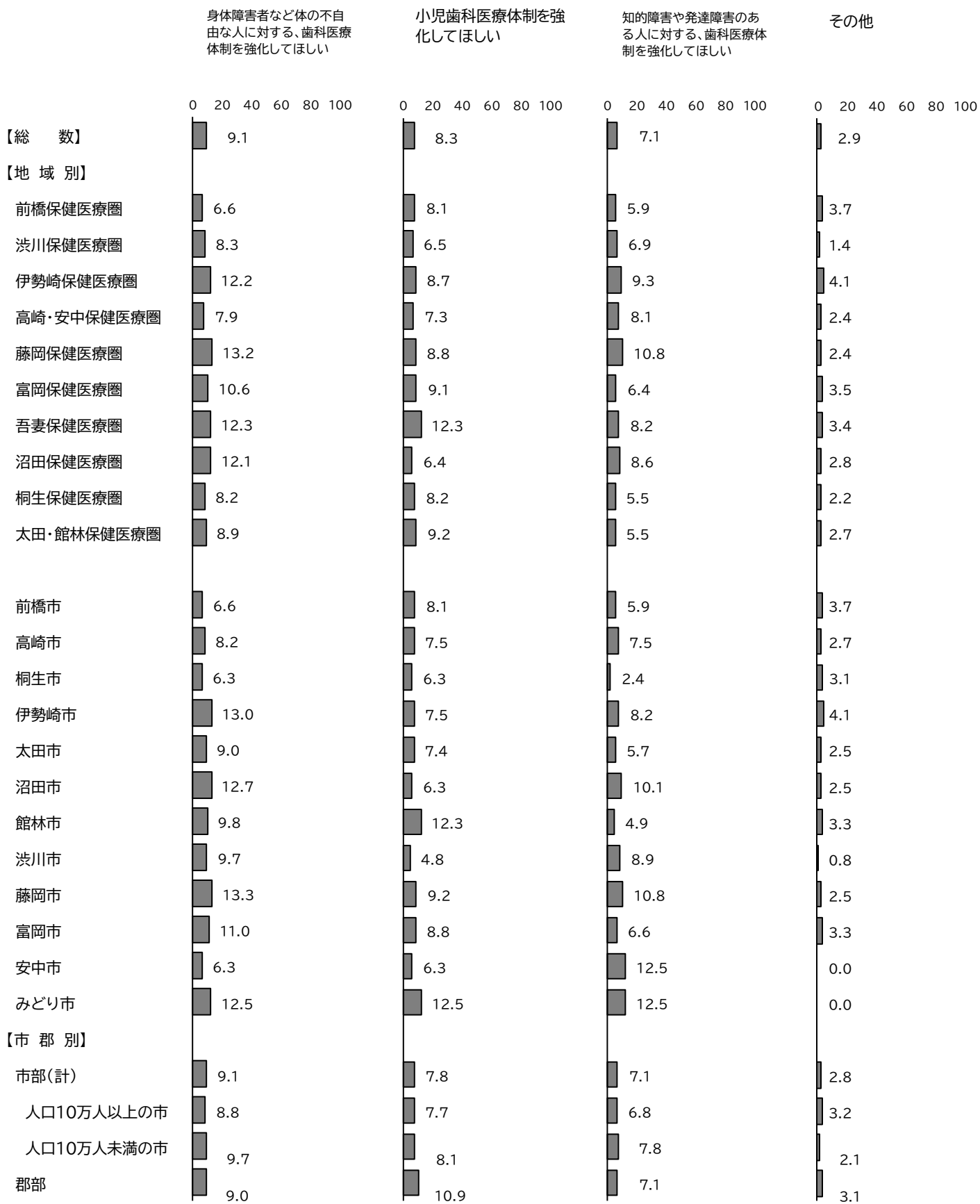
「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」はパート・アルバイト(71.1%)、勤め人(68.8%)、商工・サービス業、自由業(62.8%)で60.0%を超えている。

◆健康状態別

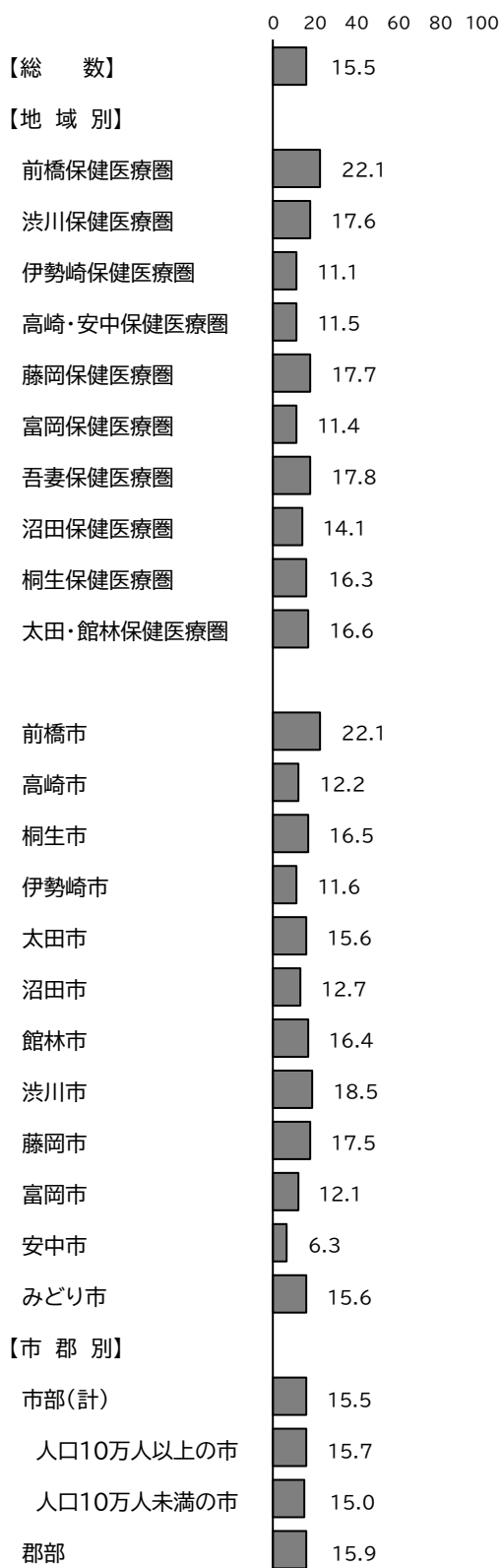
「通院できない高齢者などに対する、歯科医療体制を整備してほしい」は健康状態がよい(19.3%)に比べ、健康状態がよくない(27.4%)の方が多くなっている。

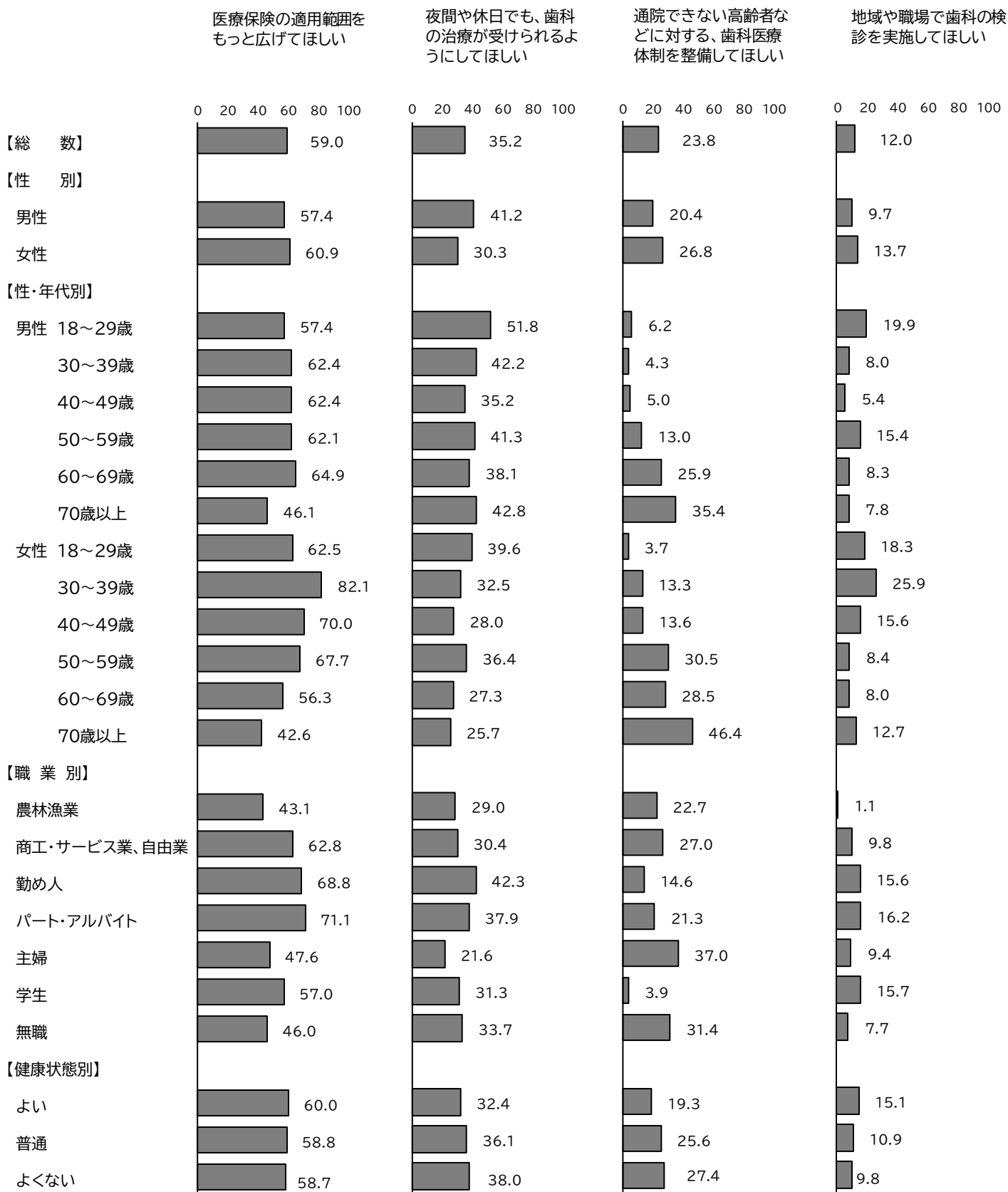
図9-2 歯科の保健医療についての要望

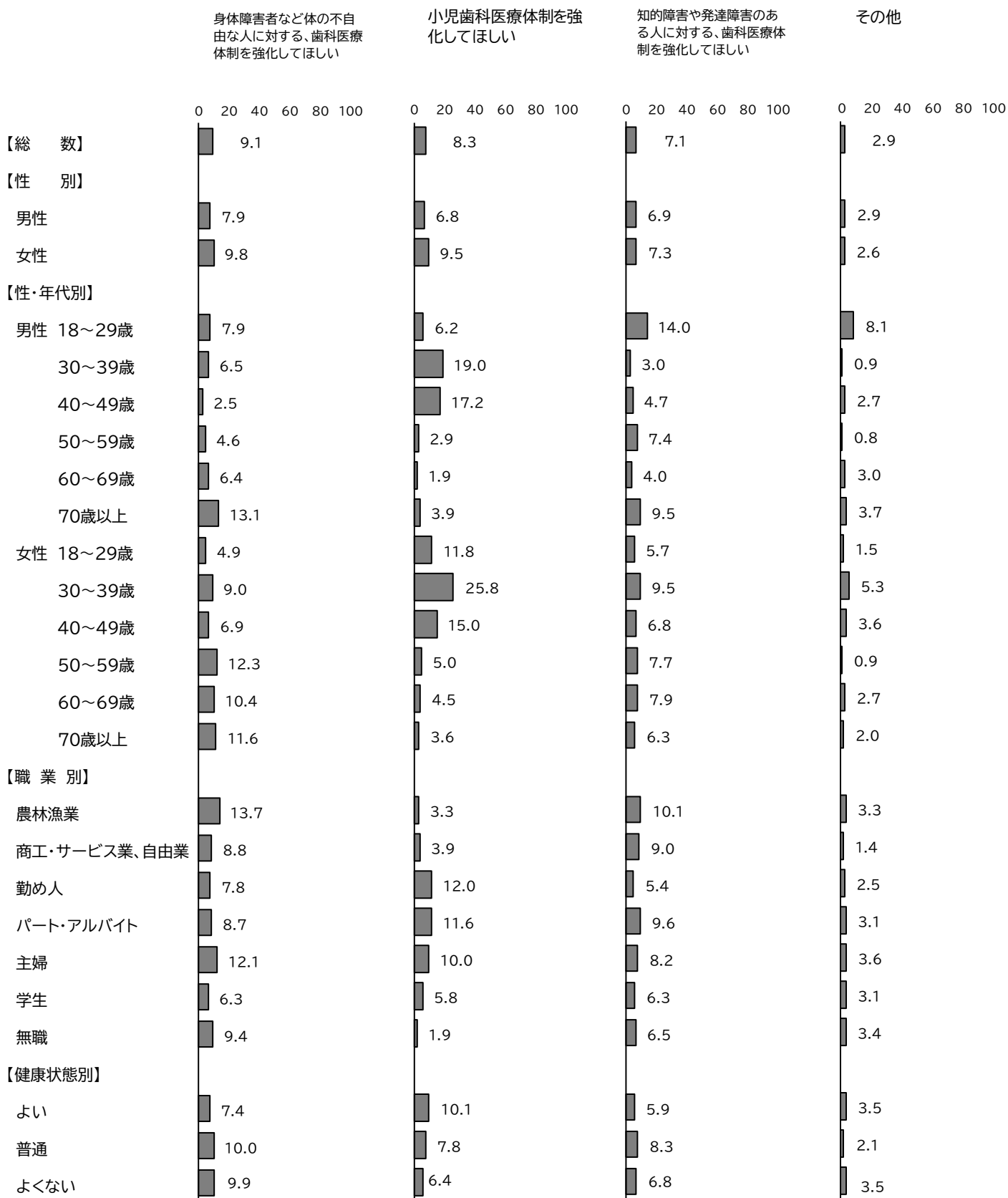




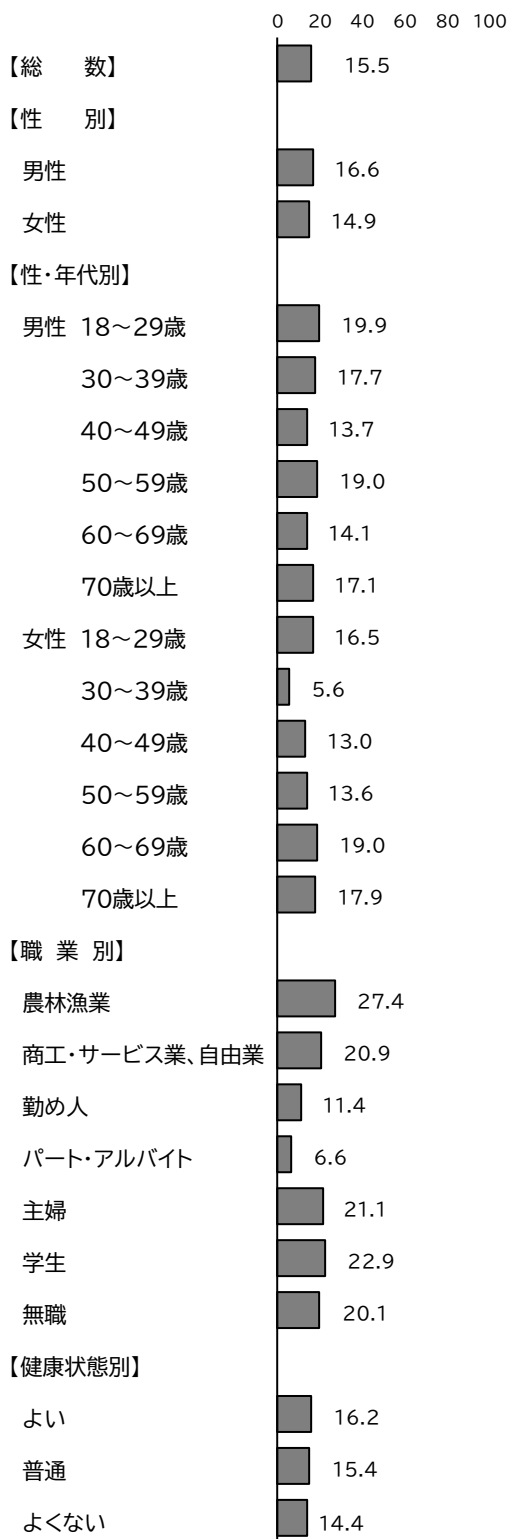
特にない







特になし



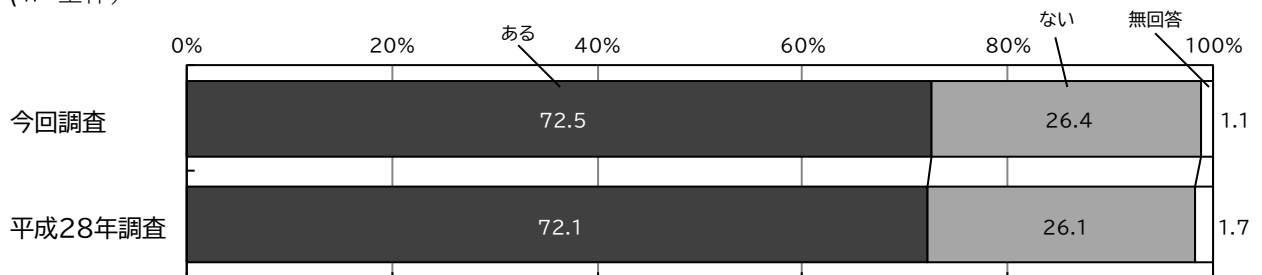
(1) 院外薬局での調剤の有無

～「ある」72.5%が多数～

問17 あなたは、この1年間に、医院（診療所）や病院から処方せんをもらって、院外の薬局で薬を調剤してもらったことがありますか。（○は1つだけ）

図10-1

(n=全体)



この1年間で、薬局で薬を調剤してもらったことが「ある」は72.5%で、「ない」の26.4%を大きく上回っている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「ある」が60.0%を超えている。

◆市郡別

「ある」は郡部(61.8%)に比べ、市部(74.3%)の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

60代男性は「ある」が84.2%となっており、他の性別・年代に比べ多くなっている。

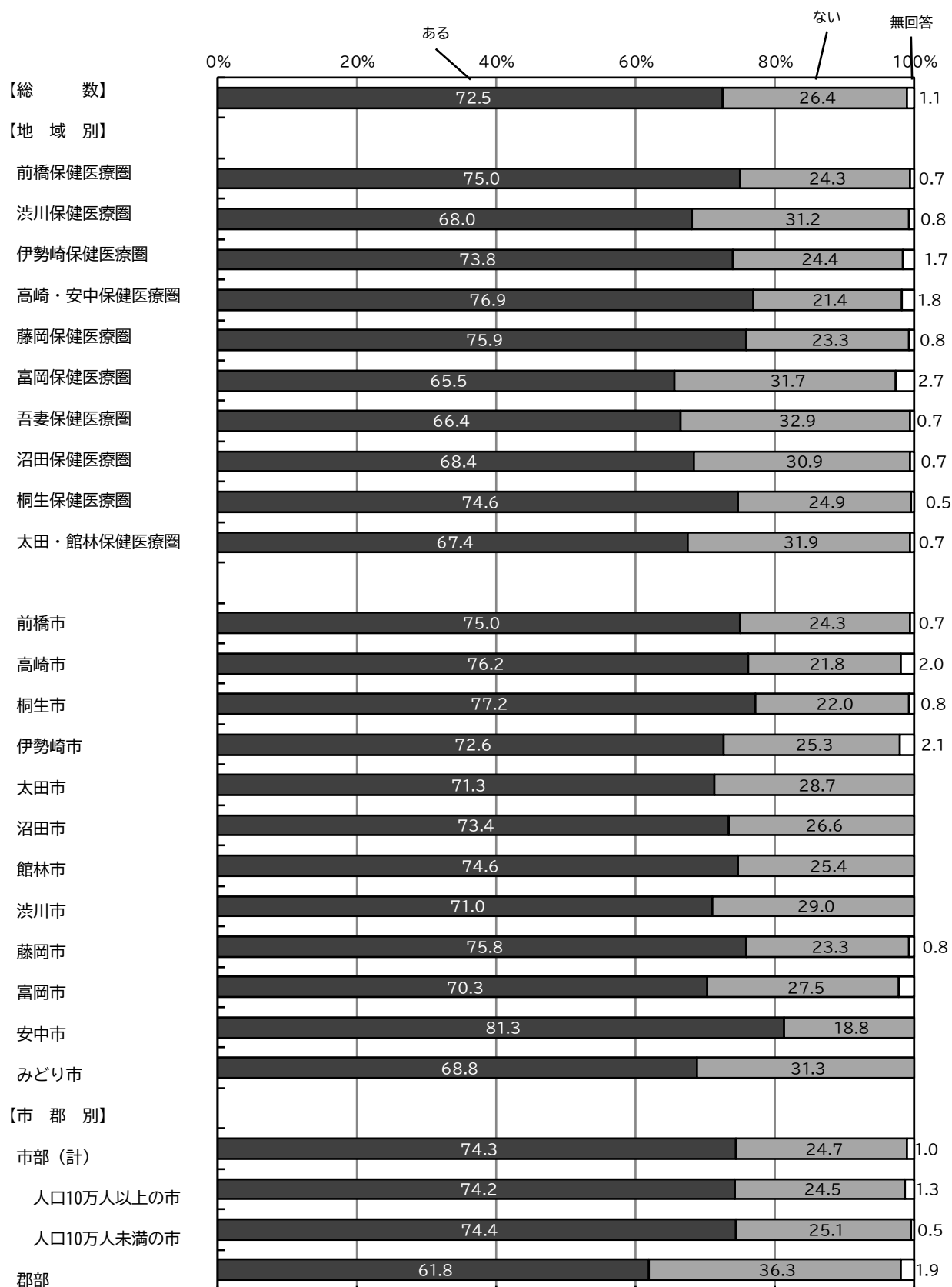
◆職業別

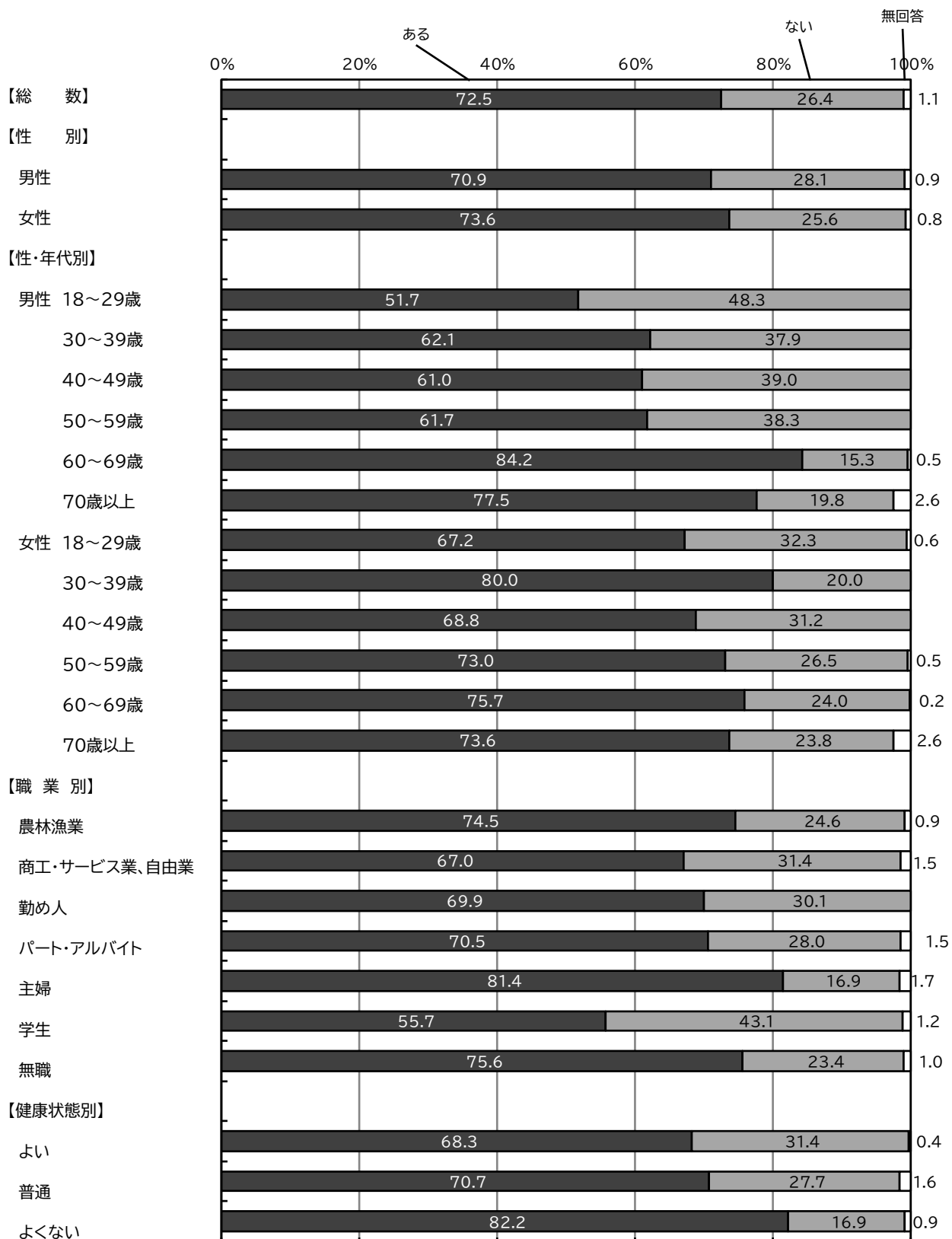
いずれの職業も「ある」が最も多くなっている。特に、主婦では「ある」が81.4%と他の職業に比べて多くなっている。

◆健康状態別

「ある」は健康状態がよい(68.3%)に比べ、健康状態がよくない(82.2%)の方が多くなっている。

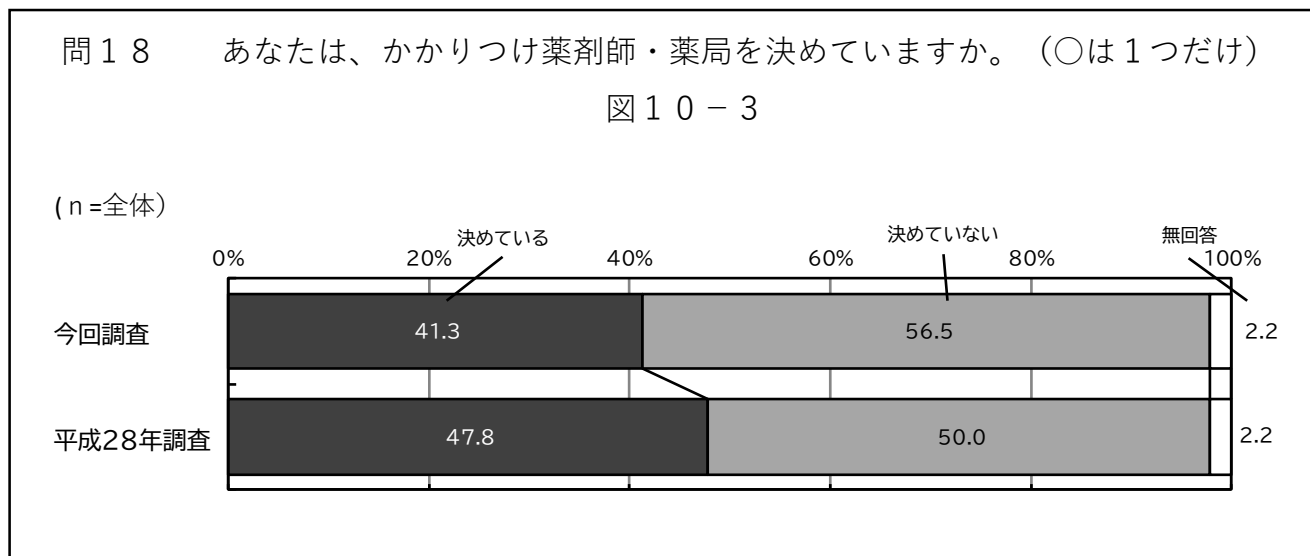
図 10 - 2 院外薬局での調剤の有無





(2) かかりつけ薬剤師・薬局の有無

～「決めている」41.3%、「決めていない」56.5%～



かかりつけ薬剤師・薬局を「決めている」は41.3%、「決めていない」は56.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「決めていない」が多くなっている。

◆地域別

「決めていない」は沼田保健医療圏では64.0%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「決めている」は男性と女性とも60代と70歳以上が多くなっており、特に女性70歳以上では「決めている」が69.7%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

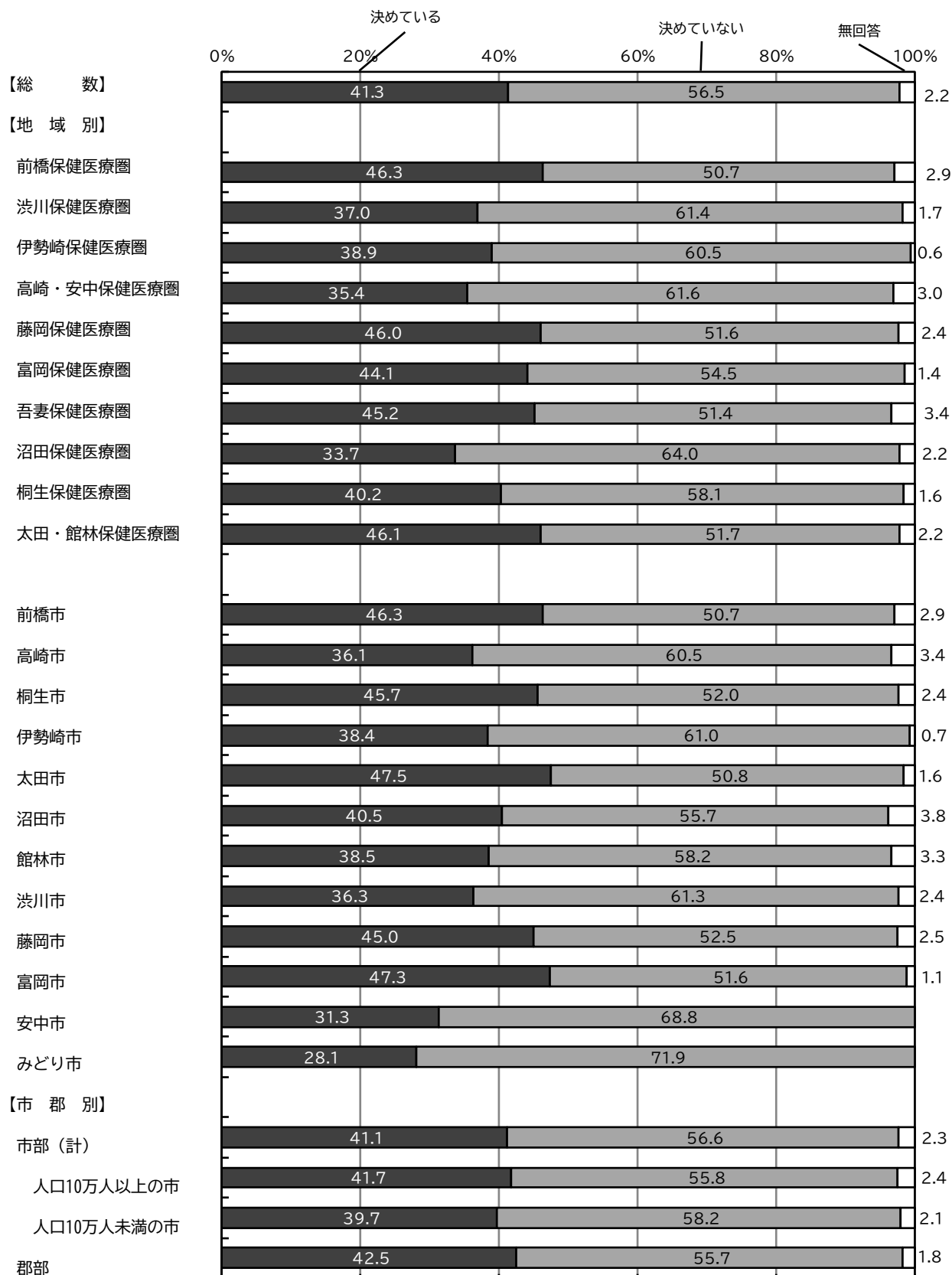
◆職業別

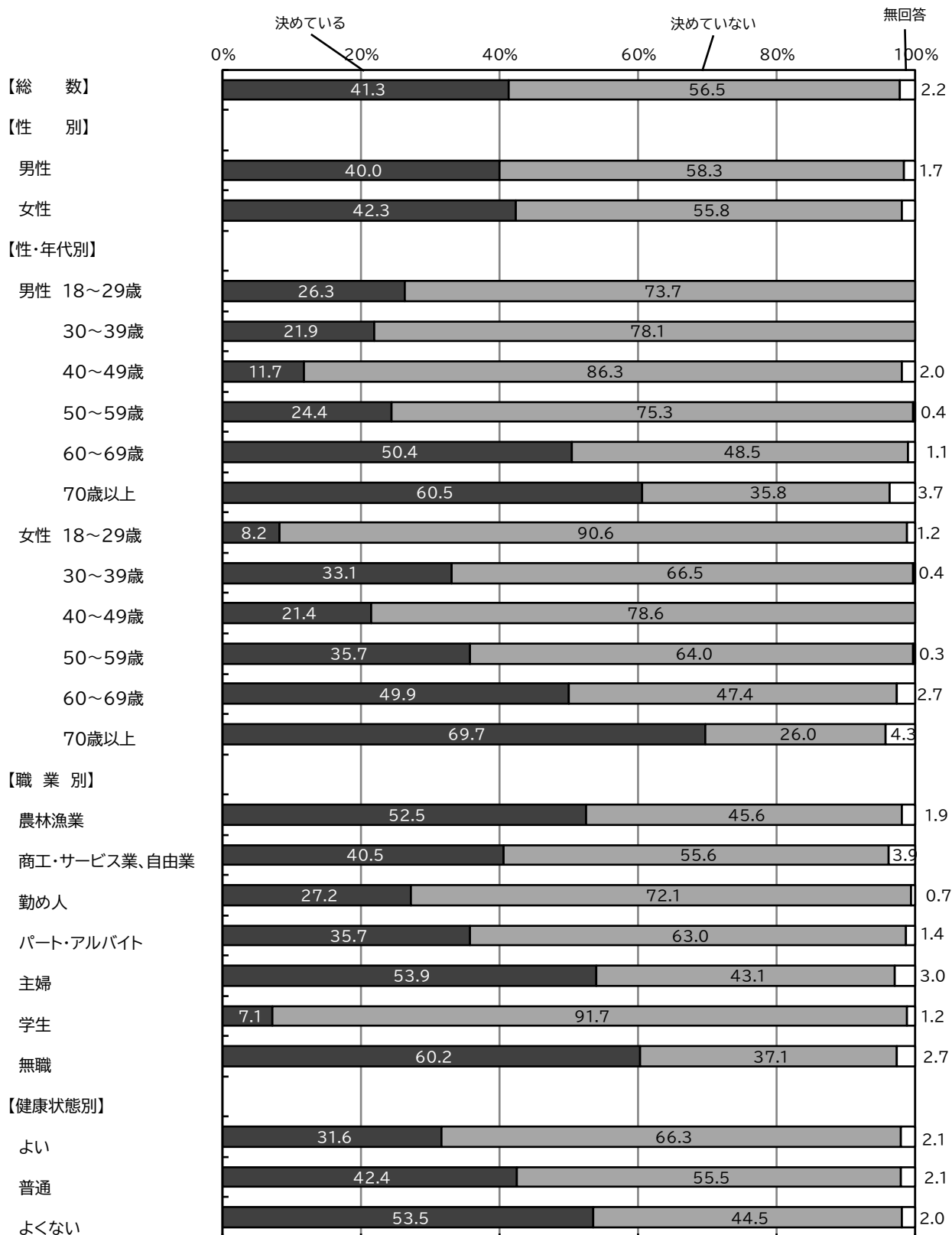
「決めていない」は学生(91.7%)と勤め人(72.1%)が他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよい(31.6%)に比べ、健康状態がよくない(53.5%)の方が多くなっている。

図 10 - 4 かかりつけ薬剤師・薬局の有無





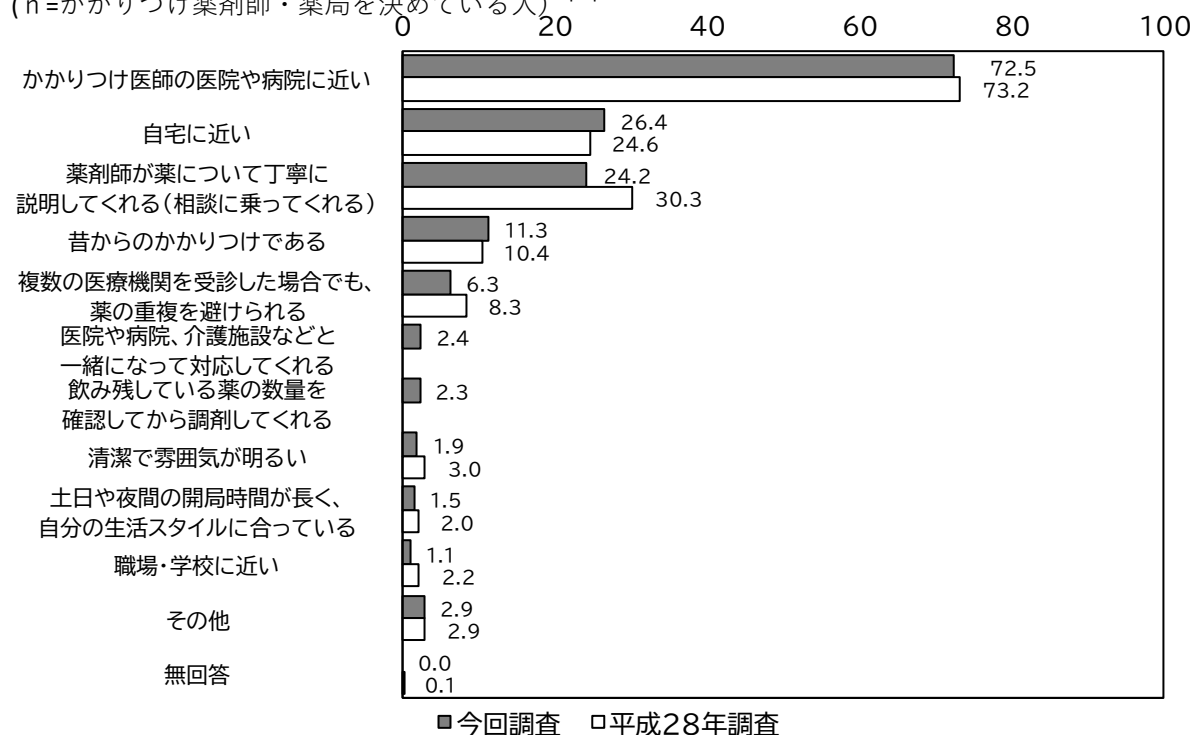
(3) かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由

～「かかりつけ医師の医院や病院に近い」72.5%が最も多い～

問18-1 かかりつけ薬剤師・薬局を決めているのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

(n=かかりつけ薬剤師・薬局を決めている人) ☒ 10-5



*平成28年調査では「かかりつけ医師の医院や病院に近い」は「かかりつけ医の医院や病院に近い」、「職場・学校に近い」は「職場に近い」、「土日や夜間の開局時間が長く、自分の生活スタイルに合っている」は「営業日や営業時間が長い(長い)」で聴取、「医院や病院、介護施設などと一緒になって対応してくれる」「飲み残している薬の数量を確認してから調剤してくれる」は聴取なし

かかりつけ薬剤師・薬局を決めている人に、その理由を聞くと、「かかりつけ医師の医院や病院に近い」が72.5%と最も多く、次いで「自宅に近い」が26.4%、「薬剤師が薬について丁寧に説明してくれる(相談に乗ってくれる)」が24.2%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「薬剤師が薬について丁寧に説明してくれる(相談に乗ってくれる)」が少なくなっている。

◆地域別

「かかりつけ医師の医院や病院に近い」は富岡保健医療圏が81.4%と最も多くなっている。

◆市郡別

「かかりつけ医師の医院や病院に近い」は郡部(68.0%)に比べ、市部(73.3%)の方が多くなっている。

◆性別

「昔からのかかりつけである」は女性(8.4%)に比べ、男性(14.0%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

40代男性を除いて、いずれの性別・年代も「かかりつけ医師の医院や病院に近い」が最も多くなっている。また、「自宅に近い」は女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。

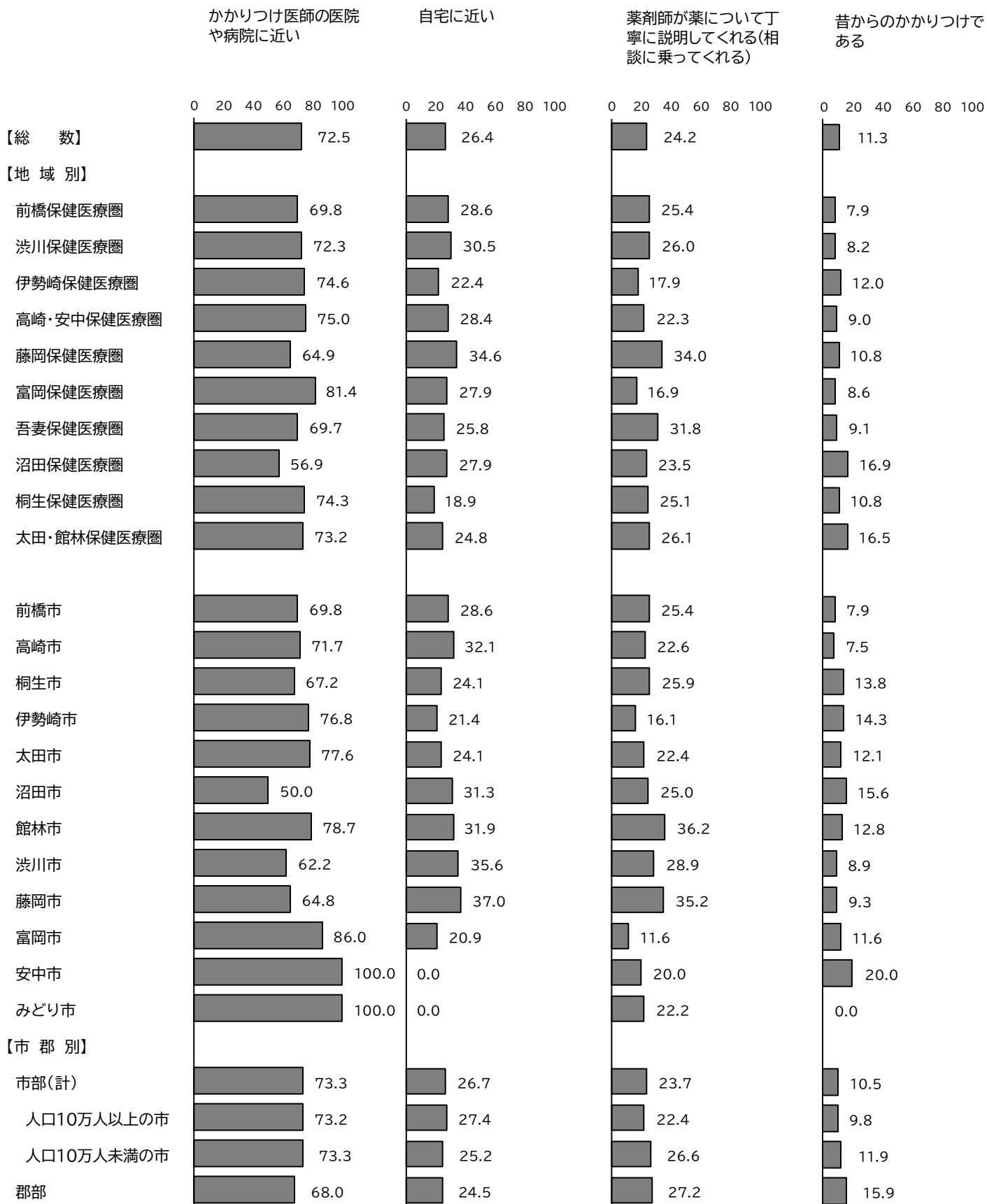
◆職業別

いずれの職業も「かかりつけ医師の医院や病院に近い」が最も多くなっており、60.0%を超えている。

◆健康状態別

「自宅に近い」は健康状態がよくない(24.8%)に比べ、健康状態がよい(30.5%)の方が多くなっている。

図 10 - 6 かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由

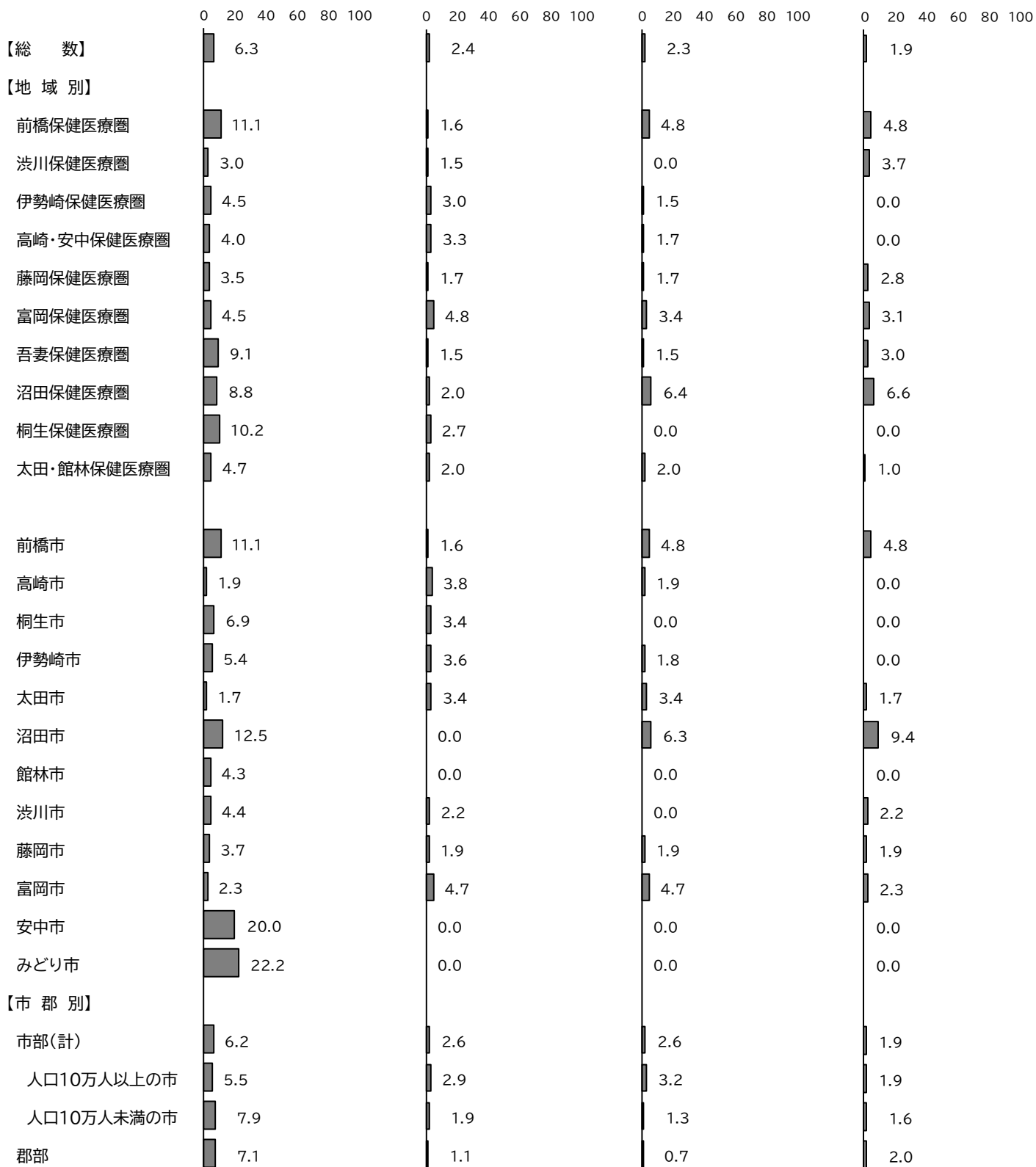


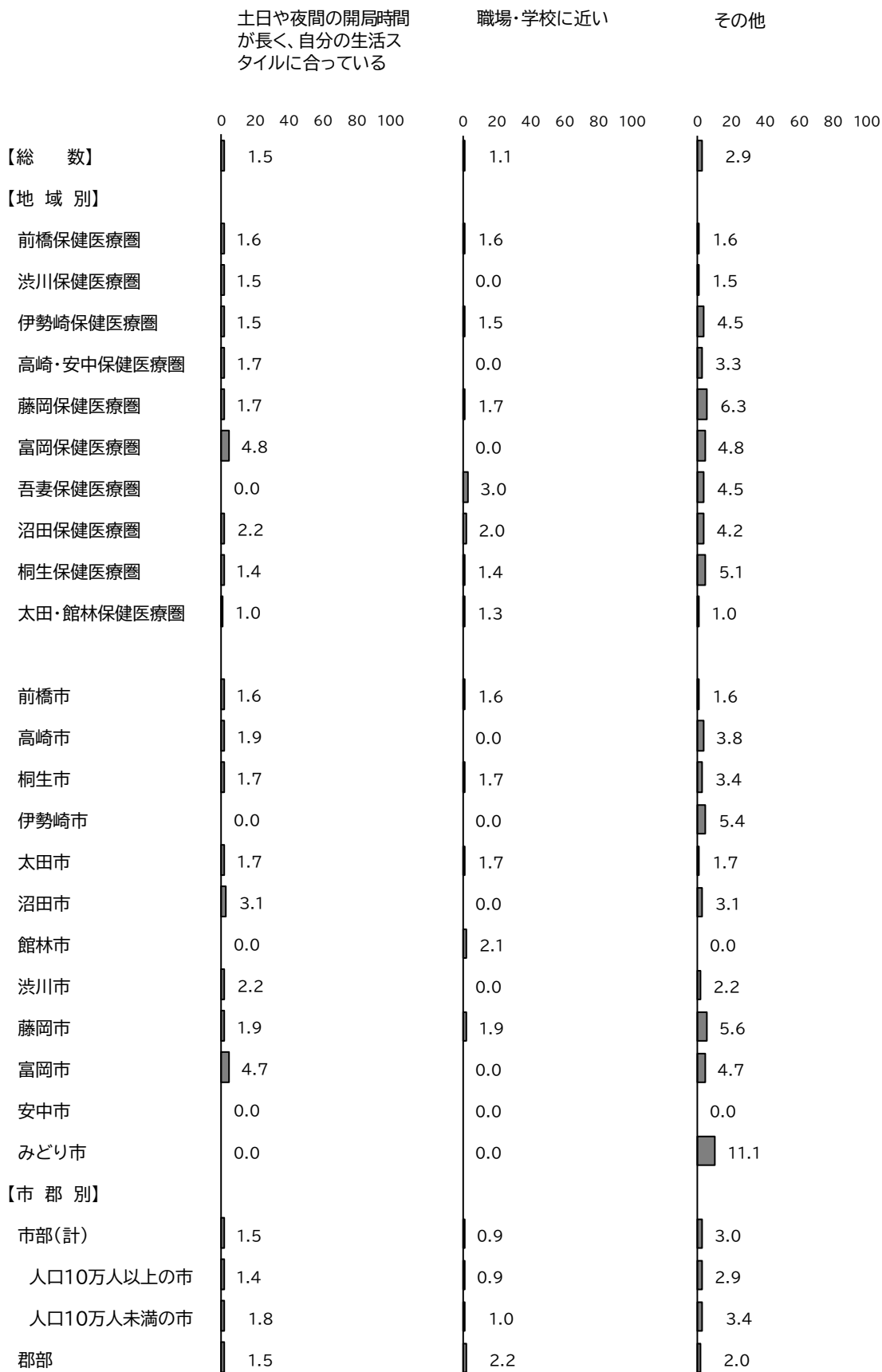
複数の医療機関を受診した場合でも、薬の重複を避けられる

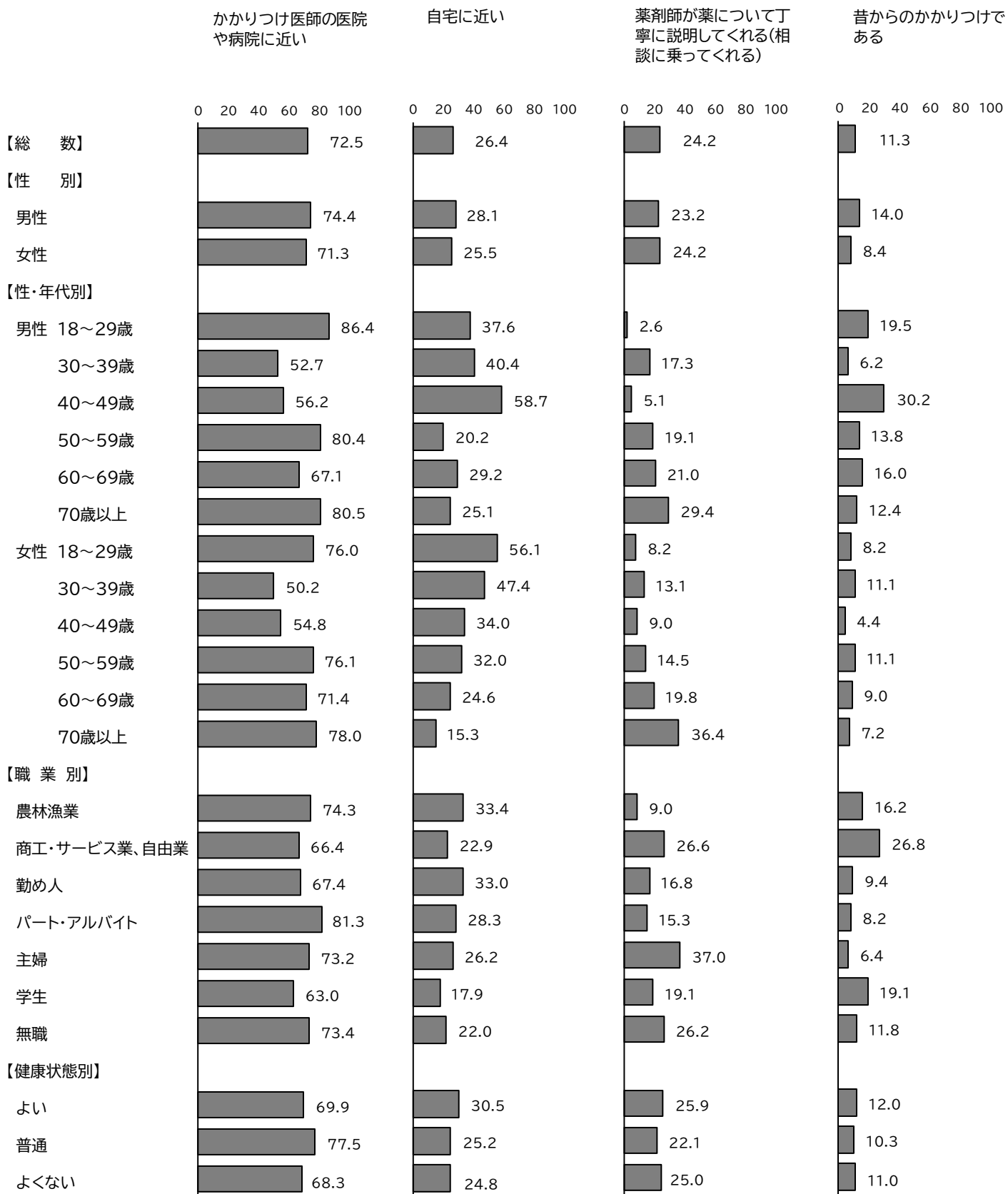
医院や病院、介護施設などと一緒にになって対応してくれる

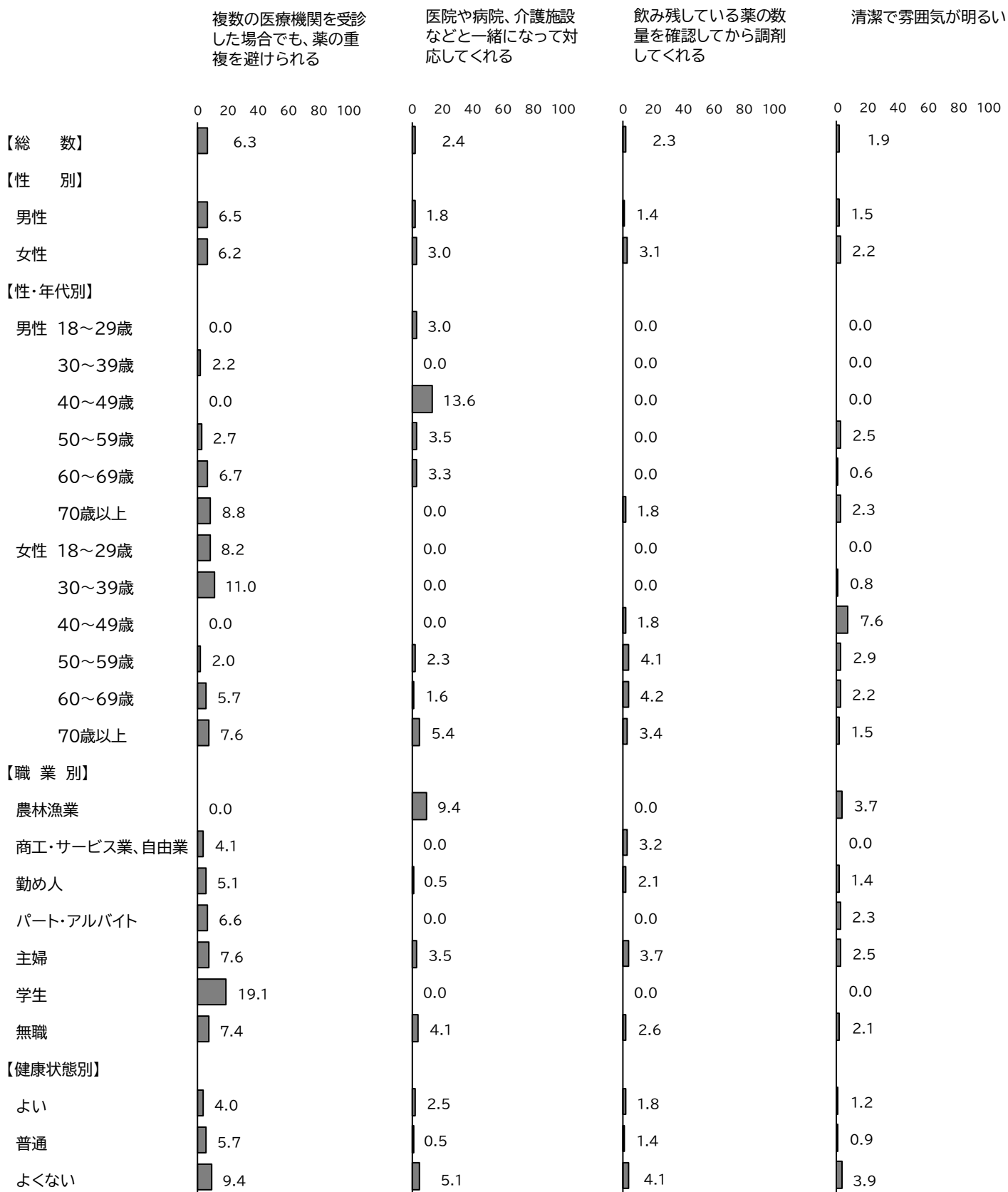
飲み残している薬の数量を確認してから調剤してくれる

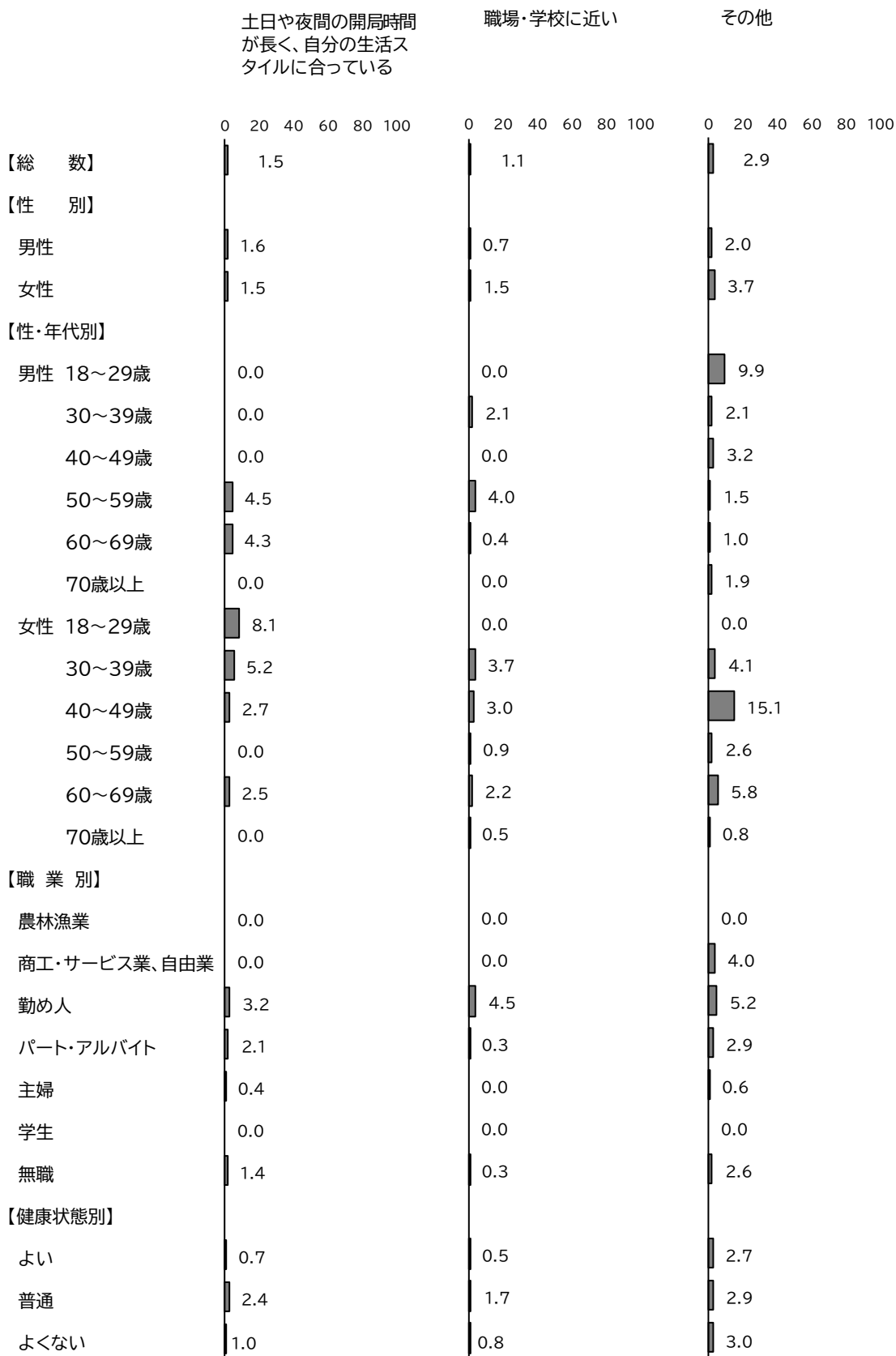
清潔で雰囲気明るい









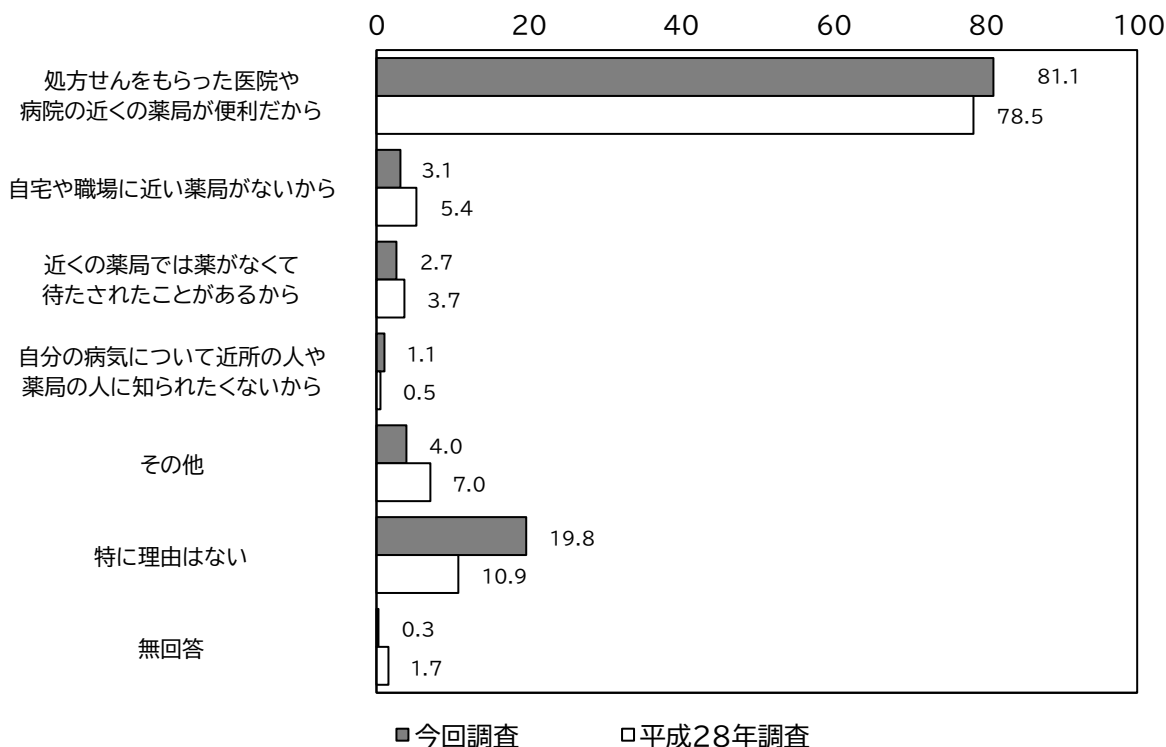


(4) かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由

～「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」81.1%が最も多い～

問18-2 かかりつけ薬剤師・薬局を決めていないのは、どのような理由からですか。(○は2つまで)

(n=かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない人) 図10-7



■今回調査 □平成28年調査

*平成28年調査では「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」は「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」で聴取

かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない人に、その理由を聞くと、「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」が81.1%となっており、他の理由を大きく上回る。

平成28年調査結果との比較では、「特に理由はない」が多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」が他の理由を大きく上回っている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」は男性(78.6%)に比べ、女性(83.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

20代以下男性は「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」が46.7%となっており、他の年代に比べ少なくなっている。

◆職業別

「処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから」は学生で59.6%となっており、他の職業に比べ少なくなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。